

令和5年度 宮崎市地域まちづくりに関する市民等意識調査

＜結果報告書＞

令和 5 年 6 月

宮崎市 地域振興部 地域コミュニティ課

目 次

I 調査の概要.....	6
1 調査の目的.....	6
2 調査の方法.....	6
3 調査の時期.....	6
4 調査票の回収率、回収数.....	7
5 留意事項.....	7
II 市民意識調査の結果.....	8
＜回答者の属性＞.....	8
＜調査結果のまとめ＞.....	11
1 地域のまちづくりの仕組み「地域自治区制度」について.....	13
1-1 地域自治区制度の認知度.....	13
1-2 所属する地域自治区.....	14
2 地域協議会について.....	16
2-1 地域協議会の認知度.....	16
2-2 「地域魅力発信プラン」(地域まちづくりの計画)の認知度.....	17
2-3 地域協議会の会議内容や決定事項などを知る方法・手段.....	18
3 地域まちづくり推進委員会について.....	20
3-1 地域まちづくり推進委員会の認知度.....	20
3-2 地域まちづくり推進委員会が行う行事などへの参加状況.....	21
3-3 地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシの閲覧状況.....	22
4 住んでいる地域の地域コミュニティや活動について.....	24
4-1 居住地域への「愛着」の状況.....	24
4-2 自分と地域(近所)の人との望ましい人間関係.....	25
4-3 地域コミュニティの現状や課題の認識について.....	27
4-4 地域の自治会への加入状況.....	30
4-5 自治会に加入していない理由.....	31
4-6 地域で活動する地域団体等への加入状況.....	33
4-7 地域団体等が実施する活動への参加状況.....	35
4-8 地域活動に参加した動機やきっかけ.....	36
4-9 地域活動への参加の回数.....	38
4-10 地域活動に参加しない理由.....	41
4-11 自治会、地域まちづくり推進委員会等が行う活動・事業についての重要度、満足度.....	43
4-12 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方.....	47
III 中学生意識調査の結果.....	57
＜回答者の属性＞.....	57
＜調査結果のまとめ＞.....	58
1 住んでいる地域について.....	59
1-1 住んでいる地域への愛着.....	59

1-2 今の居住地に将来も住む希望の有無.....	59
2 住んでいる地域の活動について.....	60
2-1 最も認知している地域の活動団体.....	60
2-2 地域活動への参加状況.....	61
2-3 ボランティア活動の運営に参加した経験の有無.....	62
2-4 ボランティア活動の運営に参加したきっかけは何か.....	62
IV 大学生意識調査の結果.....	64
＜回答者の属性＞.....	64
＜調査結果のまとめ＞.....	65
1 宮崎市への愛着の程度について.....	66
2 地域の活動について.....	67
2-1 地域の自治会の認知状況.....	67
2-2 地域活動への参加状況.....	68
2-3 ボランティア活動の運営に参加した経験の有無.....	69
2-4 ボランティア活動の運営に参加したきっかけは何か.....	69
V 地域協議会意識調査の結果.....	71
＜回答者の属性＞.....	71
＜調査結果のまとめ＞.....	72
1 地域協議会の活動等について.....	73
1-1 所属する地区.....	73
1-2 地域協議会に所属している期数.....	74
1-3 地域自治区制度をどう捉えているか.....	74
1-4 地域自治区制度が地域に及ぼした効果.....	75
1-5 地域自治区の適切な範囲.....	76
1-6 地域協議会委員の地域団体等への所属の有無.....	76
1-7 積極的に関わっている団体.....	77
1-8 地域協議会の活動に関するやりがいの程度.....	77
1-9 地域協議会の構成状況.....	78
1-10 地域協議会での議論の状況.....	79
1-11 地域協議会の開催回数.....	79
1-12 地域協議会で最も時間をかけている協議について.....	80
1-13 地域協議会で最も時間をかけたい協議について.....	80
1-14 所属する地域協議会で感じていること.....	81
1-15 地域協議会で協議した内容の情報共有について.....	81
1-16 地域協議会における地域課題に関する議題の提案について.....	82
1-17 地域コミュニティ活動交付金の配分額について.....	82
1-18 地域団体の活動状況について.....	83
2 地域活動の全般について.....	84
2-1 地域まちづくり推進委員会等が行う活動・事業についての重要度、満足度.....	84
2-2 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方.....	85
2-3 地域まちづくりの課題について.....	86

VI 地域まちづくり推進委員会意識調査の結果	88
<回答者の属性>	88
<調査結果のまとめ>	89
1 地域まちづくり推進委員会の活動等について	90
1-1 所属する地区	90
1-2 地域づくり推進委員会に所属している年数	91
1-3 所属している部会等	91
1-4 地域自治区制度についての認識	92
1-5 地域自治区制度が地域に及ぼした効果	92
1-6 地域まちづくり推進委員会の適切な活動範囲	93
1-7 地域まちづくり推進委員会以外の地域団体等への所属の有無	93
1-8 積極的に関わっている団体	94
1-9 地域まちづくり推進委員会の活動に関するやりがいの程度	94
1-10 地域まちづくり推進委員会に加入したきっかけは何か	95
1-11 地域の友人に地域まちづくり推進委員会の活動を促すか否か	95
1-12 地域コミュニティ活動交付金の金額について	96
1-13 地域まちづくり推進委員会の活動の課題	96
2 地域活動の全般について	98
2-1 地域まちづくり推進委員会等が行う活動・事業についての重要度、満足度	98
2-2 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方	99
VII クロス集計・分析	100
1 地域活動への「参加」と「不参加」	100
2 地域活動の重要度、満足度の比較	101
3 身近な地域課題への地域・行政の対応のあり方	103
VIII 全体考察	104
IX 調査票	107

I 調査の概要

1 調査の目的

宮崎市では、平成18年1月の合併を契機に市民の声を市政に反映させる地域自治区制度を導入し、地域のまちづくりを推進する中、制度の導入から17年が経過し、人口減少や高齢化、地域課題の複雑化など社会環境が大きく変容しており、今後も様々な変化が予想される。

そこで、これまでのまちづくりの取組を点検したうえで、今後の地域まちづくりのあり方を検討するにあたり基礎データの収集と分析を行うことを目的に調査を実施した。

2 調査の方法

(1) 調査対象者、人数

- ①市民意識調査:宮崎市に1年以上在住し、かつ、18歳以上の人(3,000人)
- ②中学生意識調査:宮崎市立中学校に通う中学2年生(3,137人)
- ③大学生意識調査:宮崎大学、宮崎公立大学に通う大学生(225人)
- ④地域自治区地域協議会意識調査:宮崎市の地域自治区地域協議会に所属する委員(393人)
- ⑤地域まちづくり推進委員会意識調査:宮崎市の地域まちづくり推進委員会に所属する委員(2,046人)

(2) 調査対象者の抽出方法

- ①市民意識調査:宮崎市が住民基本台帳から無作為抽出
- ②中学生意識調査:宮崎市が各中学校に依頼して抽出
- ③大学生意識調査:宮崎市が各大学に依頼して抽出
- ④地域自治区地域協議会意識調査:宮崎市が各地域自治区地域協議会に依頼して抽出
- ⑤地域まちづくり推進委員会意識調査:宮崎市が各地域まちづくり推進委員会に依頼して抽出

(3) 調査票の配布、回収方法

- ①市民意識調査:調査票の配布は郵送方式。回収は郵送方式またはWEB方式。
- ②中学生意識調査:調査票は学校を通して配布。回収はWEB方式。
- ③大学生意識調査:調査票は大学を通して配布。回収はWEB方式。
- ④地域自治区地域協議会意識調査:宮崎市(各地域自治区事務所)を通じて配布。回収は宮崎市への直接提出方式またはWEB方式。
- ⑤地域まちづくり推進委員会意識調査:宮崎市(各地域自治区事務所)を通じて、各地域まちづくり推進委員会事務局が配布。回収は宮崎市への直接提出方式またはWEB方式。

3 調査の時期

- ①市民意識調査:令和5年3月
- ②中学生意識調査:令和5年2月
- ③大学生意識調査:令和5年2月
- ④地域自治区地域協議会意識調査:令和5年2～3月
- ⑤地域まちづくり推進委員会意識調査:令和5年2～3月

4 調査票の回収率、回収数

- ①市民意識調査:41.7% (配布:3,000人、回収:1,250人)
- ②中生意識調査:75.9% (配布:3,137人、回収:2,382人)
- ③大生意識調査:225人 ※授業に出席した学生に対して調査票を配布。
- ④地域自治区地域協議会意識調査:69.5% (配布:393人、回収:273人)
- ⑤地域まちづくり推進委員会意識調査:45.9% (配布:2,046人、回収:939人)

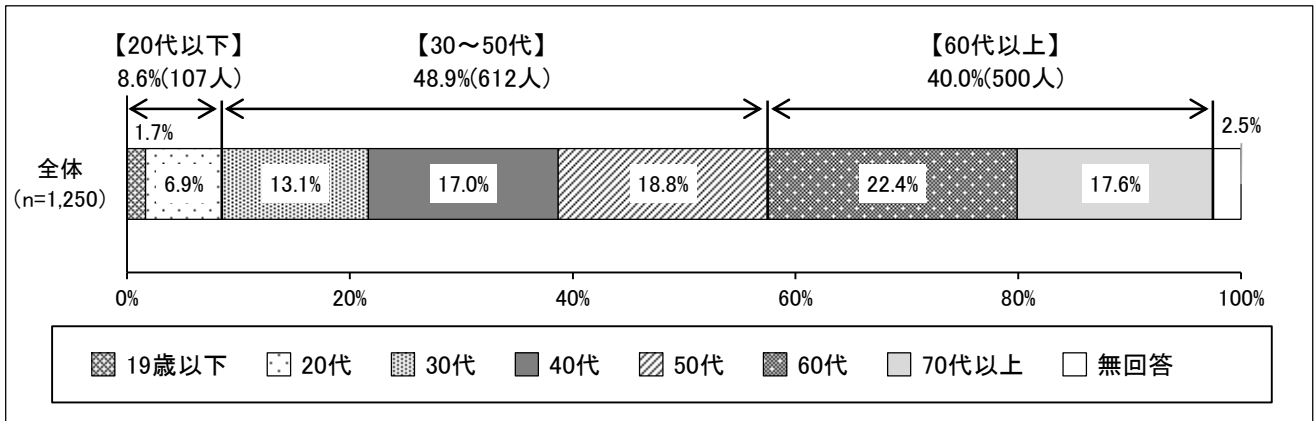
5 留意事項

- ・百分率は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示しているため、単一回答の回答比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問は、回答比率の合計が100.0%を超える。
- ・各設問の集計母数(回答者数)は「n=」で示す。
- ・市民意識調査の結果では、性別の合計1,174人(男性:414人、女性:760人の計)は、「答えたくない」(47人)と「無回答」(29人)を含めていないため、全体(1,250人)と一致しない。(P3ほか)
- 年代別の合計1,219人(20代以下:107人、30～50代:612人、60代以上:500人の計)は、「無回答」(31人)を含めていないため、全体(1,250人)と一致しない。(P3ほか)

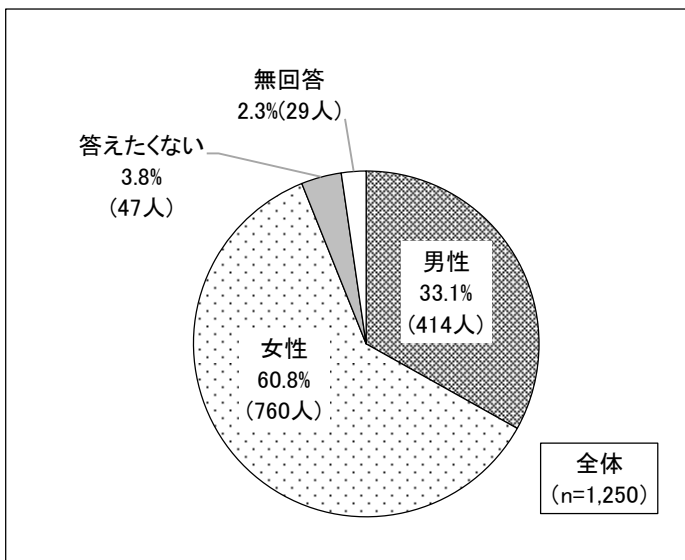
Ⅱ 市民意識調査の結果

<回答者の属性>

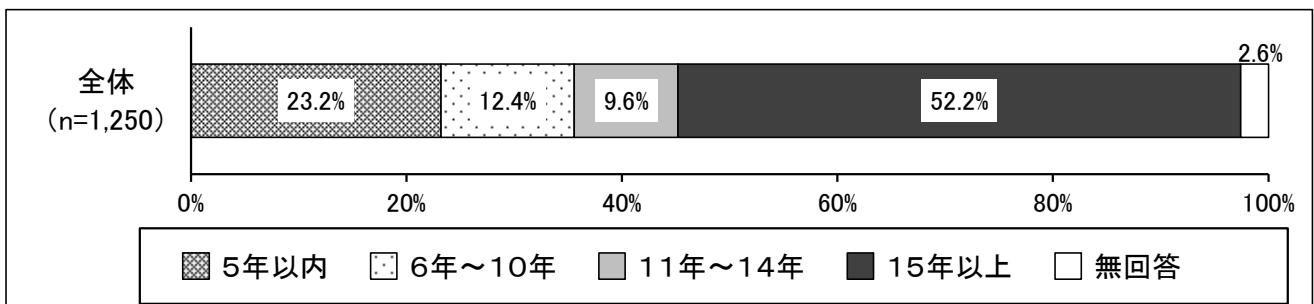
(1)年代(問23)



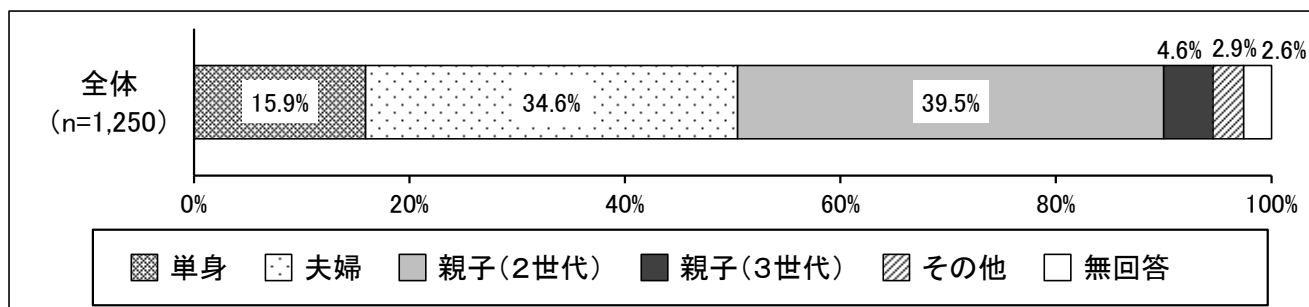
(2)性別(問24)



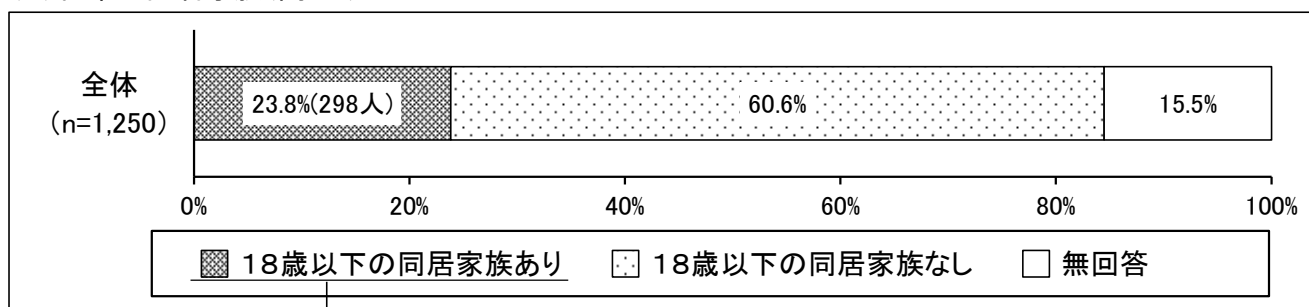
(3)現住所での居住年数(問25)



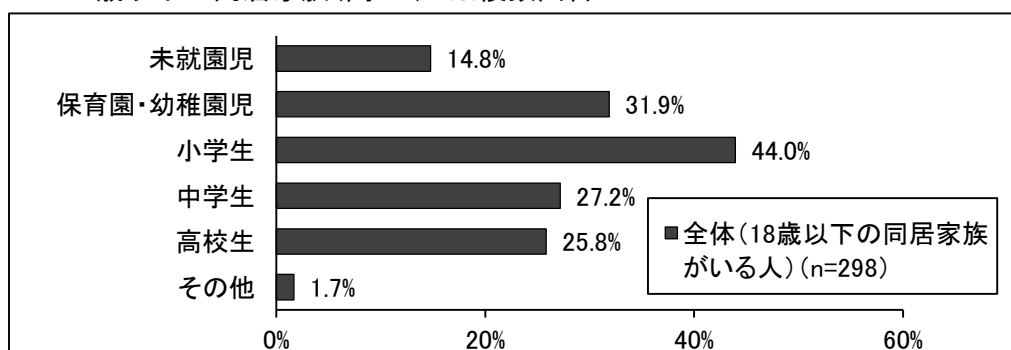
(4) 家族構成(問26)



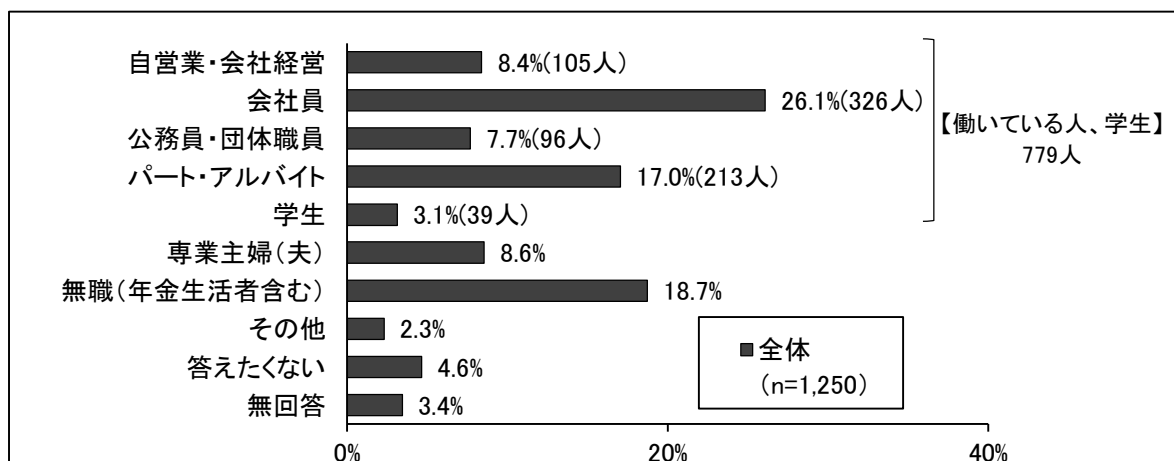
(5) 世帯の同居家族(問27)



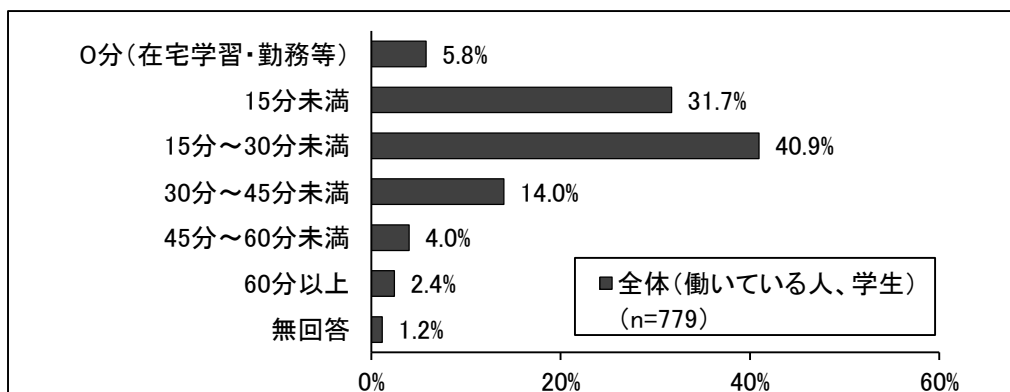
SQ. 18歳以下の同居家族(問28) ※複数回答



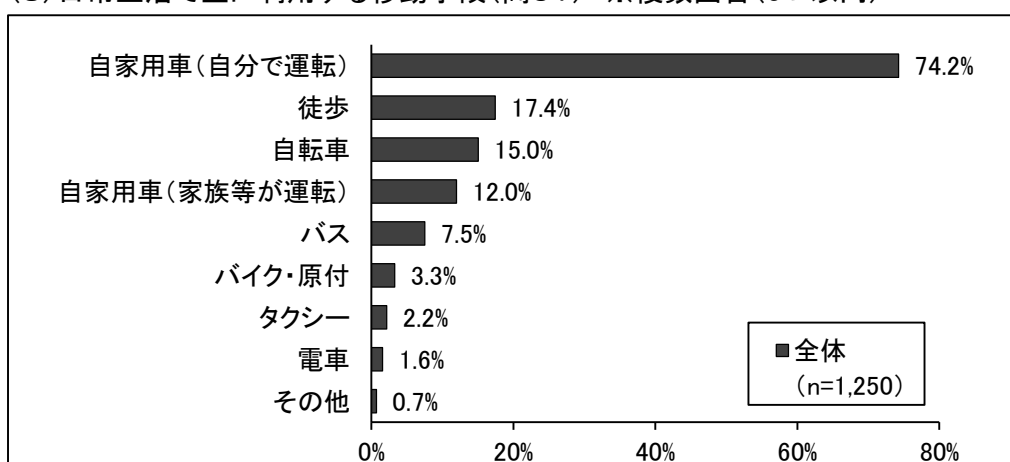
(6) 職業(問29)



(7) 通勤・通学時間(問30)



(8) 日常生活で主に利用する移動手段(問31) ※複数回答(3つ以内)



＜調査結果のまとめ＞

本市は平成18年の合併を契機に、市民の声を市政に反映させる「地域自治区制度」を導入するとともに、住民主体のまちづくりを推進するため、各地域自治区に「地域協議会」および「地域まちづくり推進委員会(※)（「まちづくり推進委員会」と略称する。以下同じ）」を設置している。市民意識調査結果は以下の通りである。

(※)一部の地域自治区では、小学校区または中学校区ごとに地域まちづくり推進委員会が設置されている。また、振興会、地域づくり協議会等の名称の地域がある。

(1) 住民主体のまちづくりの仕組みについて

○地域まちづくりの仕組みに対する認知度は低い状況にある。（地域自治区制度を「知っている」と答えた人の割合：19.4%、地域協議会の「役割まで知っている」と答えた人の割合：6.1%、“地域魅力発信プラン”を「知っている」と答えた人の割合：10.2%、まちづくり推進委員会の「活動内容まで知っている」と答えた人の割合：7.8%）【P13 図表1-1-1、P16 図表2-1-1、P17 図表2-2-1、P20 図表3-1-1】

○地域協議会、まちづくり推進委員会が発信する情報の入手方法として「自治会の回覧板」が40%以上だったが、見たことがないと答えた人の割合も40%前後となった。（地域協議会の“会議内容や決定事項などを知る手段・方法”について「自治会の回覧板」と答えた人の割合は42.2%、「見たことがない」と答えた人の割合は45.5%、まちづくり推進委員会が発行する“広報紙やチラシの閲覧状況”について「自治会の回覧板」と答えた人の割合は44.0%、「見たことがない」と答えた人の割合は38.8%、）【P18 図表2-3-1、P22 図表3-3-1】

(2) 地域コミュニティや活動について

○地域への愛着の度合いについて、全体の70%以上の人が地域に愛着を感じている。（“住んでいる地域への愛着の状況”について、「とても感じる」と「やや感じる」と答えた人の割合の合計：73.2%）【P24 図表4-1-1】。

また、多くの人が地域や近所の人と、ある程度のコミュニケーションをとるなど、一定の関わりを持つことが望ましいと考えている。（“地域や近所の人との望ましい人間関係”について、「いざという時だけでも、助け合える関係」と答えた人の割合：38.6%、「あいさつができる程度の顔見知りの関係」と答えた人の割合：24.9%、「地域の困りごとの解決」と答えた人の割合：24.5%、「あまり関わりたくない」と答えた人の割合：5.4%）【P25 図表4-2-1】

○地域コミュニティの現状認識について、地域コミュニティとの関係が“薄れている”、“持ちにくい”、“差がある”、“きっかけがない”といった消極的なイメージに対し、全項目において「そう思う」と答えた人の割合が「そう思わない」と答えた人の割合を上回った。【P27 図表4-3-1】

○自治会への加入状況について、自治会へ「加入している」と答えた人の割合は60%を上回ったが、20代以下においては、「加入していない」と答えた人の割合が57.0%となった。【P30 図表4-4-1、図表4-4-3】

また、「未加入の理由」の上位は「加入しなくても生活に支障がない」（37.4%）、「仕事などで忙しく活動

できない」(36.0%)、「自治会に入るメリットがない」(28.5%)となった。【P31 図表4-5-1】

○地域活動への参加状況について、「参加したことがある」と答えた人の割合(49.0%)と、「参加したことがない」と答えた人の割合(49.4%)は、同程度となった。【P35 図表4-7-1】

○地域活動参加への動機やきっかけとしては、全体として「自治会や各種地域団体からの依頼」(49.3%)と答えた人の割合が最も多くなっているが、20代以下においては「家族や友人の勧め・誘い」と答えた人の割合が67.9%となり、家族や友人等の影響を受けて活動に参加している割合が高い。【P36 図表4-8-1、P37 図表4-8-3】

○地域活動における活動分野としては、「親睦・レクリエーション」と答えた人の割合が最も高く、次いで「環境活動」、「防災活動」となった。【P38 図表4-9-1】

○「参加したことがない」と答えた人における(49.4%)の地域活動への不参加の理由としては、「仕事や家事等で忙しい」(38.4%)、「活動を知らなかった」(35.7%)、「参加するきっかけがない」(29.8%)となった。【P41 図表4-10-1】

(3)地域活動の分野別の満足度と重要度について

○自治会、まちづくり推進委員会、各種地域団体が実施する活動、事業について「満足度」と「重要度」を点数化して分析(CS分析法)した結果、取組の優先度が高い分野は、防災活動、高齢者福祉に関する活動、子育てに関する活動となった。【P44 図表4-11-1、P45 図表4-11-2、P46 図表4-11-3】

(4)地域活動活性化の方策について【P47 図表4-12-1】

○「親睦・レクリエーション」を除くすべての項目において、「地域と行政が協力し合いながら取り組んだほうがいい」と答えた人の割合が高い。

○「地域が主体的に取り組んだ方がいい」と答えた人の割合が、「行政が主体的に取り組んだ方がいい」と答えた人の割合を上回った活動は、「安全・防犯活動」、「地域教育活動」、「環境活動」、「歴史・伝統文化活動」、「親睦・レクリエーション」の5項目となった。

○「行政が主体的に取り組んだ方がいい」と答えた人の割合が、「地域が主体的に取り組んだ方がいい」と答えた人の割合を上回った活動は、「防災活動」、「子育てに関する活動」、「高齢者福祉に関する活動」の3項目となった。

1 地域のまちづくりの仕組み「地域自治区制度」について

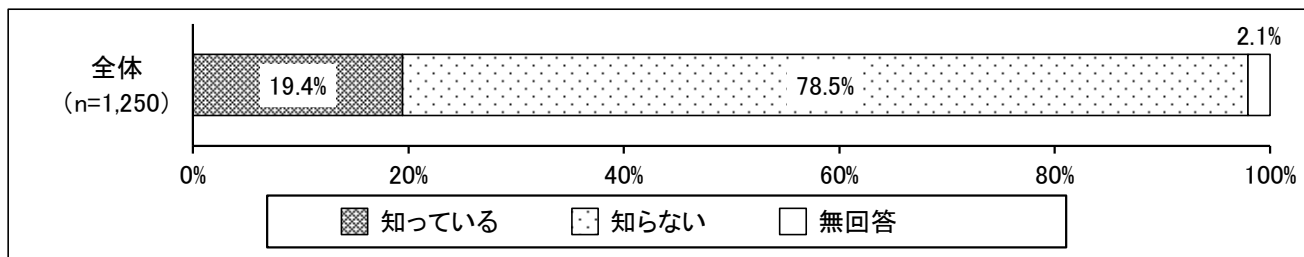
1-1 地域自治区制度の認知度

◇「知っている」と答えた人の割合は全体のうち約20%

◇年代が上がるほど地域自治区制度の認知度が高い

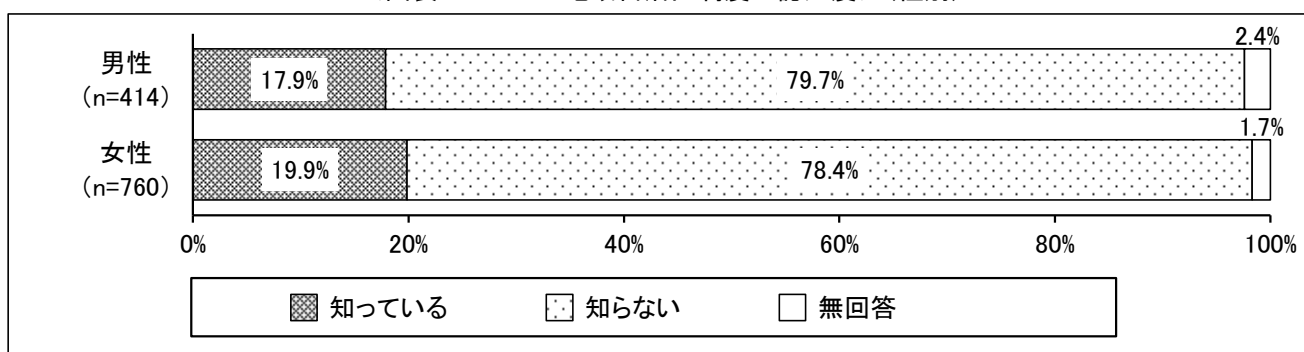
問1 あなたは、平成18年1月から宮崎市が導入している「地域自治区制度」(地域住民の声を市政に反映させる仕組み)をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-1-1 地域自治区制度の認知度>(全体)



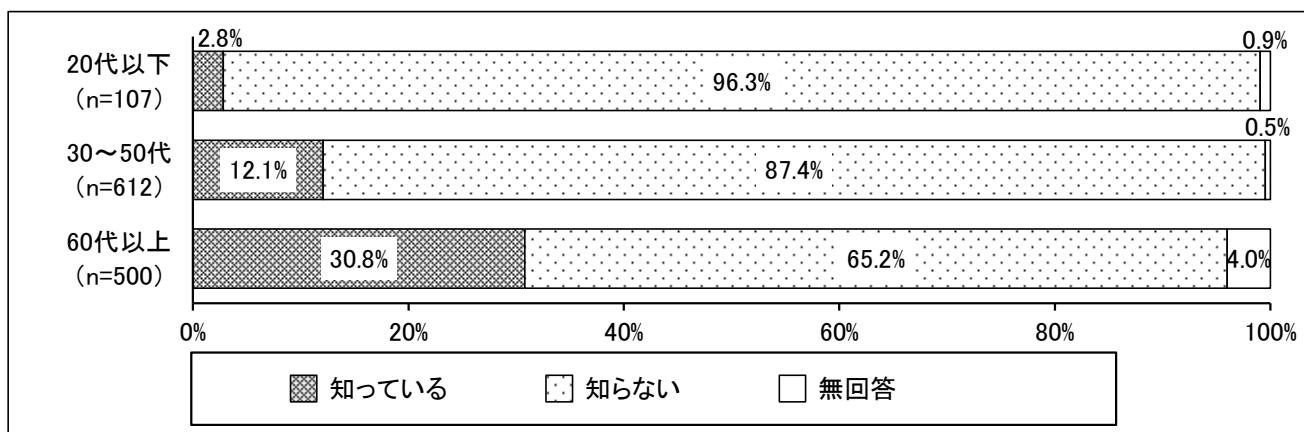
・「知っている」と答えた人の割合は19.4%で、「知らない」(78.5%)を大きく下回った。

<図表1-1-2 地域自治区制度の認知度>(性別)



・男女の差はなく、全体とほぼ同じ傾向となった。

<図表1-1-3 地域自治区制度の認知度>(年代別)



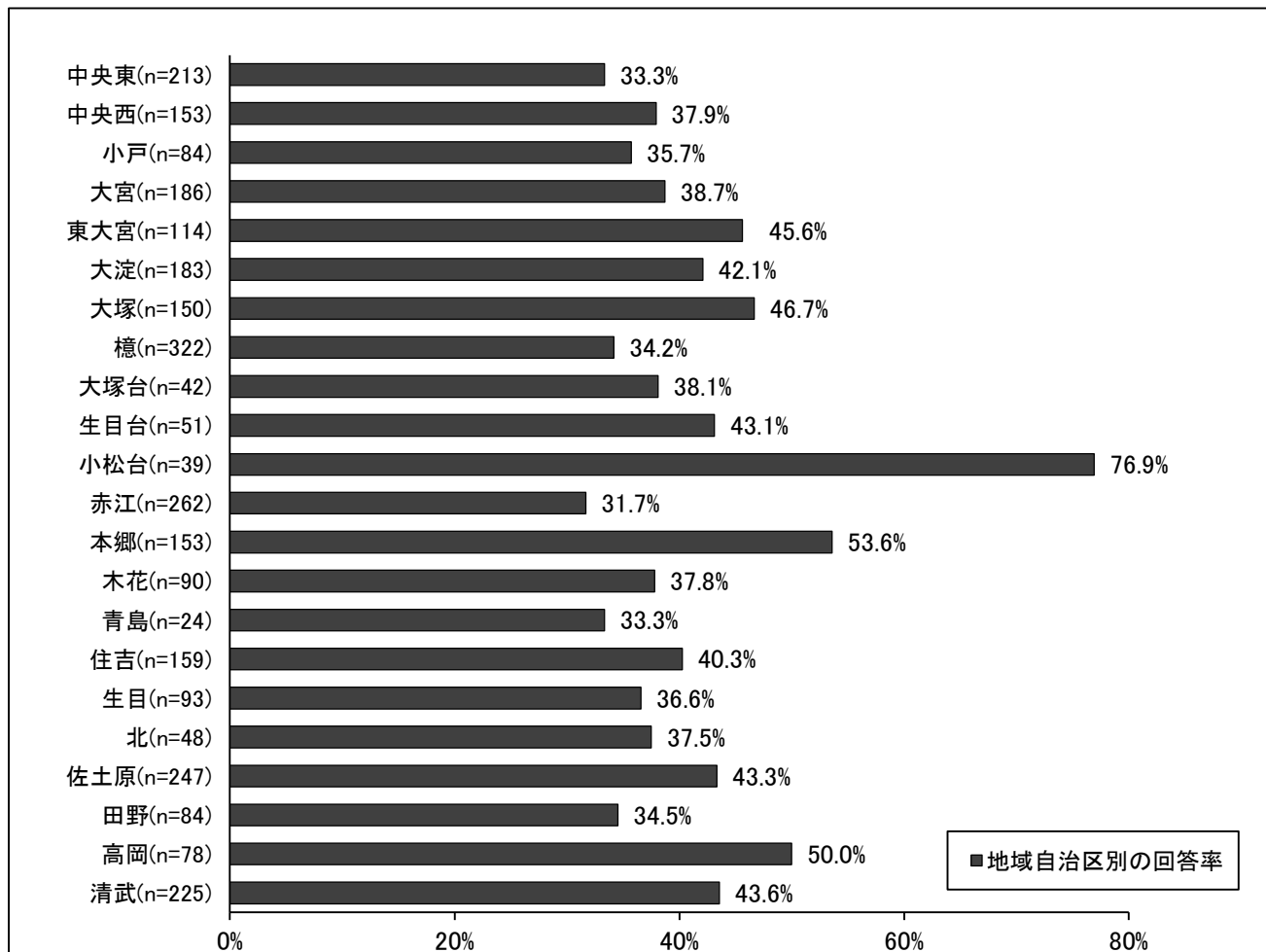
・年代が上がるにつれて地域自治区制度の認知度が高い。(「知っている」と答えた人の割合…20代以下:2.8%、30～50代:12.1%、60代以上:30.8%)

1-2 所属する地域自治区

◇各地域自治区の回答率はすべての地域自治区で30%を超えた

問2 あなたは、どちらの地域自治区にお住まいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-2-1 所属する地域自治区＞（全体）



- ・地域自治区別の調査票の回答率は、各地域自治区(22地域自治区)とも30%を上回った。そのうち、「小松台」の回答率が最も高く(76.9%)、「赤江」の回答率が最も低い(31.7%)。

<図表1-2-2 所属する地域自治区> (性別・地区別)

	男性	女性	合計
中央東(n=70)	28.6%	71.4%	100.0%
中央西(n=56)	35.7%	64.3%	100.0%
小戸(n=27)	37.0%	63.0%	100.0%
大宮(n=69)	33.3%	66.7%	100.0%
東大宮(n=49)	34.7%	65.3%	100.0%
大淀(n=71)	31.0%	69.0%	100.0%
大塚(n=63)	31.7%	68.3%	100.0%
櫛(n=103)	38.8%	61.2%	100.0%
大塚台(n=15)	13.3%	86.7%	100.0%
生目台(n=21)	33.3%	66.7%	100.0%
小松台(n=29)	34.5%	65.5%	100.0%
赤江(n=76)	38.2%	61.8%	100.0%
本郷(n=78)	42.3%	57.7%	100.0%
木花(n=32)	25.0%	75.0%	100.0%
青島(n=8)	0.0%	100.0%	100.0%
住吉(n=61)	29.5%	70.5%	100.0%
生目(n=31)	51.6%	48.4%	100.0%
北(n=18)	44.4%	55.6%	100.0%
佐土原(n=102)	30.4%	69.6%	100.0%
田野(n=27)	33.3%	66.7%	100.0%
高岡(n=36)	47.2%	52.8%	100.0%
清武(n=91)	37.4%	62.6%	100.0%

・性別・地区別の回答数は、「生目」を除き、女性が男性を上回った。

<図表1-2-3 所属する地域自治区> (年代別・地区別)

	20代以下	30～50代	60代以上	合計
中央東(n=71)	4.2%	52.1%	43.7%	100.0%
中央西(n=56)	12.5%	48.2%	39.3%	100.0%
小戸(n=30)	13.3%	60.0%	26.7%	100.0%
大宮(n=70)	5.7%	54.3%	40.0%	100.0%
東大宮(n=52)	11.5%	55.8%	32.7%	100.0%
大淀(n=75)	6.7%	49.3%	44.0%	100.0%
大塚(n=67)	13.4%	52.2%	34.3%	100.0%
櫛(n=108)	9.3%	53.7%	37.0%	100.0%
大塚台(n=16)	12.5%	43.8%	43.8%	100.0%
生目台(n=22)	13.6%	22.7%	63.6%	100.0%
小松台(n=29)	10.3%	48.3%	41.4%	100.0%
赤江(n=80)	8.8%	55.0%	36.3%	100.0%
本郷(n=82)	8.5%	51.2%	40.2%	100.0%
木花(n=33)	15.2%	39.4%	45.5%	100.0%
青島(n=8)	25.0%	37.5%	37.5%	100.0%
住吉(n=62)	4.8%	46.8%	48.4%	100.0%
生目(n=34)	5.9%	41.2%	52.9%	100.0%
北(n=18)	0.0%	55.6%	44.4%	100.0%
佐土原(n=104)	2.9%	51.0%	46.2%	100.0%
田野(n=27)	3.7%	44.4%	51.9%	100.0%
高岡(n=37)	10.8%	40.5%	48.6%	100.0%
清武(n=95)	12.6%	51.6%	35.8%	100.0%

・年代別・地区別の回答数は、「30～50代」は14地域自治区、「60代以上」は6地域自治区で最も多い。

2 地域協議会について

2-1 地域協議会の認知度

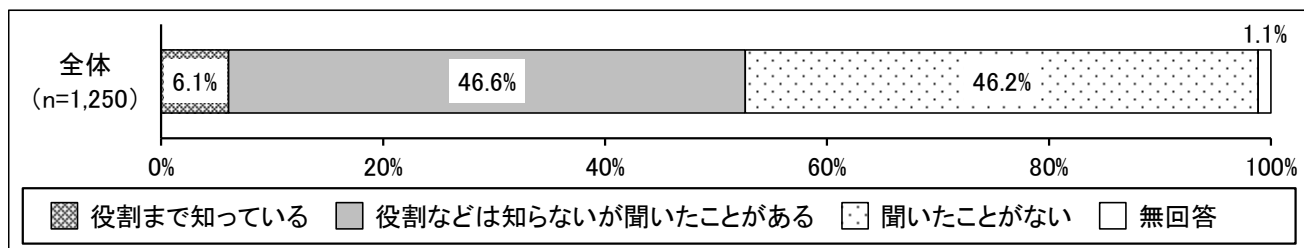
◇「聞いたことがない」と答えた人の割合は46.2%と約半数に上る

◇「役割まで知っている」と答えた人の割合は6.1%と極めて低い

◇年代が上がるほど「役割などは知らないが聞いたことがある」と答えた人の割合が高い

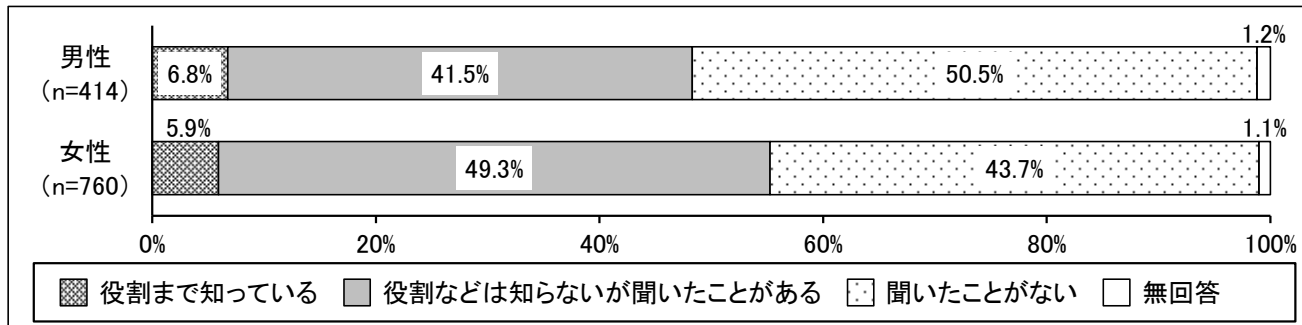
問3 各地域自治区には、地域住民の意見を市政に反映させるための協議組織である「地域協議会」が設置されています。あなたは、地域協議会をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表2-1-1 地域協議会の認知度＞（全体）



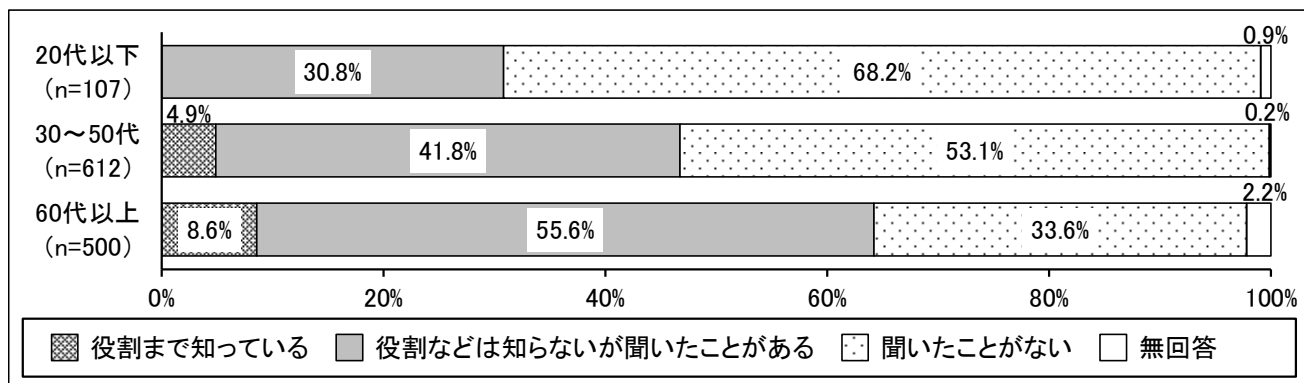
- ・「聞いたことがない」と答えた人の割合(46.2%)が約半数となった。
- ・「役割まで知っている」、「役割などは知らないが聞いたことがある」と答えた人の合計は52.7%と半数を超えたが、「役割まで知っている」と答えた人の割合は極めて低い(6.1%)。

＜図表2-1-2 地域協議会の認知度＞（性別）



- ・「役割まで知っている」と答えた人の割合は男性(6.8%)、女性(5.9%)も全体とほぼ同じ傾向となった。

＜図表2-1-3 地域協議会の認知度＞（年代別）



- ・「聞いたことがない」と答えた人の割合は、年代が下がるほど高く、認知度が低い。
- ・各年代において「役割まで知っている」と答えた人の割合は10%未満であり、極めて低い。

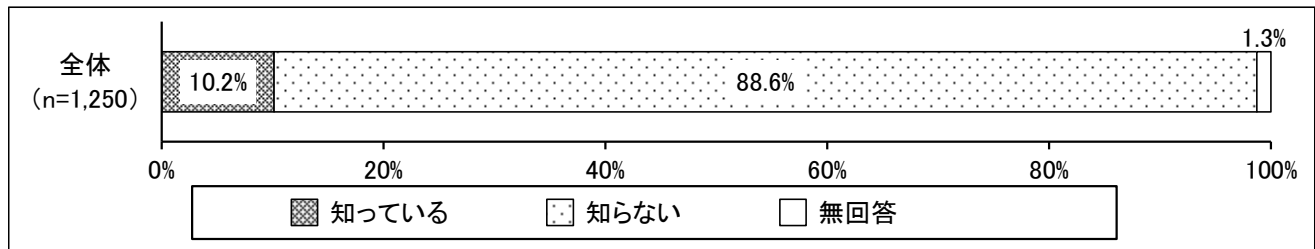
2-2 「地域魅力発信プラン」(地域まちづくりの計画)の認知度

◇「知っている」と答えた人の割合は約10%と低い

◇60代以上における「知っている」と答えた人の割合は他の年代より高い

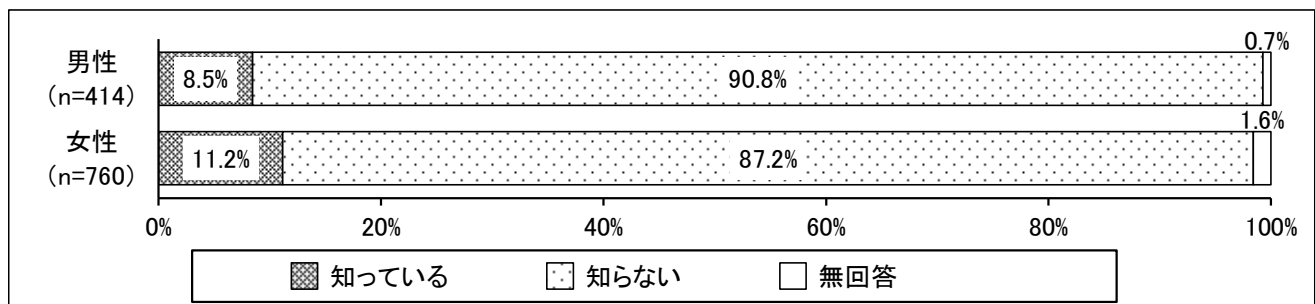
問4 各地域自治区では、地域協議会が主体となって、地域の将来像を明確にするため、「地域魅力発信プラン」(地域まちづくりの計画)を作成しています。あなたは、お住まいの地域の「地域魅力発信プラン」をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表2-2-1 「地域魅力発信プラン」の認知度> (全体)



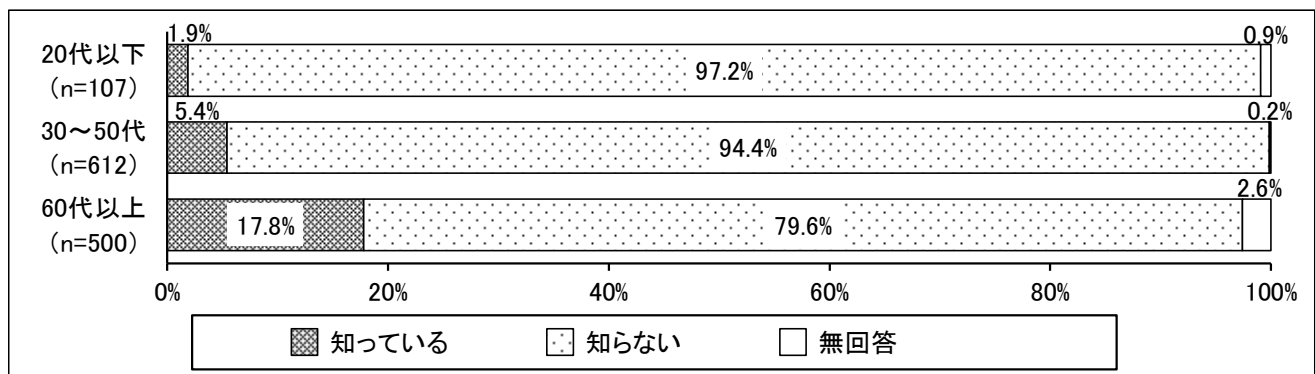
・「知っている」と答えた人の割合は10.2%となった。

<図表2-2-2 「地域魅力発信プラン」の認知度> (男女別)



・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した(「知らない」と答えた人が男女ともに90%前後となった[男性90.8%、女性87.2%])。

<図表2-2-3 「地域魅力発信プラン」の認知度> (年代別)



・「60代以上」において、「知っている」と答えた人の割合が17.8%となり、他の年代を大きく上回った。

2-3 地域協議会の会議内容や決定事項などを知る方法・手段

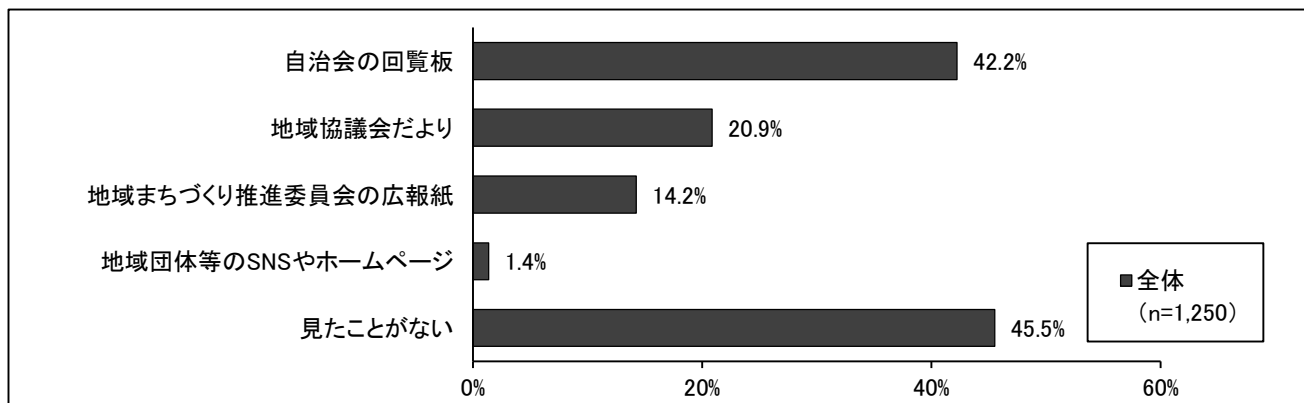
◇全体において、「自治会の回覧板」と答えた人の割合(42.2%)が最も高い

◇「見たことがない」と答えた人の割合は、男性が女性を16ポイント上回り、大きな差が現れた

◇「地域団体のSNSやホームページ」と答えた人の割合は1%程度と極めて低い

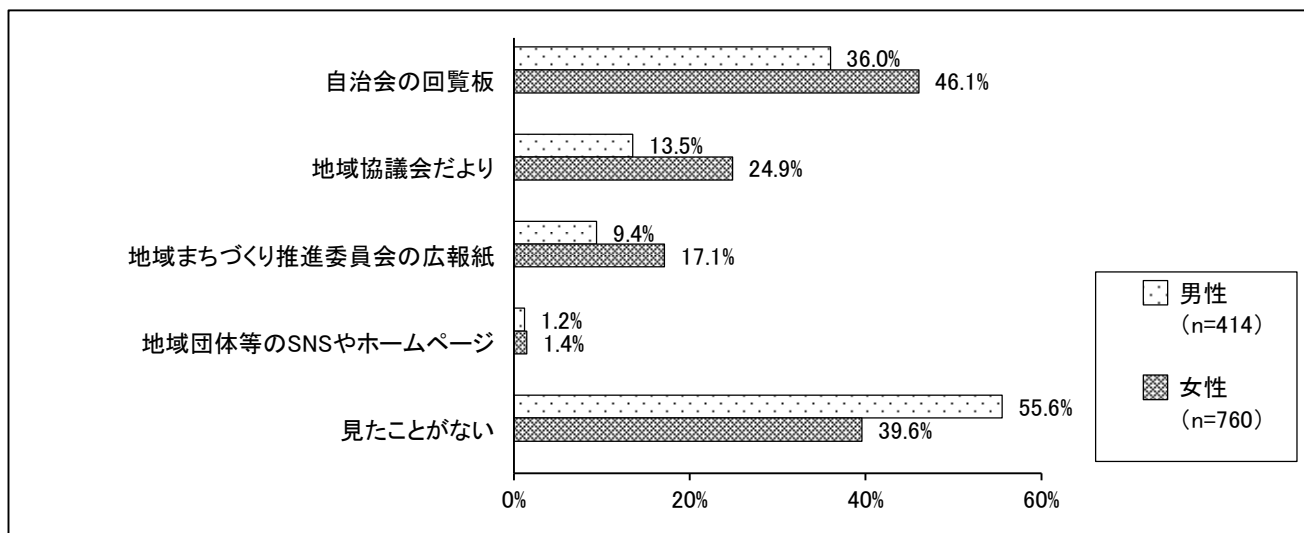
問5 地域協議会では、会議の内容や決定事項などを住民の方にお知らせしていますが、ご覧になったことがありますか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

＜図表2-3-1 地域協議会の会議内容や決定事項などを知る方法・手段＞（全体）※複数回答



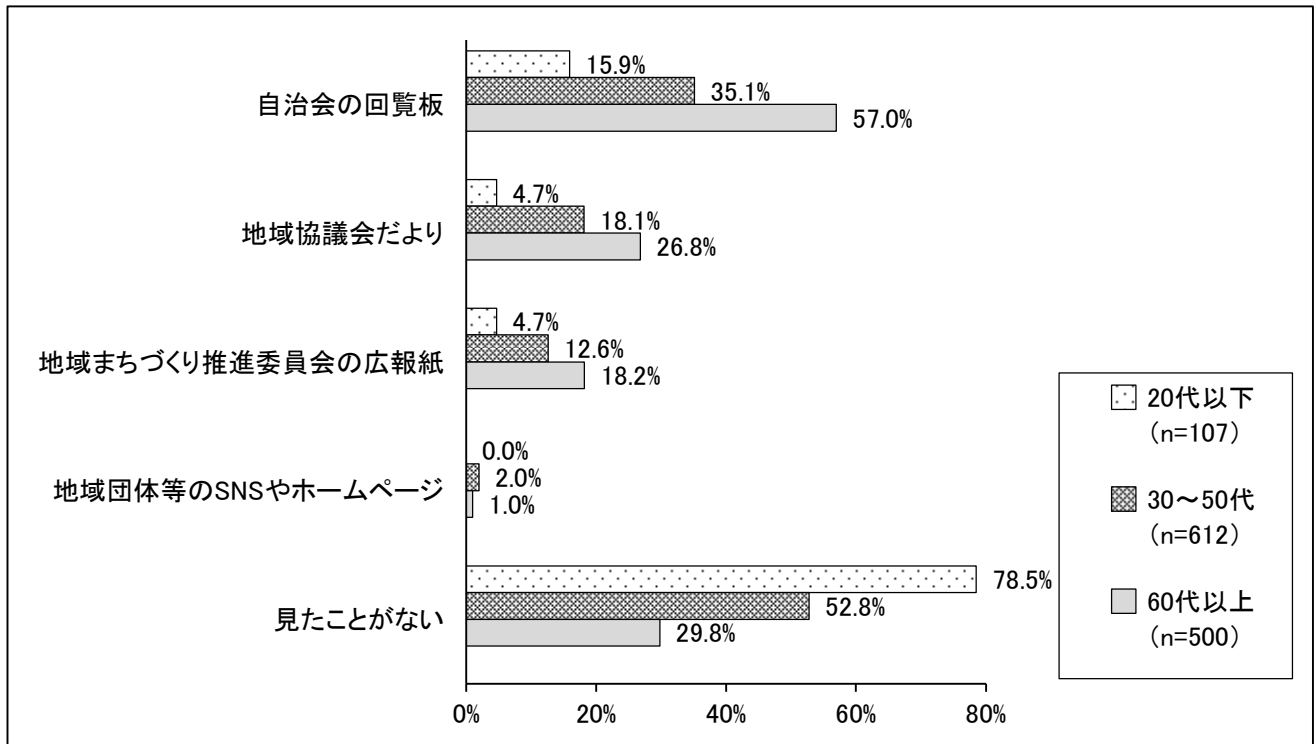
- ・知る方法・手段としては、「自治会の回覧板」と答えた人の割合(42.2%)が最も高い。
- ・「見たことがない」と答えた人の割合は約半数(45.5%)となっている。

＜図表2-3-2 地域協議会の会議内容や決定事項などを知る方法・手段＞（性別）※複数回答



- ・「地域団体等のSNSやホームページ」を除く、他の方法・手段において女性が男性を10ポイント前後上回った。
- ・「見たことがない」と答えた人は、男性(55.6%)が女性(39.6%)を16ポイント上回った。

＜図表２－３－３ 地域協議会の会議内容や決定事項などを知る方法・手段＞（年代別） ※複数回答



- ・「見たことがない」を除く各指標において、各年代とも「自治会の回覧板」と答えた人の割合が最も高い。
- ・「見たことがない」と答えた人の割合は年代が下がるほど高い。

3 地域まちづくり推進委員会について

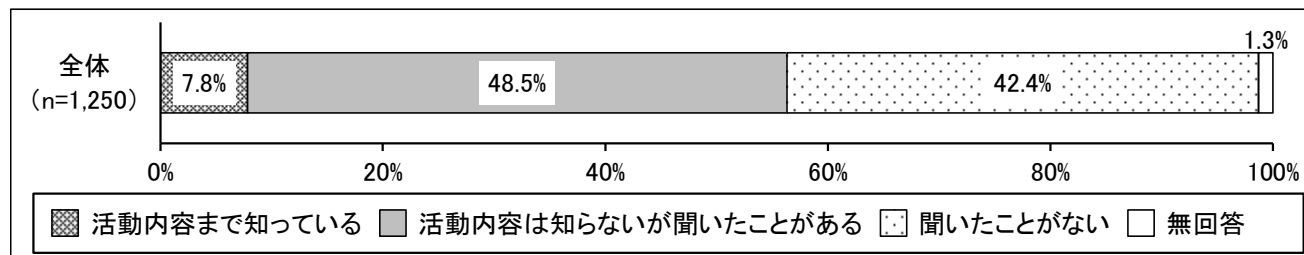
3-1 地域まちづくり推進委員会の認知度

◇「活動内容は知らないが聞いたことがある」と答えた人の割合は48.5%と約半数に上る

◇「活動内容まで知っている」と答えた人の割合は60代以上が最も高い(11.8%)

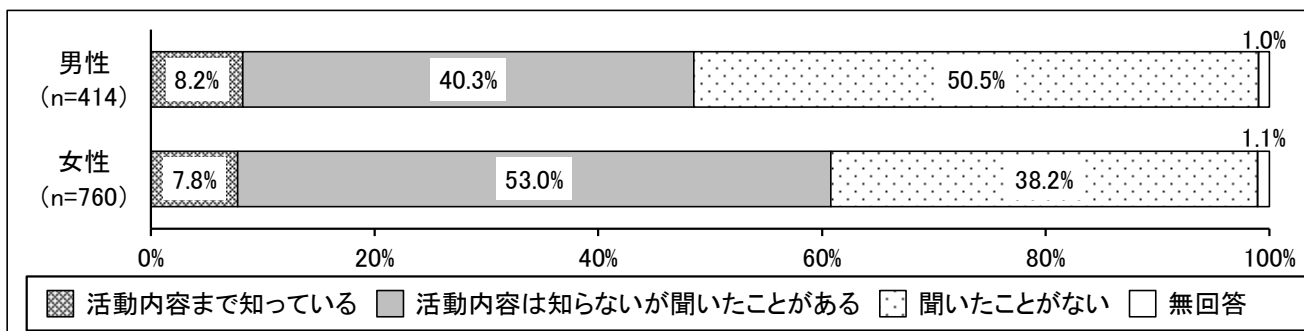
問6 各地域自治区には、地域協議会と連携してまちづくり活動に取り組む「地域まちづくり推進委員会」が組織されています。あなたは、地域まちづくり推進委員会をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表3-1-1 地域まちづくり推進委員会の認知度> (全体)



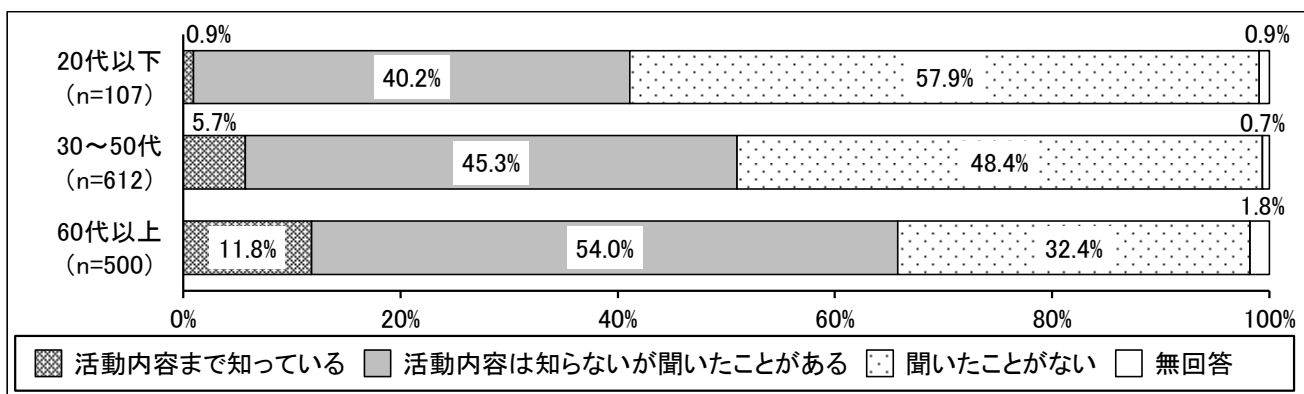
- ・「活動内容は知らないが聞いたことがある」と答えた人の割合(48.5%)は約半数となった。
- ・「聞いたことがない」と答えた人の割合(42.4%)も40%を超えた。

<図表3-1-2 地域まちづくり推進委員会の認知度> (性別)



- ・「活動内容は知らないが聞いたことがある」と答えた人の割合は、女性(53.0%)が男性(40.3%)を12.7ポイント上回った。
- ・「聞いたことがない」と答えた人の割合は、男性(50.5%)が女性(38.2%)を12.3ポイント上回った。

<図表3-1-3 地域まちづくり推進委員会の認知度> (年代別)



- ・「活動内容まで知っている」と答えた人の割合は「60代以上」(11.8%)が最も高い。
- ・「聞いたことはない」と答えた人の割合は年代が下がるほど高くなっている。

3-2 地域まちづくり推進委員会が行う行事などへの参加状況

◇「参加したことがある」と答えた人の割合は約25%

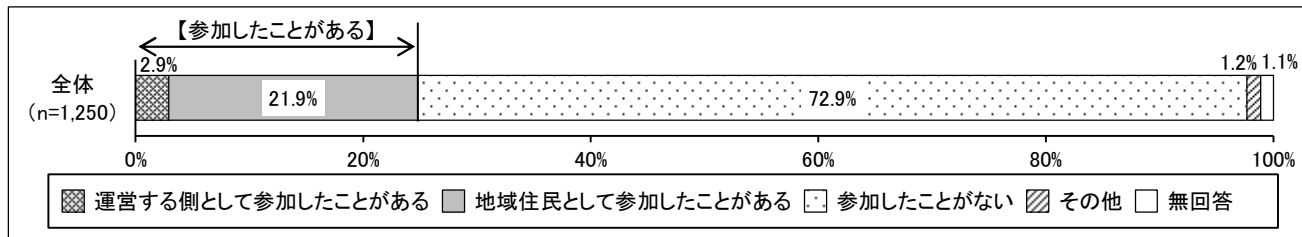
◇「参加したことがない」と答えた人の割合が70%を超えた

◇年代が上がるにつれ、「参加したことがある」と答えた人の割合が高い

問7 あなたは、地域まちづくり推進委員会が行う行事などに参加したことがありますか。

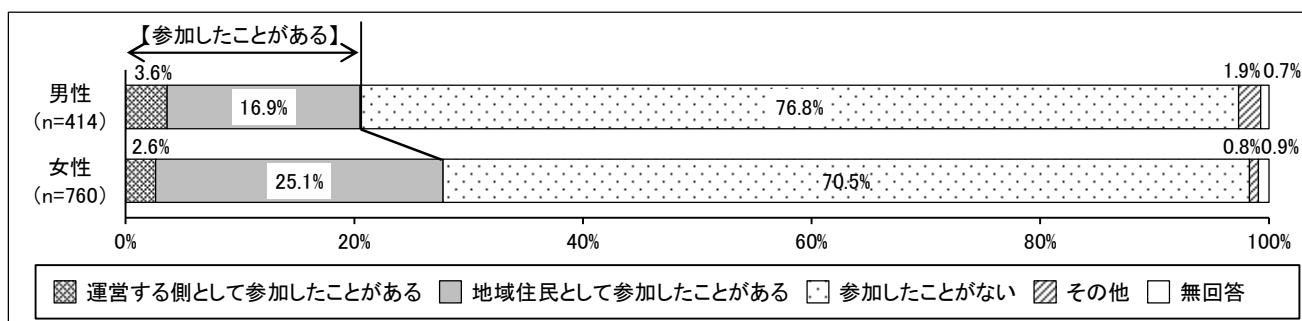
当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表3-2-1 地域まちづくり推進委員会が行う行事などへの参加状況＞（全体）



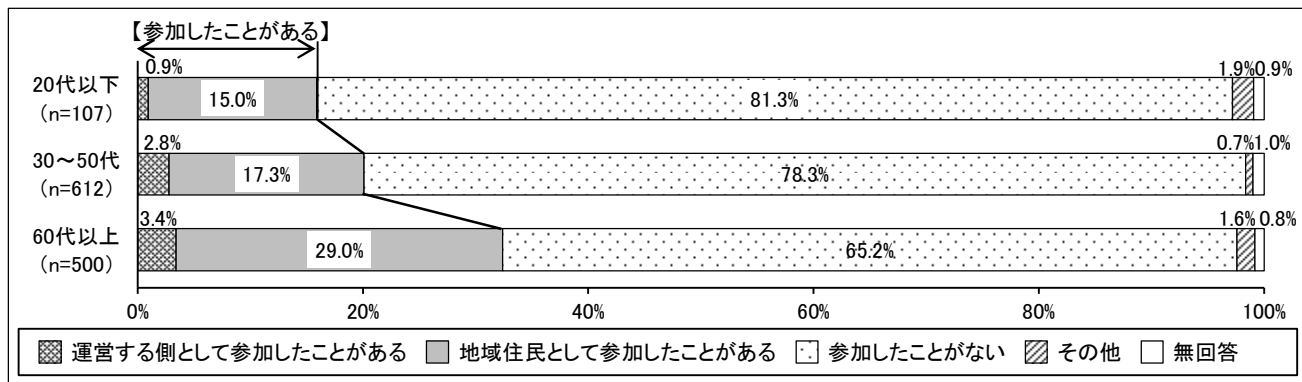
- ・「参加したことがある」（「運営する側として参加したことがある」と「地域住民として参加したことがある」の合計：以下同じ）と答えた人の割合は24.8%となった。

＜図表3-2-2 地域まちづくり推進委員会が行う行事などへの参加状況＞（性別）



- ・「参加したことがある」と答えた人の割合は女性(27.7%)が男性(20.5%)を7.2ポイント上回った。

＜図表3-2-3 地域まちづくり推進委員会が行う行事などへの参加状況＞（年代別）



- ・「参加したことがある」と答えた人の割合は「60代以上」(32.4%)が最も高い。
- ・年代が上がるにつれ、「参加したことがある」と答えた人の割合は高くなっている。

3-3 地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシの閲覧状況

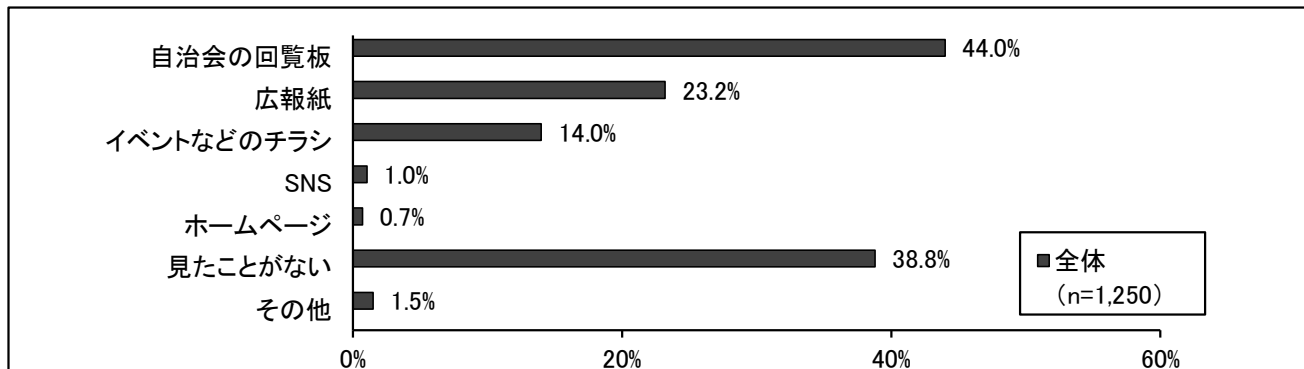
◇「自治会の回覧板」を見ると答えた人の割合が44.0%と最も高い

◇「見たことがない」と答えた人の割合は38.8%であり全体で2番目に多い

◇「見たことがない」を除く各指標において、各年代とも「自治会の回覧板」と答えた人の割合が最も高い

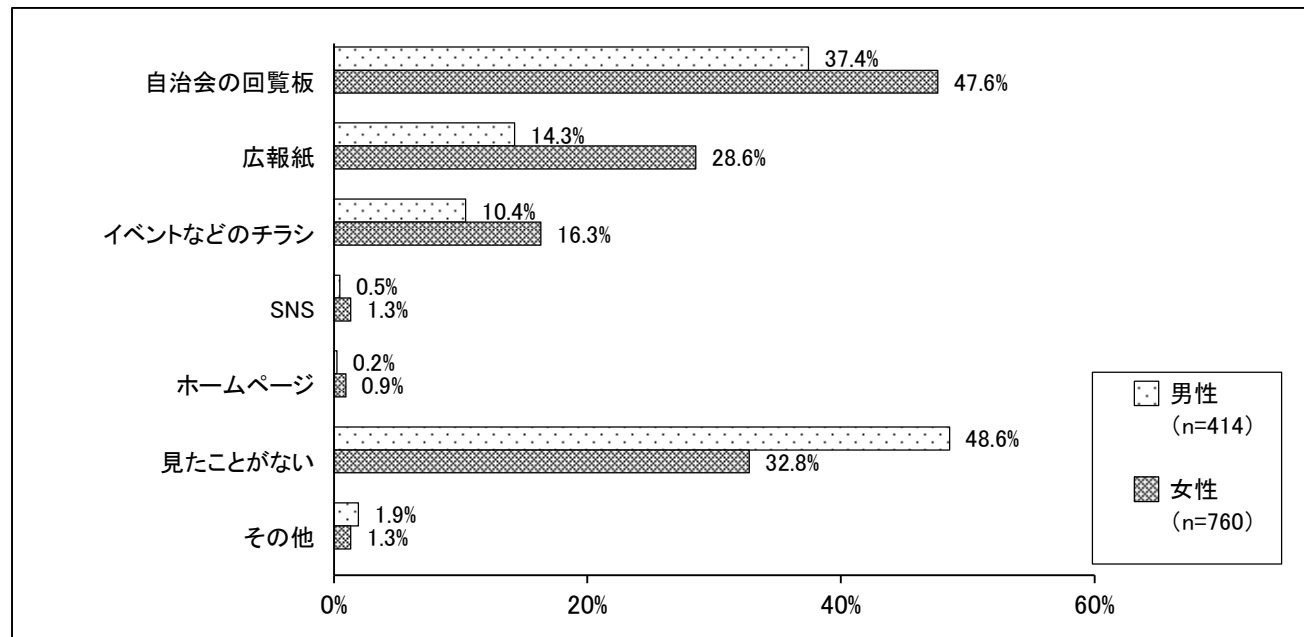
問8 あなたは、地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシなどをご覧になったことがありますか。
ご覧になったことがある番号全てに○をつけてください。

＜図表3-3-1 地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシの閲覧状況＞（全体） ※複数回答



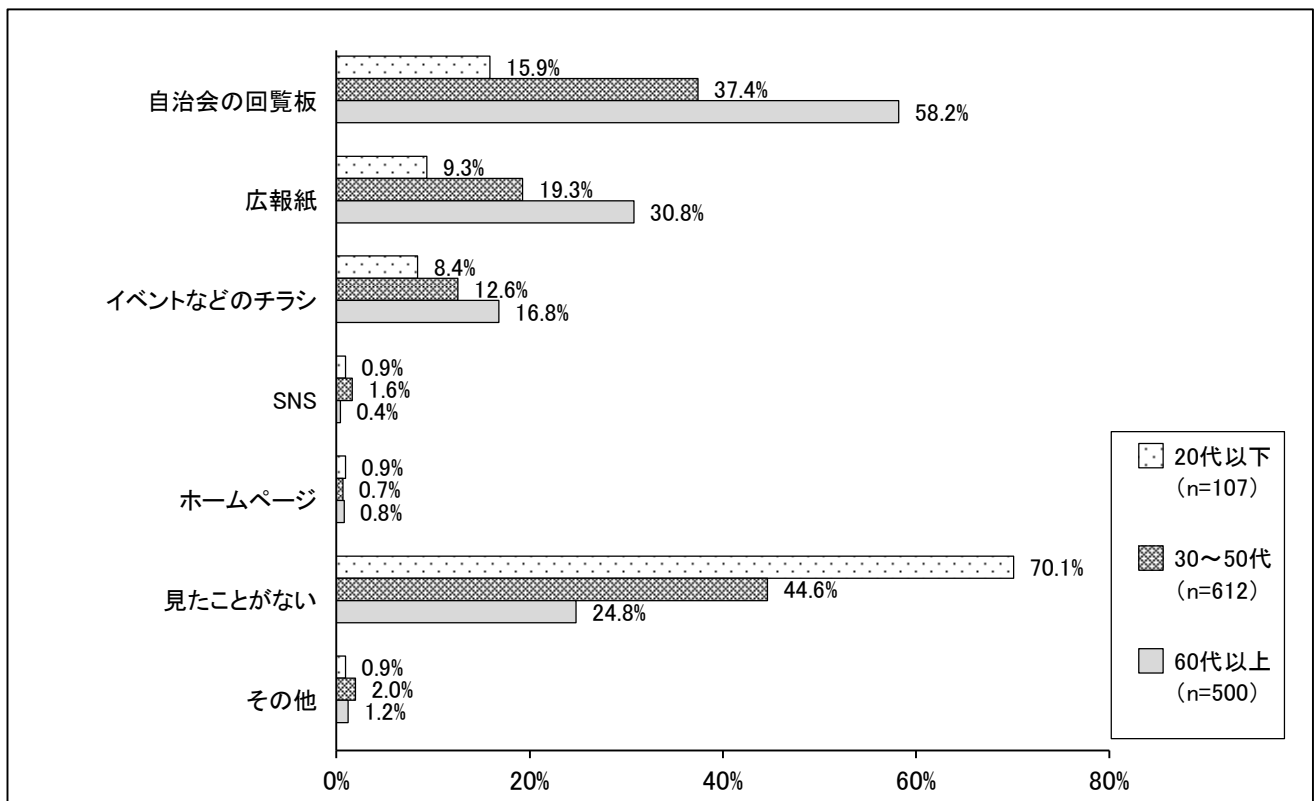
- ・「自治会の回覧板」と答えた人の割合 (44.0%) が最も高い。
- ・「SNS」「ホームページ」は1%以下。
- ・「見たことがない」と答えた人は38.8%。

＜図表3-3-2 地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシの閲覧状況＞（性別） ※複数回答



- ・男女とも全体とほぼ同じ傾向となった。その中で、「見たことがない」と答えた人の割合は男性 (48.6%) が女性 (32.8%) を15.8ポイント上回った。

＜図表3－3－3 地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシの閲覧状況＞（年代別） ※複数回答



- ・広報媒体（紙媒体）の閲覧は年代が上がるほど高まる傾向となっているが、SNSやホームページの閲覧は全世代で1%前後と極めて低い。
- ・「見たことがない」と答えた人の割合は年代が下がるほど高くなっており、20代以下の割合は特に高い（70.1%）。

4 住んでいる地域の地域コミュニティや活動について

4-1 居住地域への「愛着」の状況

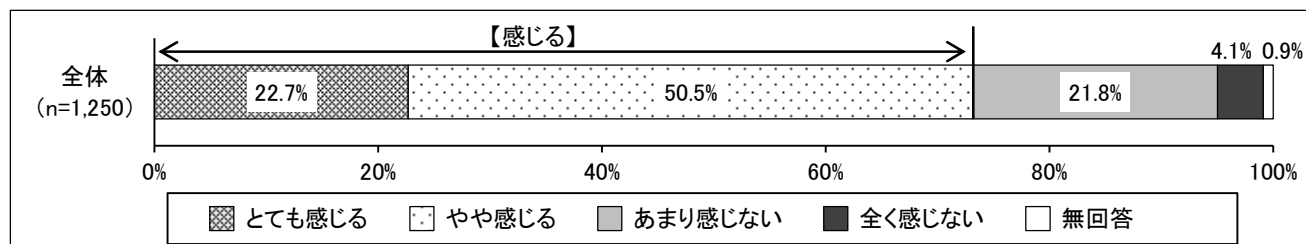
◇愛着を「感じる」と答えた人の割合は73.2%と高い

◇男性よりも女性の方が愛着を「感じる」と答えた人の割合が高い

◇愛着を「感じる」と答えた人の割合は各年代で70%を超えた

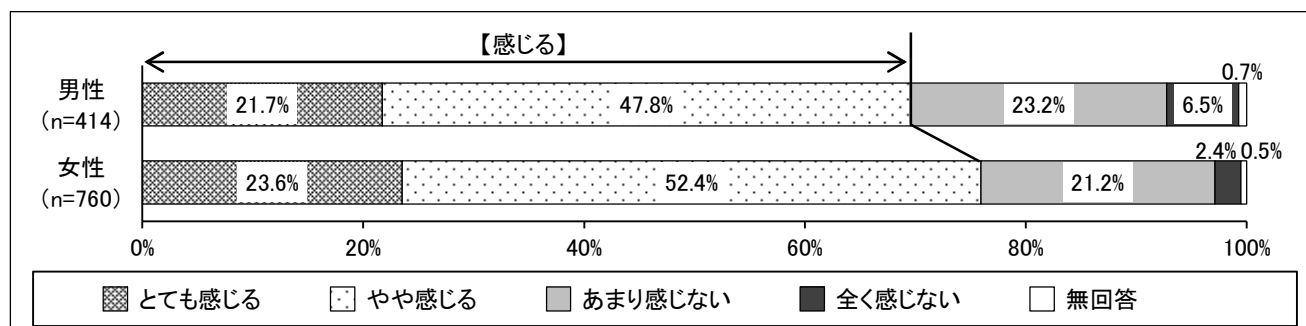
問9 あなたは、お住まいの地域に愛着を感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表4-1-1 居住地域への「愛着」の状況＞（全体）



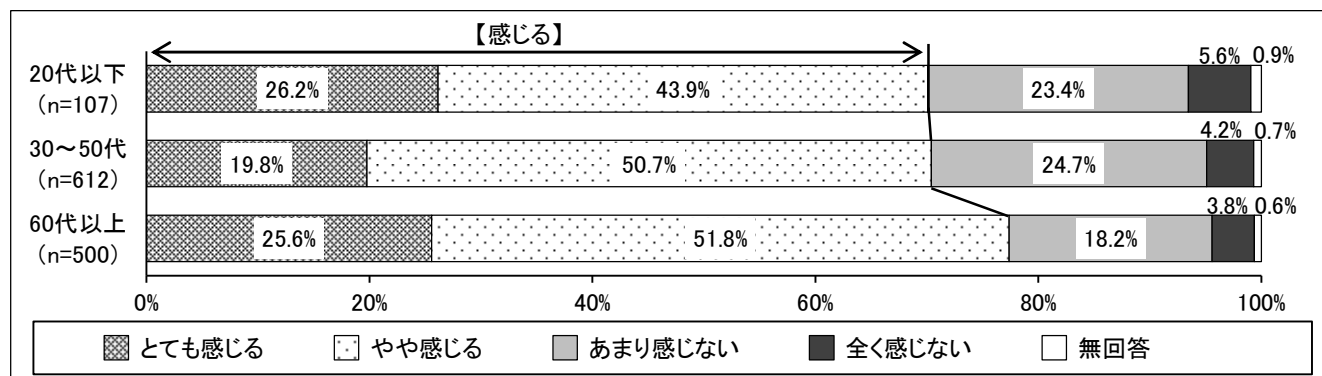
・「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計：以下同じ）と答えた人の割合は73.2%となった。

＜図表4-1-2 居住地域への「愛着」の状況＞（性別）



・「感じる」と答えた人の割合は女性(76.0%)が男性(69.5%)を6.5ポイント上回った。

＜図表4-1-3 居住地域への「愛着」の状況＞（年代別）



・「感じる」と答えた人の割合は各年代とも70%以上(20代以下:70.1%、30～50代:70.5%、60代以上:77.4%)となった。

4-2 自分と地域(近所)の人との望ましい人間関係

◇「いざという時だけでも、助けあえる関係」と答えた人の割合が約38%と最も高い

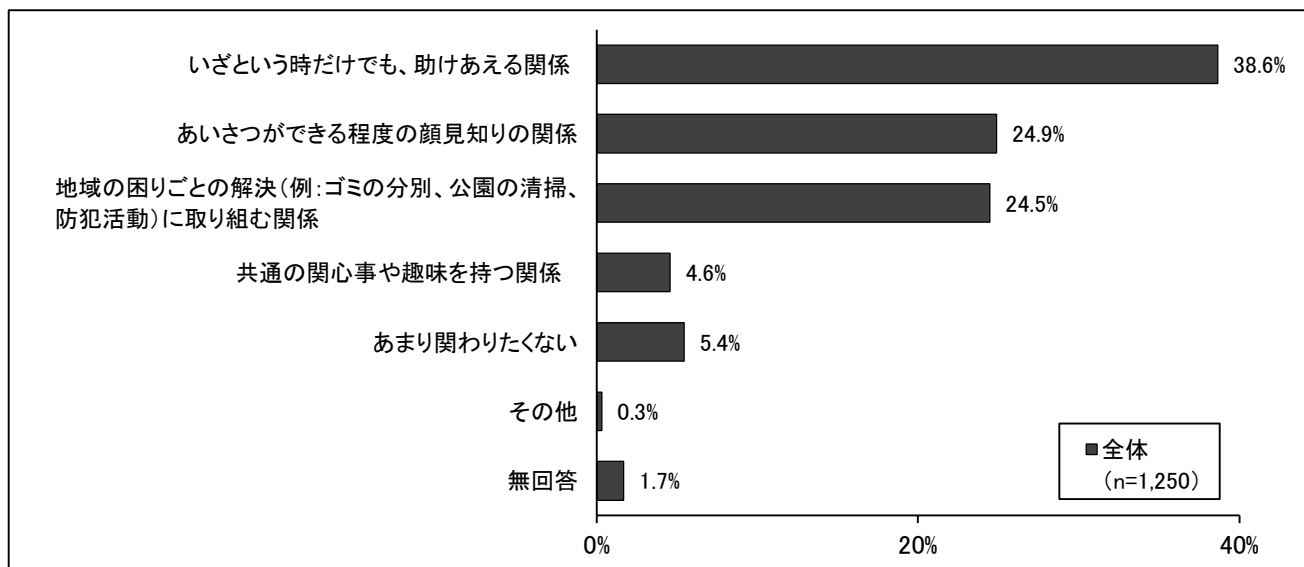
◇「あいさつができる程度の顔見知りの関係」および「地域の困りごとの解決」と答えた人の割合は、いずれも約25%となった

◇「あまり関わりたくない」と答えた人の割合は、年代が下がるほど高い

問10 あなたは、ご自身と地域(近所)の人とどのような関係を築きたいと考えますか。

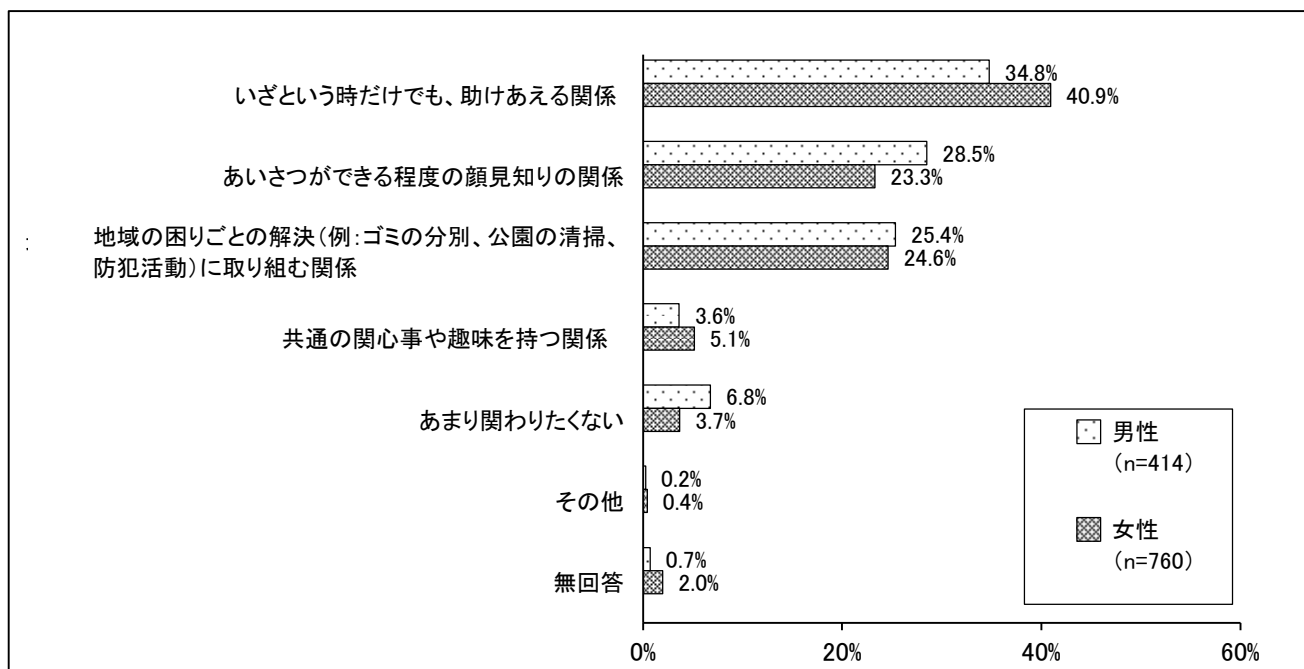
当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表4-2-1 自分と地域(近所)の人との望ましい人間関係>(全体)



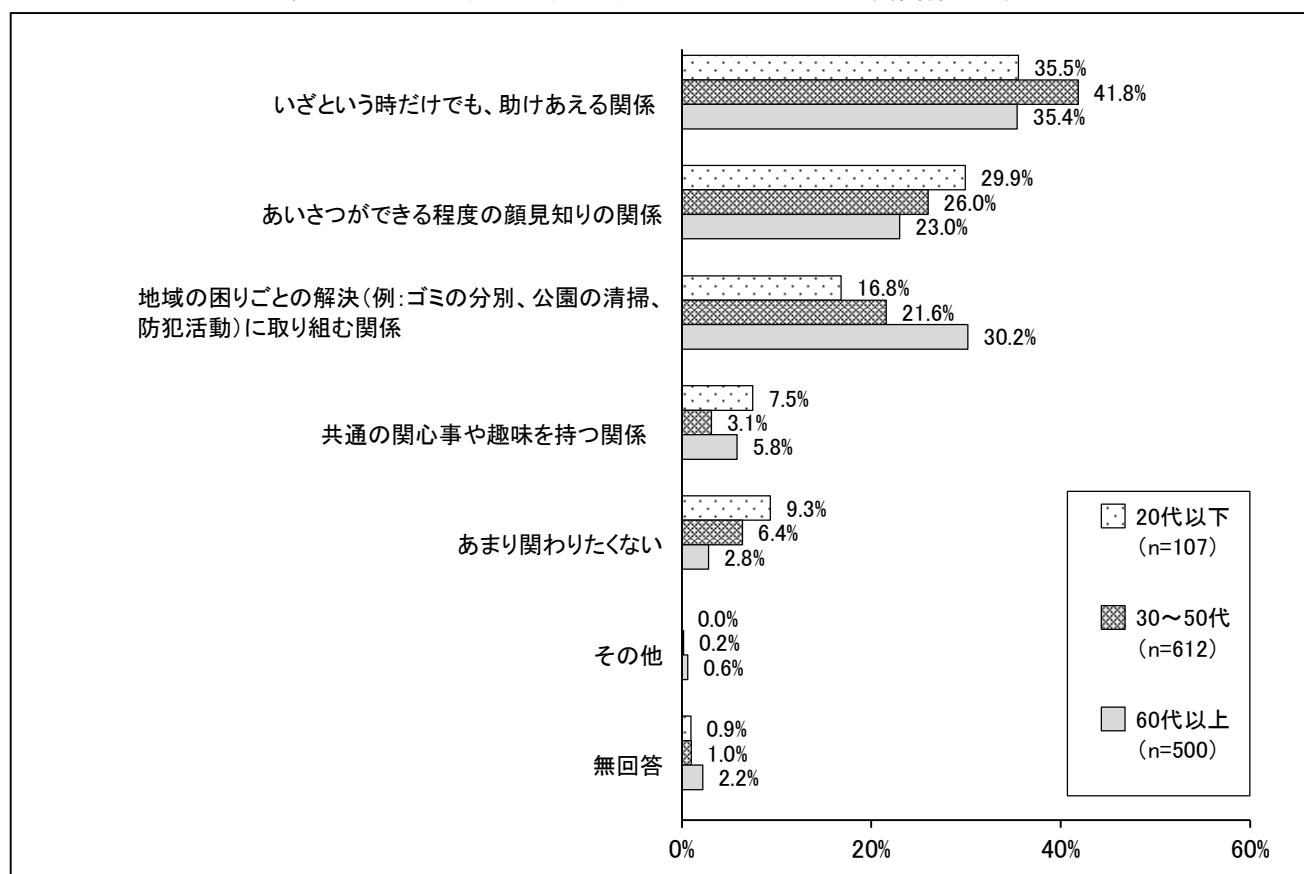
・「いざという時だけでも、助けあえる関係」と答えた人の割合が38.6%と最も高い。

<図表4-2-2 自分と地域(近所)の人との望ましい人間関係>(性別)



・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。その中で、「いざという時だけでも、助けあえる関係」と答えた人の割合は女性(40.9%)が男性(34.8%)を6.1ポイント上回った。

＜図表4－2－3 自分と地域（近所）の人との望ましい人間関係＞（年代別）



- ・各年代とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・「地域の困りごとの解決」と答えた人の割合が60代以上では他世代よりも高い(30.8%)。また、「いざという時だけでも、助け合える関係」と答えた人の割合は、30～50代で高く(41.8%)、「あいさつができる程度の顔見知りの関係」と答えた人の割合は、20代以下において高くなっている傾向にある(29.9%)。
- ・「あまり関わりたくない」と答えた人の割合は、年代が下がるほど高くなっている。(20代以下:9.3%、30～50代:6.4%、60代以上:2.8%)

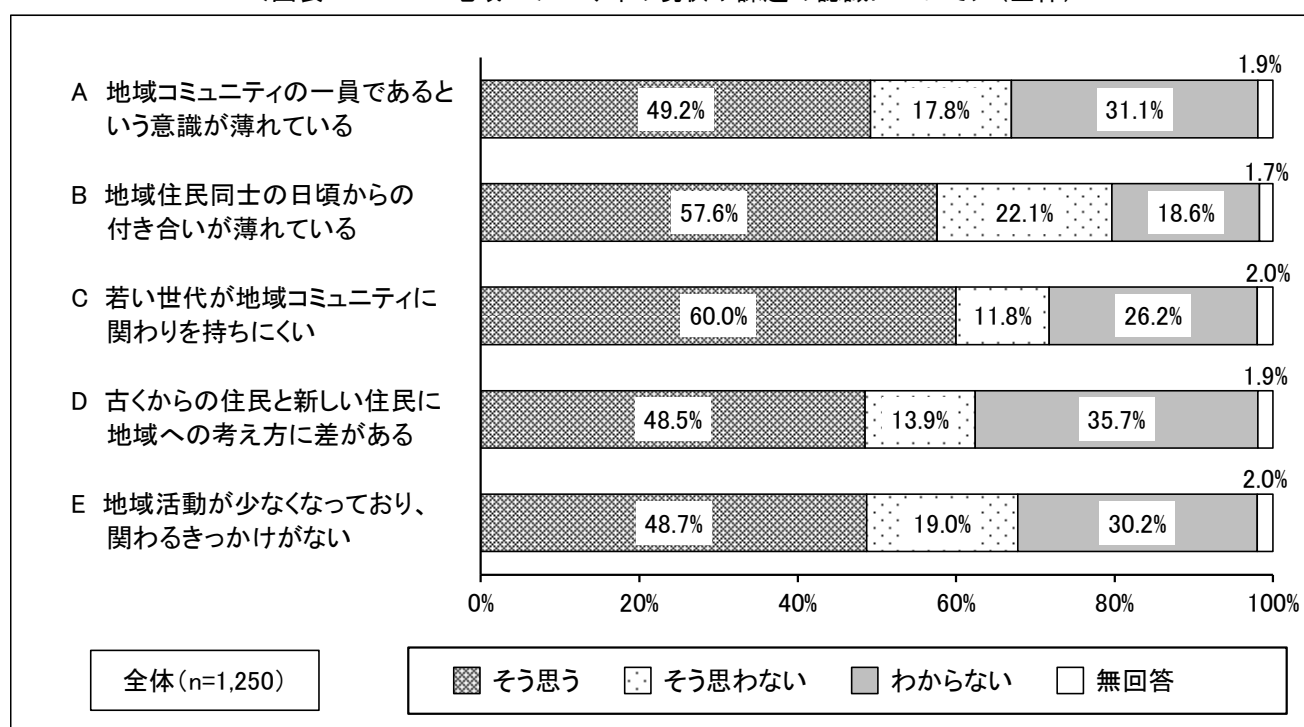
4-3 地域コミュニティの現状や課題の認識について

- ◇「C 若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」と感じている割合が60%となった
- ◇男女で認識の差が大きい項目は、「A 地域コミュニティの一員であるという意識が薄れている」
- ◇「C 若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」と感じている人の割合は、20代以下および30～50代において60%を超えた

問11 あなたは、地域コミュニティの現状や課題をどのように認識していますか。

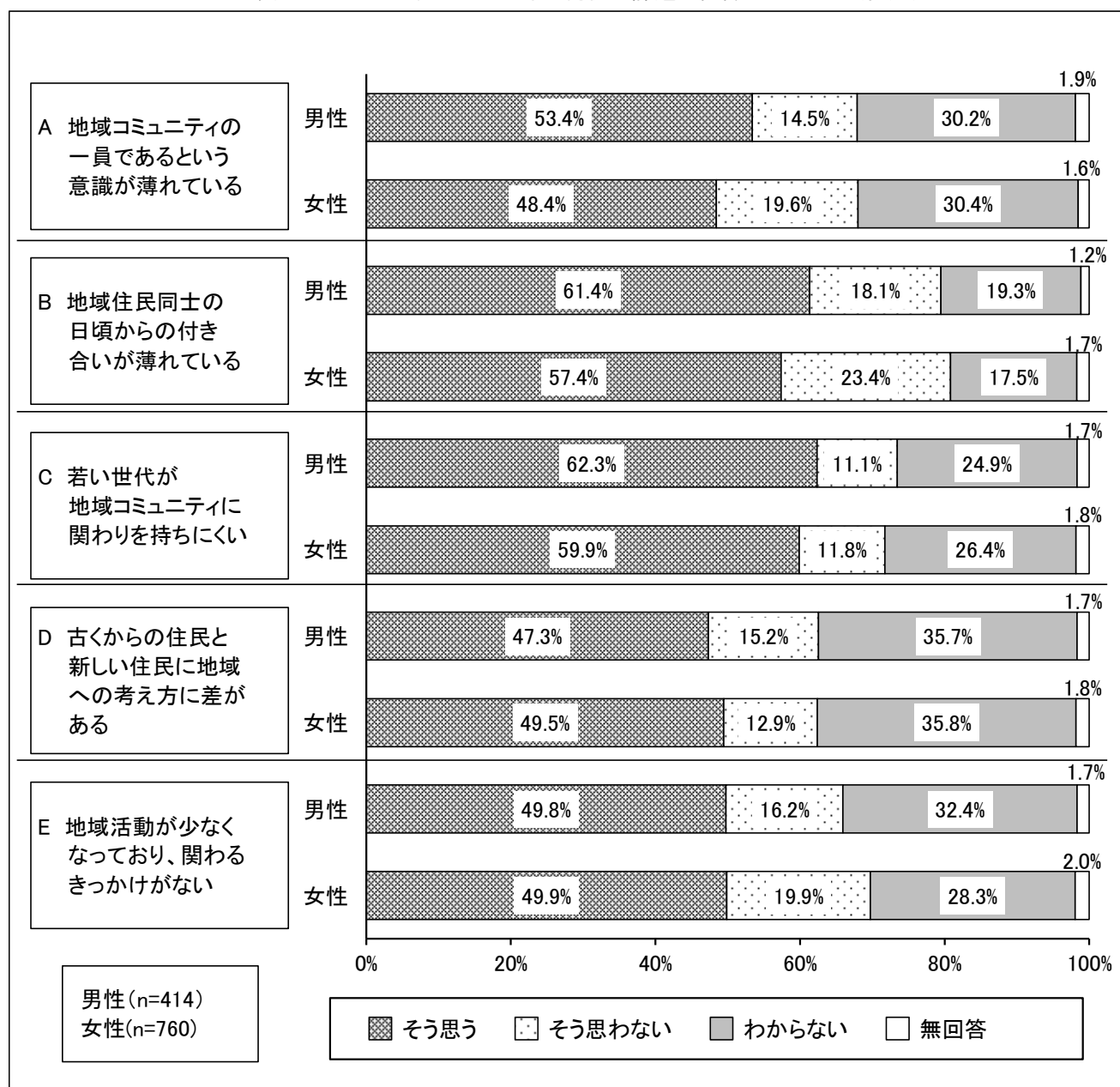
A～Eのそれぞれの項目で当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表4-3-1 地域コミュニティの現状や課題の認識について> (全体)



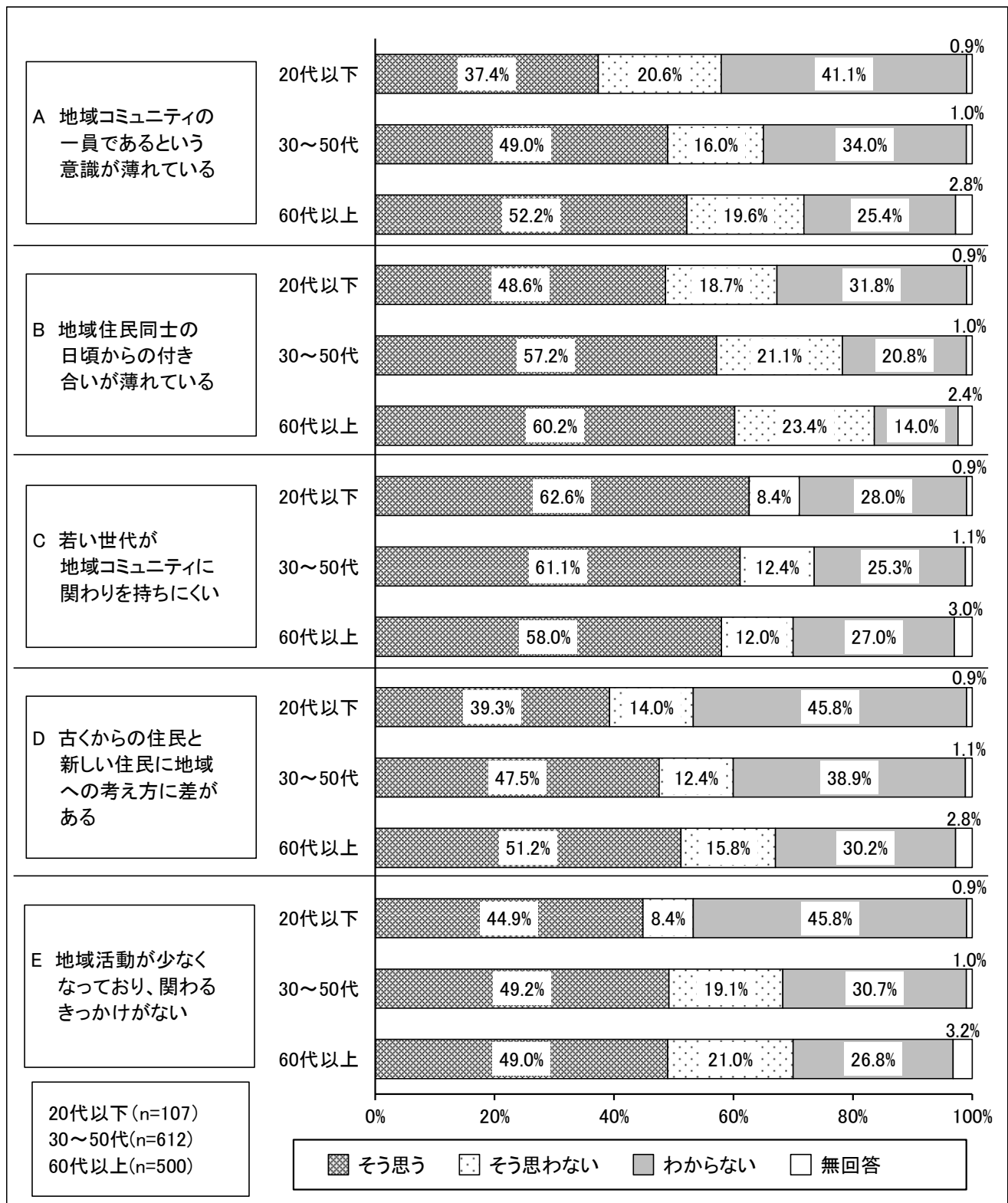
- ・「C 若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」の項目において、「そう思う」と答えた人の割合 (60.0%) は、最も高い。

＜図表4－3－2 地域コミュニティの現状や課題の認識について＞（性別）



- ・「E 地域活動が少なくなっており、関わるきっかけがない」の項目において「そう思う」と答えた人の割合（約50％）は男女ともほぼ同じとなった。
- ・「A 地域コミュニティの一員であるという意識が薄れている」の項目において「そう思う」と答えた男性（53.4％）と女性（48.4％）の割合の差は5.0ポイントで、他の項目と比べて差が大きくなった。

<図表4-3-3 地域コミュニティの現状や課題の認識について> (年代別)



- ・「C 若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」の項目を除き、「そう思う」と答えた人の割合は、年代が上がるにつれ高くなっている。
- ・「C 若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」と感じている人の割合は、20代以下および30～50代において60%を超えた。
- ・各項目において「そう思う」と答えた人の割合が最も高いのは、「20代以下」と「30～50代」において「C 若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」(62.6%と61.1%)、「60代以上」では「B 地域住民同士の日頃からの付き合いが薄れている」(60.2%)となった。

＜地域の自治会、地域団体等の現状について＞

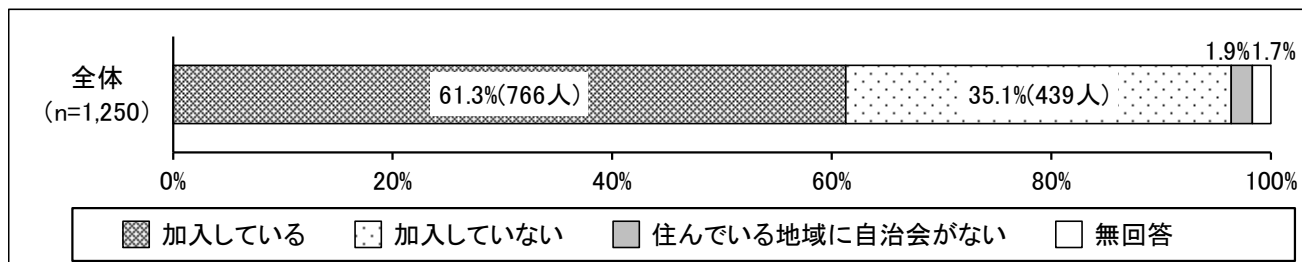
4-4 地域の自治会への加入状況

◇「加入している」と答えた人の割合は60%を超えた

◇「加入していない」と答えた人の割合は20代以下では57%と半数を超えた

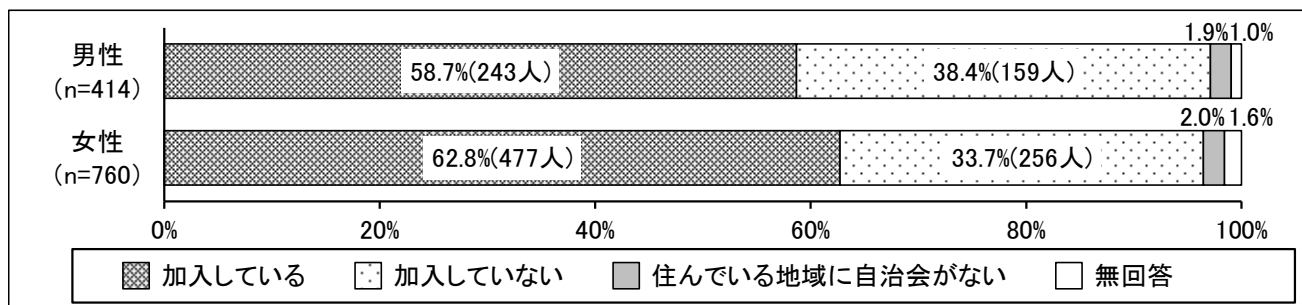
問12 あなた(あなたの世帯)は、自治会に加入していますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表4-4-1 地域の自治会への加入状況＞(全体)



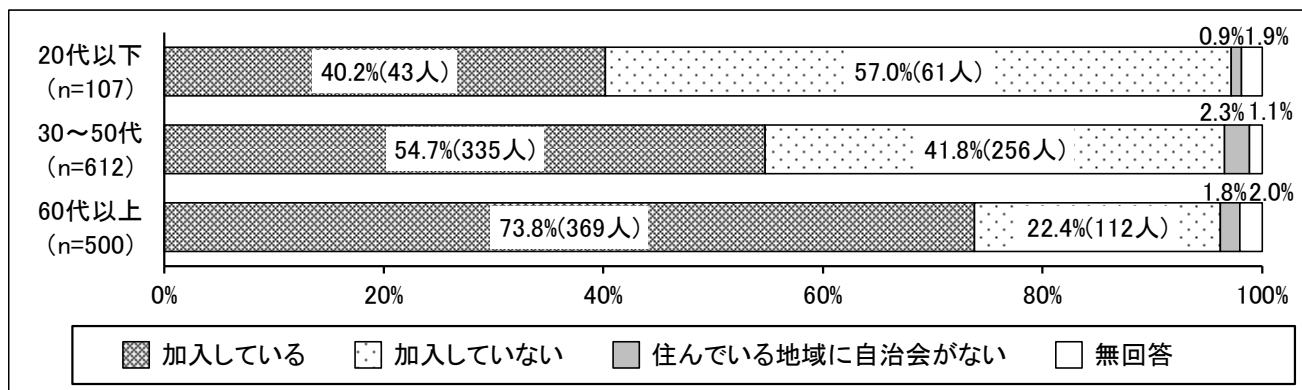
・「加入している」と答えた人の割合は61.3%となっており、「加入していない」と答えた人の割合より26.2%高い。

＜図表4-4-2 地域の自治会への加入状況＞(性別)



・自治会の加入、未加入の状況について、男女差はほとんどみられない(加入していると答えた人の割合:男性58.7%、女性62.8%)。

＜図表4-4-3 地域の自治会への加入状況＞(年代別)



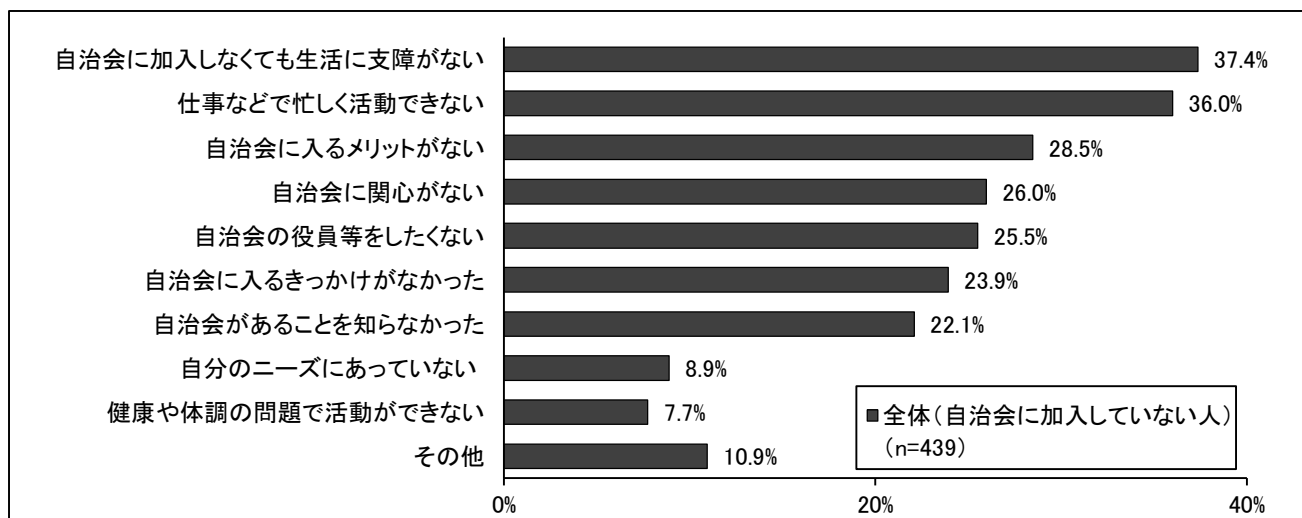
・「加入している」と答えた人の割合は年代が上がるにつれ高くなっている(「加入していない」と答えた割合は年代が下がるほど高くなっており、「20代以下」は57.0%となっている)。

4-5 自治会に加入していない理由(加入していない人が回答)

◇「自治会に加入しなくても生活に支障がない」、「仕事などで忙しく活動できない」と答えた人の割合はそれぞれ30%を上回った

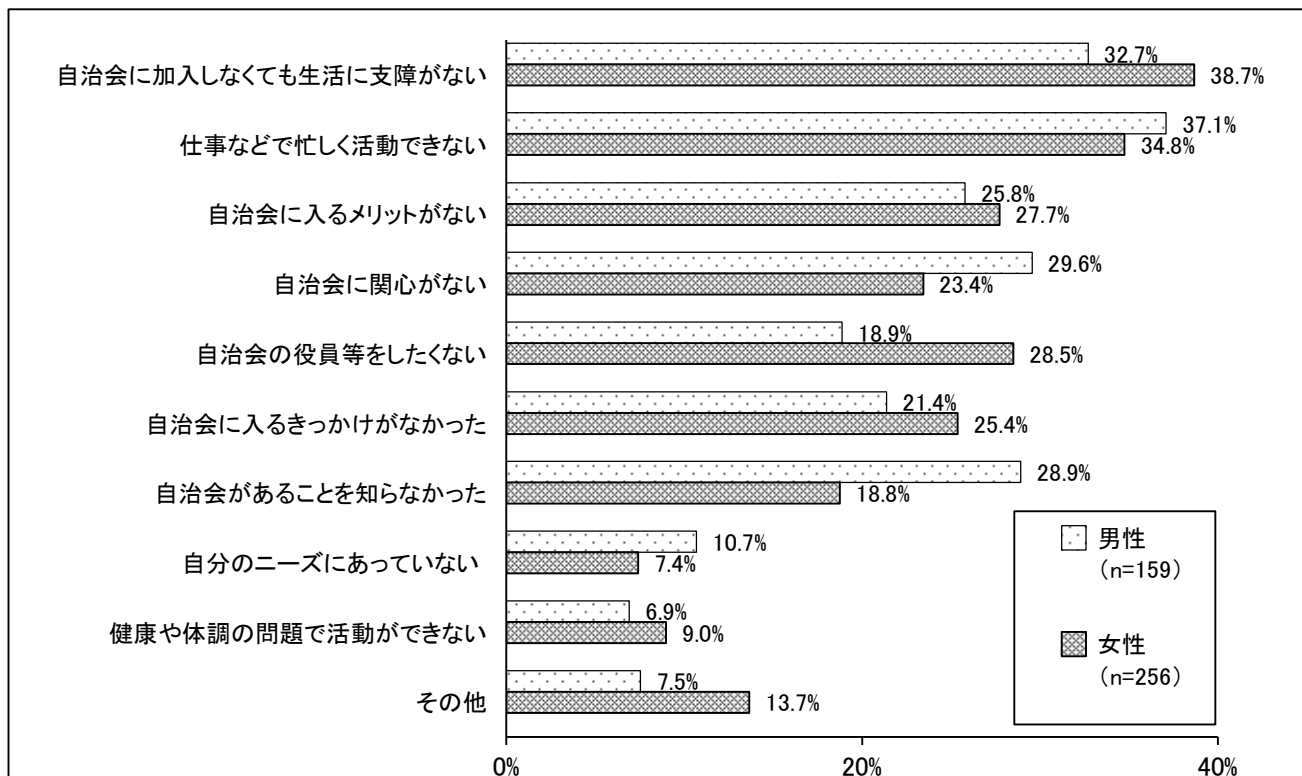
問13 問12で「加入していない」に○をつけた方におうかがいします。
あなた(あなたの世帯)が、自治会に加入していない理由はどのようなことですか。
当てはまる番号全てに○をつけてください。

＜図表4-5-1 自治会に加入していない理由＞(全体)



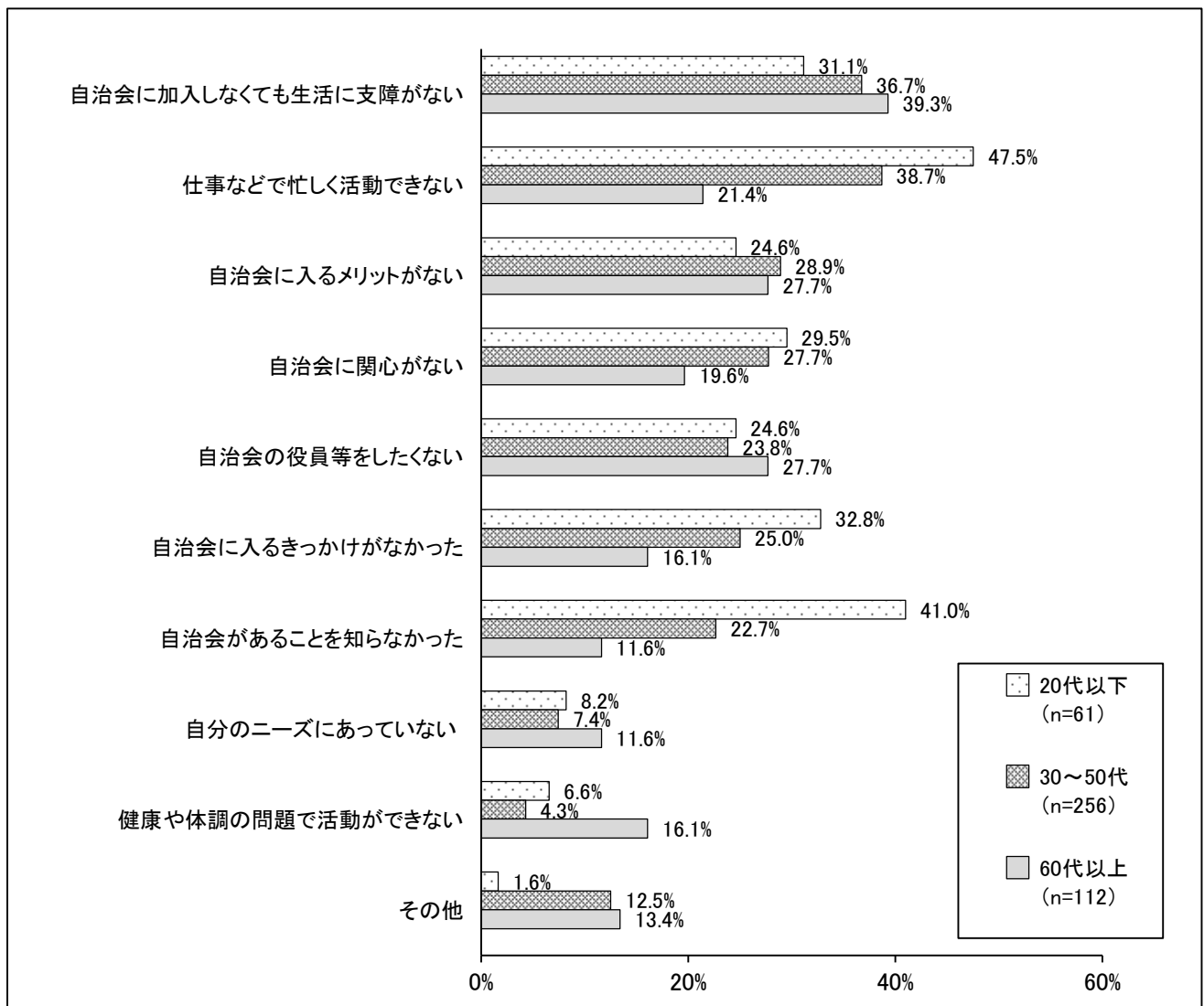
・「自治会に加入しなくても生活に支障がない」と答えた人の割合が37.4%で最も高く、次いで「仕事などで忙しく活動できない」(36.0%)、「自治会に入るメリットがない」(28.5%)などが続く。

＜図表4-5-2 自治会に加入していない理由＞(性別)



・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
・男性は「自治会があることを知らなかった」(28.9%)、女性は「自治会の役員等をしたくない」(28.5%)と答えた人の割合が高い。

＜図表4－5－3 自治会に加入していない理由＞（年代別）



- ・各年代とも全体と同じ傾向を示した。
- ・その中で、「20代以下」は「自治会があることを知らなかった」（41.0%）、「30～50代」は「仕事などで忙しく活動できない」（38.7%）、「60代以上」は「自治会に加入しなくても生活に支障がない」（39.3%）と答えた人の割合が高い。

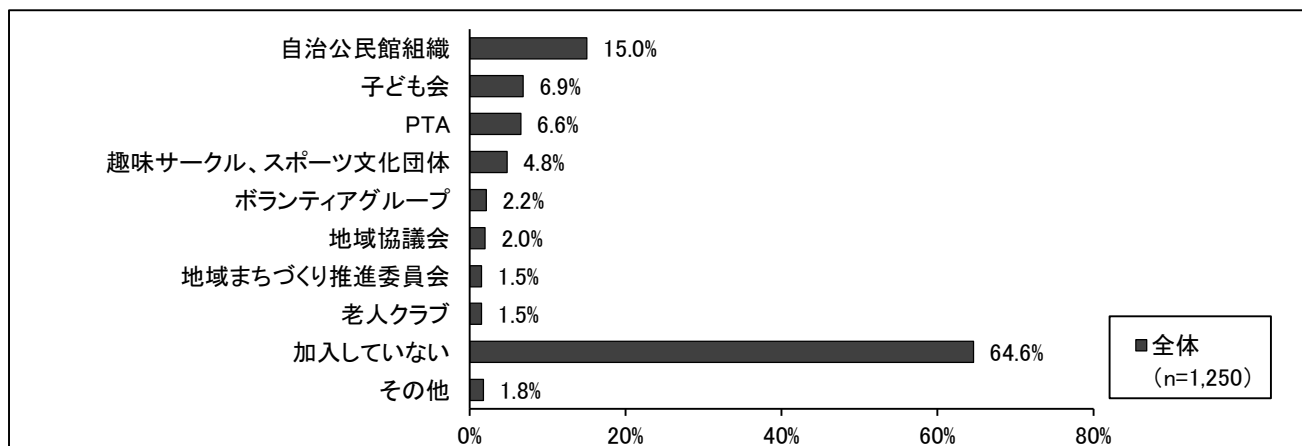
4-6 地域で活動する地域団体等への加入状況

◇「加入していない」と答えた人の割合が60%を超えた

◇各地域団体等への加入率はほとんど10%を下回った

問14 あなたは、地域で活動する地域団体等に加入していますか。
当てはまる番号全てに○をつけてください。(自治会を除く。)

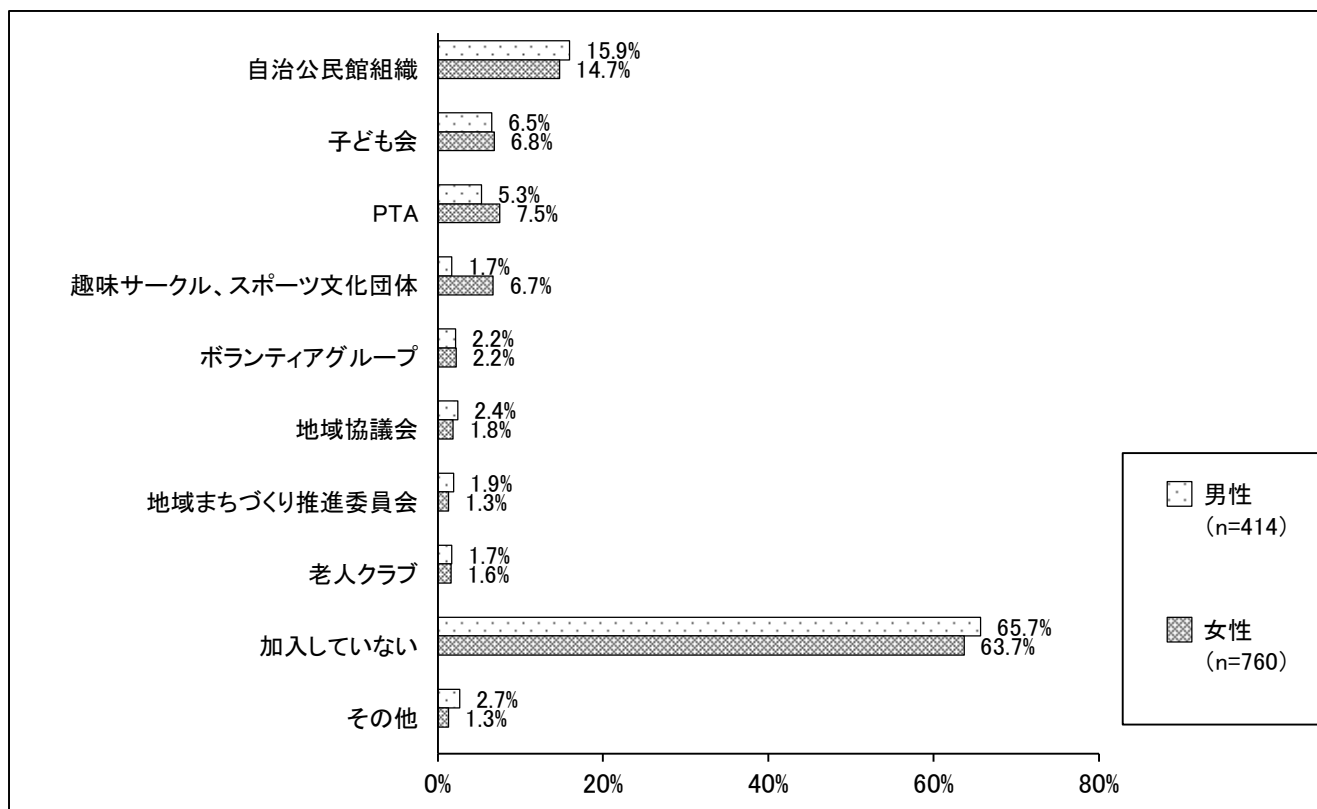
＜図表4-6-1 地域で活動する地域団体等への加入状況＞(全体) ※複数回答



・加入は「自治公民館組織」と答えた人の割合が15.0%で最も高く、他は10%以下となった。

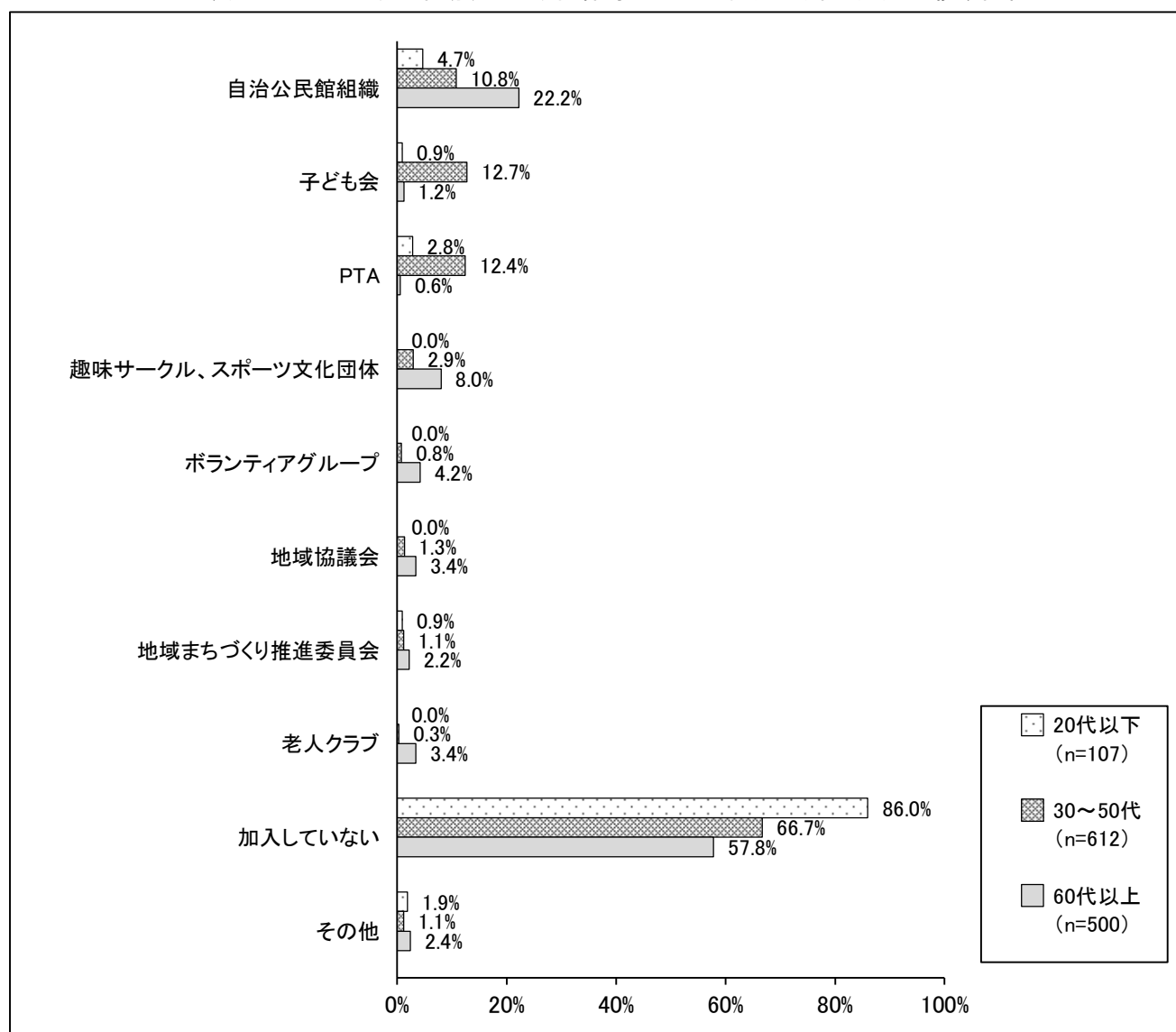
・なお、「加入していない」(64.6%)と答えた人の割合は60%を超えた(64.6%)。

＜図表4-6-2 地域で活動する地域団体等への加入状況＞(性別) ※複数回答



・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。

＜図表4－6－3 地域で活動する地域団体等への加入状況＞（年代別） ※複数回答



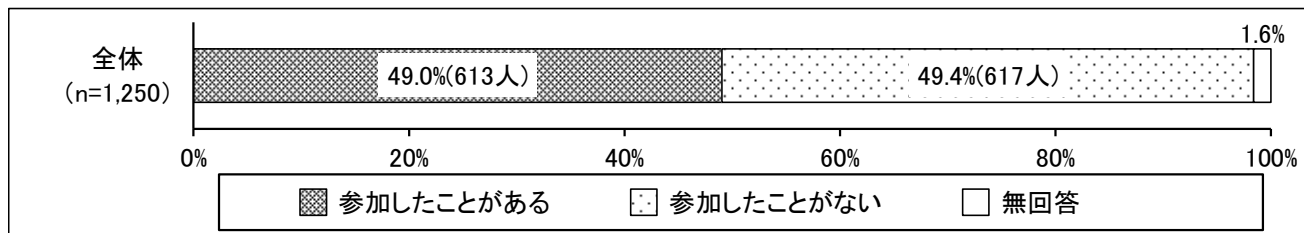
- ・各年代とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・20代以下においては、地域団体等へ「加入していない」と答えた人の割合が86.0%と高い。
- ・「子ども会」、「PTA」においては、30～50代の加入割合が10%を超えた（子ども会：12.7%、PTA：12.4%）。

4-7 地域団体等が実施する活動への参加状況

- ◇「参加したことがある」、「参加したことがない」と答えた人の割合はほぼ同じ
- ◇女性の参加率が男性の参加率を約14ポイント上回った
- ◇「参加したことがない」と答えた20代以下の人の割合は70%を超えた

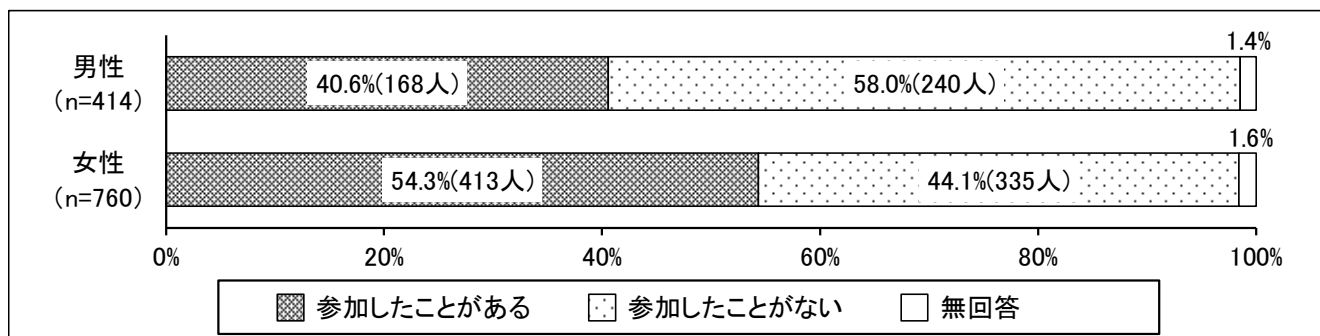
問15 あなたは、自治会や地域まちづくり推進委員会などの各種地域団体等が実施する地域活動に参加したことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表4-7-1 地域団体等が実施する活動への参加状況＞（全体）



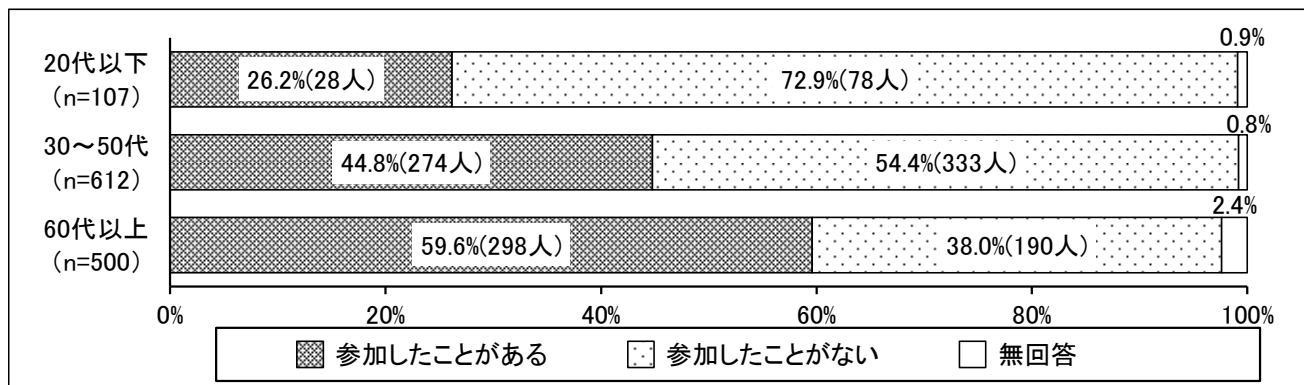
- ・「参加したことがある」、「参加したことがない」と答えた人の割合はほぼ同じとなった（参加したことがある：49.0%、参加したことがない：49.4%）。

＜図表4-7-2 地域団体等が実施する活動への参加状況＞（性別）



- ・「参加したことがある」と答えた人の割合（参加率）は女性（54.3%）が男性（40.6%）を13.7ポイント上回った。

＜図表4-7-3 地域団体等が実施する活動への参加状況＞（年代別）



- ・「参加したことがある」と答えた人の割合は年代が上がるにつれ高くなっている。
- ・「参加したことがない」と答えた人の割合は20代以下で72.9%となっており、他世代と比較すると大きく差が開いた。

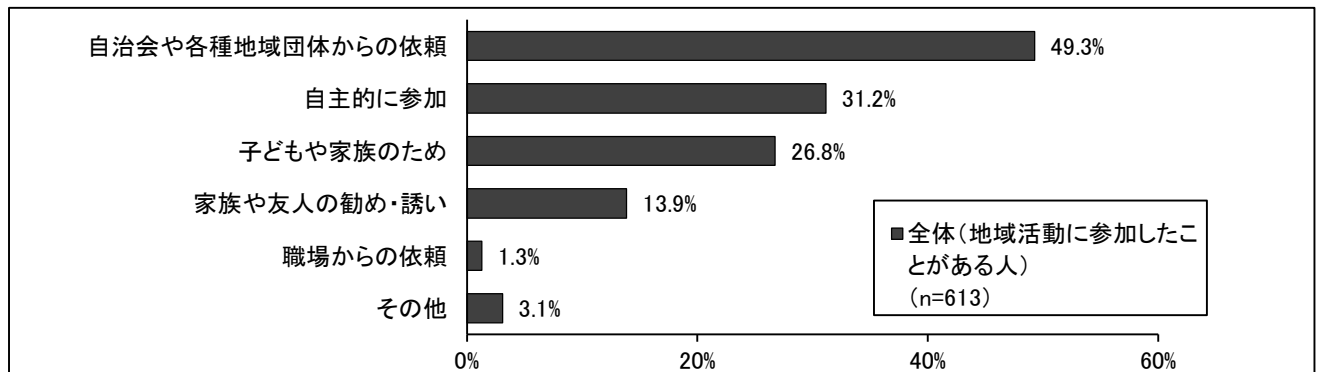
4-8 地域活動に参加した動機やきっかけ(参加したことがある人が回答)

◇「自治会や各種地域団体からの依頼」と答えた人の割合は49%と約半数に上る

◇20代以下においては、「家族や友人の勧め・誘い」と答えた人の割合が65%を超えた

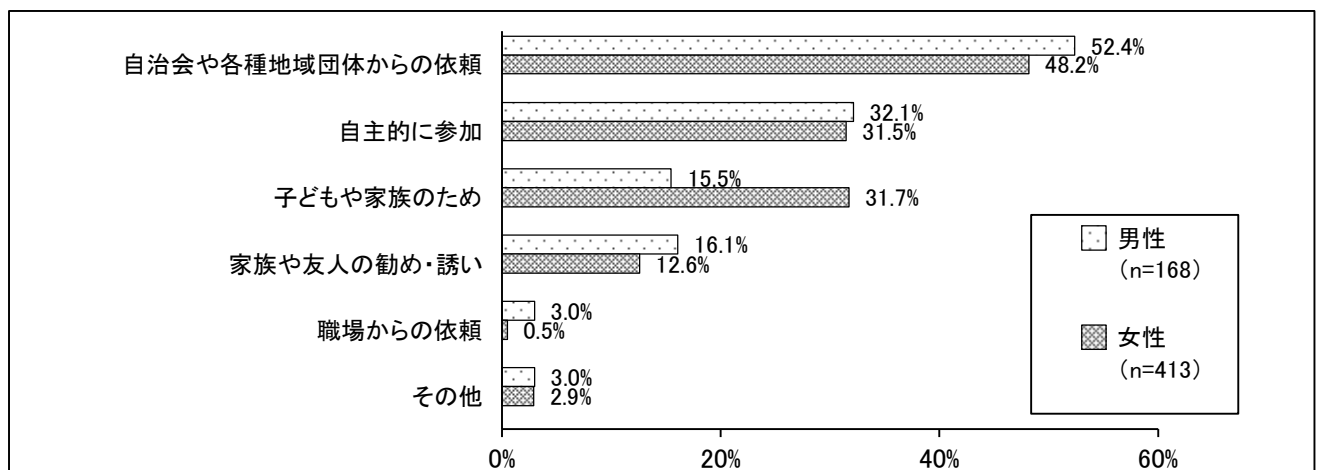
問16 問15で「参加したことがある」に○をつけた方におうかがいします。
あなたが、地域活動に参加したきっかけや動機は何ですか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

＜図表4-8-1 地域団体等が実施する活動への参加状況＞(全体) ※複数回答



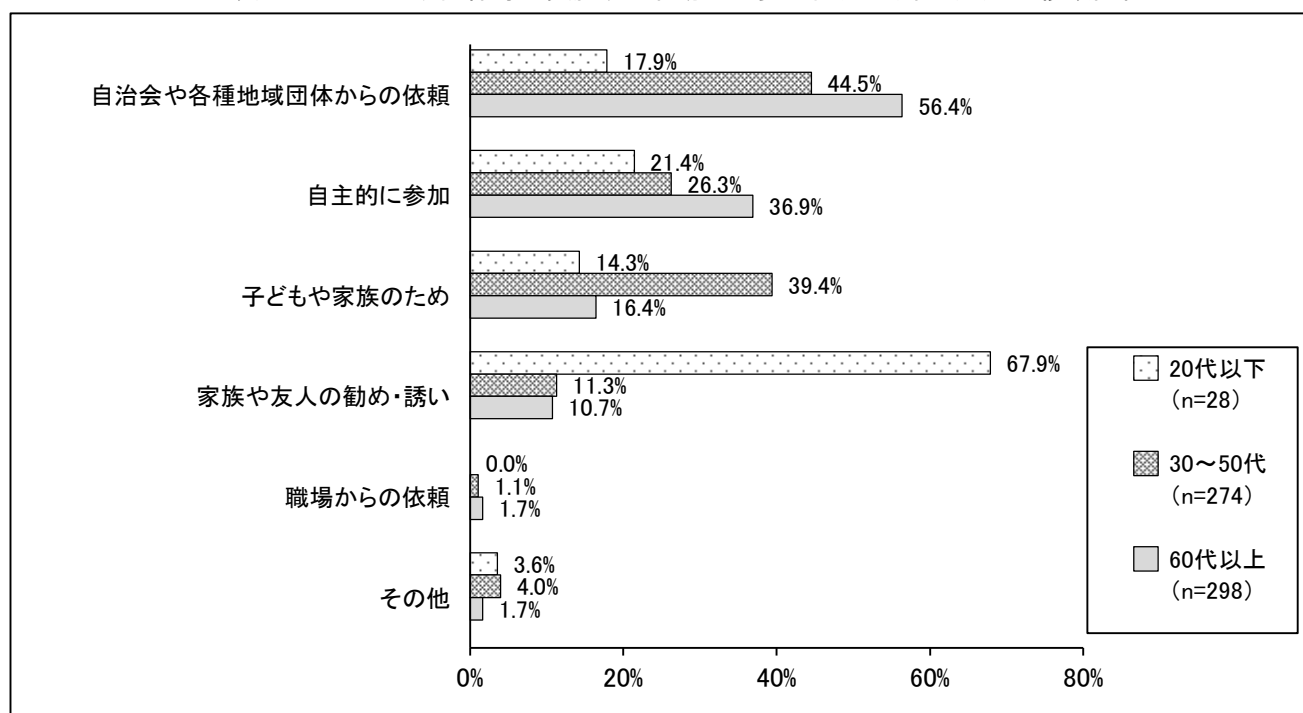
- ・「自治会や各種地域団体からの依頼」と答えた人の割合が49.3%となった。
- ・「自主的に参加」と答えた人の割合は31.2%、次いで「子供や家族のため」と答えた人の割合が26.8%と続いている。

＜図表4-8-2 地域団体等が実施する活動への参加状況＞(性別) ※複数回答



- ・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・「子どもや家族のため」と答えた女性の割合が、男性の約2倍となった。(男性:15.5%、女性:31.7%)

＜図表4－8－3 地域団体等が実施する活動への参加状況＞（年代別） ※複数回答



- ・30～50代は「子どもや家族のため」と答えた人の割合が高く(39.4%)、60代以上では「自治会や各種団体からの依頼」と答えた人の割合が最も高い(56.4%)。
- ・20代以下においては、「家族や友人の勧め・誘い」と答えた人の割合が最も高い(67.9%)。

4-9 地域活動への参加の回数(参加したことがある人が回答)

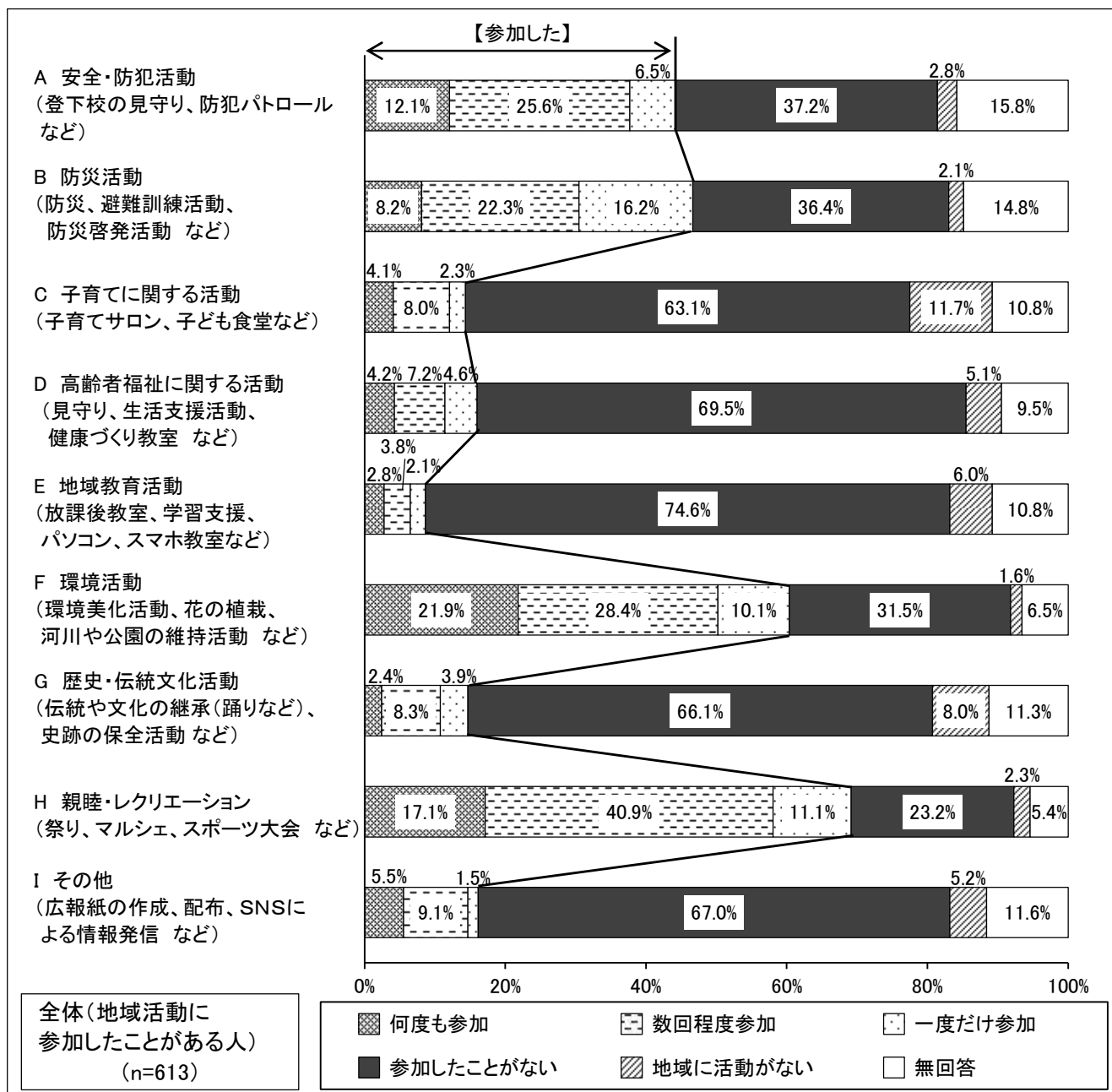
◇いずれの項目においても、「H 親睦・レクリエーション」に参加したと答えた人の割合が最も高い

◇「C 子育てに関する活動」、「D 高齢者福祉に関する活動」、「E 地域教育活動」、「G 歴史・伝統文化活動」「I その他」においては、参加した事がないと答えた人の割合が他の項目よりも高い

問17 問15で「参加したことがある」に○をつけた方におうかがいします。

あなたの地域活動への参加頻度について、次のそれぞれの項目で当てはまる番号に○をつけてください。

<図表4-9-1 地域活動への参加の回数>(全体)

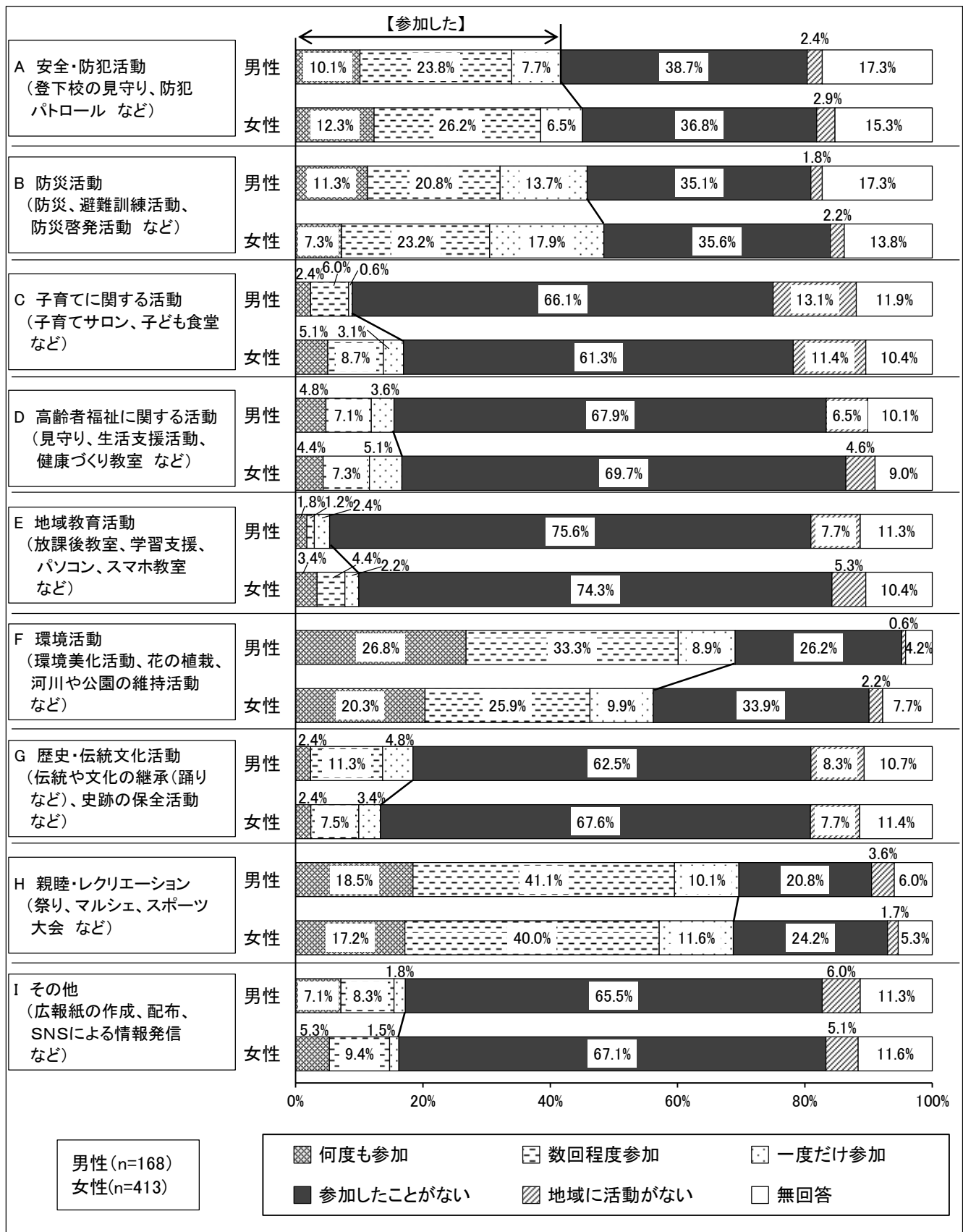


・「参加した」(「何度も参加」「数回程度参加」「一度だけ参加」の合計:以下同じ)と答えた人の割合は、「H 親睦・レクリエーション」(69.1%)が最も高く、次いで「F 環境活動」(60.4%)、「B 防災活動」(46.7%)と続いている。

・このような中で「何度も参加」と答えた人の割合が最も高い項目は「F 環境活動」(21.9%)となった。

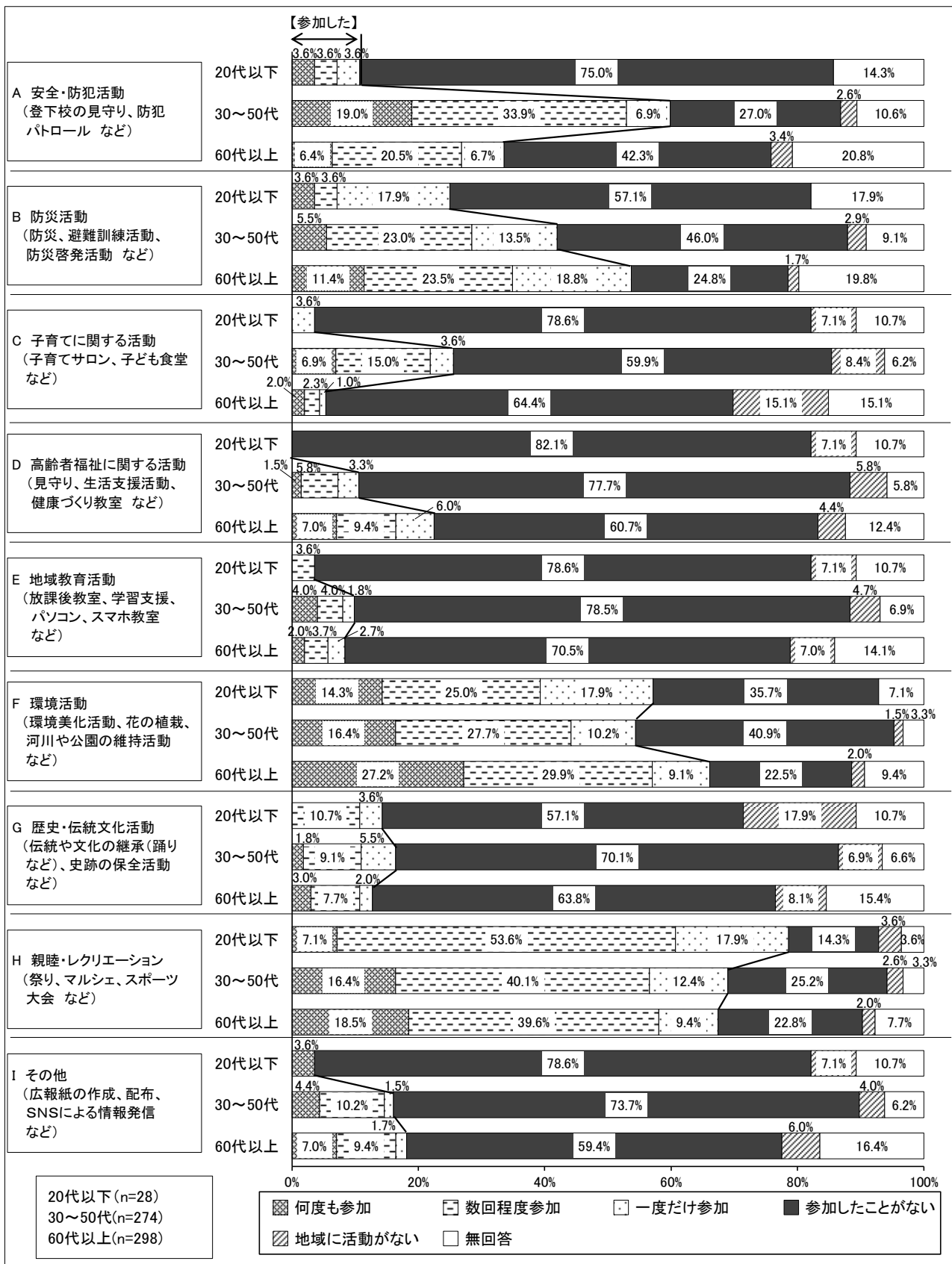
・A～Iの活動の参加回数は、「数回程度参加」の割合が高い。

＜図表4-9-2 地域活動への参加の回数＞（性別）



- ・「参加した」と答えた人の割合は、男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・その中で男女差が最も大きい項目は「F 環境活動」であり、「参加した」と答えた人の割合は、男性(69.0%)が女性(56.1%)を12.9ポイント上回った。
- ・男女差が最も小さい項目は「H 親睦・レクリエーション」であり、「参加した」と答えた人の割合は、男性(69.7%)、女性(68.8%)と0.9ポイント差となった。

＜図表4-9-3 地域活動への参加の回数＞（年代別）



- ・「参加した」と答えた人の割合は各年代とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・その中で「H 親睦・レクリエーション」において「参加した」と答えた人の割合は、各年代とも約70%を超え(20代以下: 78.6%、30～50代:68.9%、60代以上:67.5%)、最も高い。
- ・年代別において「参加した」と答えた人の割合が高い項目は、「20代以下」(57.2%)と「60代以上」(66.2%)は「F 環境活動」、「30～50代」(59.8%)は「A 安全・防犯活動」となっている。

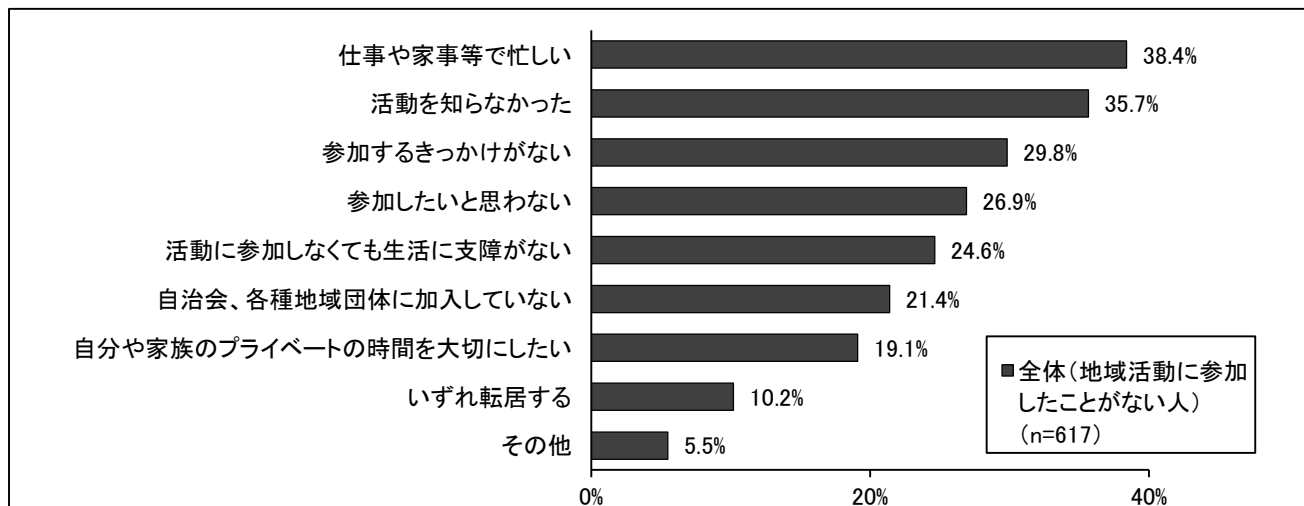
4-10 地域活動に参加しない理由(参加したことがない人が回答)

◇「仕事や家事等で忙しい」、「活動を知らなかった」と答えた人の割合は30%以上となった

◇20代以下においては、「参加したいと思わない」と答えた人の割合が「仕事や家事等で忙しい」と答えた人の割合よりも高い

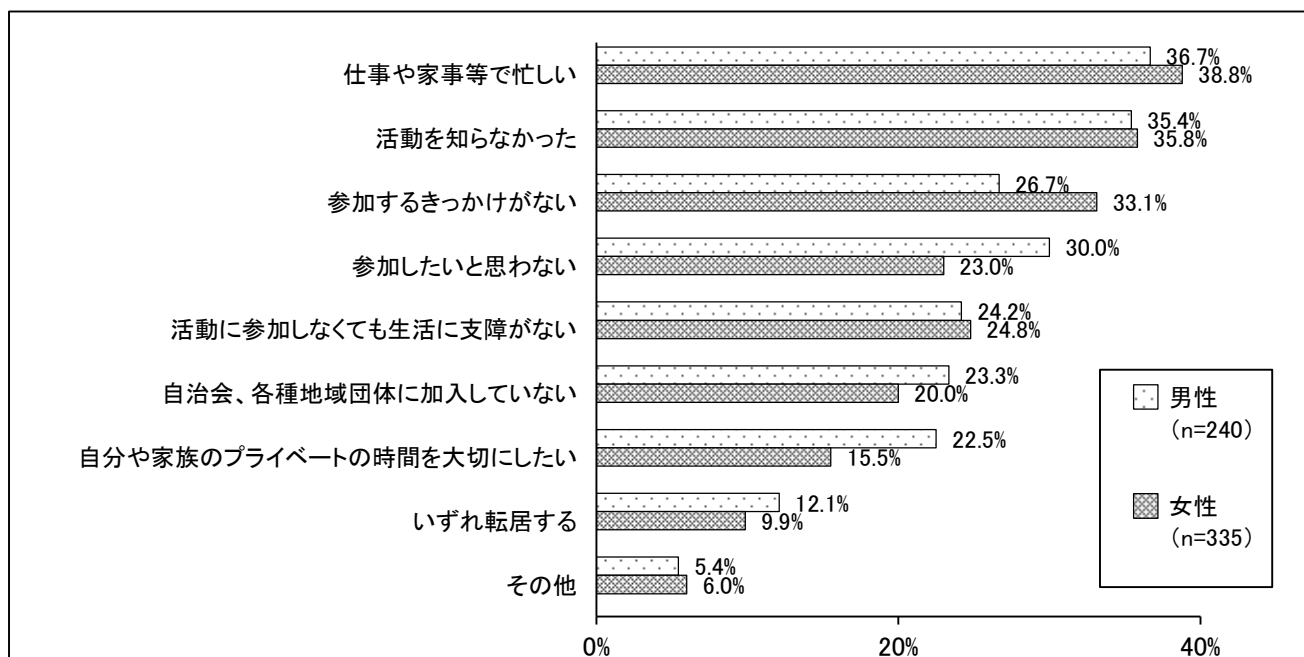
問18 問15で「参加したことがない」に○をつけた方におうかがいします。
あなたが、地域活動に参加しない(できない)理由は何ですか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

＜図表4-10-1 地域活動に参加しない理由＞(全体) ※複数回答



・「仕事や家事等で忙しい」の割合(38.4%)が最も高い。次いで「活動を知らなかった」(35.7%)、「参加するきっかけがない」(29.8%)などが続いている。

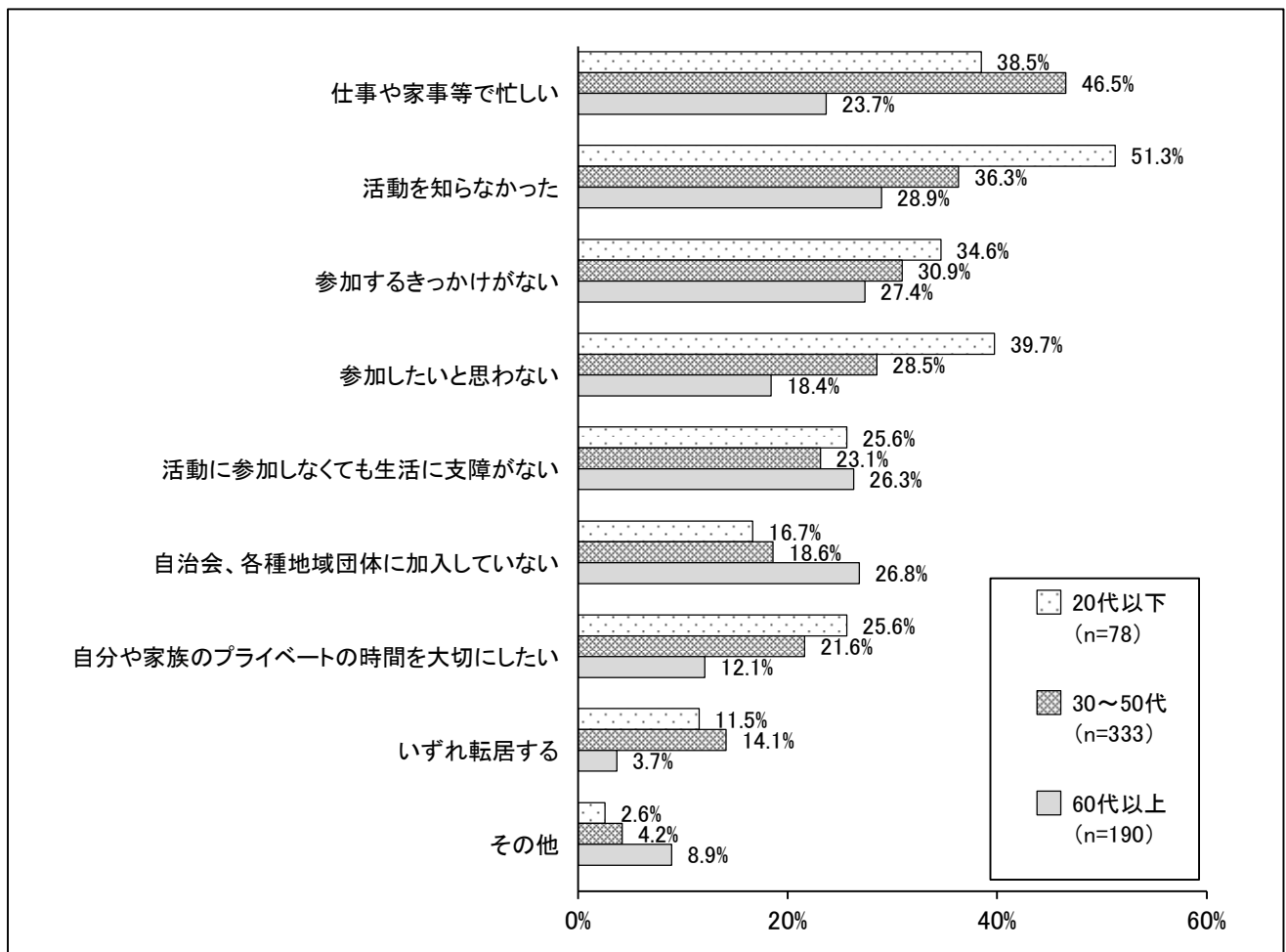
＜図表4-10-2 地域活動に参加しない理由＞(性別) ※複数回答



・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。

・「参加したいと思わない」と答えた人の割合について、男性(30.0%)は女性(23.0%)を7.0ポイント上回った。一方、女性は「参加するきっかけがない」という項目において、男性を6.4ポイント(女性:33.1%、男性:26.7%)上回った。

＜図表4－10－3 地域活動に参加しない理由＞（年代別） ※複数回答



- ・「20代以下」と「30～50代」は全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・20代以下においては、「参加したいと思わない」と答えた人の割合（39.7%）が、「仕事や家事等で忙しい」と答えた人の割合（38.5%）よりも高い結果となった。

4-11 自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う活動・事業についての重要度、満足度 ～CS分析～

OCS 分析とは

①CS分析(顧客満足度分析)とは、「Customer Satisfaction」の略で「顧客満足」という意味で、自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う活動・事業に対する「満足度」と「重要度」から優先的改善項目を把握する手法のことである。

「満足度」および「重要度」を下記に記載する基準で点数化し、項目ごとの平均点を算出し、散布図に整理した。
(4つのグループ化)

②CS分析点数化の基準

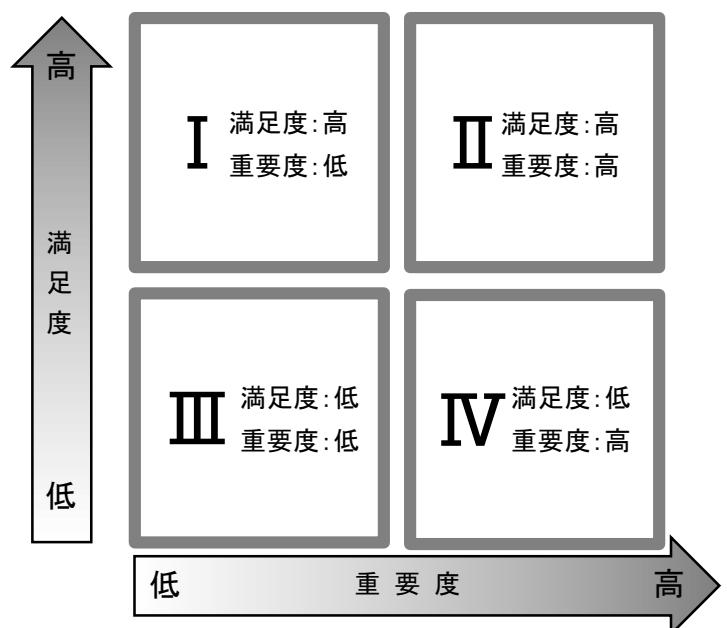
自治会、地域まちづくり推進委員会、 各種地域団体が行う活動・事業の重要度		自治会、地域まちづくり推進委員会、 各種地域団体が行う活動・事業の満足度	
「重要である」・「やや重要である」	100点	「満足・十分である」・「やや満足である」	100点
「あまり重要でない」・「重要でない」	0点	「やや不満である」・「不満・不十分である」	0点

<重要度・満足度の平均点>

	重要度 平均点	満足度 平均点
安全・防犯活動	96.2	78.3
防災活動	97.6	70.8
子育てに関する活動	86.5	60.3
高齢者福祉に関する活動	93.8	68.8
地域教育活動	77.5	66.1
環境活動	89.9	78.3
歴史・伝統文化活動	74.8	70.9
親睦・レクリエーション	71.5	74.4
その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)	72.6	77.2
全体	84.5	71.8

③4つのグループ

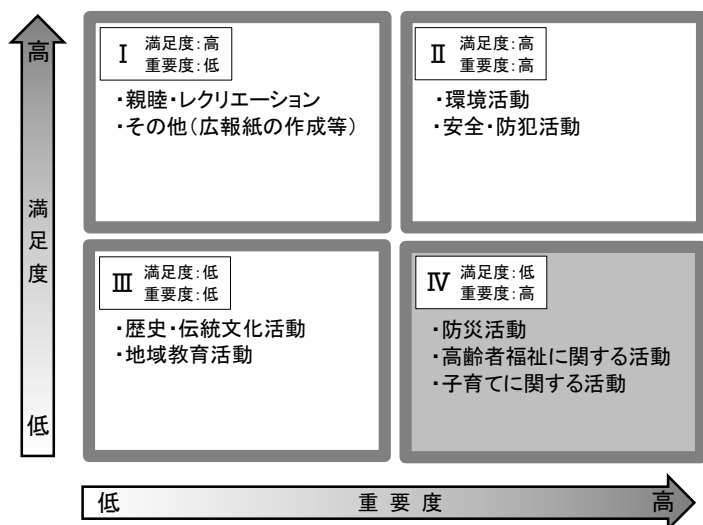
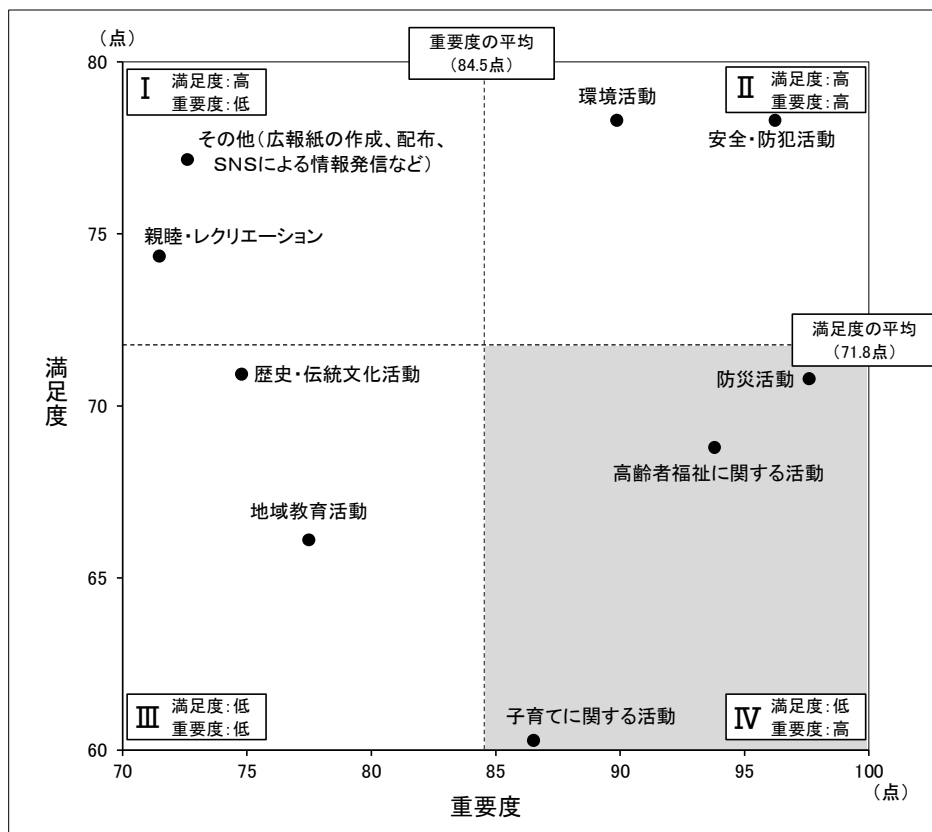
I 満足度が高く、重要度が低い分野(活動)
II 満足度が高く、重要度も高い分野(活動)
III 満足度が低く、重要度も低い分野(活動)
IV 満足度が低く、重要度が高い分野(活動)



◇今後、取組の優先度の高い分野は、全体・性別・年代別ともほぼ共通して「防災活動」「高齢者福祉に関する活動」「子育てに関する活動」

問19 あなたのお住まいの地域の自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う活動・事業について、あなたが考える活動等の重要度、満足度をそれぞれの項目で当てはまる番号に○をつけてください。

<図表4-11-1 自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う活動・事業の重要度、満足度> (全体)

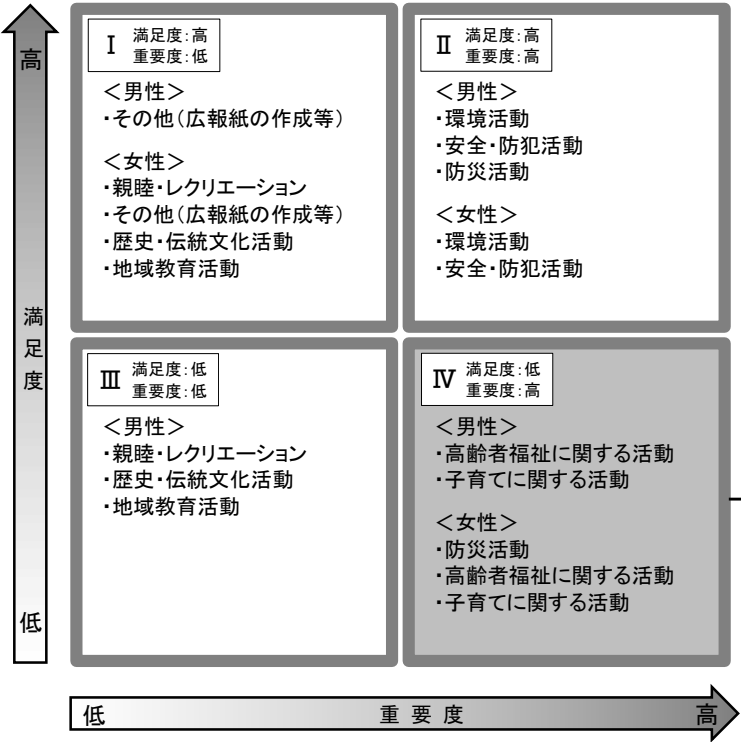
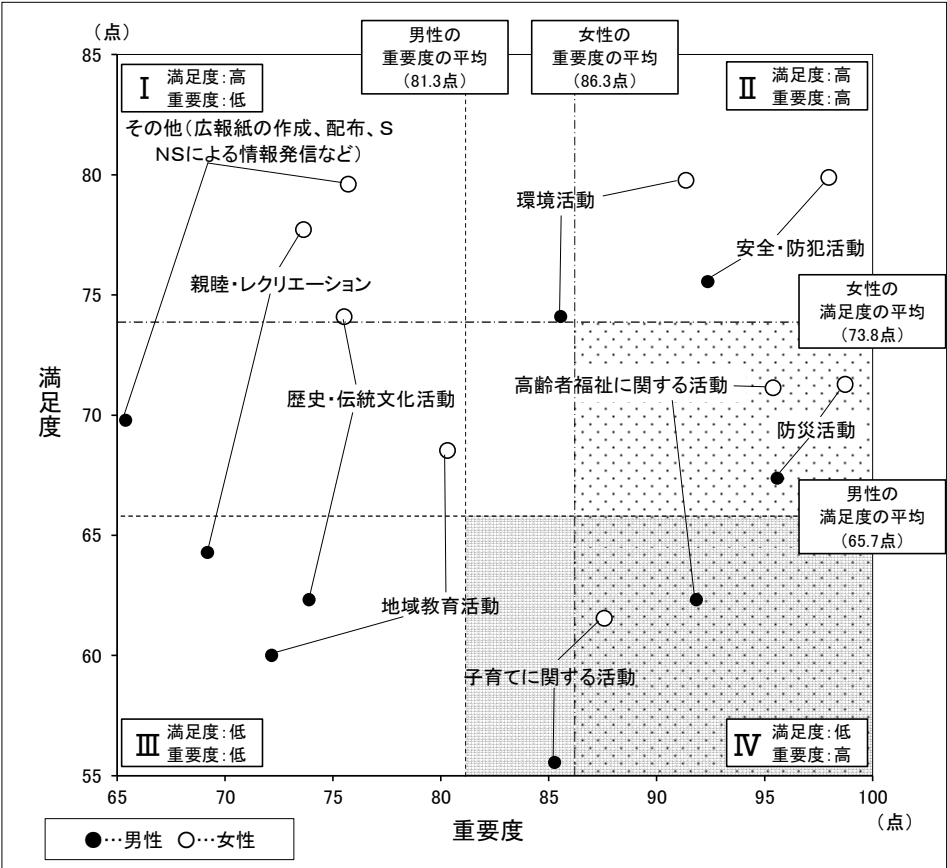


	重要度 平均点	満足度 平均点
安全・防犯活動	96.2	78.3
防災活動	97.6	70.8
子育てに関する活動	86.5	60.3
高齢者福祉に関する活動	93.8	68.8
地域教育活動	77.5	66.1
環境活動	89.9	78.3
歴史・伝統文化活動	74.8	70.9
親睦・レクリエーション	71.5	74.4
その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)	72.6	77.2
全体	84.5	71.8

・満足度の高い分野は「II 環境活動、安全・防犯活動」、「I 親睦・レクリエーション、その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)」となった。

→・重要度が高くて満足度が低い分野(IV)は今後、取組の優先度が高い活動であり、＜防災活動＞＜高齢者福祉に関する活動＞＜子育てに関する活動＞となった。

＜図表4－11－2 自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う活動・事業の重要度、満足度＞（性別）

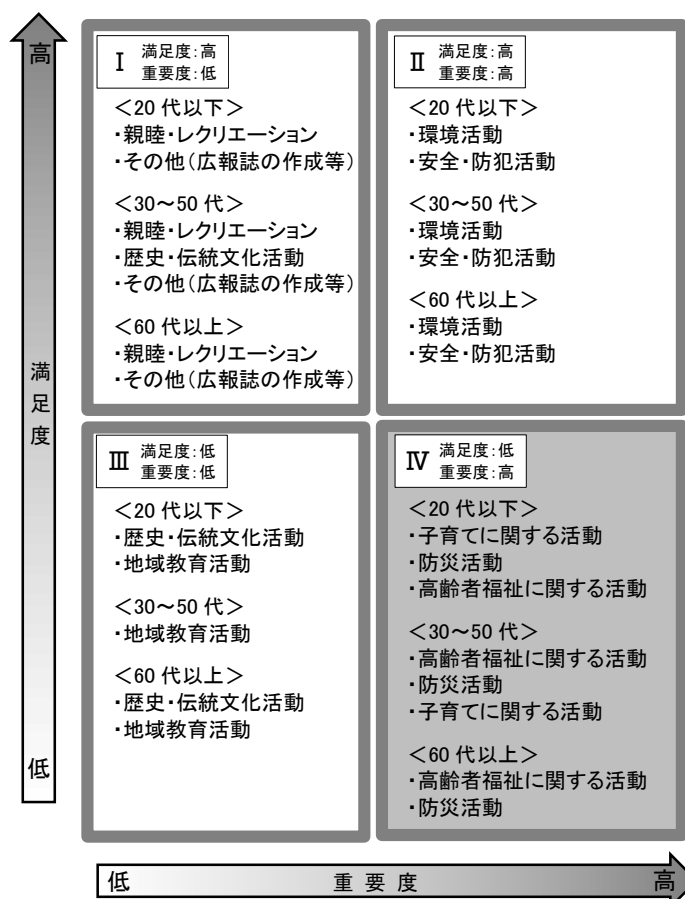
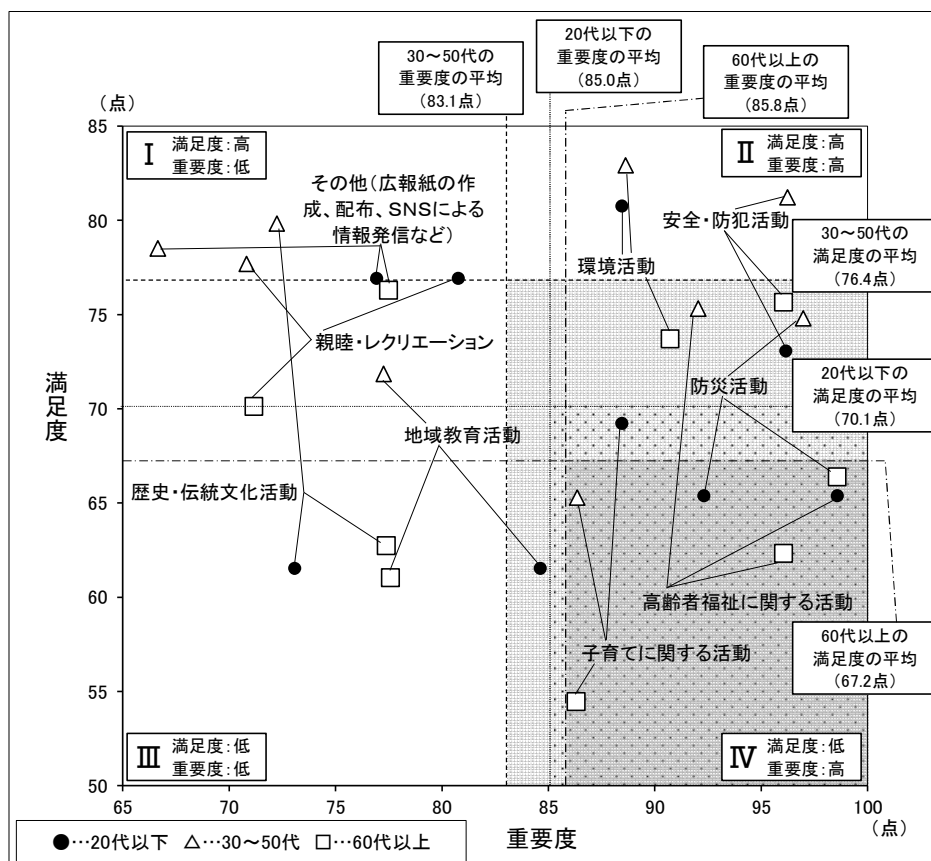


	男性		女性	
	重要度 平均点	満足度 平均点	重要度 平均点	満足度 平均点
安全・防犯活動	92.4	75.6	98.0	79.9
防災活動	95.6	67.4	98.7	71.3
子育てに関する活動	85.3	55.6	87.6	61.5
高齢者福祉に関する活動	91.8	62.3	95.4	71.1
地域教育活動	72.2	60.0	80.3	68.5
環境活動	85.5	74.1	91.3	79.8
歴史・伝統文化活動	73.9	62.3	75.5	74.1
親睦・レクリエーション	69.2	64.3	73.6	77.7
その他（広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など）	65.4	69.8	75.7	79.6
全体	81.3	65.7	86.3	73.8

・満足度の高い分野は男女とも「I 環境活動、安全・防犯活動」「II その他（広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など）」となっている。このほか、男性は「I 防災活動」となった。

→ 重要度が高く、満足度が低く、今後の取組の優先度高い分野（IV）で「男性」と「女性」が共通するのは、「高齢者福祉に関する活動」「子育てに関する活動」となった。一方、「男性」と「女性」の違いは「防災活動（女性）」となった。

＜図表4-11-3 自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う活動・事業の重要度、満足度＞（年代別）



	20代以下		30～50代		60代以上	
	重要度 平均点	満足度 平均点	重要度 平均点	満足度 平均点	重要度 平均点	満足度 平均点
安全・防犯活動	96.2	73.1	96.2	81.2	96.0	75.7
防災活動	92.3	65.4	97.0	74.8	98.6	66.4
子育てに関する活動	88.5	69.2	86.4	65.3	86.3	54.5
高齢者福祉に関する活動	98.6	65.4	92.0	75.3	96.0	62.3
地域教育活動	84.6	61.5	77.3	71.8	77.6	61.0
環境活動	88.5	80.8	88.6	82.9	90.7	73.7
歴史・伝統文化活動	73.1	61.5	72.2	79.8	77.4	62.7
親睦・レクリエーション	80.8	76.9	70.8	77.7	71.2	70.1
その他（広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など）	76.9	76.9	66.7	78.5	77.5	76.3
全体	85.0	70.1	83.1	76.4	85.8	67.2

- ・満足度の高い分野は全ての年代で「I 環境活動、安全・防犯活動」「II 親睦・レクリエーション、その他（広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など）」となった。
- 重要度が高く、満足度が低く、今後の取組の優先度が高い分野（IV）は、全ての年代で共通している（「全体」と同じ）。

<地域活動の活性化の方策について>

4-12 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方

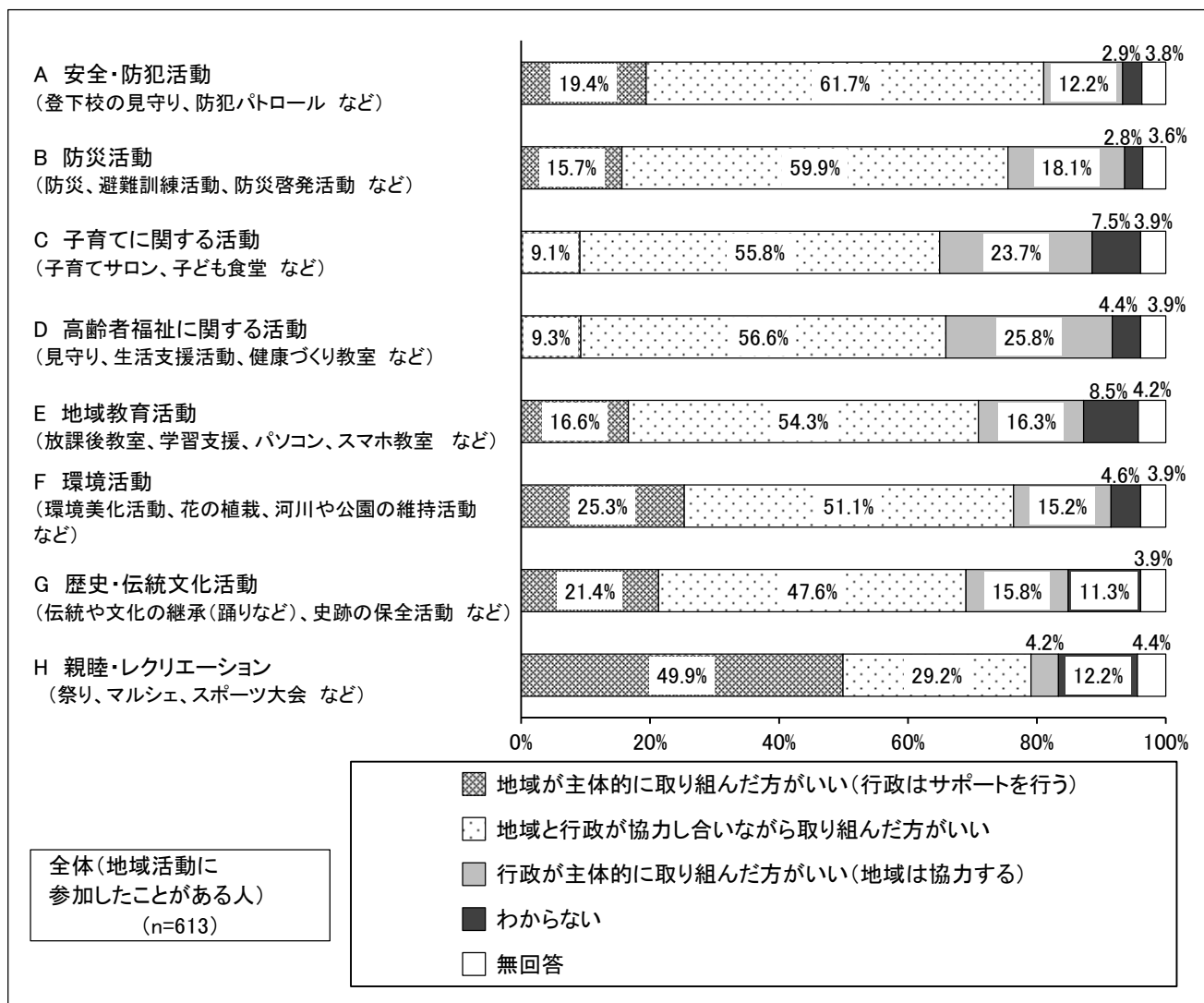
(参加したことがある人が回答)

◇ほとんどの地域活動は「地域と行政が協力」と答えた人の割合が50%以上

◇「H 親睦・レクリエーション」を除き、各項目において「地域と行政が協力して取り組むべき」と答えた人の割合が最も高い

問20 身近な地域課題について、地域で対応すべきか、地域と行政が協力して対応すべきか、行政が対応すべきか、次の活動について、あなたはどのように対応すべきと考えますか。それぞれ当てはまる番号に○をつけてください。

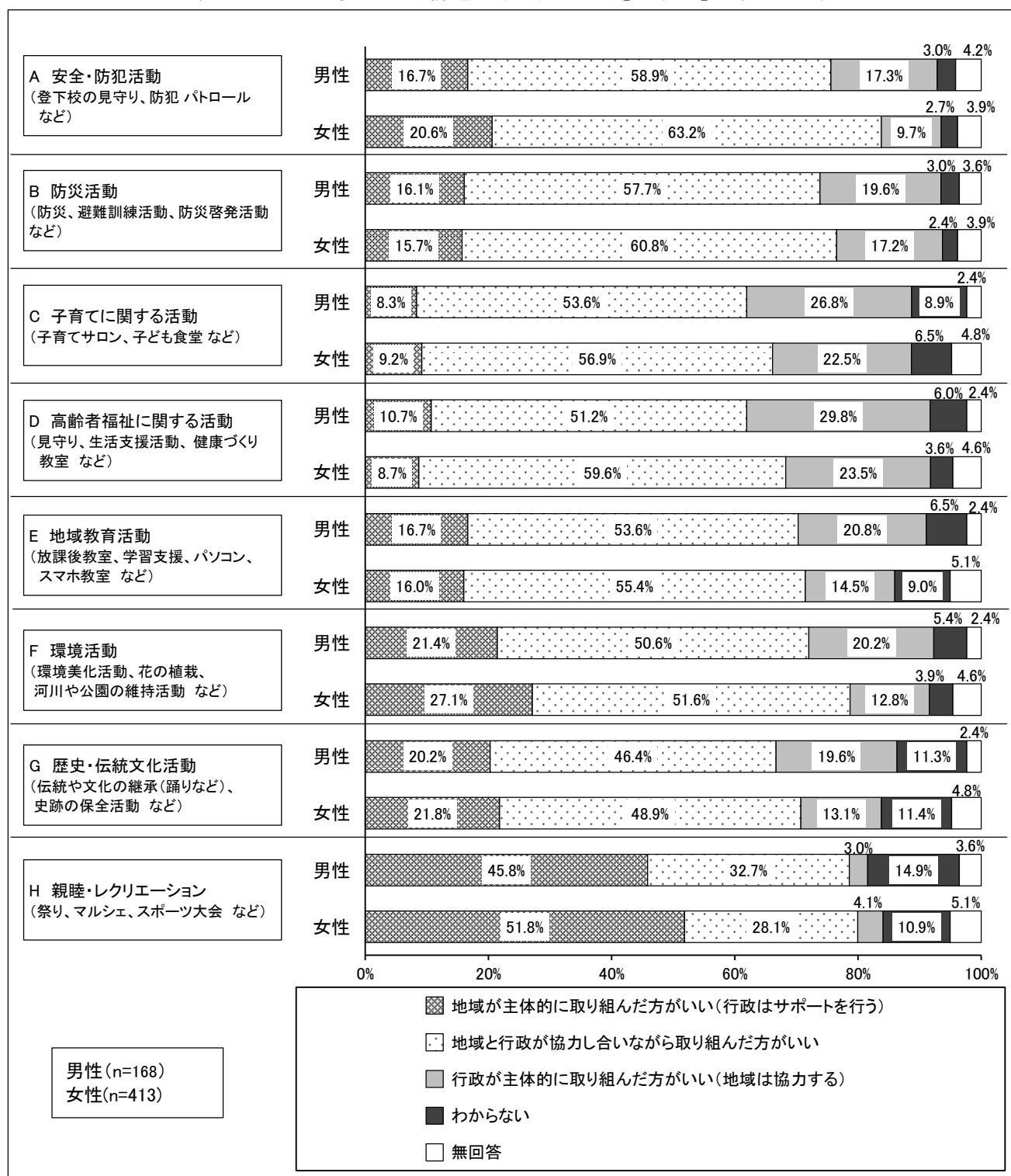
<図表4-12-1 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方>(全体)



※ ■ 地域が主体的に取り組んだ方がいい(行政はサポートを行う)は、「地域が主体的」
 □ 地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいいは、「地域と行政が協力」
 ■ 行政が主体的に取り組んだ方がいい(地域は協力する)は、「行政が主体的」
 } と記す

- ・ほとんどの項目において「地域と行政が協力」と答えた人の割合が50%以上となった。
- ・「F 環境活動」と「G 歴史・伝統文化活動」については、「地域が主体的」と答えた人の割合が「行政が主体的」と答えた人の割合を上回った。

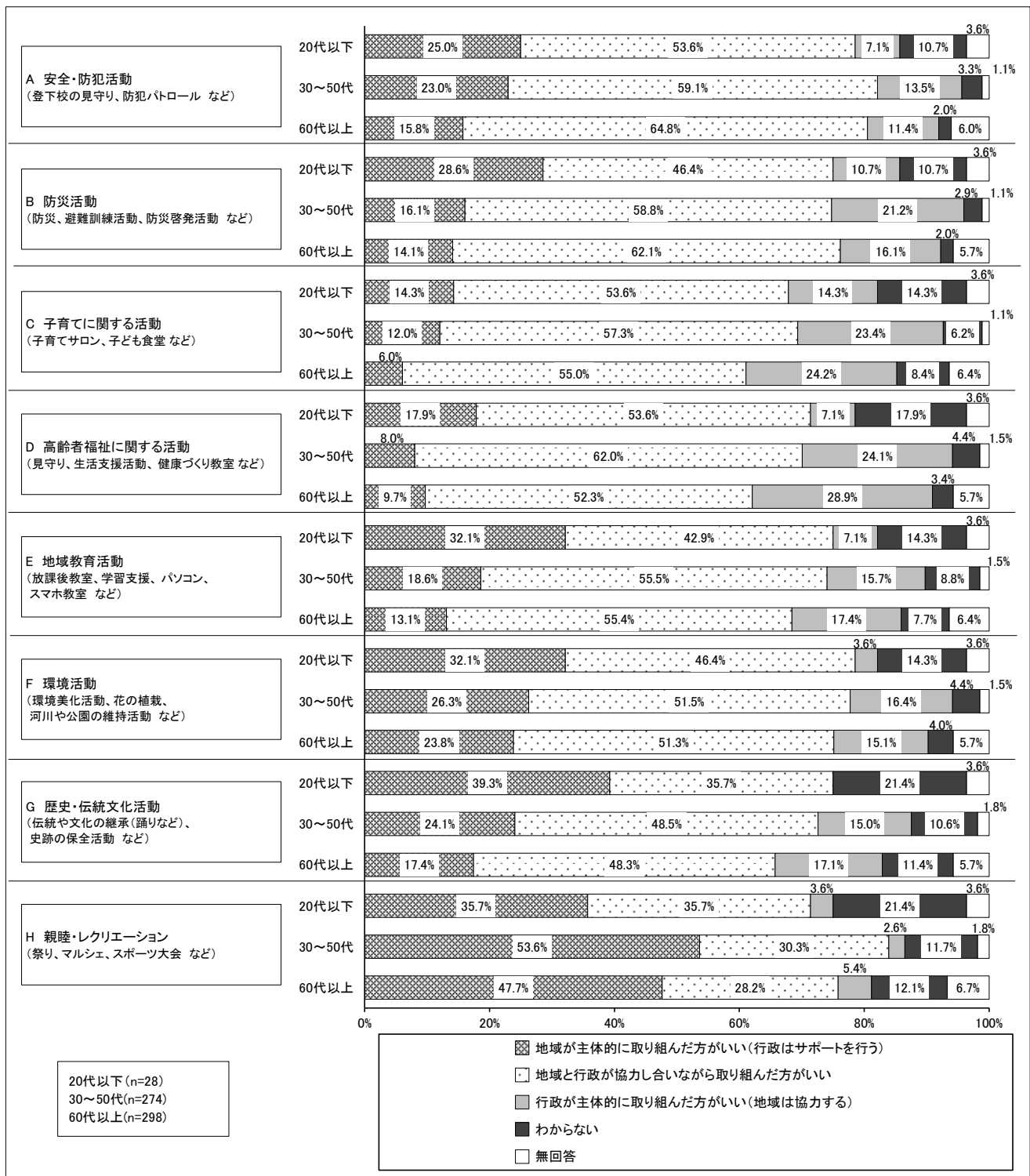
＜図表４－１２－２ 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方＞（性別）



・男女とも全体とほぼ同じ傾向を示した。

・「H 親睦・レクリエーション」については、「地域が主体」と答えた人の割合(全体:49.9%)が最も高い。特に女性(51.8%)は男性(45.8%)を6.0ポイント上回っており、男女差が最も大きい。

<図表4-12-3 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方> (年代別)



- ・各年代とも全体とほぼ同じ傾向を示した。
- ・各年代別・対応主体別における最も割合の高い項目は次のとおりである。

年代	対応	地域が主体的	地域と行政	行政が主体的
20代以下	G 歴史・伝統文化活動	39.3%	A 安全・防犯活動	14.3%
30～50代	H 親睦・レクリエーション	53.6%	D 高齢者福祉に関する活動	24.1%
60代以上	H 親睦・レクリエーション	47.7%	A 安全・防犯活動	28.9%

＜図表4－12－4 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方＞（地域自治区別）

全体（全地域自治区の平均）（自治会加入率：61.3%（実数：50.9%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：17.4%、高齢化率：28.9%

＜ 凡 例 ＞

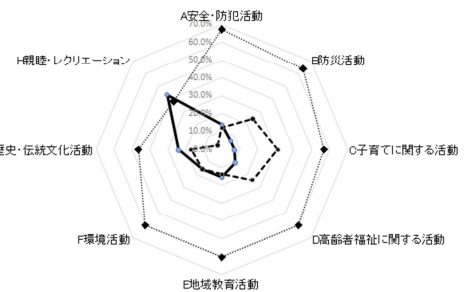
- 地域が主体的に取り組んだ方がいい（行政はサポートを行う）
- ◆ 地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいい
- 行政が主体的に取り組んだ方がいい（地域は協力する）

中央東（自治会加入率：43.7%（実数：32.6%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：14.1%、高齢化率：25.3%

中央西（自治会加入率：58.6%（実数：42.5%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：17.5%、高齢化率：24.6%

小戸（自治会加入率：33.3%（実数：42.3%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：11.8%、高齢化率：27.4%

大宮（自治会加入率：73.6%（実数：59.6%））



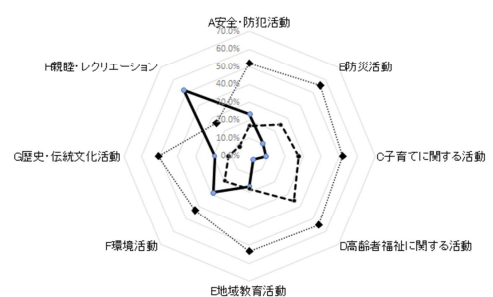
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：17.7%、高齢化率：28.6%

東大宮（自治会加入率：61.5%（実数：56.3%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：19.3%、高齢化率：28.0%

大淀（自治会加入率：63.6%（実数：47.2%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：16.6%、高齢化率：27.1%

大塚（自治会加入率：61.4%（実数：47.5%））



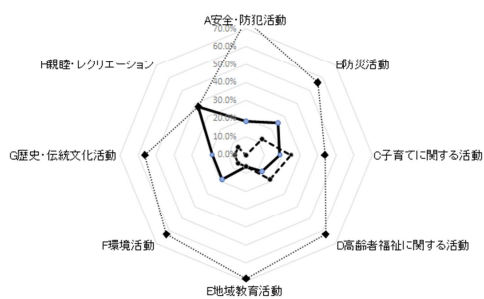
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：19.0%、高齢化率：28.3%

櫛（自治会加入率：44.5%（実数：34.9%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：17.9%、高齢化率：24.9%

大塚台（自治会加入率：87.5%（実数：77.9%））



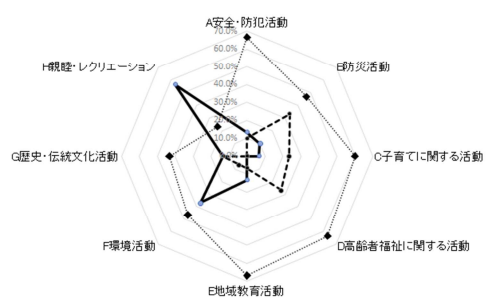
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：13.4%、高齢化率：42.6%

生目台（自治会加入率：95.5%（実数：90.0%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：15.4%、高齢化率：38.4%

小松台（自治会加入率：90.0%（実数：81.1%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：18.1%、高齢化率：37.8%

赤江（自治会加入率：59.0%（実数：40.8%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：16.9%、高齢化率：28.2%

本郷（自治会加入率：59.8%（実数：60.8%））



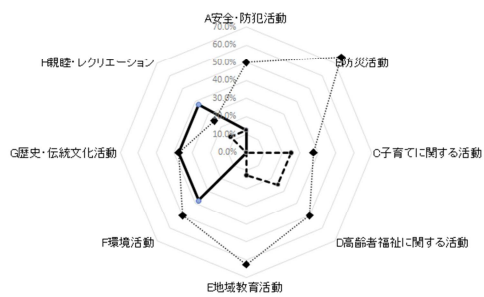
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：19.1%、高齢化率：28.2%

木花（自治会加入率：70.6%（実数：39.4%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：15.2%、高齢化率：30.7%

青島（自治会加入率：37.5%（実数：66.4%））



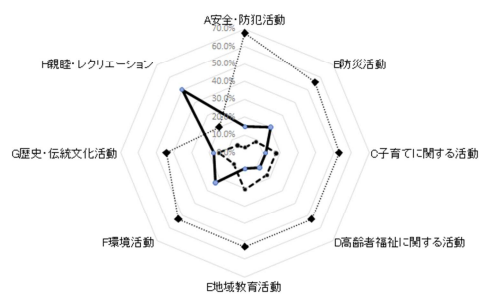
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：12.6%、高齢化率：40.3%

住吉（自治会加入率：65.6%（実数：53.1%））



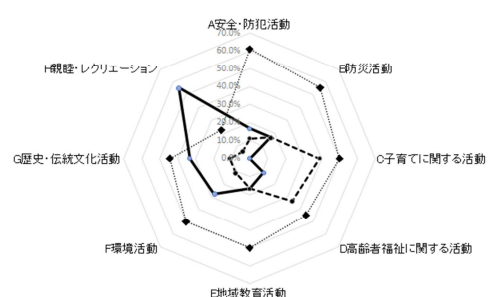
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：19.5%、高齢化率：28.8%

生目（自治会加入率：82.4%（実数：60.0%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：18.3%、高齢化率：32.9%

北（自治会加入率：83.3%（実数：82.7%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：18.0%、高齢化率：34.4%

佐土原（自治会加入率：79.4%（実数：76.5%））



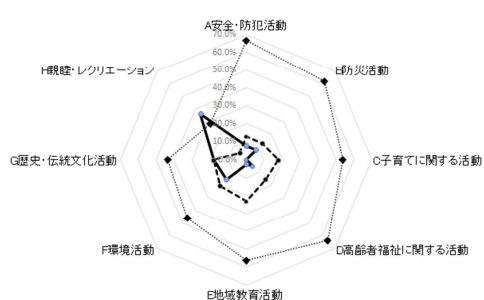
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：18.4%、高齢化率：32.3%

田野（自治会加入率：55.2%（実数：54.8%））



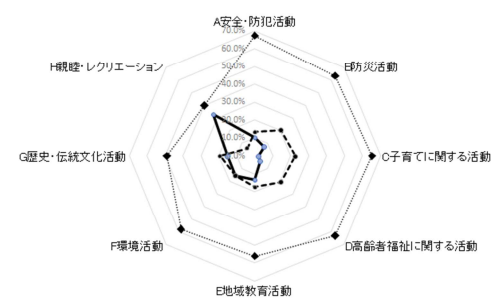
参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：18.1%、高齢化率：33.2%

高岡（自治会加入率：71.8%（実数：86.1%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：15.4%、高齢化率：37.8%

清武（自治会加入率：53.1%（実数：40.2%））



参考情報（R5.4.1現在）：18歳以下の割合：18.6%、高齢化率：24.9%

問21 あなたは、自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体の活動に携わっている以外の方が、まちづくりの活動に関わってもらうためには、何が必要と考えますか。

＜主な意見を掲載＞

- ・地域の団体がいくつもあるとわかりにくい。自治会の活動内容や会計が旧態依然としており、新参者がものを言いにくい。転居先で自治会の活動内容があまりにも違うので参加しにくい。意識を変えないといけないのではないかな。
- ・転居等で新しく入居している方々が自治会に加入してくれず、現在は加入率が4割程度である。強制力が無いため、市のTV等のCMで啓発してほしい。
- ・コロナ禍の中で、自治会活動は全てない状態であった。そのような中、各世帯に様々な会費を通常通り求めている。自治会とは一体何だろうと思う。他にも団体役員の構成員は自覚を持って活動に取り組むべき、そうでなければ会員の数は減少の一步をたどることになり、希望がない。
- ・街灯なども地域で設置されていると聞いた。地域に住んでいる以上、自治会には強制的に加入されるようにした方がいいと思う。市民税があるように地域税的なものを導入してはいいのではないかな。
- ・地域の活動をする方達にも報酬を支払う。
- ・個人負担の平等感、何もしなくても他人(自治会等)の活動で恩恵を得られるようなシステムを解消する(条例等の制定するなど)。
- ・自治会費が無駄にならないような有効な使い方をしてほしい。
- ・自治会に入ることが第一。自治会に入っていない人々のゴミの出し方がでたらめで困る。
- ・戸建て住宅のみではなく集合住宅世帯の住居の方々に加入を促す。
- ・全世帯が自治会に入ってもらおう。
- ・活動に関わらず、支障なく生活できていれば(地域の)活動に関わることはないと思う。近所付き合い以外の自治会の存在感が分からない。
- ・今の世の中、自治会に参加するという使命感のようなものは受け入れられない。私自身もなぜ自治会に加入しなければならないのか、メリットが分からない。会費もムダ使いされているようにしか思えず、そこをクリアにするべきではないかな。
- ・仕事をしていると自治会活動を行うことは難しいと思う。新たな形での活動はないものかな。
- ・自治会に入っていないが、防災活動や市民清掃には参加したい。しかし参加しづらい。仕事の都合や体力的、精神的に自治会に入るのはしんどいと感じるが、地域の備品の購入費用などは負担しても良いと思う。防災や環境整備などはある程度強制しても良いのではないかな。
- ・自治会の存在意義、役割についてPRする事が必要なのではないかな。
- ・自治会の意識改革が必要。
- ・自治会費の撤廃。
- ・自治会加入に関わらず、活動内容が分かるようにHPやSNSの活用をもっと進めて参加しやすいように工夫する
- ・メリットがあれば参加するかもしれない。地域の自治会は引越してきたら半強制的に入ることになり、皆さん仕方なくやっている印象で、ここ数年は退会する人が増えている。自分自身も平日は残業ありで仕事をして、休日は家のことや体調管理で精一杯なので正直難しい。お金を出すだけでもいいなら貢献できると思う。
- ・防災やごみの出し方など、最低限全員関わるべきものだけでも、ある程度の強制性が必要かもしれない。自治会、民生委員、PTA、消防団など、ほぼ手弁当のような組織体制は限界がきている。
- ・行政は(地域活動を)人任せにしているのではないかな。
- ・行政機関が積極的に活動支援を行い、地域の活動者が安心とゆとりをもって関わられるような環境を提供することが最も大事。
- ・関わりたくないから自治会その他に参加しない。行政に問題があるのではないかな。自治会その他の必要性を感じない。
- ・自治会加入率が40%程度だと、活動は自治会中心では不可能であり、行政がすべてを行わなければならない。現役で仕事をしている者は会長等を引き受けることは難しい。
- ・関わる時間を行政との仕事として認められるのであれば、夜遅くの会合にする必要もなく、日中十分に活動できるのではないかな。
- ・行政が主体的に取り組むべき。近年は、共働き世帯が多く、週休日にも子供達の行事ごとが多く、自治会の活動に携わることができない。
- ・活動に携わっていない方の多くは、いろいろな面で余裕がないのではないかな。生活面で携われる余裕がもてるよう、行政・地域・会社(社会全体)が動くことが必要。
- ・自治会の高齢化が進み、役割分担の負担が年々増している。毎年、何かしらの役を引き受けねばならず、地域の活性化は重要だと思うが、現実的に厳しさも感じる。
- ・行政の運営費用などのバックアップ体制が必要。
- ・広報にて活動の詳細を知らせることが重要。
- ・まずは活動している方がPRし、関心や興味をコミュニティーの方々に理解してもらうことが大切。
- ・どのような活動を行っているかを知らない。まずは周知、広報活動を行うべき。
- ・SNSやインターネットを活用し、イベントやボランティア活動を発信していく。

- ・広報紙を配布するだけでなく、時には声掛けも必要と思う。(民生委員の方など)
- ・回覧板以外の広報、自治会に加入してこない人への情報発信。
- ・広報雑誌に加え、情報のデジタル化で多様な地域情報を発信し、どの世代にも地域活動に関心をもってもらう工夫をする。
- ・あまり携わっていない立場からとしては、まずは広報が必要。地域外から転居してマンション住まいをしていると、職場、親族以外の人間関係はそもそも認知する動機に乏しく、各種地域団体の活動はおろか存在自体に気付かないことがある。
- ・自治会に関わる人が固定してしまうと、いろいろと弊害があると思う。だからといって自治会の思い込みを押し付けられると関わりたくなくなる。広報や連絡網も紙や電話だけに頼らない方法も考えた方が良いと思う。
- ・地域の活動には参加しようと思いますが、地域の状況を知るのは回覧板だけの状態なので、広報活動を充実すべきだと感じる。
- ・無駄をなくして、強制参加をなくす(自主的な参加を促す)。
- ・若い人が中心のコミュニティをつくる。
- ・行事の簡素化を行うべき。行事に向けた準備等が多すぎて、若い世代には負担になり、結果参加したくないという流れになる。
- ・若い人は広報誌や掲示板の広告を見ないため、地域活動について知らない人が多いと思う。WEB 広告を活用し、若い人の目に入るようにしたり、小中学生に関しては地域活動についての授業や調べ学習を学校で行うなどの工夫が必要。
- ・活動されている方々のちょっとした声かけ。
- ・若い世帯の参加が子ども会以外あまりない。何が楽しいか自治会の必要性などをもっと広報すべき。
- ・若い世代の参加、学校や企業との連携。
- ・日頃から挨拶をして、顔見知りになり仲良くすることが必要。昔は挨拶する人が多く、それなりに集まりに参加する人が多かった様に思う。
- ・活動に加わることは仕事があつて難しい場合があるので、会費だけは払うので役員は免除するという仕組みなどがあれば、若い人でも地域貢献しやすいと思う。
- ・子供を介して若い世代の参加を促す。
- ・若い世代には、地域づくりは高齢者世代が行っているもので、若者がやっても意味がないといったイメージがある。そのため、自分から知ろうとしないし、活動に関わろうともしないのだと思う。若者でも入りやすい組織が必要。
- ・参加しやすい環境作りが必要。
- ・子育て世代をターゲットにした活動を重点に推進していく。(子供たちも巻き込む)
- ・隣に住んでいる人と交流が少ないので、地域(となり同士)のつながりが作れたらよいと思う。
- ・活動に参加できる休暇制度の整備。地域活動に参加したくても、平日には仕事があり、休日は家の用事を行わなければならない。年休は家族のために使っており、毎年ぎりぎりの日数しかない。地域活動休暇のようなものがあれば活用したい。
- ・公民館などで気軽なお茶飲み会のような出会い、交流の機会を作る。
- ・仕事とは別の活動になると負担が大きすぎる。職場を通じて人材を選んでもらえると、仕事として活動できるので負担は少なくなるのでは。
- ・社会に余裕があるとよい。子育て、仕事、介護等生活の時間、金銭的な問題が大きい。
- ・各個人のライフスタイルが優先していると思うので、地域の活動にまではそれほど強い関心はないのではないか。まわりの事に目を向けるのは個人の意志とを感じる。
- ・仕事を辞めたらボランティアに参加したい。募集があるといい。
- ・コロナ禍で、いろんな活動がほとんど中止になり親睦、交流が必要だと思う。
- ・収入の低下、仕事の減少、増税の中で自主的にやろうとする人が増えるのか疑問。活動に参加することで何かしらのインセンティブが無いと参加する余裕が無い人も多いのではないか。
- ・まず隣の人とのコミュニケーションから始まったほうが良い。きっかけがない。
- ・型にはまった事でなく、地域住民が本当に興味のあることができるとよい。そして強制的でない活動であることも大切である。
- ・生活が安定しないと地域活動に気を配る余裕は生まれない。
- ・自由参加は難しい。仕事以外の休みを地区行事でなくしたくない。強制参加はなおさら難しい。個々が尊重される今、コミュニケーションを避ける人が多いので、何が必要か分からない。
- ・何かのついでに手軽に、気楽に参加できる雰囲気をつくること。
- ・生活などの面で、時間などに余裕があると活動できると思う。今は不安定なところが(仕事など)あるので、難しい。
- ・任意加入の団体ではあるが、自分たちが住む地域のことであり、地域と繋がる為に大切な組織であることは理解できるが、子育て世代としては、全ての行事に参加する事は難しいのが現状である。そもそも何があるのか分かっていない方が大多数だと思う。年間通してどれか一つには参加するように事前に挙手や輪番制にするなど、中身を知るためにある程度強制力をもたせてもいいのではないか。

- ・声掛けと思うが、声を掛けられる事をいやがる人が最近では多いので難しい。
- ・公民館の利用について、値段などが利用しやすいと各種活動がしやすいのではないか。
- ・高齢者が多く、その人達と関係を結ぶことが面倒だと思う事が多い。皆がいい関係ではないので地元の人より他人が入って協力をたのむ方が、新しい活動ができるのではないか。
- ・地域コミュニティへの関わり方は、個人個人で様々な考え方があり、必要ないと思う方も増えていると思う。地域活動に関わっていない方々に対し強く要請したり、過度に仲間外れの的な扱いを取ると逆効果になる。各個人の考えで関わり合いを判断できるような社会になっていけばよい。

問22 あなたは、地域の活性化にあたりどのような取組が必要と考えますか。ご意見がございましたら、ご自由に記入ください。

<主な意見を掲載>

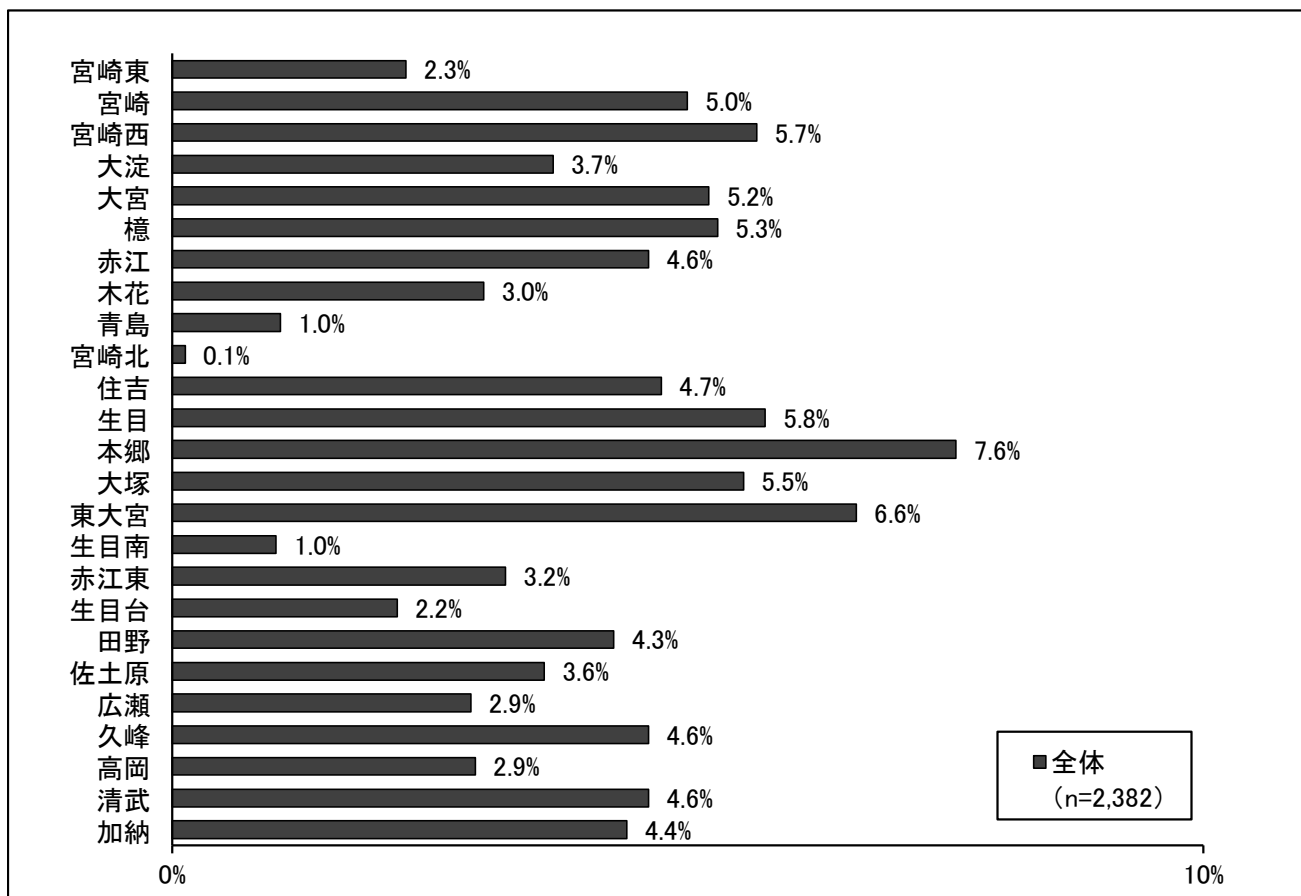
- ・市役所職員が地元自治会に関わっていくことが大事だと思う。
- ・自治会役員などに報酬を与える。
- ・自治会加入を必須にして、活動を通じて人と人が「知り合う」チャンスを作ることがまず大切だと思う。半ば強制的にでも「知り合う」チャンスがなければ、積極的に人と関わろうという人は今後増えないのではないか。
- ・自治会が魅力ある形態になること。
- ・自治体参加は強制はできないかもしれませんが、市民・住民の責任として加入の義務化を制度として明確にしてはどうか。
- ・自治会活動の先細りが懸念されるが、近所との良好な関係を引き続き築いていきたい。
- ・自治会の会員のみの意見で行事を行っており、住みづらい。
- ・自治会の班長が「高齢でできない」と言われ、とても困った。同じ人ばかりが班長をすることになるので、もう少しやり方を変えてほしい。
- ・コロナの影響により、地域の活動が全くない状態であったが、若い人の中では集まりがなく、ほっとしている人が多い気がする。ここ数年地区の行事がなくて楽である。
- ・若い世代(子育て世代)は、毎日の生活でいっぱいと思う。その分、高齢層においては、地域活動の負担が大きいように感じる。地元の行事に参加する世帯と無関心でいる世帯の差が大きい。負担が大きいと地元に住みづらいのではないか。
- ・世代を超えて参加できる行事を作る。
- ・まずは自治会内での行事を充実させ、皆が参加できる環境をつくる。その後、サークル活動やサロンを作り、グループ同士の親睦を深めていくことが必要。
- ・誰でも参加しやすい行事を行う。
- ・広報活動を行政がリードして地域住民と展開する。
- ・地域の特徴やまちづくりについて、学生や若者を巻き込みながら、どういう方向性が今求められるのかを行政と共ににつくっていく。
- ・行政からの全般的な応援がもっとあるとよいと思う。地域住民も高齢化による人口減少が進み、活動自体も空しくなっている。
- ・年に1回は市民全員参加の(強制)防災訓練をし、半年に1回、レクリエーション等(強制)などを行政主体でやってほしい。
- ・任意団体の活動に対して評価しようとする行政の姿勢を変えるべき。
- ・今の自治会の区割りと小学校校区が合っていないことも地域への参加意識が希薄になる要因の一つである。区画整理に合わせて行政上の地区割も見直してほしい。一つの自治会の範囲が広すぎるのも良くない。新しいまちに合わせて大きく見直すべきではないか。
- ・お祭りや運動会など、楽しい交流の場があるとよい。
- ・各地区の高齢者や障がいを持つ人、また子供たちが行きたいときに交流できる場所があると良いと思う。各公民館を活用して、居場所づくりができればと思う。サポートは地域で余力のある人たちが支援する体制をつくる。
- ・幅広い年齢層において、参加型の美化活動やレクリエーション等を行い、交流を深める。
- ・近所の方々との交流できる地域の活動の充実。人を知ることが大事であると思う。
- ・共働きの方々でも参加できるような催し物があるといい。
- ・地域と行政が一体となって取り組むことが活性化につながると思う。少子化、高齢者問題など問題はたくさんあるので、三世代が交流できる場・支援など、行政が考え、住民の税金を未来の活性化に役立てて欲しい。
- ・子供や若い世代と高齢者の交流の場がもっとあると良いと思う。
- ・交流する機会をふやした方がいと思う。敬遠される方もいると思うので、せめて地域の活動は積極的に知らせた方が良い。できれば、自治会などに入るとオトクなことがあると良い気がする。
- ・世代ごとにあったアプローチ、周知方法を考える。活動参加によるメリットを増やす。
- ・イベントや催しを行うにあたって、騒音や場所のクレームを言う人が増えている感じがする。制約が多い中でどのように進めていくのが課題。

- ・高齢者と若い世代との交流が必要ではないか。
- ・住んでいる地域が住みやすくなる事は良いことであることは分かっているが、まつりやレクリエーションなどに参加しやすい体制を作って欲しい。
- ・環境保全や安全対策を行い、住みよいまちづくりを進めてほしい。
- ・若い人同士や家族で住みやすい環境を作ること。
- ・若い人たちはメリットがないからと敬遠しがちだが、相互援助という考え方をもってほしい。
- ・若い 35 歳～45 歳の方達が参加できるような組織を作ってほしい。ただ役員を当てはめるだけでなく、若い方達が参加したくなるようなプランを市が作ってほしい。
- ・若い子育て世代は、時間的に余裕がないと思うので、退職されて元気で時間に余裕のある方たちが収入を得ながら活動できる仕組みがあるといいのではないかな。
- ・私の地区は高齢化しており、若者があまりいないので困る。仕事で若い人が活動に参加する事は難しいようだ。年金をもらう為には仕事をしないといけないので、以前のように人がいない。
- ・誰もが発言しやすい地域を目指すこと。
- ・若い世代の移住者を増やす。
- ・自治区割り、学校区割りが異なっている地区も有るので改善してほしい。
- ・様々な考え方、状況の人がいるため、地域主導となると活動の質に大きな差が生じ、このことが自治会加入率の低下にも繋がっていると思う。ある程度は行政主導で質の担保を行って欲しい。
- ・若い世代が自治会に入らないのは、ゴミ集積所や外灯の管理など、行政がやっていると勘違いしているケースも多いと思う。正しい情報を確実に(市報に載せても自治会未加入者には届かない)周知する必要がある。
- ・高齢化社会になり、高齢者に対するサポートが必要というのはわかっているが、もっと子育て世代、若い世代が地域活動に参加することで得られる取り組みを増やしていくべきだと思う。
- ・以前、自治会も加入して沢山協力してきたが、以前からいる自治会の方々の考え方の違いがネックで辞めた。(働き盛りの世代に昼の会合への参加は難しく、回覧板を回してたまに公園の掃除をする程度の自治会なら入る価値がないと感じやめた。会合という名の飲み会も不要。)長年役員をされている方の意見も大事だと思うが、考え方ややり方にギャップがありすぎる。ある程度の役員勇退年齢を決め、若い世代にスライドさせれば、若い世代も加入しやすいのではないかな。
- ・”地域活動”=”めんどくさい”と感じてしまうので、楽しいことをきっかけにし、住民同士のつながりを作っていくのが一つの方法ではないか。
- ・昭和の時代は、子供たちが多かったので、地域住民のつながりが強かった。少子化の中で、地域のつながりを強くしようとするのは難問だと感じる。
- ・防災訓練に参加したいが、いつやっているのかわからない。
- ・今は、共働き世帯がほとんどなので、夜の集まりや休日も難しい。インターネットが発達してきているため、それを活用して情報発信や連絡、そして会議などを行うとよいのではないかな。
- ・地域が活性化するには、お互いが挨拶したり、顔見知りになることが大切。今は知らない人から声を掛けられたりすることも少なくなり、関わり合いが難しくなってきたが...
- ・声掛けと思うが、声を掛けられる事をいやがる人が最近では多いので難しい。
- ・これから高齢化が進んでいくので、活性化は難しいと思う。地域のイベントを探したりもするが、内容も日程も働いている世代向けではないので参加しづらい。
- ・現存の組織、団体を整理統合して数を減らす。それに伴い、各組織の区割り、線引きを見直し、各組織での区分を統一する。組織間で事業がかぶっている場合がある。補助金、助成金の執行は慎重に行うようにする。
- ・地域の活性化と一言でいっても、居住する地域のどのエリアでとらえるかで取り組みも異なると思う。街中のような商業地ではないので、静かな住環境下で安心安全な暮らしが可能なら現状のままでよい。
- ・まずは親睦のためにマルシェ、レクリエーション等から参加できる環境を作り、そこから地域活性化のために、みんなで協力し合える関係性を築けることが大切だと思う。
- ・SNS の活用も進めていけばいいのではないかな。
- ・60 代の方も働いている方が多く、色々な活動に参加している人が少ない。70 代・80 代の方の努力で各種活動が活発な気がする。人生を豊かにするためにも、余裕ある時間が作り出せるといいと思っている。
- ・地域の住民が気軽に参加できるコミュニティをつくること。既存のコミュニティの活用から新しいものを作り出すと良いのではないかな。
- ・昔ながらのご近所付き合いが田舎なのにない。もっと入り込む、子供も老人も皆が笑いながら生活できるようにそれなりの専門職、スペシャリストなどを地域におき、気軽に相談や話ができるような井戸端的な場所などがあって欲しい。
- ・子供会に入会していたが、面倒の押し付けみたいになっていて、何が子供のためなのかよくわからず退会した。本来の役割が薄れており、メリットがよくわからず、辞めていく人が増えている。
- ・現状維持でよい。無理に取り組む必要はない。

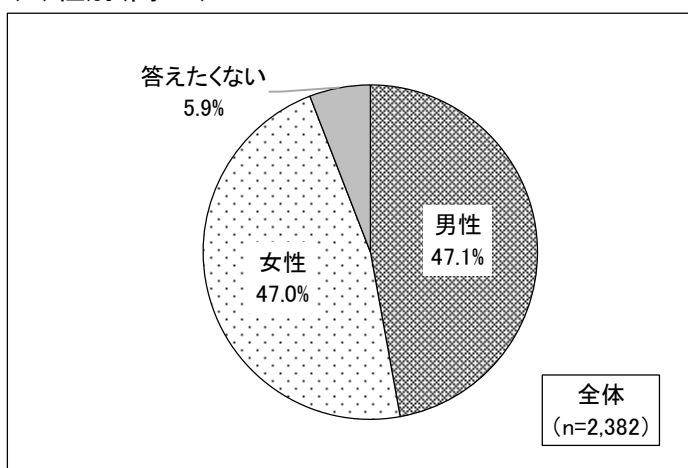
Ⅲ 中学生意識調査の結果

<回答者の属性>

(1) 所属する中学校名(問9)



(2) 性別(問10)



＜調査結果のまとめ＞

(1)住んでいる地域への愛着

- 現在居住している地域への愛着の度合いについて、今住んでいる地域が「好き」（「とても好き（45.7%）」、「やや好き（44.0%）」と答えた人の合計）と答えた人の割合は、89.7%と非常に高い結果となった。【P59 図表1－1】
- 現在居住している地域に将来も「住む」と感じている人の割合は53.5%、「住まない」と答えた人の割合が46.6%と同程度であった。【P59 図表1－2】

(2)住んでいる地域での活動(ボランティア活動など)について

- 地域で活動している団体について、最も認知度が高いのは「PTA」（59.6%）であった。【P60 図表2－1】
- 地域活動への参加状況について、「参加したことがある」と答えた人の割合は、「親睦・レクリエーション」（53.0%）が最も多く、次いで「環境活動」（46.5%）となった。【P61 図表2－2】
- ボランティア活動へ「参加したことがある」と答えた人の割合は52.3%となっており、約半数の方がボランティア活動へ参加している。【P62 図表2－3】
- また、参加の動機については、「家族からの誘い(すすめ)」と答えた人の割合が39.6%と高く、家族からの影響を受けて参加している人が多い傾向となっており、次いで「自ら進んで」（19.6%）と答えた割合が高い。【P62 図表2－4】

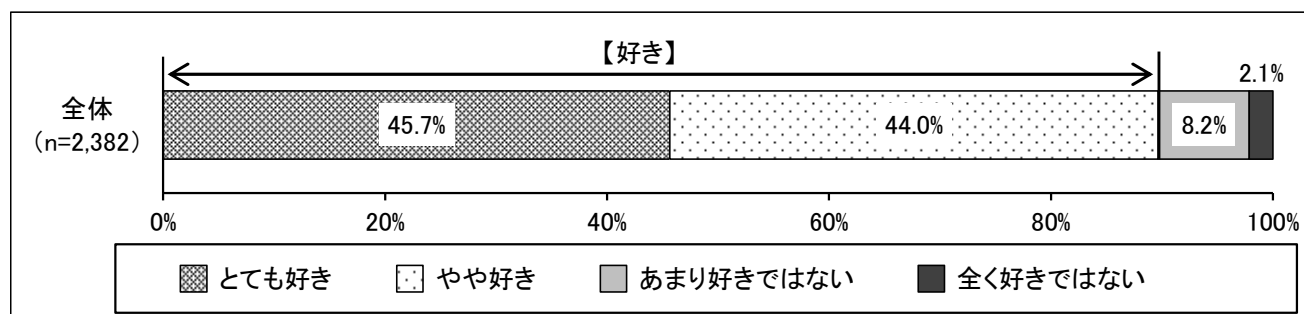
1 住んでいる地域について

1-1 住んでいる地域への愛着

◇「好き」と答えた人の割合は約90%と高い

問1 あなたは、あなたが今住んでいる地域は、好きですか。当てはまる項目を1つ選択してください。

＜図表1-1 住んでいる地域への愛着＞



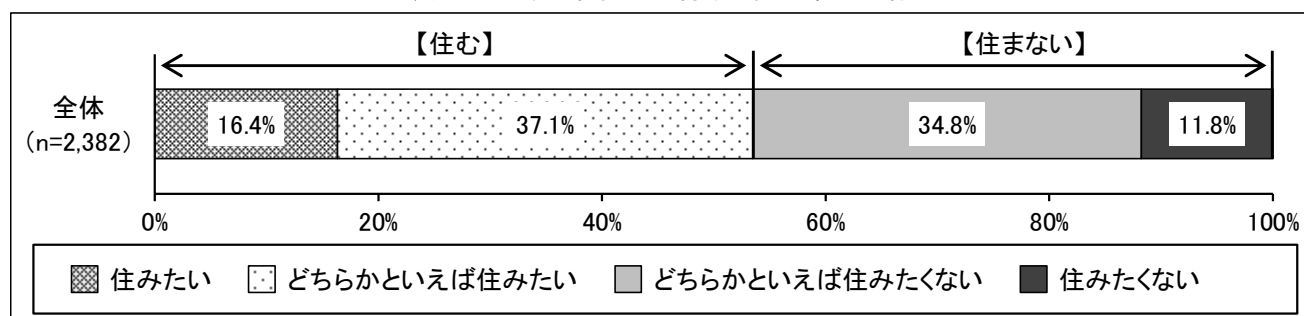
・「好き」（「とても好き」と「やや好き」の合計）と答えた人の割合は89.7%となった。その中で「とても好き」と答えた人の割合は45.7%となった。

1-2 今の居住地に将来も住む希望の有無

◇「住む」と答えた人の割合は、「住まない」と答えた人の割合を約7ポイント上回った

問2 あなたは、将来、大人になって、住んでいる地域で暮らしたいと思いますか。当てはまる項目を1つ選択してください。

＜図表1-2 今の居住地に将来も住む希望の有無＞



・「住む」（「住みたい」と「どちらかといえば住みたい」の合計）と答えた人の割合は53.5%で、「住まない」（「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」の合計）と答えた人の割合の46.6%を6.9ポイント上回った。

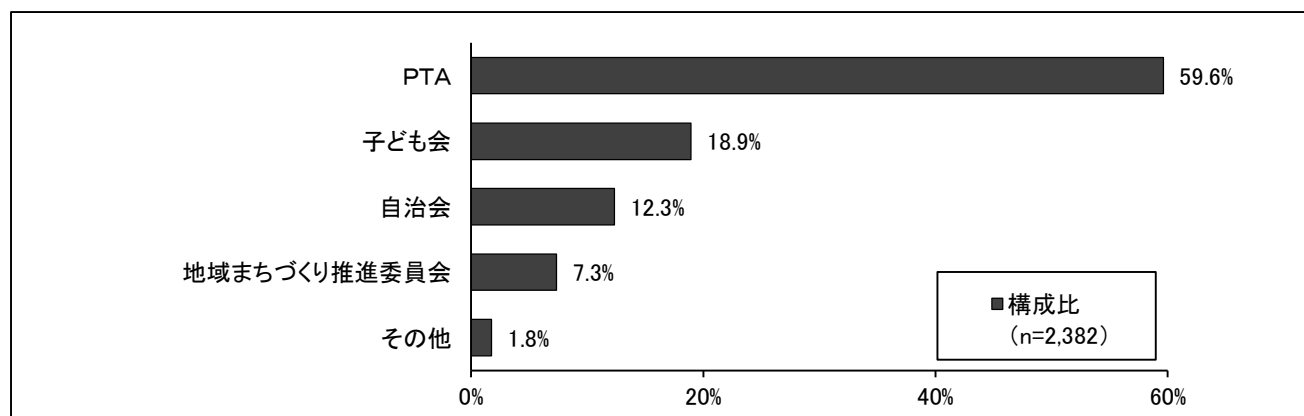
2 住んでいる地域の活動について

2-1 最も認知している地域の活動団体

◇中学生に最もよく認知されている地域の活動団体は「PTA」となった

問3 地域には、同じ地域に住んでいる人たちが、生活する中で、お互いに助けあったり、支えあったり、交流したりして、よりよい地域をつくるため、たくさんの団体や組織があることを知っていますか。
あなたが知っている団体等について当てはまる項目を1つ選んでください。

＜図表2-1 最も認知している地域の活動団体＞



・選択肢の中で、「PTA」と答えた人の割合(59.6%)が最も高い。

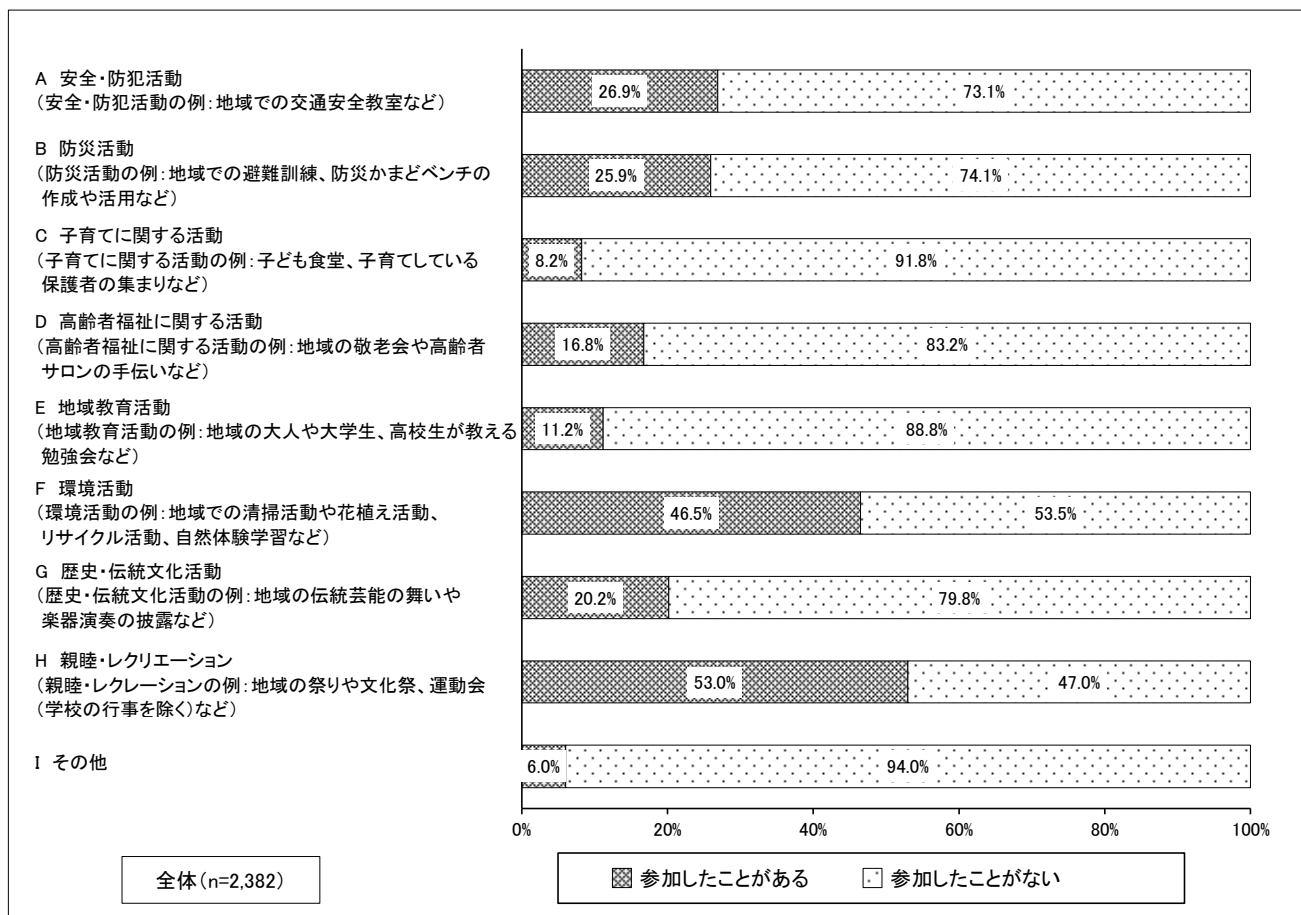
2-2 地域活動への参加状況

◇「H 親睦・レクリエーション」「F 環境活動」に参加したことがあると答えた人の割合が高い

◇「C 子育てに関する活動」「E 地域教育活動」に参加したことがあると答えた人の割合は10%前後と低い

問4 あなたが、これまで参加（ボランティアでの参加も含む）したことのある地域の活動（住んでいる地域で、自治会やPTAなどの方が実施している活動）について、それぞれの項目で当てはまる項目を選択してください。

<図表2-2 地域活動への参加状況>



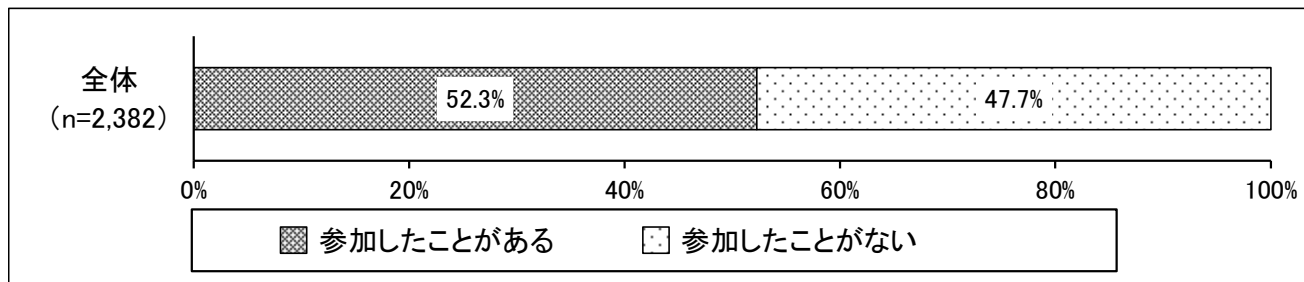
- ・「参加したことがある」と答えた人の割合は「H 親睦・レクリエーション」(53.0%)、「F 環境活動」(46.5%)が他の項目と比べて高い。
- ・一方、「C 子育てに関する活動」(8.2%)、「E 地域教育活動」(11.2%)と答えた人の割合は10%前後であり、他の項目と比較して低い。

2-3 ボランティア活動の運営に参加した経験の有無

◇運営への参加経験が「ある」と答えた人の割合は半数を超えた

問5 問4のような地域活動について、参加ではなく、活動を運営する側としてボランティア(お手伝い)として、活動にかかわった経験はありますか。当てはまる項目を1つ選択してください。

＜図表2-3 ボランティア活動の運営に参加した経験の有無＞



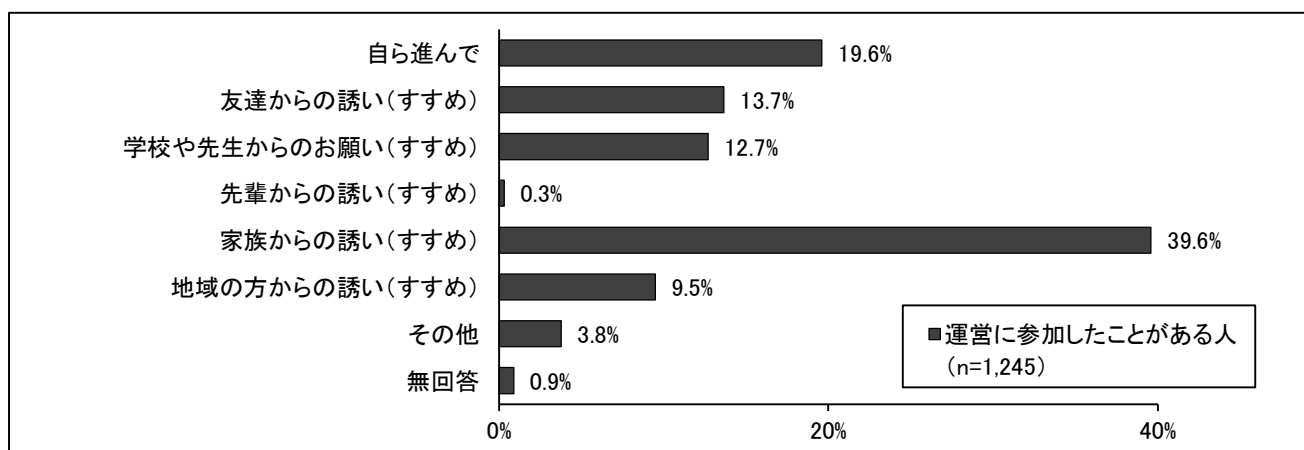
・「参加したことがある」と答えた人の割合は52.3%と半数を超えている。ただし、「参加したことがない」と答えた人の割合と比較すると、その差は小さい(4.6%)。

2-4 ボランティア活動の運営に参加したきっかけは何か(参加したことがある人が回答)

◇「家族からの誘い(すすめ)」と答えた人の割合が最も高い

問6 問5で「1ある」と回答された方は、そのきっかけはどのようなものですか。当てはまる項目を1つ選択してください。

＜図表2-4 ボランティア活動の運営に参加したきっかけ＞



・「家族からの誘い(すすめ)」と答えた人の割合(39.6%)が最も高く、次が「自ら進んで」(19.6%)となった。
 ・「地域の方からの誘い(すすめ)」と答えた人の割合(9.5%)は10%を下回った。

問7 あなたは、どんな地域活動をやってみたいと思いますか。ご自由に記入してください。

＜主な意見を掲載＞

- ・レクリエーションを増やし、もっと地域の人と話したい。
- ・小さい子から高齢者までもが遊べる活動。
- ・みんなで楽しくできるボランティア活動。
- ・環境を良くするためのゴミ拾い活動。
- ・ボランティア活動をしたいけど、入り方がわからない。
- ・誰かと協力をしてみんなが楽しいことをするボランティア活動をやってみたい。
- ・地域での祭りにボランティアとして参加してみたい。
- ・小さい子供から高齢者までが楽しめる空間を作る活動をしたい。
- ・地域の体の不自由な高齢者の方々のお手伝いをしたい。
- ・高齢者の方に健康に過ごしてもらうための取組を考え、実践したい。
- ・大きな災害がいつ来てもいいように、地域の方々と避難訓練をしたい。

問8 あなたは、住んでいる地域の人口が増えたり、賑やかになったり、安心して生活ができるなど、まちがよくなるためのアイデアがあれば、ご自由に書いてください。

＜主な意見を掲載＞

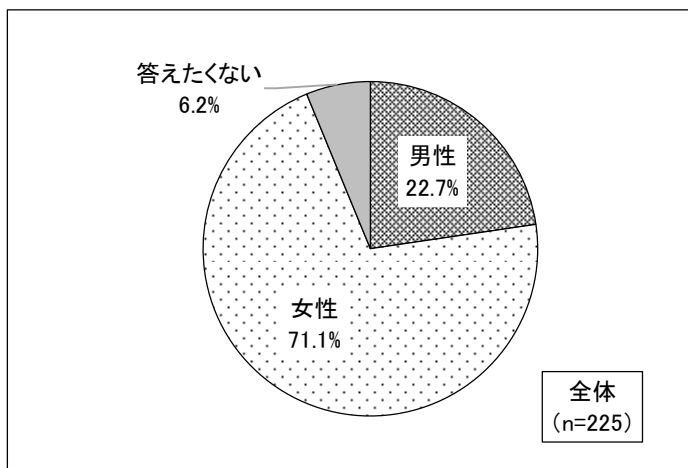
- ・働く場所やお店をもっと増やす。
- ・ショッピングモールなどの楽しめる場所(商業施設)を増やす。
- ・食べ物が美味しいので、もっとPRした方がいい。
- ・あまり目立っていない伝統文化や芸能を体験することができるイベントを増やす。
- ・街の行事を増やして活気を増やす。
- ・もっと自然を増やす。
- ・地域の人々がそれぞれお互いを気遣い、助け合ったり協力しあったり、会ったら挨拶をする良い関係を築く。
- ・誰にでも優しい心をもつ。
- ・地域の祭りを増やしたら人も集まり、賑やかになるのではないかな。
- ・その地域に住む人々が安心して生活できるように定期的に環境を整備する。
- ・地域の人で月に2回ほど集まって不満などを話し合う。
- ・もっと皆がボランティアに積極的に参加し、「宮崎に住みたい」と思えるようなまちにする。
- ・人口が増えるよう、人が集まりそうな場所を作ったほうが良い。

IV 大学生意識調査の結果

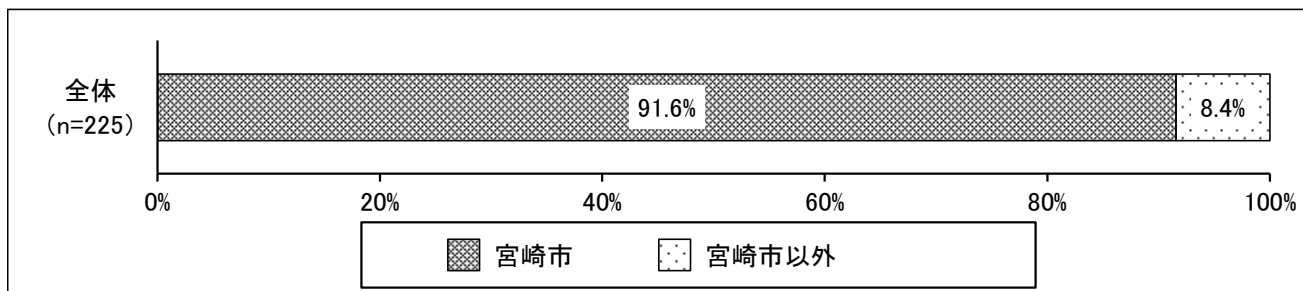
<回答者の属性>

※学年、学部、専攻等は省略(問12、13)

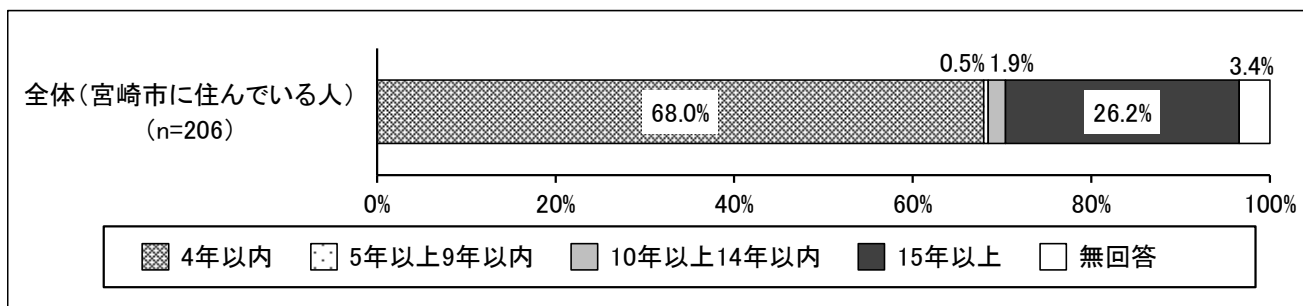
(1) 性別(問14)



(2) 居住地(問1)



(3) 宮崎市の居住年数(問2) ※宮崎市に住んでいる人



＜調査結果のまとめ＞

(1)本市への愛着の度合い

○本市への愛着の度合いについて、「好き」（「とても好き(27.6%)」、「やや好き(59.6%)」）と答えた人の合計と答えた人の割合は、87.2%と非常に高い結果となった。【P66 図表1】

(2)地域コミュニティや活動(ボランティア活動など)について

○自治会の認知度について、「知っている」と答えた人の割合は43.1%と、「知らない」(32.4%)と答えた人の割合を10%程度上回った。【P67 図表2-1】

○地域への活動への参加状況について、「参加したことがある」と答えた人の割合は、「親睦・レクリエーション」(50.2%)が最も多く、次いで「環境活動」(44.4%)となった。【P68 図表2-2】

○ボランティア活動の「経験がある」と答えた人の割合は24.0%となっており、「経験がない」(76.0%)と答えた人の割合を大きく下回った。【P69 図表2-3】

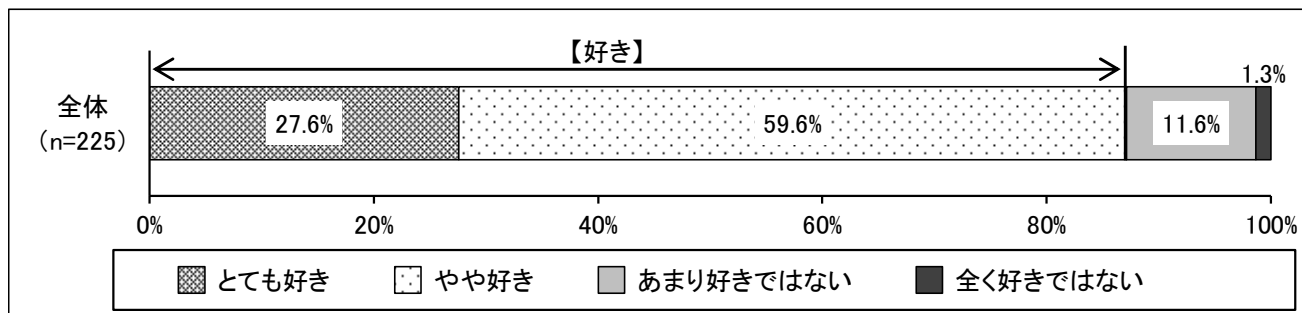
○また、ボランティア活動に参加したきっかけについては、「自ら進んで」(33.3%)、「友人からの誘い(すすめ)」(31.5%)と答えた人の割合が30%を上回り、自主的ないし友人からの影響を受け参加した方が多い傾向となった。【P69 図表2-4】

1 宮崎市への愛着の程度について

◇「好き」と答えた人の割合が約90%と非常に高い

問3 あなたは、宮崎市に対してどの程度愛着を感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1 宮崎市への愛着の程度について>



・「好き」(「とても好き」と「やや好き」の合計)と答えた人の割合が87.2%となり、そのうち「やや好き」と答えた人の割合(59.6%)が最も高い。

問4 あなたが思う、宮崎市の好きなところ、嫌いなところを自由に記入してください。

<主な意見を掲載>

好きなところ

- ・気候がよい。
- ・住みやすい。
- ・自然が豊かである。
- ・人が優しく、温かい。
- ・食資産が豊か。食べ物が美味しい。
- ・雰囲気がゆったりしている。

嫌いなところ

- ・交通の便が悪い、遊ぶ場所が少ない。
- ・都会に比べると、情報量が少ない。
- ・大学生と社会人が交流する場や機会が少ない。
- ・娯楽施設が少ない。
- ・公共交通機関が少なく、車がないと移動が大変である。
- ・買い物する場所が限られている。

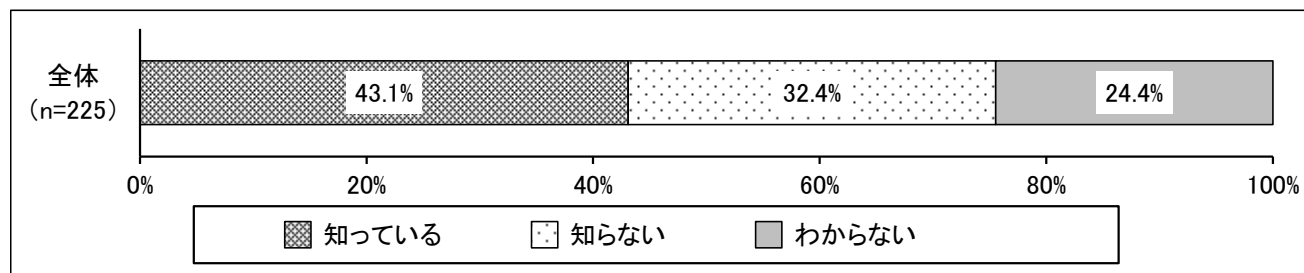
2 地域の活動について

2-1 地域の自治会の認知状況

◇住んでいる地域における自治会の認知度は40%を超えた

問5 現在、住んでいる地域に自治会があることは知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表2-1 地域の自治会の認知状況>



・「知っている」と答えた人の割合が43.1%と最も高く、「知らない」(32.4%)と答えた人の割合を10.7%上回った。

問6 あなたが思う自治会のイメージを自由に記入してください。

<主な意見を掲載>

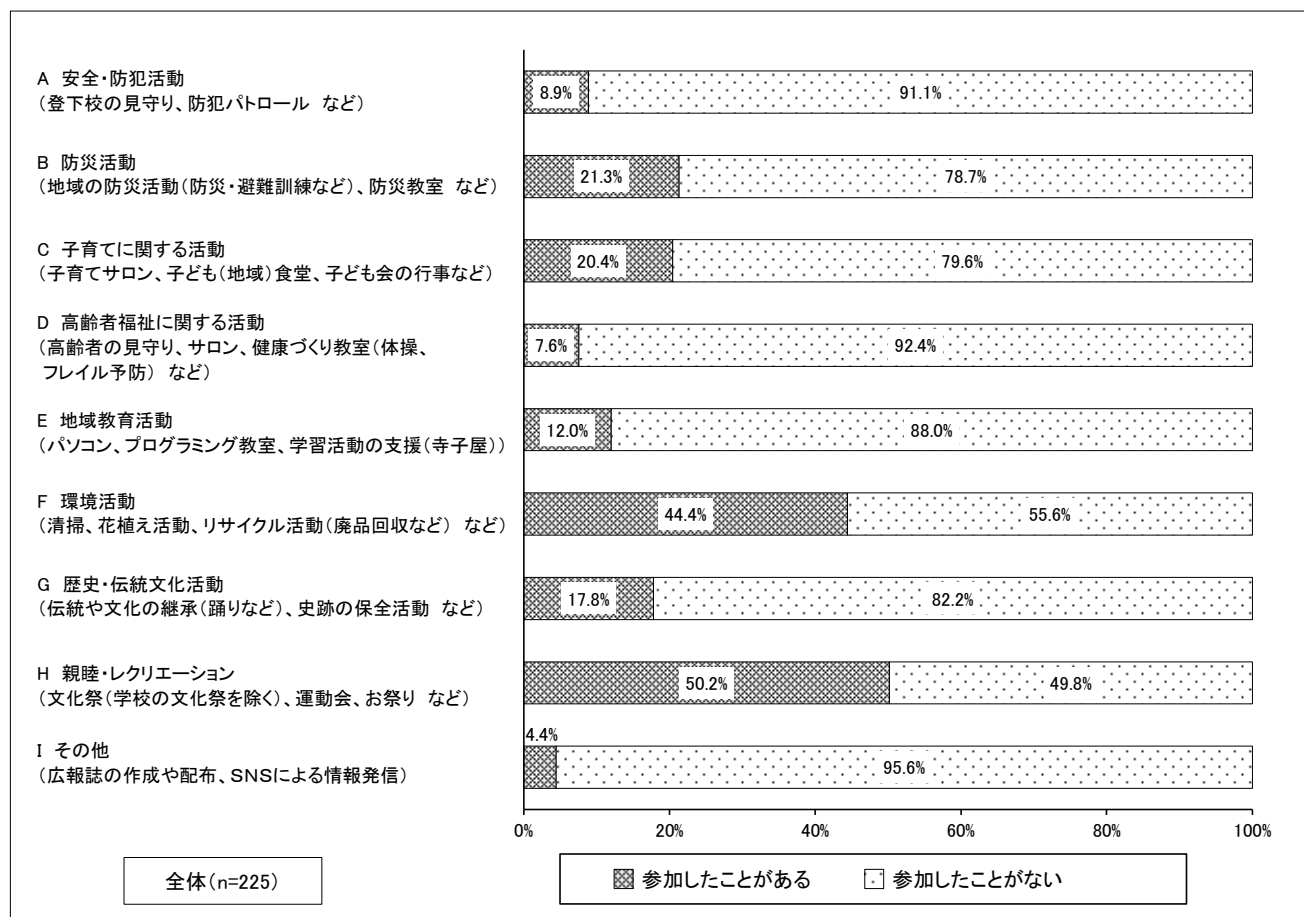
- ・回覧板などをまわしている。
- ・大学生が入っているイメージは無い。
- ・高齢者の方が多い。高齢者の方が中心となって活動をしている。
- ・ルールがしっかりある。
- ・自治会費を払わないといけない。
- ・人と関わりたくない人にとっては面倒くさい。
- ・若い人はあまり居ない。
- ・関わりづらい。
- ・地縁結合が強く、外部の人間に対して排他的な印象。
- ・役員の固定化が問題となっているイメージ。

2-2 地域活動への参加状況

- ◇「H 親睦・レクリエーション」「F 環境活動」に参加したことがあると答えた人の割合が比較的高い
- ◇「参加したことがある」と答えた人の割合が20%に満たない項目が多い

問7 あなたが、これまで参加（ボランティアでの参加も含む）したことがある地域活動について、それぞれの項目で当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表2-2 地域活動への参加状況>



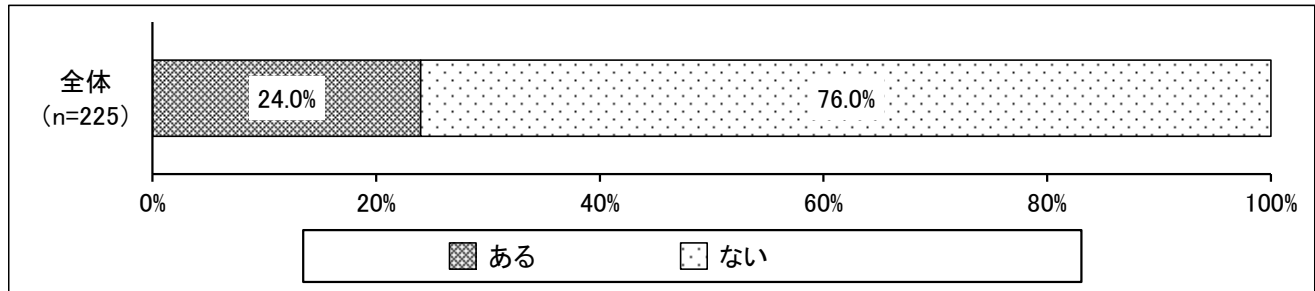
- ・「参加したことがある」と答えた人の割合は、「H 親睦・レクリエーション」(50.2%)が最も高く、次いで「F 環境活動」(44.4%)となった。
- ・「参加したことがある」と答えた人の割合が20%に満たない項目が多くなっており、そのうち「A 安全・防犯活動」(8.9%)、「D 高齢者福祉に関する活動」(7.8%)、「I その他」(4.4%)と答えた人の割合は10%を下回った。

2-3 ボランティア活動の運営に参加した経験の有無

◇運営への参加経験のある大学生は24%

問8 問7のような地域活動について、参加ではなく、活動を運営する側としてボランティア(お手伝い)の経験は、ありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表2-3 ボランティア活動の運営に参加した経験の有無＞



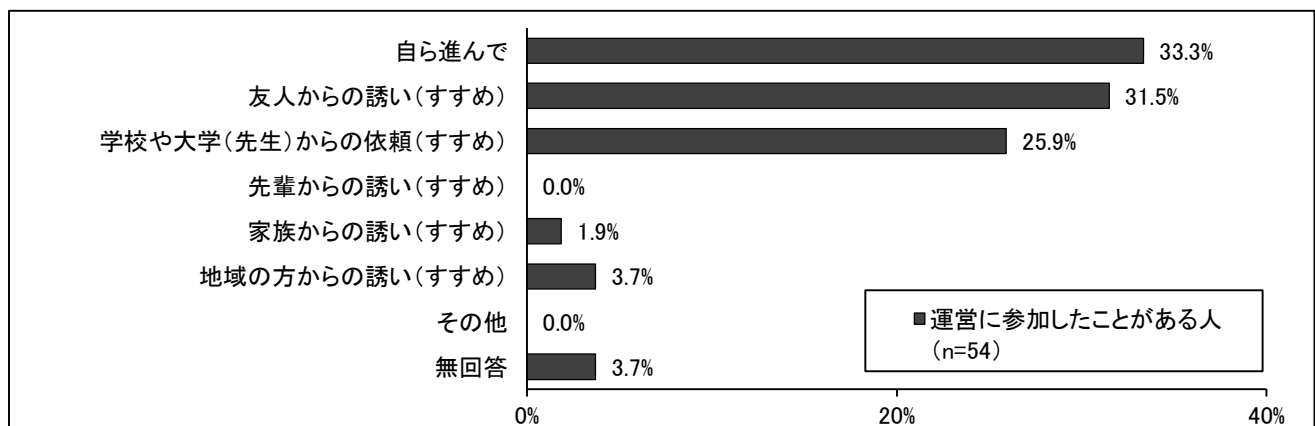
・経験が「ある」と答えた人の割合は24.0%となった。

2-4 ボランティア活動の運営に参加したきっかけは何か(参加したことがある人が回答)

◇「自ら進んで」、「友人からの誘い(すすめ)」、「学校や大学(先生)からの依頼(すすめ)」と答えた人の割合の合計が90%を超えた

問9 問8で「ある」と回答された方は、そのきっかけはどのようなものですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表2-4 ボランティア活動の運営に参加したきっかけは何か＞



・「自ら進んで」(33.3%)、「友人からの誘い(すすめ)」(31.5%)、「学校や大学(先生)からの依頼(すすめ)」(25.9%)と答えた人の割合が90.7%となった。

・「地域の方からの誘い(すすめ)」と答えた人の割合は3.7%と極めて低い。

問10 あなたは、どんな地域活動であれば、参加したり、携わったりしたいと思いますか。
ご自由に記入してください。

＜主な意見を掲載＞

- ・異なる年代の人との交流よりも、近い年代の人たちと交流するような取り組み。
- ・国際交流や障がい者の方との交流活動。
- ・自分のスキルを高められる内容。
- ・地域教育活動(児童生徒の学習支援(寺子屋)、パソコン教室など)。
- ・若者が主催する地域コミュニティや地域イベントが増えれば良い。
- ・大学が地域活動を補助してくれるような環境。
- ・地域に住む人々の顔が分かり、親睦を深めながら地域をより良いものにすることが出来る活動。
- ・地域活動に特に興味はないが、知り合いが参加するのであれば関わってみたい。

問11 あなたは、地域を活性化するためには、どのような取組が必要と考えますか。
ご意見がございましたら、ご自由に記入ください。

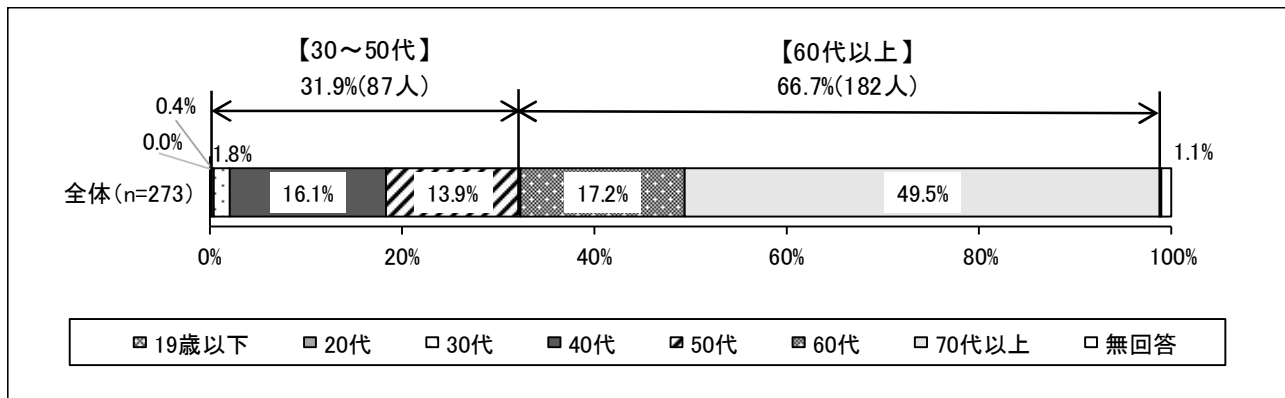
＜主な意見を掲載＞

- ・宮崎でしかできない体験をすることで、観光客の集客に繋げる。
- ・市民として地域活性化に取り組んだ際に得られる利益やメリットが分かりやすく示され、納得できるようなものであれば、自主的に地域活性化に取り組むようになるのではないかな。
- ・お金になるという取組みが最高だが、「お金だけではない利益」による動機づけの取組みが必要だと思う(お金がもらえるならば、それがいちばん嬉しい)。
- ・交通の利便性の向上。
- ・地場産業を活性化させる必要がある。
- ・補助金に頼らず、住民が自主的に考え取り組むことが必要。他人任せの地域だと、活性化のために良い政策を立てても効果がない。
- ・地域を「好き」と思う「fun(ファン)」が増えることが必要。地域に住む人が、「その地域だからこそある良さ」に気づくことが第一歩目なのではないかな。
- ・活性化とは都市部にあるような物理的な施設が増えることではないと思う。
- ・実家は自治会に加入しているが、普段生活をしていて「なんのために入っているのかが分かりにくい」と感じる。自治会に入るメリットなどの情報発信を若者に対して分かりやすくしてもらえると良いのではないかな。

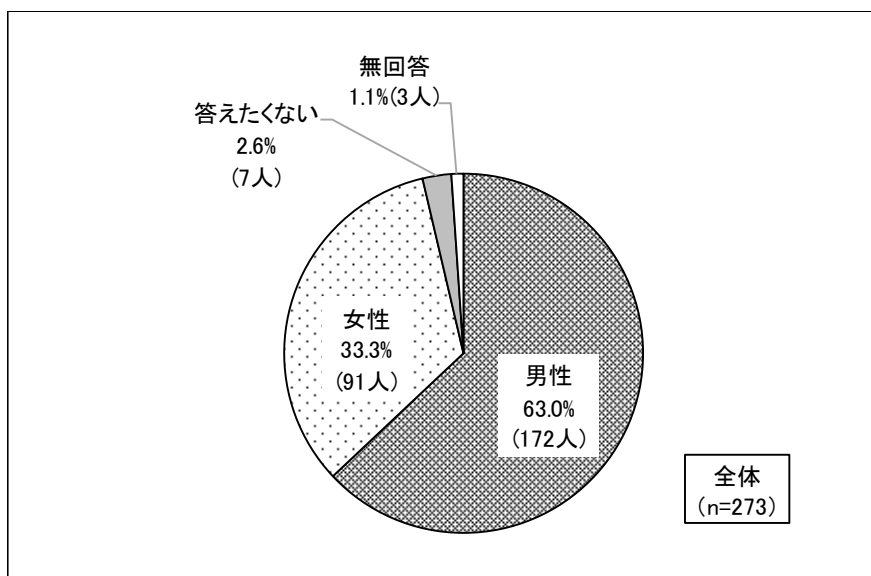
V 地域協議会意識調査の結果

<回答者の属性>

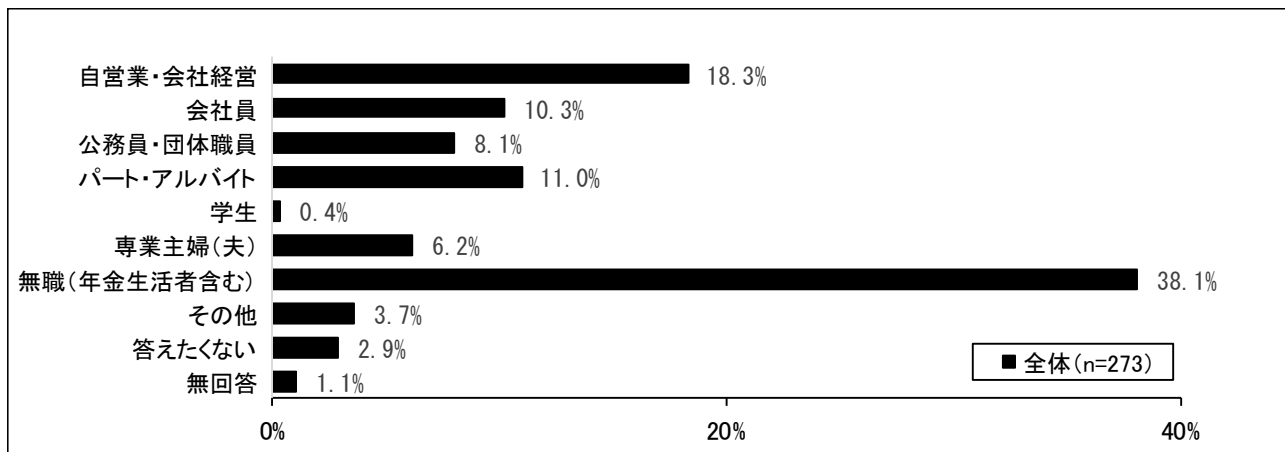
(1) 年代(問25)



(2) 性別(問26)



(3) 職業(問27)



＜調査結果のまとめ＞

(1) 地域協議会の活動等について

- 地域協議会に所属している期数について、「1期から3期」と答えた人の割合が74.7%を占め、次いで「4期から6期」(15.4%)となった。【P74 図表1-2】
- 地域自治区制度についての受け止めについて、「よい取組であると思う」と答えた人の割合が78.0%と、「よい取組と思わない」と答えた人の割合(5.1%)を大きく上回った。また、地域自治区制度が地域に及ぼした効果について、「地域課題に目が向くようになった」と感じる人の割合は、81.0%と最も高くなった。一方、「効果を感じない」と答えた人の割合が最も高くなったのは、「住民間の交流が促された」(37.3%)の項目となった。【P74 図表1-3、P75 図表1-4】
- 適切な地域自治区の範囲について、「現在の地域自治区の範囲がいい」と答えた人の割合が60.1%と最も高く、次いで「中学校程度の範囲」(21.2%)、「小学校区の程度の範囲」(14.3%)となった。【P76 図表1-5】
- 地域協議会の活動に関するやりがいについて、「感じる」と答えた人の割合は78.4%と高い結果となった。【P77 図表1-8】
- 地域協議会の構成について、人数および構成団体については、「ちょうどよい」と答えた人の割合は70%を超えた。(「ちょうどよい」と答えた人の割合 人数:81.0%、構成団体:77.7%)
一方で、「年齢層」については、「偏っている」と答えた人の割合が52.0%と、「ちょうどよい」と答えた人の割合(43.6%)を上回った。【P78 図表1-9】
- 地域協議会での議論の状況について、「活発」と答えた人の割合が73.9%となり、「活発でない」と答えた人の割合(23.8%)を大きく上回った。また開催回数については、「適切である」と答えた人の割合が81.7%と非常に高い。【P79 図表1-10】
- 地域協議会で協議した内容の情報共有について、「やや共有できている」(39.3%)と答えた人の割合が最も高く、「共有できている」と答えた人の割合は25%を下回った。また、地域団体の活動状況について、「活動が活発である」と答えた人の割合は44.7%と、「活動が不十分である」(20.5%)と答えた人の割合を上回った。【P81 図表1-15、P83 図表1-18】

(2) 地域活動全般について

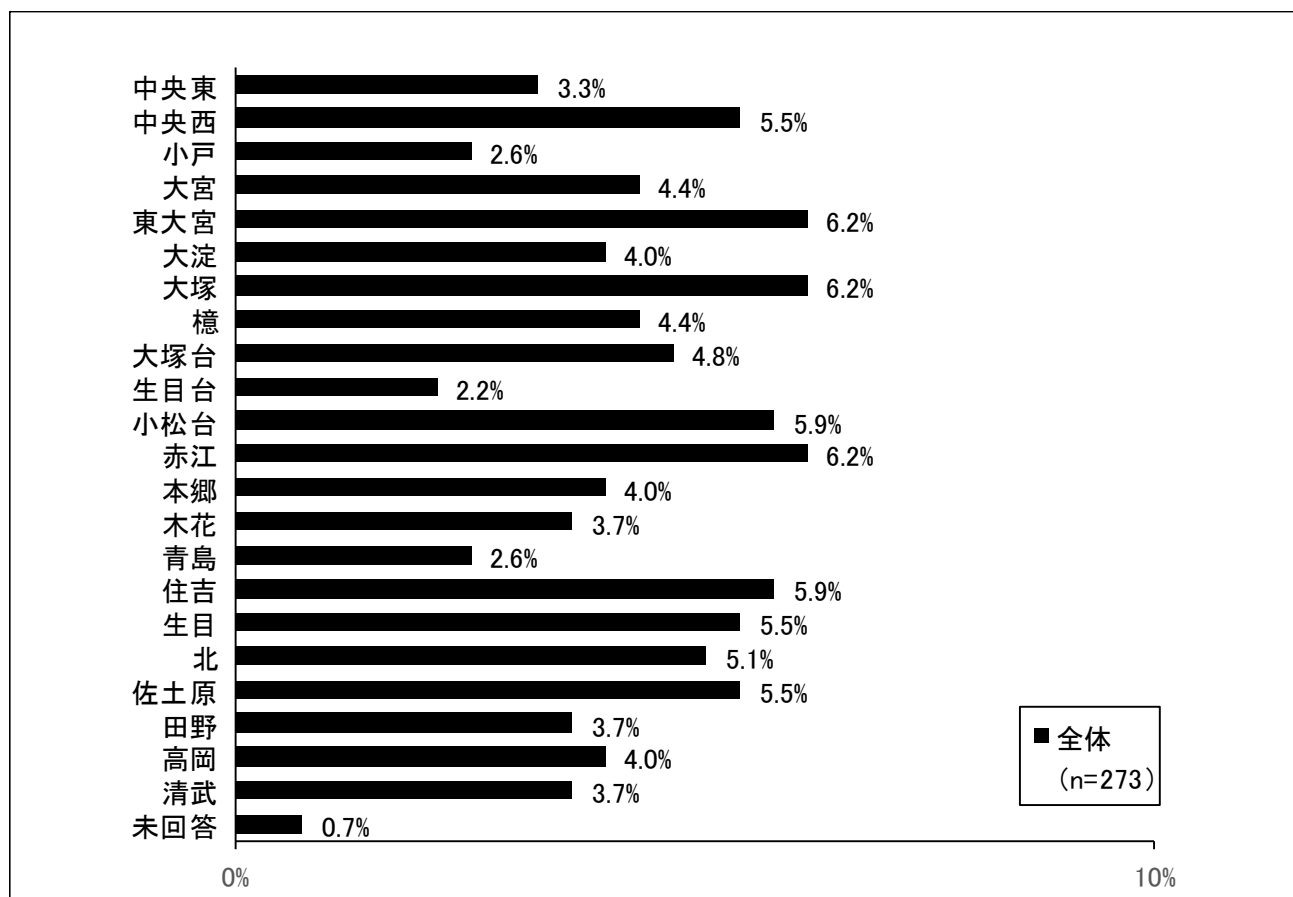
- 地域まちづくり推進委員会、地域の各種団体が行う活動・事業についての重要度、満足度について、これまでの取組で満足度の高い分野は、「環境活動」「高齢者福祉に関する活動」「その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)」、「親睦・レクリエーション」となっている。また、今後の取組の優先度の高い分野(Ⅳ)は「防災活動」「子育てに関する活動」となっている。【P84 図表2-1】
- 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方について、「行政が主体的」と答えた人の割合が、「地域が主体的」と答えた人の割合を超えた項目は、「子育てに関する活動」「高齢者福祉に関する活動」となった。【P85 図表2-2】
- 地域まちづくりの課題について、「活動する人材の高齢化・固定化」と答えた人の割合は74.7%と、全項目の中で最も高くなっている。次いで「地域住民の当事者意識の不足」(47.3%)、「活動する人材の不足」(45.4%)、「若い世代の意見の反映」(33.7%)となっている。【P86 図表2-3】

1 地域協議会の活動等について

1-1 所属する地区

問1 あなたが所属する地域協議会の番号に○をつけてください。

<図表1-1 所属する地区>



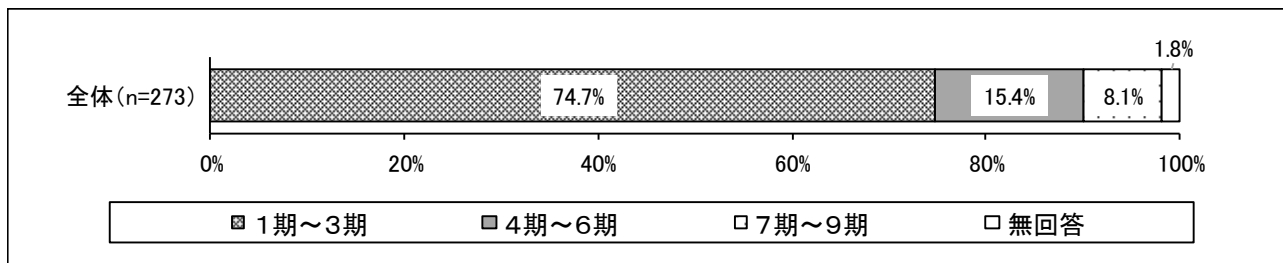
・全27地区から1地区平均11人の回答があった。

1-2 地域協議会に所属している期数

◇「1期から3期」と答えた人の割合が最も高い

問2 あなたは、地域協議会に通算で何期、務めていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。
※1期の任用期間は2年間

＜図表1-2 地域協議会に所属している年数＞



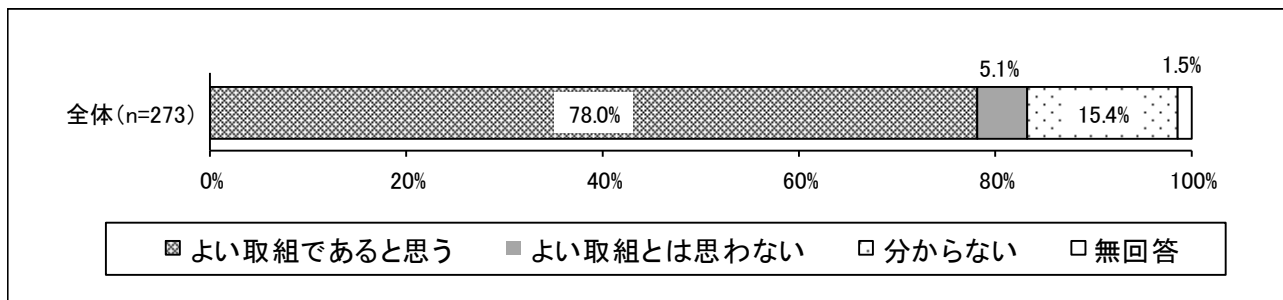
・「1期から3期」と答えた人の割合が74.7%を占め、次いで「4期から6期」(15.4%)となった。

1-3 地域自治区制度をどう捉えているか

◇「よい取組であると思う」と答えた人の割合が最も高い

問3 あなたは宮崎市の地域自治区制度(地域協議会や地域まちづくり推進委員会による住民主体のまちづくり)をどのようにお考えですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

＜図表1-3 地域自治区制度をどう捉えているか＞



・「よい取組であると思う」(78.0%)と答えた人の割合が高い。

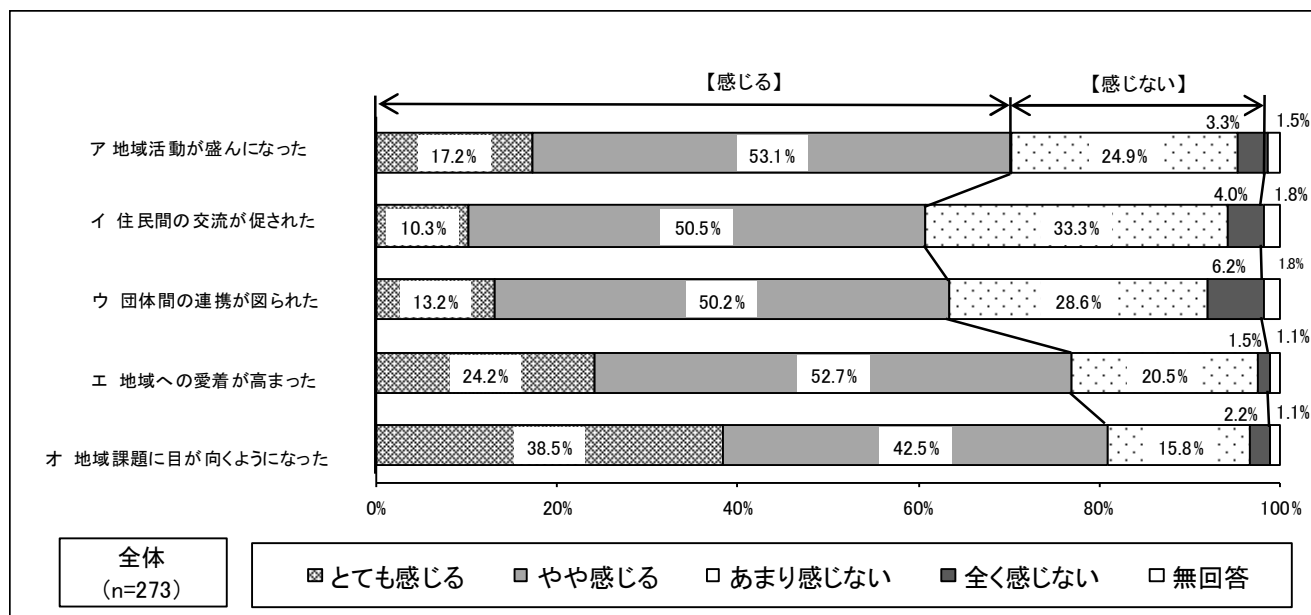
1-4 地域自治区制度が地域に及ぼした効果

◇全項目において効果を「感じる」と答えた人の割合は60%を超えた

◇効果を感じないと答えている人の割合が最も高い項目は「イ 住民間の交流が促された」

問4 あなたは、地域自治区制度導入から17年が経過した地域の状況について、どのように感じていますか。
下記のア～オのそれぞれの項目について、当てはまるものに1つずつ○をつけてください。（※単位自治会の活動を除きます。）

＜図表1-4 地域自治区制度が地域に及ぼした効果＞



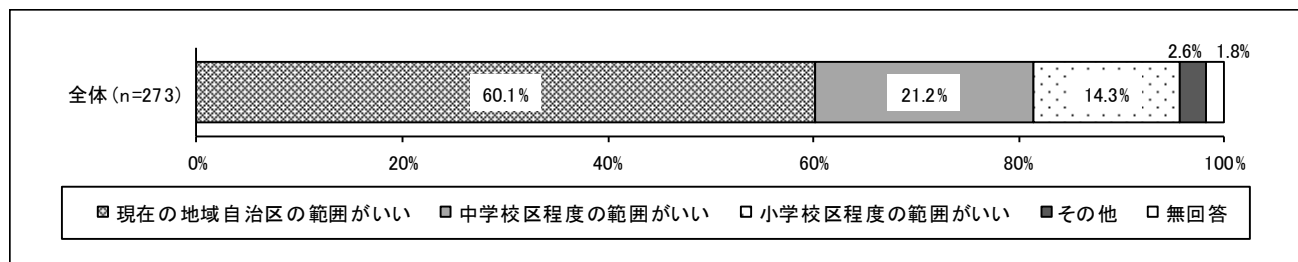
- ・「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計：以下同じ）と答えた人の割合は、全項目で60%を上回った。特に「オ 地域課題に目が向くようになった」と答えた人の割合は、81.0%と最も高い。
- ・一方、「感じない」（「全く感じない」と「あまり感じない」の合計：以下同じ）と答えた人の割合は、「イ 住民間の交流が促された」（37.3%）の項目が最も高い。

1-5 地域自治区の適切な範囲

◇「現在の地域自治区の範囲が良い」と答えた人の割合が60%を超えた

問5 あなたは、地域課題の解決に向けて協議するにあたって、現在の地域自治区の範囲について、どのように感じますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-5 地域自治区の適切な範囲>



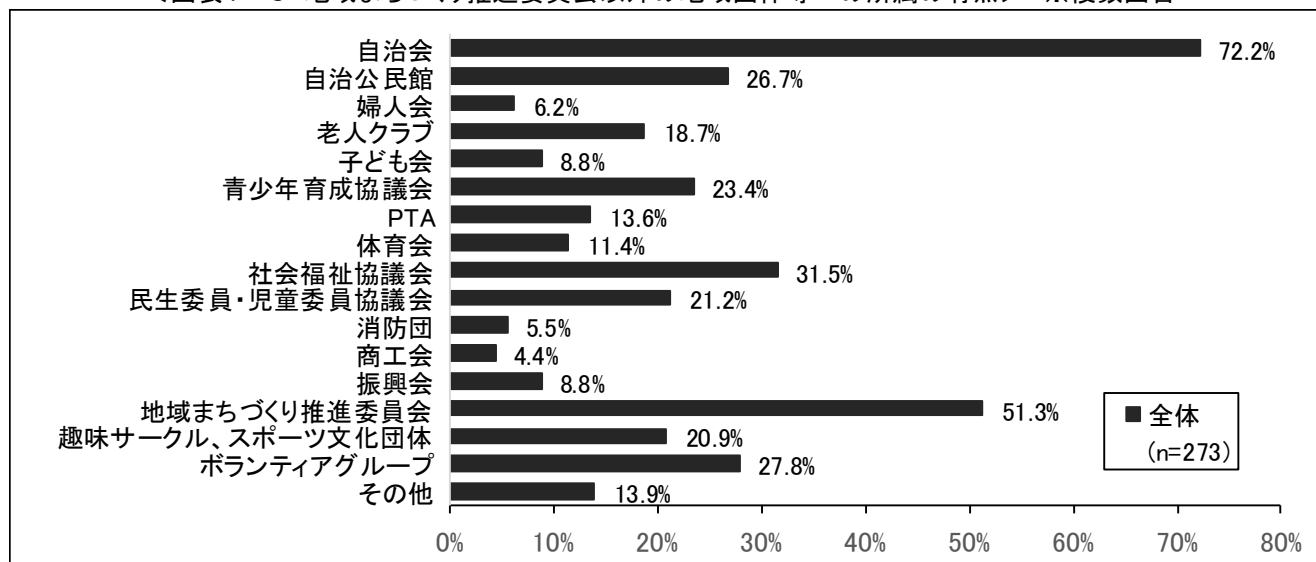
- ・「現在の地域自治区の範囲がいい」と答えた人の割合が60.1%と最も高く、次いで「中学校程度の範囲」(21.2%)、「小学校区の程度の範囲」(14.3%)となった。

1-6 地域協議会委員の地域団体等への所属の有無

◇「自治会」および「地域まちづくり推進委員会」と答えた人の割合は50%を超えた

問6 あなたは地域団体等に所属していますか。所属している場合、当てはまる番号全てに○をつけてください。

<図表1-6 地域まちづくり推進委員会以外の地域団体等への所属の有無> ※複数回答



- ・「自治会」への加入状況は72.2%と最も高く、次いで「地域まちづくり推進委員会」が51.3%となった。

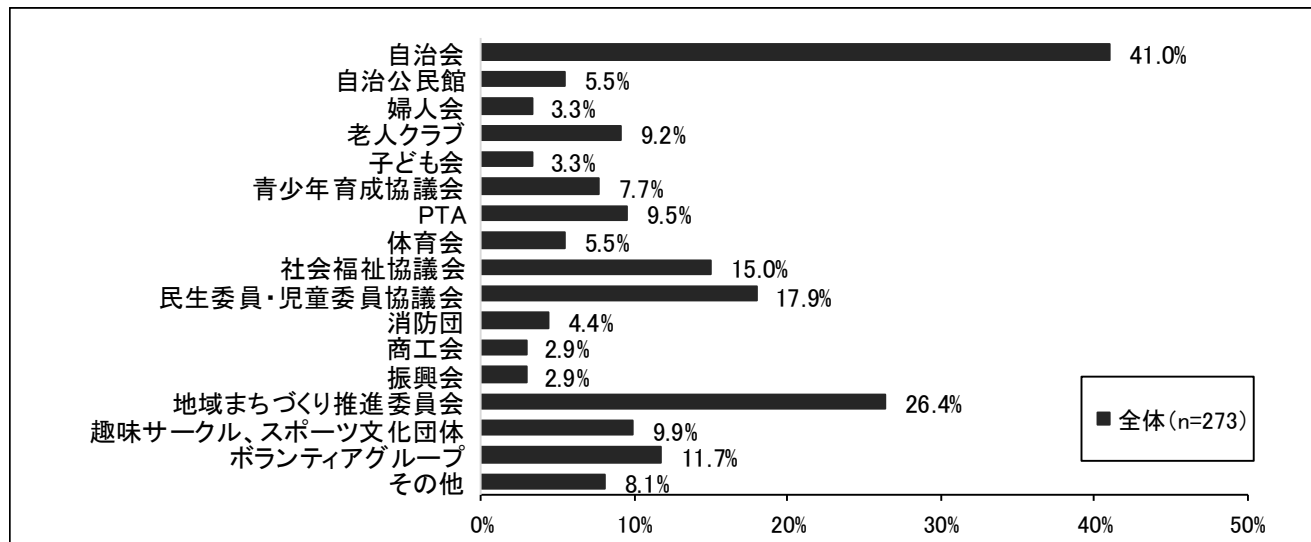
1-7 積極的に関わっている団体

◇「自治会」、「地域まちづくり推進委員会」と答えた人の割合が高い

◇「民生委員・児童委員協議会」および「社会福祉協議会」においても15%前後と比較的高い

問7 問6の団体のうち、あなたが積極的に関わっている団体を最大2つ選んでください。

＜図表1-7 積極的に関わっている団体（※最大2つ回答）＞



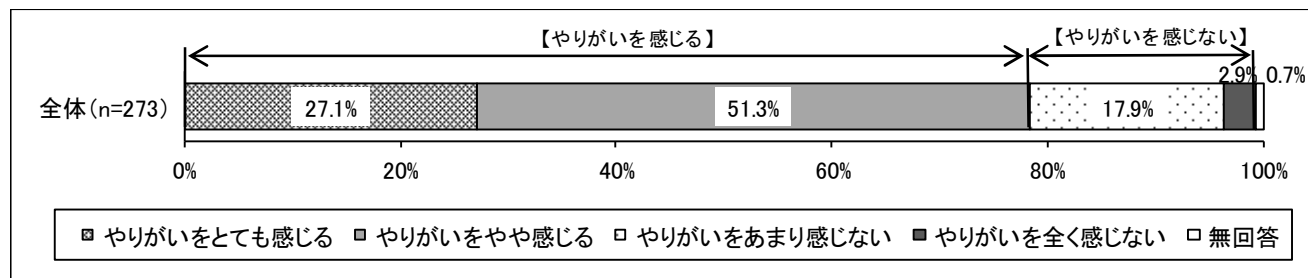
- ・「自治会」(41.3%)が最も高く、次いで「地域まちづくり推進委員会」(26.4%)となった。
- ・「民生委員・児童委員協議会」(17.9%)、「社会福祉協議会」(15.0%)、「ボランティアグループ」(11.7%)においては、10%を超える結果となった。

1-8 地域協議会の活動に関するやりがいの程度

◇「やりがいを感じる」と答えた人の割合が70%を超えた

問8 あなたは地域協議会の活動について、どの程度やりがいを感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

＜図表1-8 地域協議会の活動に関するやりがいの程度＞



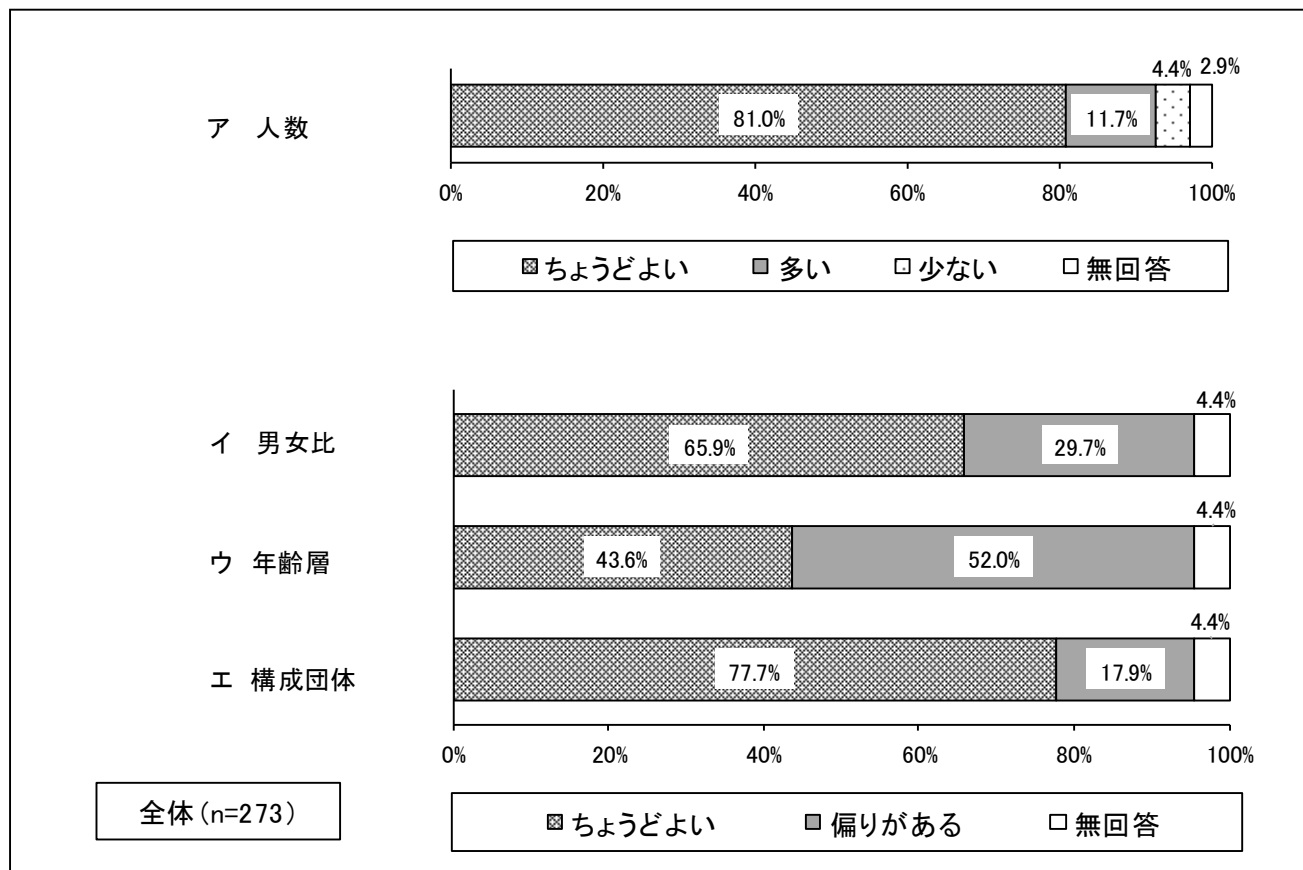
- ・「やりがいを感じる」(「やりがいをとても感じる」と「やりがいをやや感じる」の合計: 以下同じ)と答えた人の割合は、78.4%と高い結果となった。
- ・一方、「やりがいを感じない」(「やりがいをあまり感じない」と「やりがいを全く感じない」の合計: 以下同じ)と答えた人の割合は20.8%となった。

1-9 地域協議会の構成状況

◇「年齢」の項目において偏りがあると答えた割合が50%を超えた

問9 あなたは地域協議会の構成の状況について、どのように感じますか。下記のア～エのそれぞれの項目について、当てはまるものに1つずつ○をつけてください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

<図表1-9 地域協議会の構成状況>



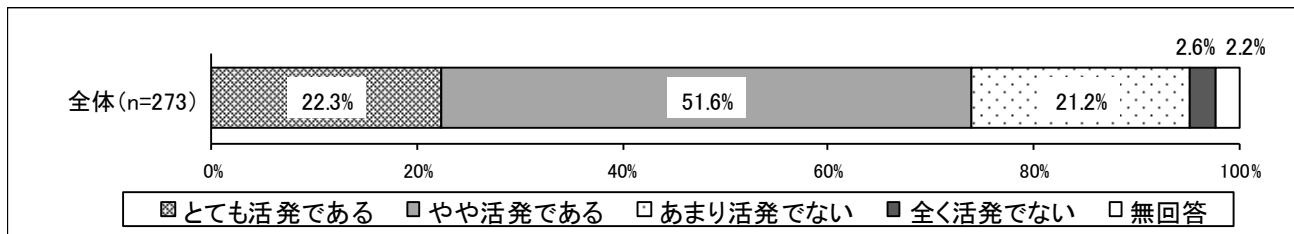
- ・「ちょうどよい」と答えた人の割合が「人数」(81.0%)、「構成団体」(77.7%)については70%を超えた。
- ・「男女比」については、「ちょうどよい」と答えた人の割合が65.9%となった一方、「偏りがある」と答えた人の割合が29.7%となった。
- ・「年齢層」については、「偏っている」と答えた人の割合が52.0%と、「ちょうどよい」と答えた人の割合(43.6%)を上回った。

1-10 地域協議会での議論の状況

◇活発であると答えた割合が70%を超えた

問10 あなたが所属する地域協議会は、活発に協議が行われていると感じますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

＜図表1-10 地域協議会での議論の状況＞



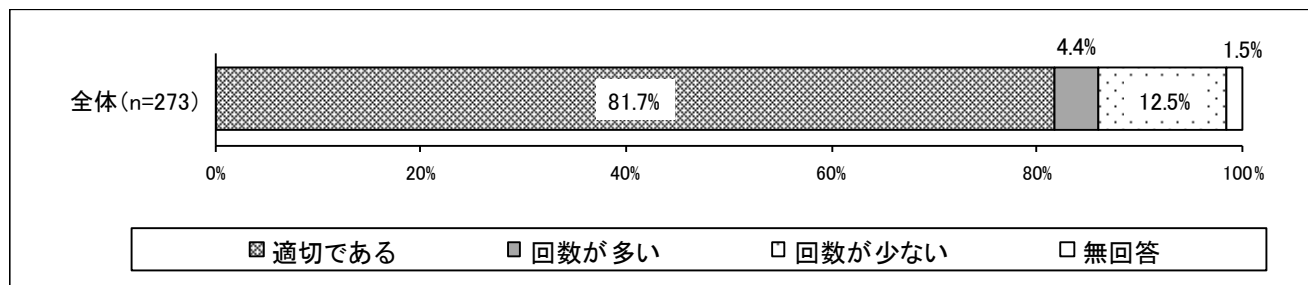
- ・「やや活発である」と答えた人の割合(51.6%)が最も高い。
- ・「活発」(「とても活発である」と「やや活発である」の合計:以下同じ)と答えた人の割合が73.9%となり、「活発でない」(「あまり活発でない」と「全く活発でない」の合計:以下同じ)と答えた人の割合(23.8%)を大きく上回った。

1-11 地域協議会の開催回数

◇「適切である」と答えた人の割合は80%を超えた

問11 あなたは地域協議会の年間の開催回数は、適切と感じますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-11 地域協議会の開催回数＞



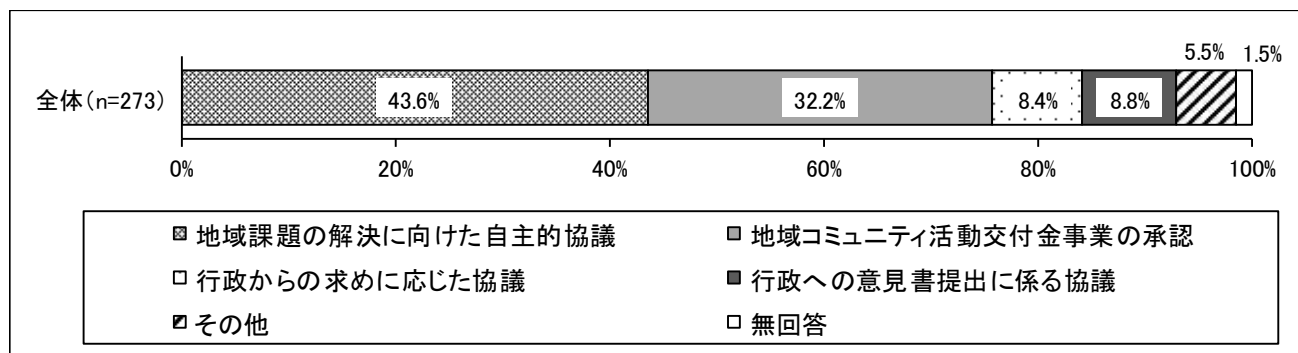
- ・「適切である」と答えた人の割合が81.7%と最も高い。

1-12 地域協議会で最も時間をかけている協議について

◇「地域課題の解決に向けた自主的協議」と答えた人の割合が最も高い

問12 あなたの所属する地域協議会で最も時間をかけている協議について、当てはまる番号1つに○をつけてください

<図表1-12 地域協議会で最も時間をかけている協議について>



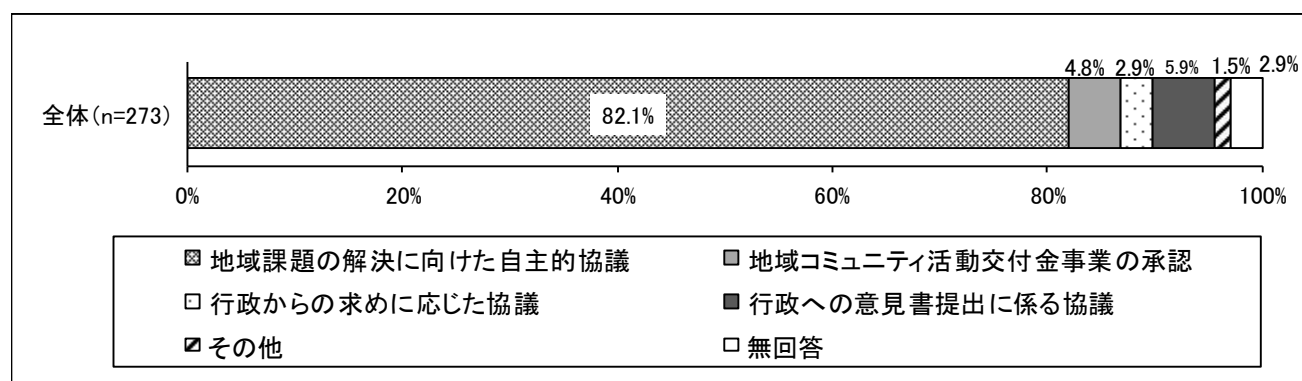
・「地域課題の解決に向けた自主的協議」と答えた人の割合が43.6%と最も高い。次いで「地域コミュニティ活動交付金事業の承認」(32.2%)、「行政への意見書提出に係る協議」(8.8%)などが続いている。

1-13 地域協議会で最も時間をかけたい協議について

◇「地域課題の解決に向けた自主的協議」と答えた人の割合が80%を超えた

問13 あなたの所属する地域協議会で、あなたが最も時間をかけたい協議について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-13 地域協議会で最も時間をかけたい協議について>



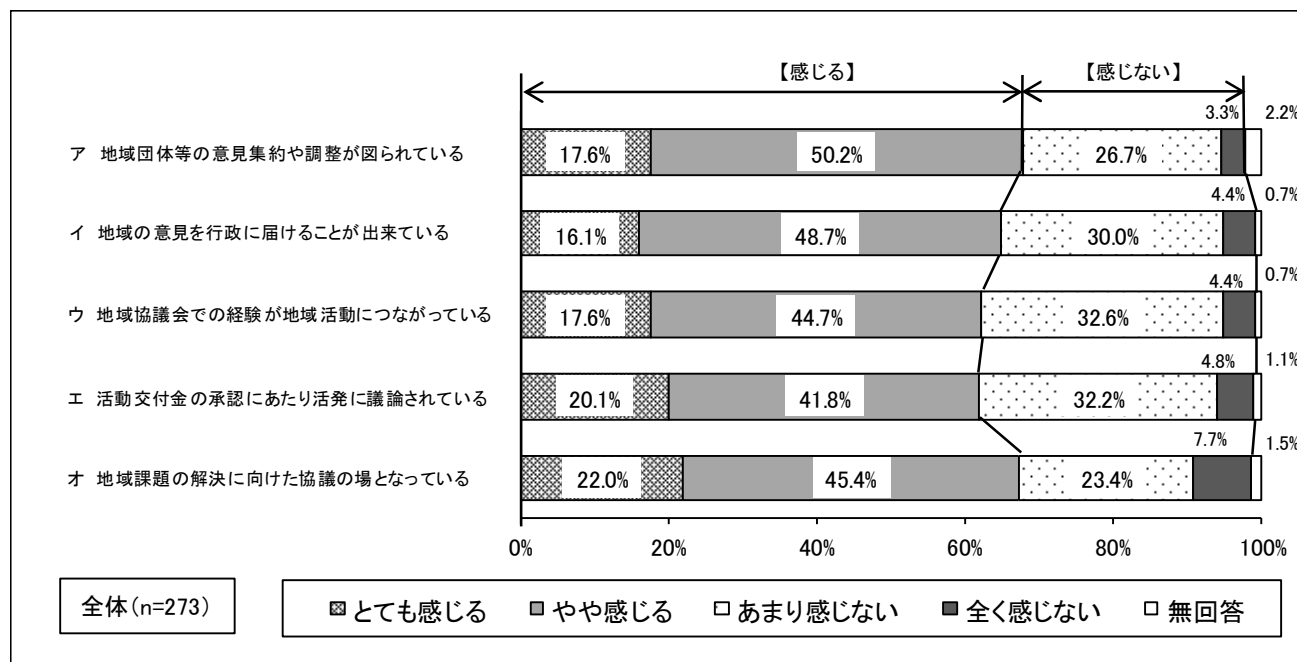
・「地域課題の解決に向けた自主的協議」と答えた人の割合が82.1%と最も高い。その他の項目については、いずれも10%を下回った。

1-14 所属する地域協議会で感じていること

◇「オ 地域課題の解決に向けた協議の場となっている」と感じた人の割合は65%を上回った

問14 あなたの所属する地域協議会についてどのように感じていますか。下記のア～オのそれぞれの項目について当てはまるものに○をつけてください。

<図表1-14 所属する地域協議会で感じていること>



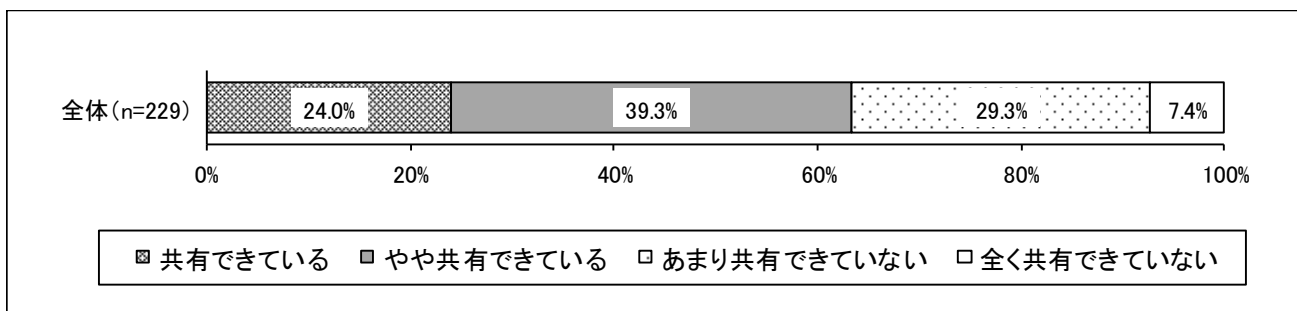
・全項目とも、「感じる」(「とても感じる」と「やや感じる」の計:以下同じ)と答えた人の割合は、60%を上回った。

1-15 地域協議会で協議した内容の情報共有について

◇「共有できている」と答えた人の割合は25%を下回った

問15 所属団体からの推薦を受けて選任されている委員の方にお尋ねします。地域協議会で、協議された内容等は、所属団体で情報共有されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-15 地域協議会で協議した内容の情報共有について>



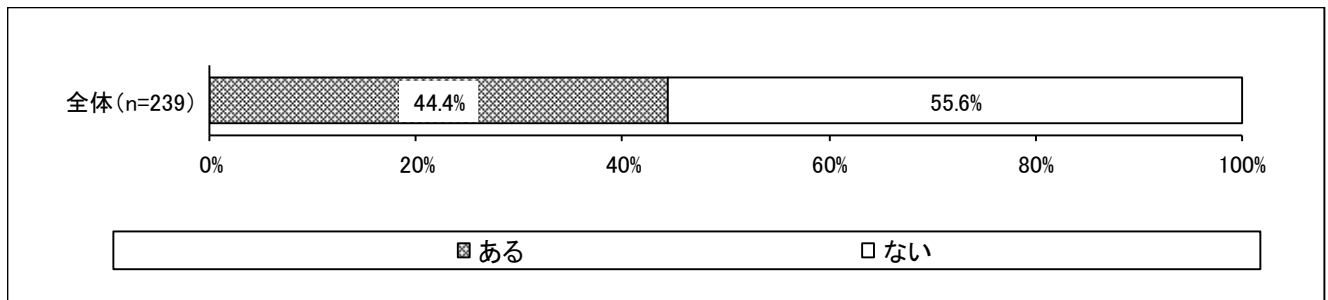
・「やや共有できている」(39.3%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「あまり共有できていない」(29.3%)となった。

1-16 地域協議会における地域課題に関する議題の提案について

◇提案が「ない」と答えた人の割合が、「ある」と答えた人の割合を上回った

問16 所属団体だけで解決できない地域課題を地域協議会で議論や提案を行ったことはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-16 地域課題に関する議題の提案について＞



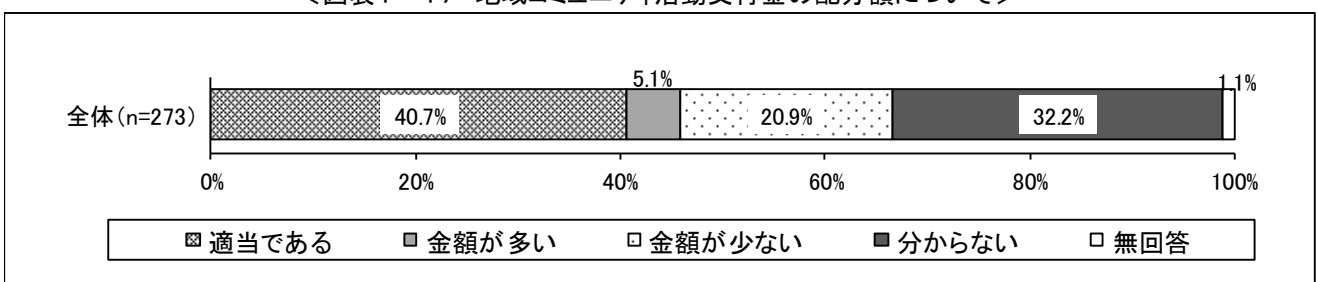
- ・提案が「ない」と答えた人の割合が、「ある」と答えた人の割合を11.2%上回っている。

1-17 地域コミュニティ活動交付金の配分額について

◇「適当である」と答えた人の割合が最も高い

問17 地域自治区の特徴を生かしたまちづくりを展開するため、その財源として、地域コミュニティ活動交付金が、地域自治区ごとに均等に配分される「均等割(3割)」と人口に応じて配分される「人口割(7割)」を基準に、地域まちづくり推進委員会に交付されていますが、あなたはその金額について、どのように感じますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-17 地域コミュニティ活動交付金の配分額について＞



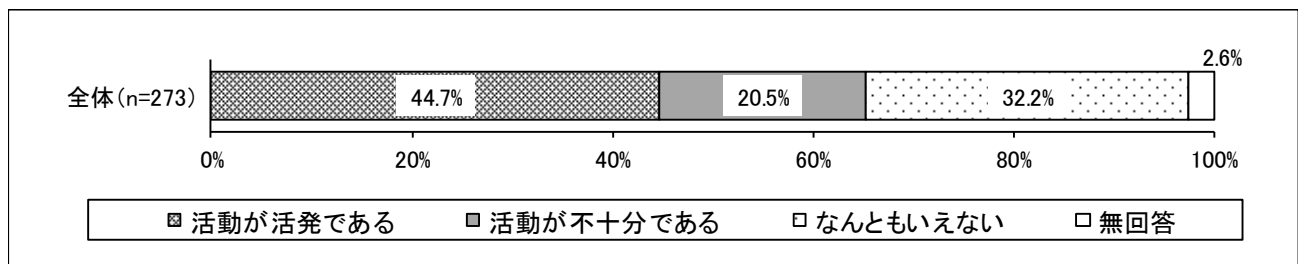
- ・「適当である」と答えた人の割合が40.7%と最も高くなった一方、「分からない」と答えた人の割合が32.2%と比較的高い。

1-18 地域団体の活動状況について

◇「活動が活発である」と答えた人の割合が最も高い

問18 あなたの地域自治区の地域まちづくり推進委員会や地域の各種団体の活動について、どのように感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-18 地域団体の活動状況について>



- ・「活動が活発である」と答えた人の割合は 44.7%と、「活動が不十分である」(20.5%)と答えた人の割合を 2 倍以上上回った。

2 地域活動の全般について

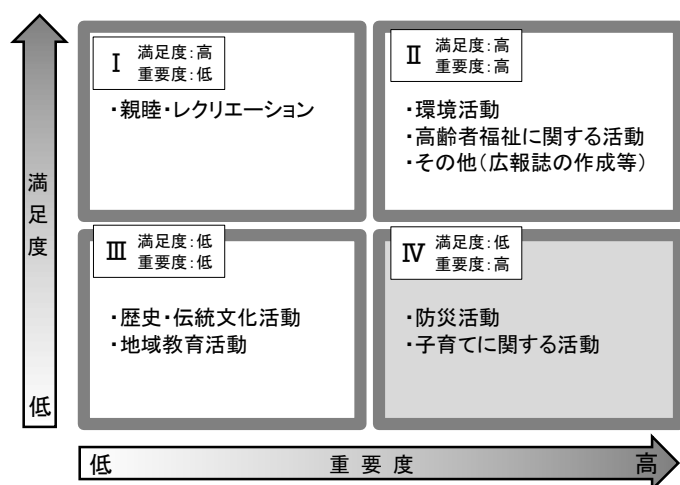
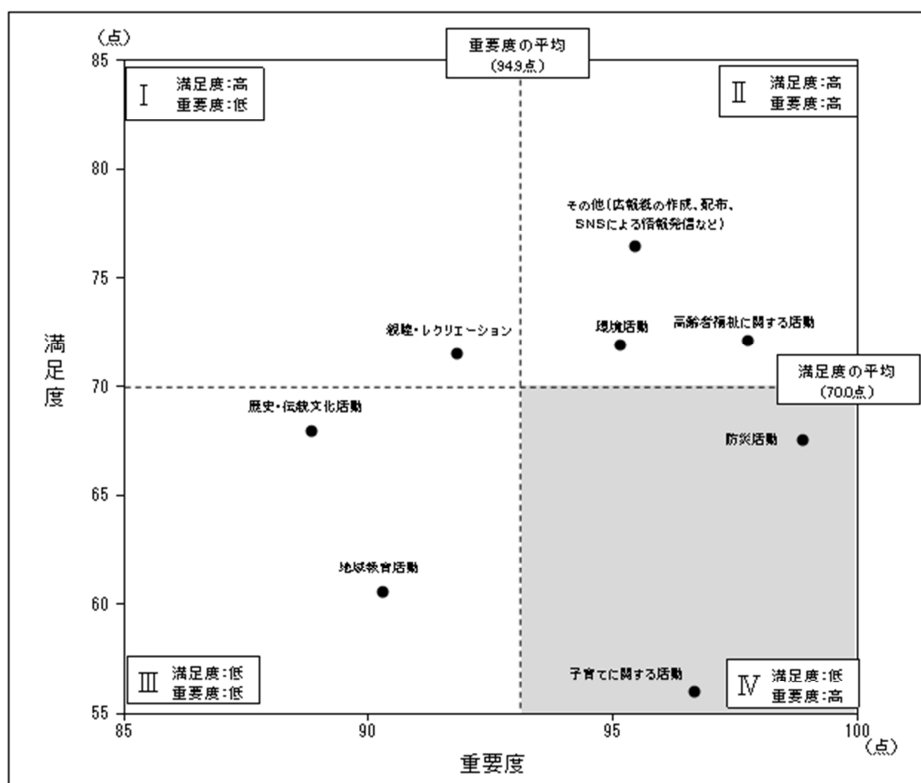
2-1 地域まちづくり推進委員会、地域の各種団体が行う活動・事業についての重要度、満足度 ～CS分析～

◇「防災活動」、「子育てに関する活動」について、活動の重要度は高いが満足度は低くなっている

※CS分析法の説明はP43参照

問19 あなたがお住まいの地域の地域まちづくり推進委員会や各種団体が行う別表活動・事業について、あなたが考える活動等の重要度および満足度をそれぞれの項目で当てはまるところに○をつけてください。

<図表2-1 地域まちづくり推進委員会、地域の各種団体が行う活動・事業の重要度、満足度>



	重要度 平均点	満足度 平均点
安全・防犯活動	98.9	85.0
防災活動	98.9	67.5
子育てに関する活動	96.7	56.0
高齢者福祉に関する活動	97.8	72.1
地域教育活動	90.3	60.5
環境活動	95.2	71.9
歴史・伝統文化活動	88.8	68.0
親睦・レクリエーション	91.8	71.5
その他(広報紙の作成、配布、SNSによる 情報発信など)	95.5	76.4
全体	94.9	70.0

・活動・事業のこれまでの取組で満足度の高い分野は、(I、II)「環境活動」「高齢者福祉に関する活動」「その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)」、「親睦・レクリエーション」となっている。

・今後の取組の優先度の高い分野(IV)は「防災活動」「子育てに関する活動」となっている。

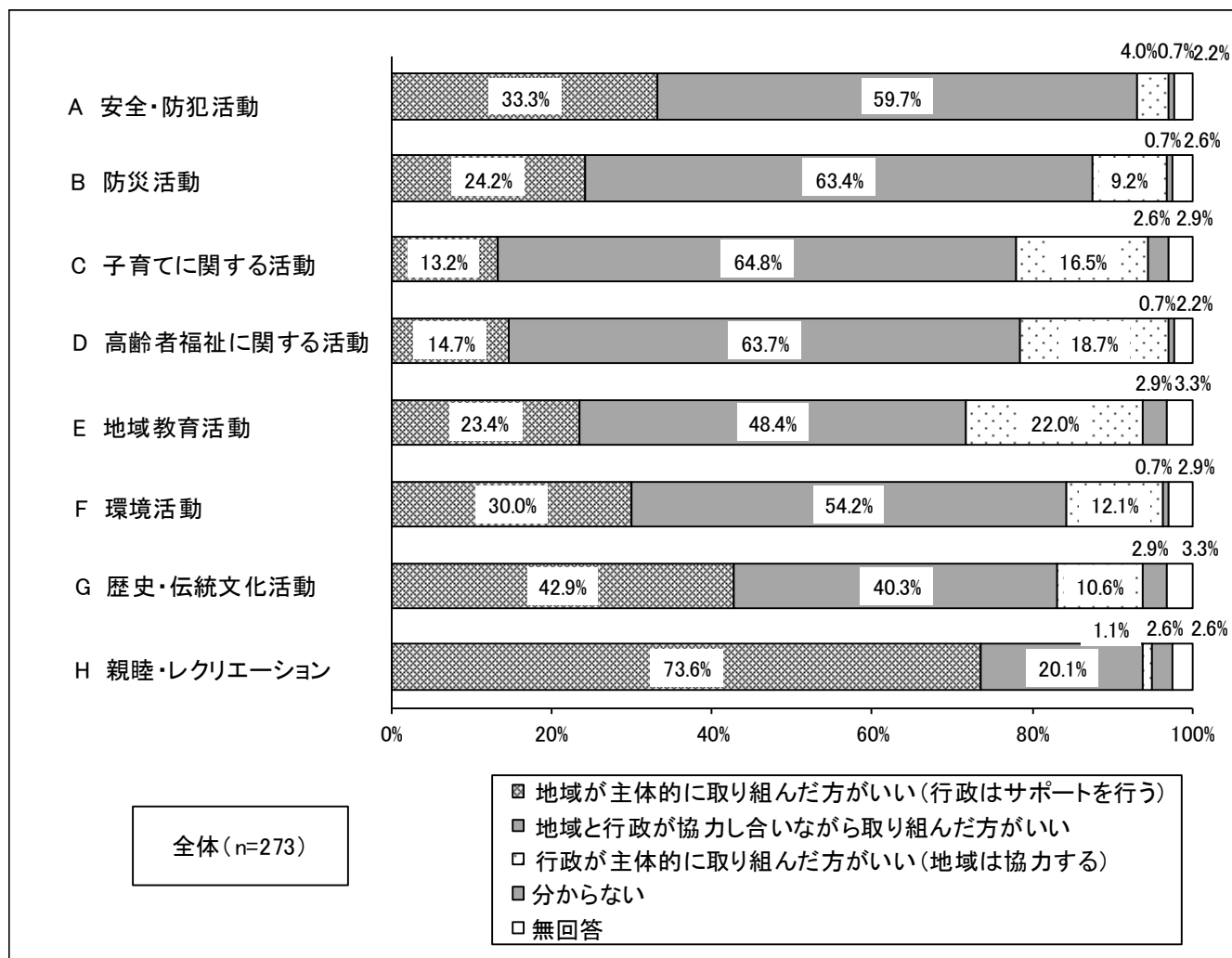
2-2 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方

◇「H 親睦・レクリエーション」において、「地域が主体的」と答えた人の割合が70%を超えた

◇全体として「地域と行政が協力」と答えた人の割合が高い

問20 身近な地域課題について、地域で対応すべきか、地域と行政が協力して対応すべきか、行政が対応すべきか、次の活動について、あなたはどのように対応すべきと考えますか。それぞれ当てはまるところに○をつけてください。

＜図表2-2 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方＞



※ 地域が主体的に取り組んだ方がいい(行政はサポートを行う)は、「地域が主体的」
 地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいいは、「地域と行政が協力」
 行政が主体的に取り組んだ方がいい(地域は協力する)は、「行政が主体的」と記す

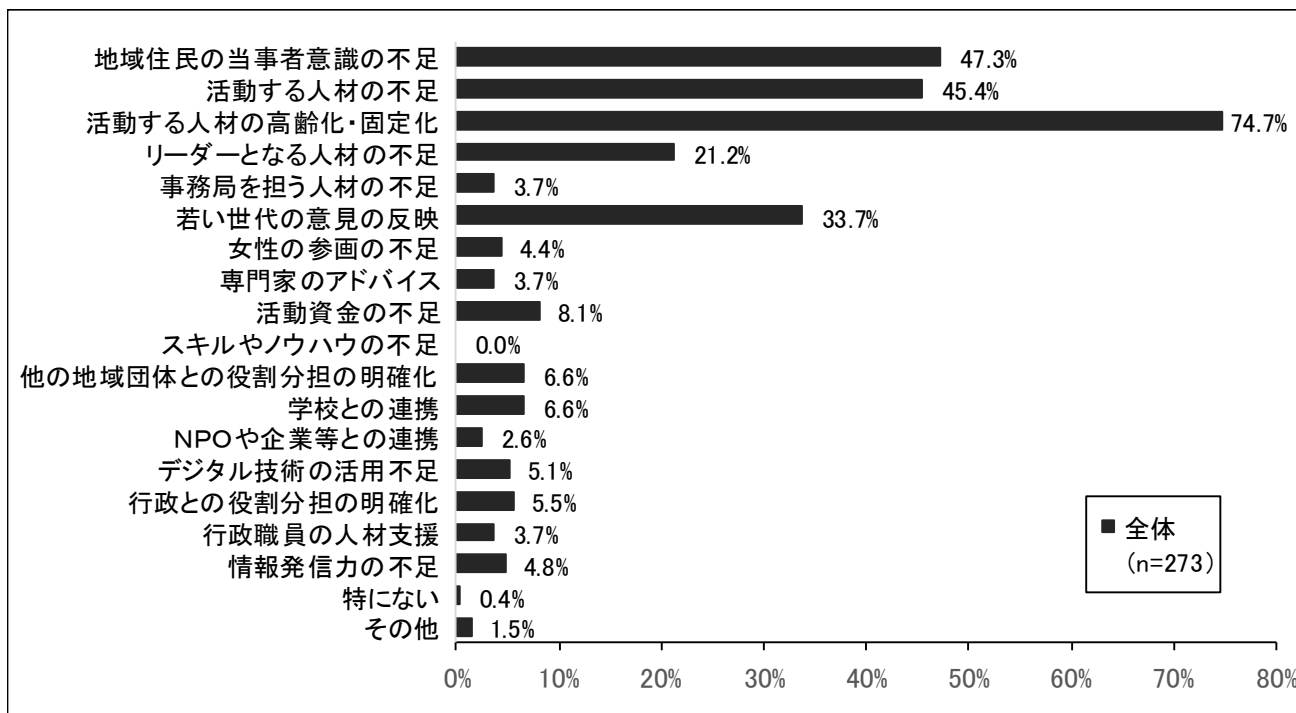
- ・「H 親睦・レクリエーション」について、「地域が主体的」と答えた人の割合が73.6%と非常に高い結果となった。
- ・「行政が主体的」と答えた人の割合が、「地域が主体的」と答えた人の割合を超えた項目は、「C 子育てに関する活動」「D 高齢者福祉に関する活動」となった。

2-3 地域まちづくりの課題について

◇「活動する人材の高齢化・固定化」と答えた人の割合が最も高い

問21 あなたは、地域まちづくりにおいて、課題と感じていることはどのようなことですか。当てはまる番号に○(3つまで)をつけてください。

＜図表2-3 地域まちづくりの課題について（※3つまで○）＞



- ・「活動する人材の高齢化・固定化」と答えた人の割合は74.7%と、全項目の中で最も高くなっている。
- ・次いで「地域住民の当事者意識の不足」(47.3%)、「活動する人材の不足」(45.4%)、「若い世代の意見の反映」(33.7%)となっている。

問22 問21について、選択した課題を解決するには、どのような対応を行うべきと思いますか。ご意見があれば教えてください。

＜主な意見を掲載＞

- ・自治会等への理解不足(自治会未加入等)。
- ・もう少し若い世代に参加して欲しい。
- ・若者の参加が多ければ人材不足も解決できるのではないかな。
- ・まちづくりと自治会との連携を深めるために、地域住民とまちづくりの会員との話し合いが必要。
- ・地域づくりにおいては、人づくりが最も重要。
- ・思いやり、助け合い等の絆を育み、良好な人間社会を構築していくこと。
- ・地域の役員のなり手が少ないのに、組織が多い(地域協議会、地域まちづくり推進委員会、自治会、PTA、子ども会、社会福祉協議会など)ので、一元化すれば、組織もスリム化し交流も活性化するのではないかな。
- ・若い人達とまちづくりについて話し合う機会を積極的に設ける。
- ・現状と将来予測(少子高齢化、人口減少がもたらす社会的影響)を示し、これからは若い人たちが主役になり、考えていく時代であることを理解してもらう。

問23 あなたは、地域まちづくり推進委員会や地域団体の活動に携わっている以外の方(シニア世代、現役世代、子ども達など)が、まちづくりの活動に関わってもらうためには、何が必要と考えますか。

＜主な意見を掲載＞

- ・まちづくりの活動の周知が必要。自治会加入者、子ども会等以外にまちづくりに関する情報が届いていない。
- ・自治会、子供会、民生・児童委員等活動の中で、共有できる行事を設定し合同で実施し広く参加を求めていく。
- ・地域にかかわる活動内容や必要性をもっと知ってもらうための魅力的な内容の伝達や、自治会を通しての伝え方を工夫してみてもどうか。
- ・まちづくり推進委員会の活動について、市全体に情報提供すべき。自治会の活動についても同様である。
- ・広報活動はされているが、自治会の加入者も減少しているなか、若い人達の理解を得るため、回覧のみでなく、色々な形で呼びかけてほしい。
- ・地域まちづくり推進委員会という組織に参加しないと、交付金対象の活動が出来ないという現状から、複数人の団体でも地域の活性化に資する活動にも交付金支給の対象を広げれば、市民の自主的なまちづくり参加が促進されるのではないかな。
- ・市があまりにも地域住民に仕事を振りすぎているのではないかな。住民がまちづくりをするのは理想だが、重なっている活動もあり、あれもこれもと言われると住民もわからなくなってしまう。
- ・それぞれの地域(地区)ごとの運動会や公民館での集まりや行事のさらなる充実、地区同士の交流ができるイベントを増やす。

問24 あなたは、地域のあるべき姿(どのようなまちにしたいかな等)について、ご意見があればご記入ください。

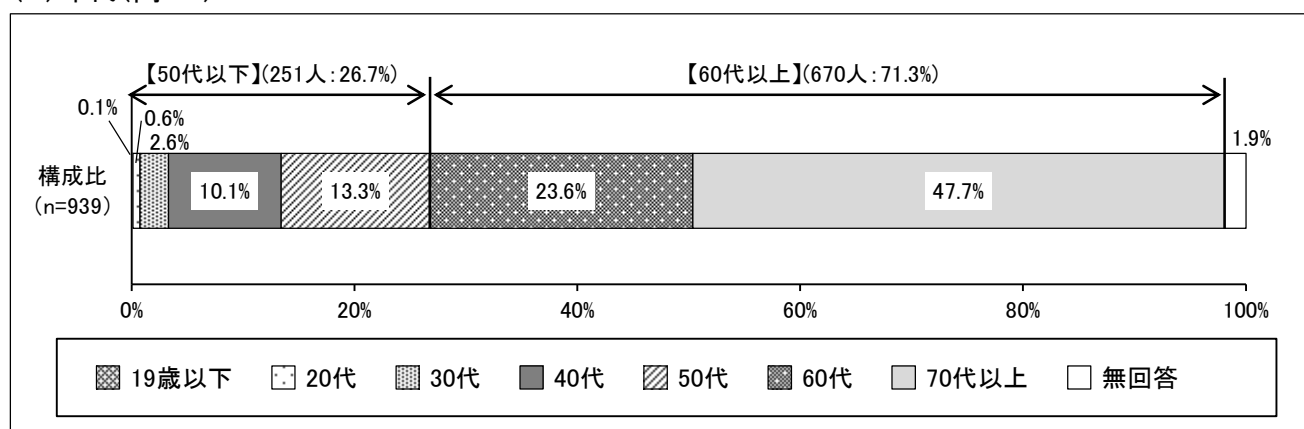
＜主な意見を掲載＞

- ・各世代別にあるべき姿は違う。世代ごとに抱える課題を解決していきながら住み良いまちにしたい。
- ・災害に強いまち。
- ・何でも意見が言えるまちづくり。
- ・1人暮らしになっても、安心して暮らせるまち。
- ・デジタル技術の積極的な活用。
- ・近隣同士が気安くお付き合いができる環境ができることが、まちづくりの基本である。
- ・自治会加入者が減少し、近所づき合いが希薄になった今、普段から声をかけ合える関係を築きたい。
- ・地域協議会や自治会、学校や他の団体との連携、問題点をもっと考えていくようにしたいと思う。
- ・各人の日頃の思いを伝えられる方法・手段を考えてみては。メール、携帯電話等さえあれば、自由に意見が出せるのではないだろうか。
- ・高齢者も身体的なハンデを持つ人も、常に安心して暮らせる環境が保てる地域であって欲しい。
- ・皆が助け合い、笑顔と笑いの絶えない地域であってほしい。

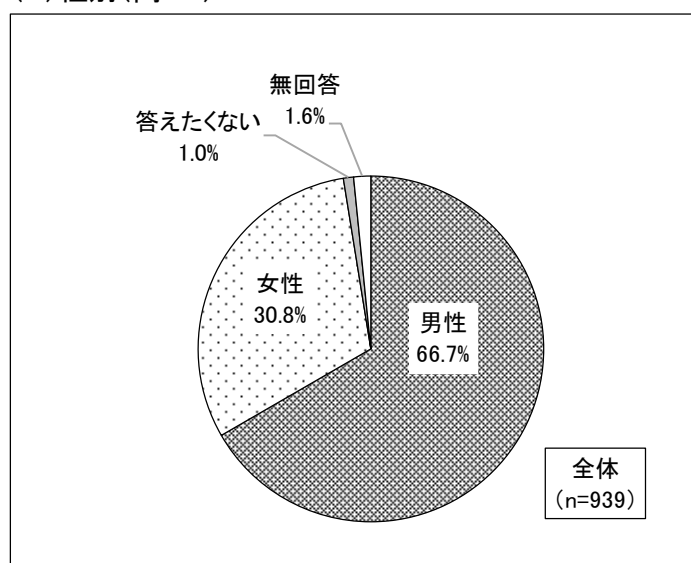
VI 地域まちづくり推進委員会意識調査の結果

<回答者の属性>

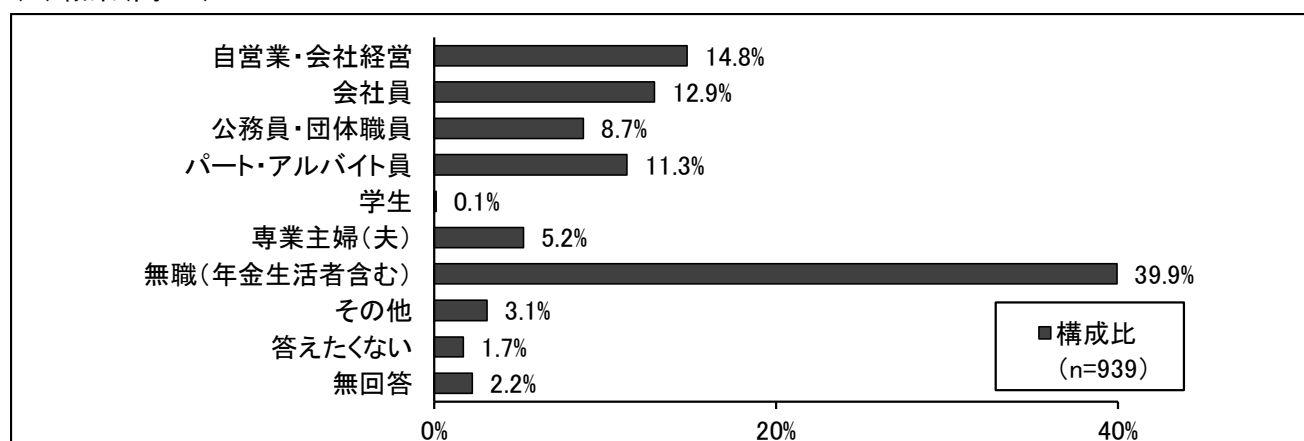
(1) 年代(問19)



(2) 性別(問20)



(3) 職業(問21)



＜調査結果のまとめ＞

(1) 地域まちづくり推進委員会の活動等について

○地域まちづくり推進委員会に所属している年数について、「1年から3年」と答えた人の割合(33.1%)が最も高く、次が「10年以上」(26.8%)となった。また、所属している部会について、「地域福祉」(22.2%)「防災・防犯」(21.0%)の2分野に所属していると答えた人の割合がそれぞれ20%を超えた。【P91 図表1-2、図表1-3】

○地域まちづくり推進委員会の活動に関するやりがいの程度について、「やりがいを感じる」「やりがいをとても感じる」と「やりがいをやや感じる」の合計:以下同じ)と答えた人の割合が全体の約80%となっており、「やりがいを感じない」「やりがいをあまり感じない」と「やりがいを全く感じない」の合計:以下同じ)と答えた人の割合(18.3%)と比べると、大きく差が開いた。【P94 図表1-9】

○地域まちづくり推進委員会に加入したきっかけについて、「自治会や地域団体からの依頼」と答えた人の割合は56.7%であり、加入する大きなきっかけになっていることが分かる。【P95 図表1-10】

○地域の人や友人などに地域まちづくり推進委員会の活動をすすめるかという問いについては、「どちらかといえばすすめたい」(48.0%)という消極的賛成派が最も多く、「すすめたい」という積極的賛成派は34.9%となった。【P95 図表1-11】

(2) 地域自治区制度について

○地域自治区制度についての認識について、「よい取組であると思う」(80.2%)と答えた人の割合は、「よい取組と思わない」(5.0%)と答えた人の割合を大きく上回った。【P92 図表1-4】

○地域自治区制度が地域に及ぼした効果については、全項目において、効果を「感じる」と答えた人の割合が60%を超えた一方で、「住民間」および「団体間」の交流が促されていると感じる人の割合は、他項目と比較して低くなった。【P92 図表1-5】

(3) 地域コミュニティ活動交付金や今後の課題について

○地域コミュニティ活動交付金の金額について、「適当である」(39.5%)と答えた人の割合が最も高い。【P96 図表1-12】

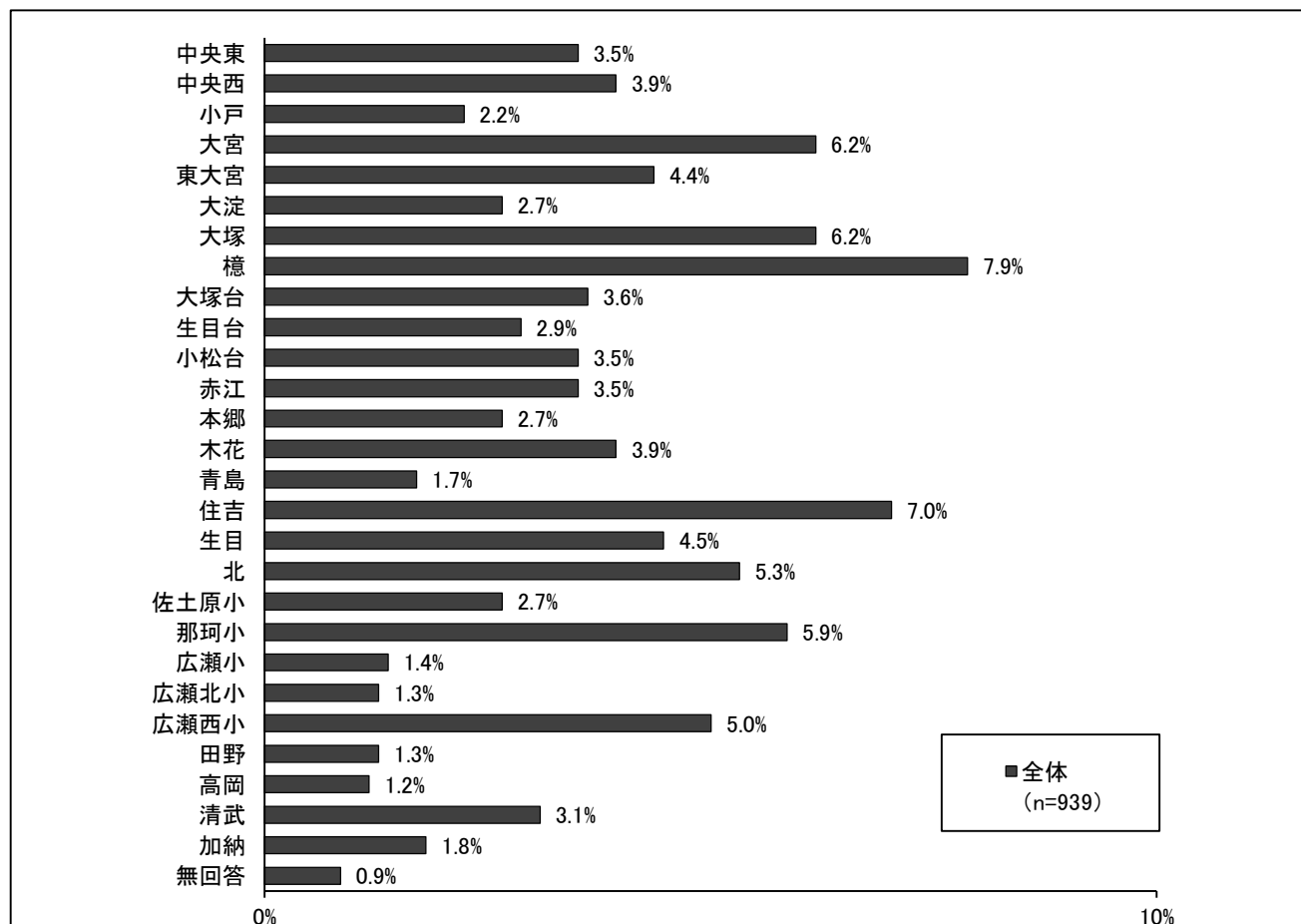
○地域まちづくり推進委員会の活動の課題について、「活動する人材の高齢化・固定化」(63.4%)に課題を抱えていると答えた人の割合が最も高い。また、「活動する人材の不足」、「地域住民の当事者意識の不足」と答えた人の割合も40%を超えた。【P96 図表1-13】

1 地域まちづくり推進委員会の活動等について

1-1 所属する地区

問1 あなたが所属する地域まちづくり推進委員会は、どちらになりますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-1 所属する地区>



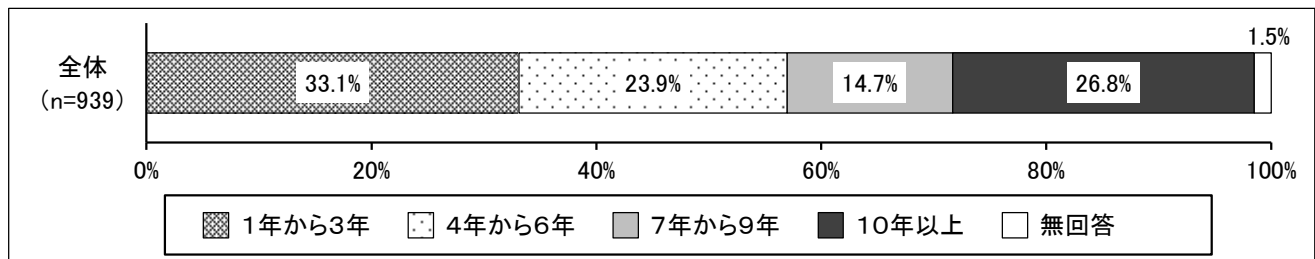
・全27地区から1地区平均34人の回答があった。

1-2 地域まちづくり推進委員会に所属している年数

◇「1年から3年」と答えた人の割合が30%を超えた

問9 問8で「ある」と回答された方は、そのきっかけはどのようなものですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-2 地域づくり推進委員会に所属している年数＞



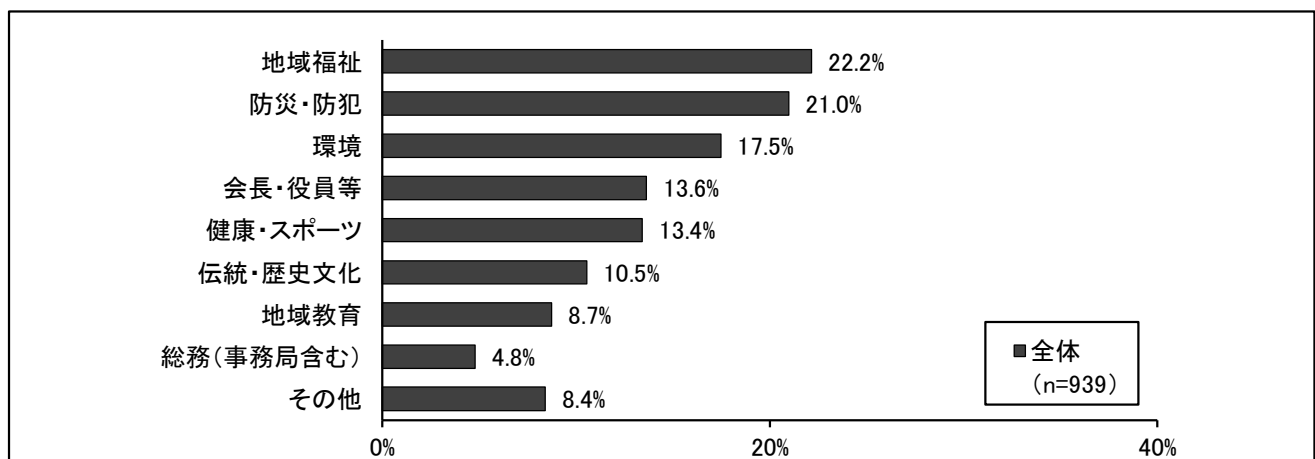
・「1年から3年」と答えた人の割合(33.1%)が最も高く、次いで「10年以上」(26.8%)となった。

1-3 所属している部会等

◇「地域福祉」、「防災・防犯」に所属していると答えた人の割合が20%を超えた

問3 あなたが所属する部会等は、どのような分野になりますか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

＜図表1-3 所属している部会等＞ ※複数回答



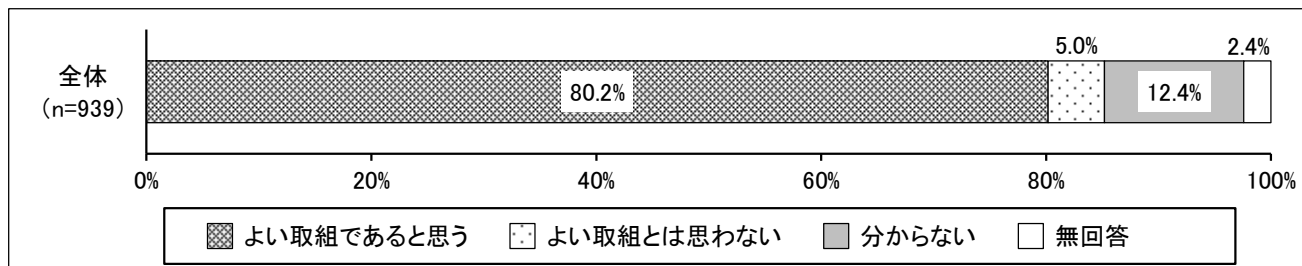
・答えた人の中で60.7%が「地域福祉」(22.2%)、「防災・防犯」(21.0%)、「環境」(17.5%)に所属している。

1-4 地域自治区制度についての認識

◇「よい取組であると思う」と答えた人の割合は80%を超えた

問4 あなたは、宮崎市の地域自治区制度（地域まちづくり推進委員会や地域協議会による住民主体のまちづくり）をどのようにお考えですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-4 地域自治区制度についての認識＞



・「よい取組であると思う」（80.2%）と答えた人の割合は、「よい取組とは思わない」（5.0%）と答えた人の割合を大きく上回った。

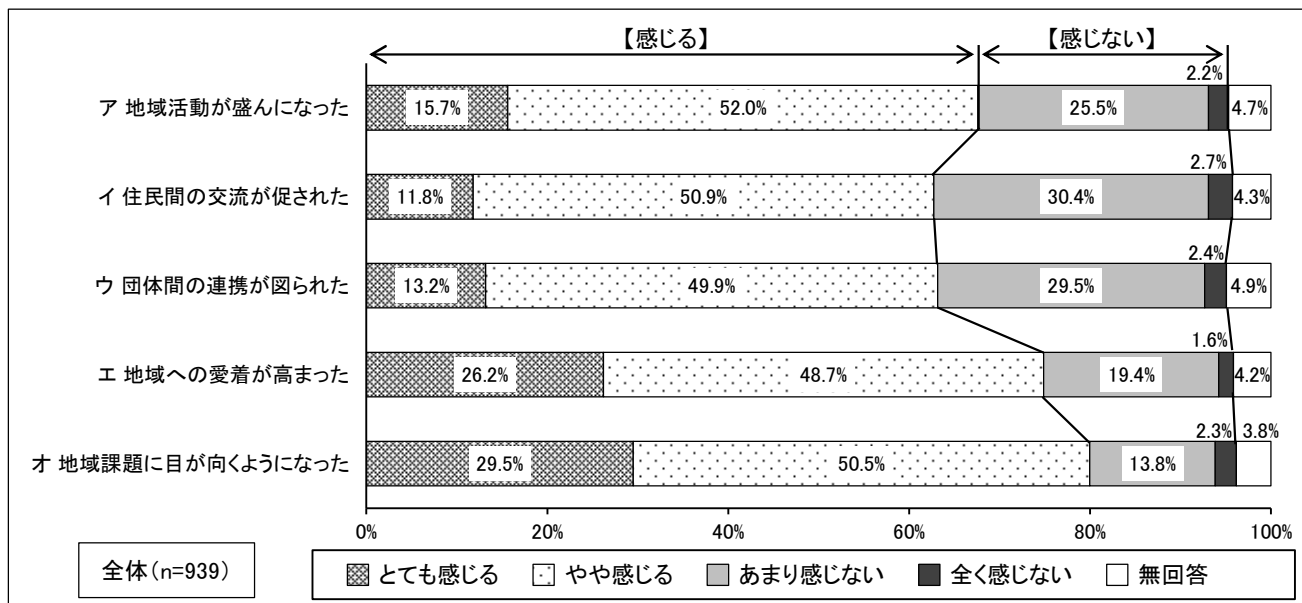
1-5 地域自治区制度が地域に及ぼした効果

◇全項目において、効果を「感じる」と答えた人の割合が60%を超えた

◇住民間の交流および団体間の連携の効果を感じていない人の割合は、他項目と比較して高い

問5 あなたは、地域自治区制度導入から17年が経過した地域の状況について、どのように感じていますか。下記のア～オのそれぞれの項目について、当てはまるものに1つずつ○をつけてください。（※単位自治会の活動を除きます。）

＜図表1-5 地域自治区制度が地域に及ぼした効果＞



・全項目において、効果を「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計：以下同じ）と答えた人の割合は60%を上回った。特に「オ 地域課題に目が向くようになった」と答えた人の割合は、80.0%と全項目の中で最も高い。

・一方、「感じない」（「全く感じない」と「あまり感じない」の合計：以下同じ）と答えた人の割合は、「イ 住民間の交流が促された」（33.1%）が最も高く、次いで「ウ 団体間の連携が図られた」（31.9%）となった。

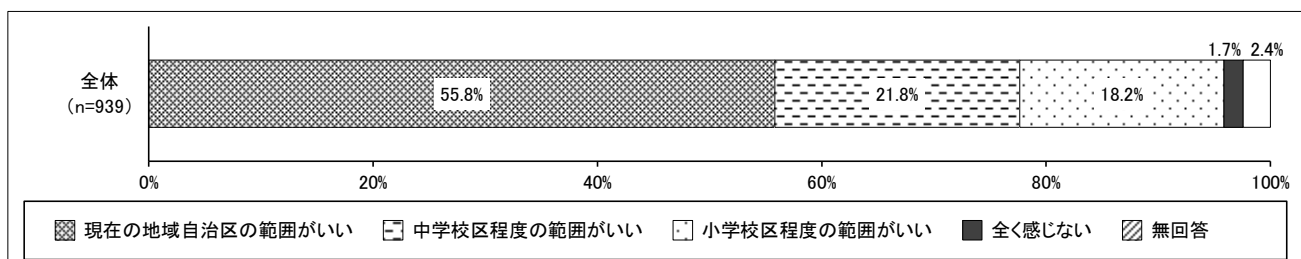
1-6 地域まちづくり推進委員会の適切な活動範囲

◇「現在の地域自治区の範囲がいい」と答えた人の割合が50%を超えた

◇「中学校区」または「小学校区」程度の範囲がいいと答えた人の割合の合計は40%となった

問6 あなたは、地域まちづくり推進委員会の活動範囲は、どのような範囲がいいと思いますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-6 地域まちづくり推進委員会の適切な活動範囲＞



- ・「現在の地域自治区の範囲」と答えた人の割合 (55.8%) が最も高く、次いで「中学校区程度の範囲」(21.8%)、「小学校区の程度の範囲」(18.2%)となった。

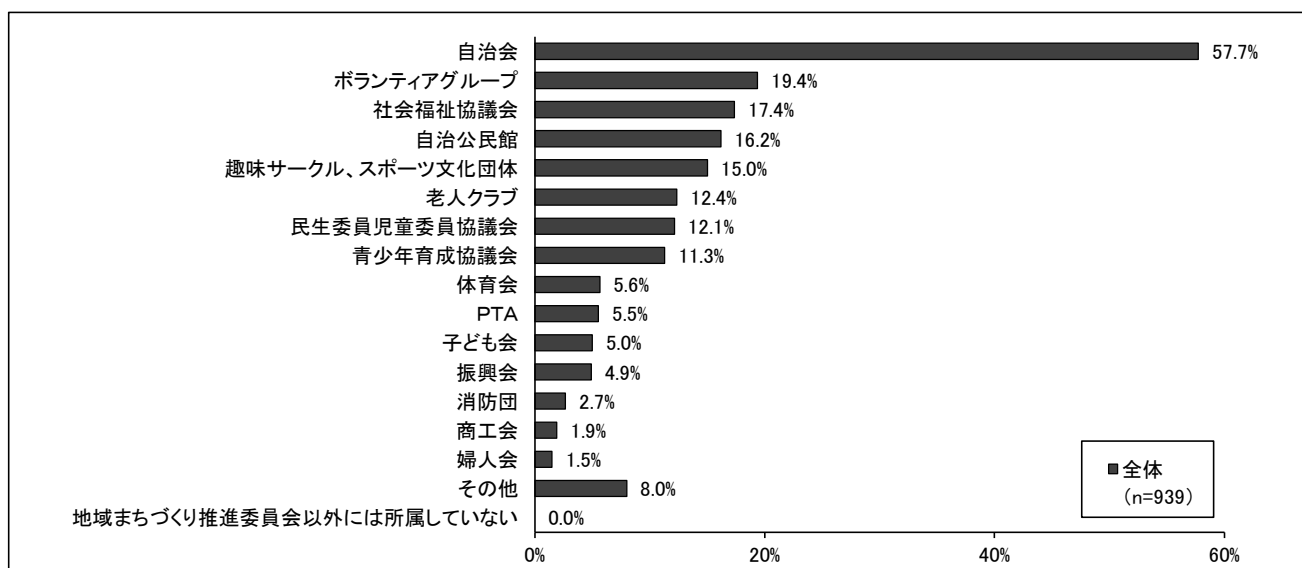
1-7 地域まちづくり推進委員会以外の地域団体等への所属の有無

◇地域まちづくり推進委員会だけに所属している人はいない

◇「自治会」に加入していると答えた人の割合は50%を超えた

問7 あなたは、地域まちづくり推進委員会以外の地域団体等に所属していますか。所属している場合、当てはまる番号全てに○をつけてください。

＜図表1-7 地域まちづくり推進委員会以外の地域団体等への所属の有無＞ ※複数回答



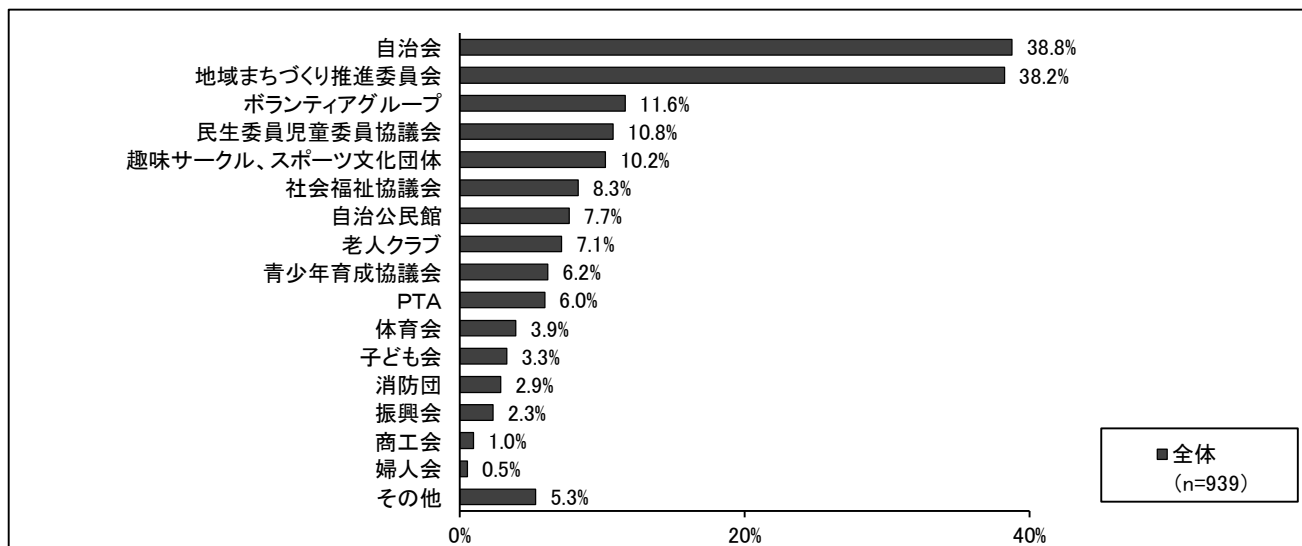
- ・「自治会」と答えた人の割合が57.7%で最も多くなった。
- ・「地域まちづくり推進委員会以外には所属していない」と答えた人はいない(=全員が他にどこかの地域団体等に所属している)。

1-8 積極的に関わっている団体

◇「自治会」と「地域まちづくり推進委員会」の2つが最も多い

問8 問7の団体のうち、あなたが積極的に関わっている団体を最大2つ記入してください。

＜図表1-8 積極的に関わっている団体＞ ※2つ以内回答



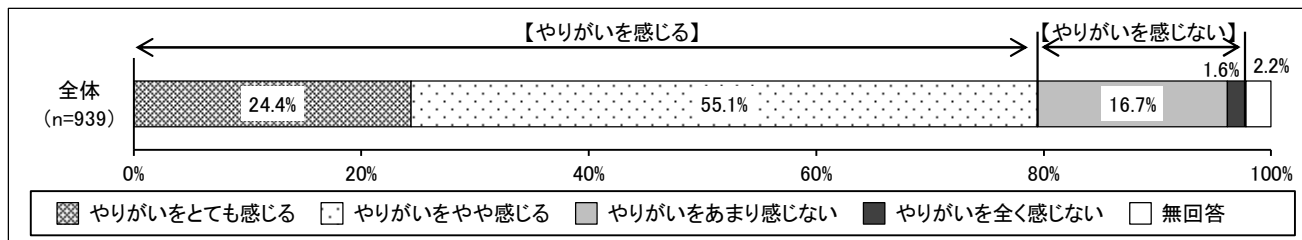
- ・「自治会」(38.8%)と「地域まちづくり推進委員会」(38.2%)の2つが最も多い。
- ・答えた人の割合が10%を超えたのは、上記2つに加えて、「ボランティアグループ」(11.6%)、「民生委員児童委員協議会」(10.8%)、「趣味サークル、スポーツ文化団体」(10.2%)となった。

1-9 地域まちづくり推進委員会の活動に関するやりがいの程度

◇「やりがいを感じる」と答えた人の割合が全体の約80%となった

問9 あなたは地域まちづくり推進委員会の活動について、どの程度やりがいを感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-9 地域まちづくり推進委員会の活動に関するやりがいの程度＞



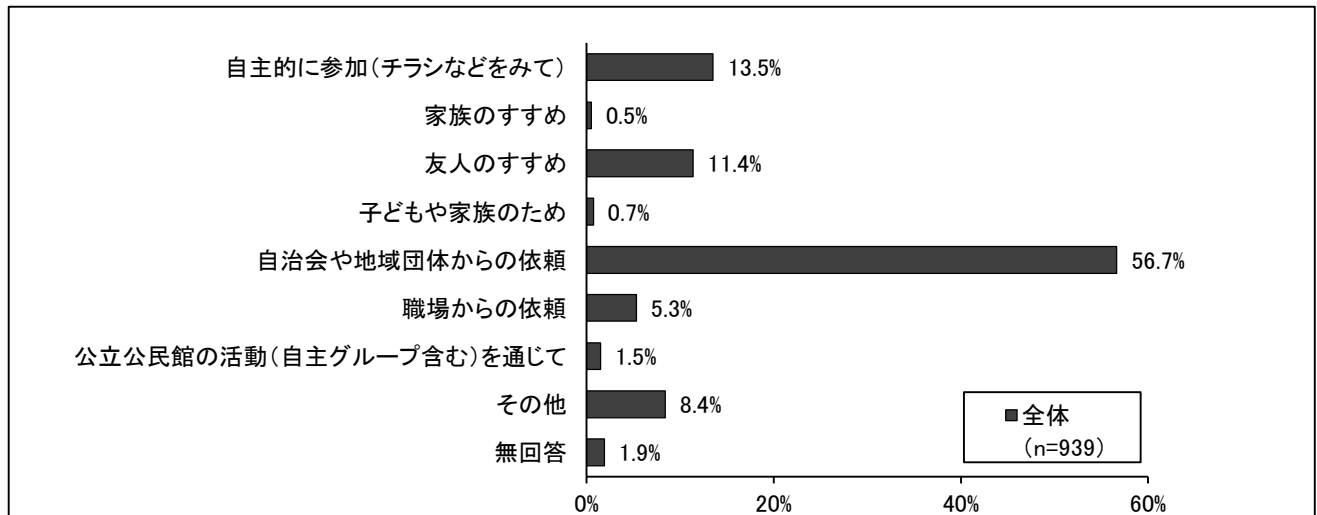
- ・「やりがいを感じる」(「やりがいをとても感じる」と「やりがいをやや感じる」の合計: 以下同じ)と答えた人の割合は79.5%となった。
- ・一方、「やりがいを感じない」(「やりがいをあまり感じない」と「やりがいを全く感じない」の合計: 以下同じ)と答えた人の割合は18.3%となった。

1-10 地域まちづくり推進委員会に加入したきっかけは何か

◇「自治会や地域団体からの依頼」と答えた人の割合が50%を超えた

問10 あなたが地域まちづくり推進委員会に加入したきっかけを教えてください。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-10 地域まちづくり推進委員会に加入したきっかけは何か＞



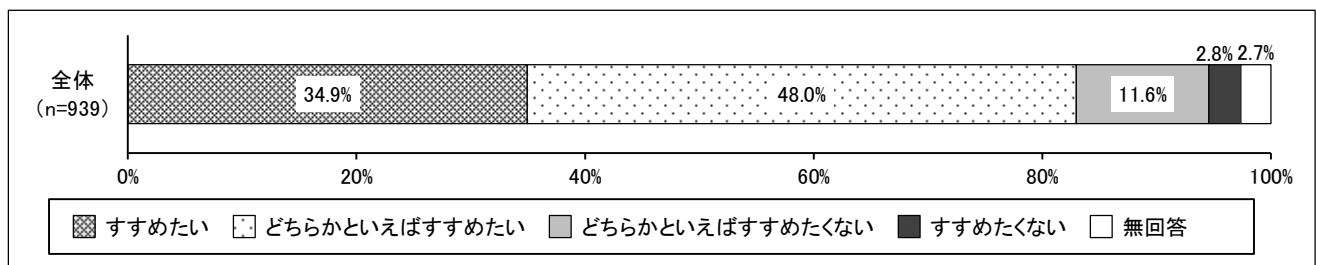
・「自治会や地域団体からの依頼」と答えた人の割合が56.7%と最も高くなった。次いで、「自主的に参加(チラシなどをみて)」(13.5%)、「友人のすすめ」(11.4%)となっており、それ以外の項目は10%を下回った。

1-11 地域の友人に地域まちづくり推進委員会の活動を促すか否か

◇「すすめたい」と答えた人の割合は約35%

問11 あなたは、地域の人や友人などに地域まちづくり推進委員会の活動をすすめたいと思いますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

＜図表1-11 地域の友人に地域まちづくり推進委員会の活動を促すか否か＞



・「どちらかといえばすすめたい」(48.0%)という消極的賛成派の割合が最も多く、「すすめたい」という積極的賛成派は34.9%となった。

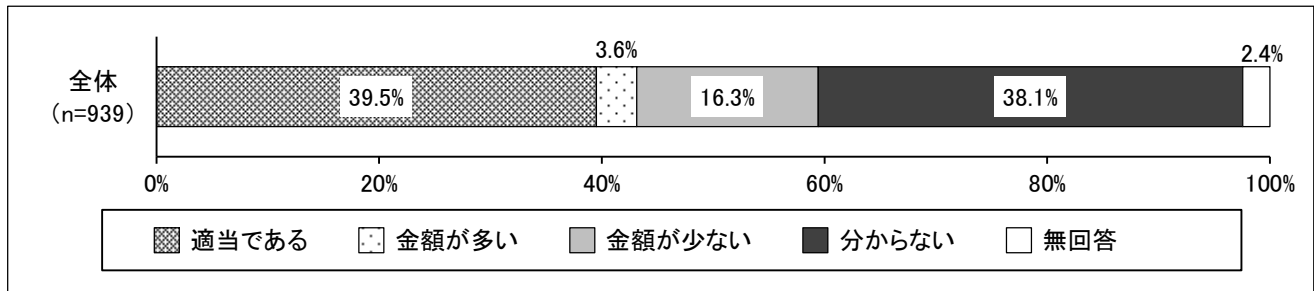
・一方、否定派(「すすめたくない」と「どちらかといえばすすめたくない」の合計)の割合は14.4%となった。

1-12 地域コミュニティ活動交付金の金額について

◇「適当である」と答えた人の割合が最も高い

問12 地域自治区の特徴を生かしたまちづくりを展開するため、その財源として、地域コミュニティ活動交付金が、地域自治区ごとに均等に配分される「均等割(3割)」と人口に応じて配分される「人口割(7割)」を基準に、地域まちづくり推進委員会に交付されていますが、あなたはその金額について、どのように感じますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

<図表1-12 地域コミュニティ活動交付金の金額について>



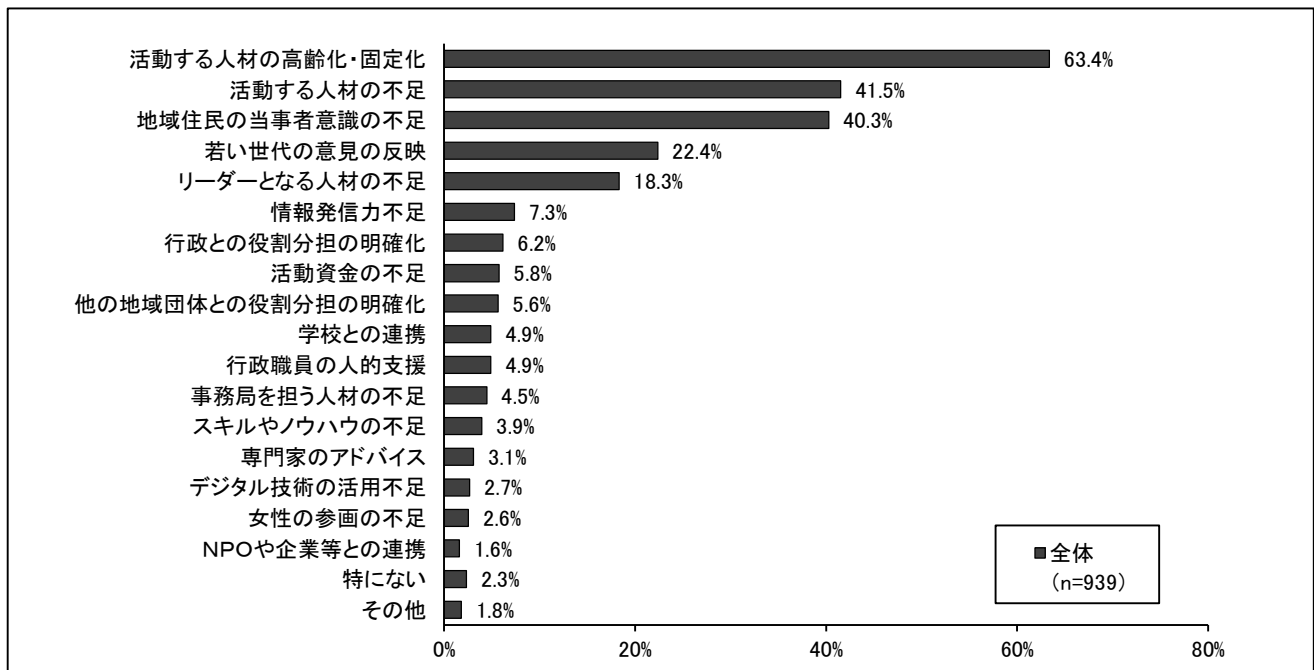
・「適当である」と答えた人の割合が39.5%で最も高く、次に「分からない」(38.1%)となった。

1-13 地域まちづくり推進委員会の活動の課題

◇「活動する人材の高齢化・固定化」を課題と感じていると答えた人の割合が最も高い

問13 あなたが、地域まちづくり推進委員会の活動を行ううえで課題と感じていることはどのようなことですか。
当てはまる番号に○(3つまで)をつけてください。

<図表1-13 地域まちづくり推進委員会の活動の課題>



・「活動する人材の高齢化・固定化」と答えた人の割合が63.4%で最も高い。次いで「活動する人材の不足」(41.5%)、「地域住民の当事者意識の不足」(40.3%)などが続いている。

問14 問13について、選択した課題を解決するには、どのような対応を行うべきと思いますか。
ご意見があればご記入ください。(自由記述)

＜主な意見を掲載＞

- ・若い世代が入りやすい環境づくり。活動を継続させるのには若い人の参加が求められる。
- ・活動する人が高齢化・固定化しており、若い世代との間にギャップがある様に思える。
- ・子どもの集まる場所に、保護者も集まって来る。こうした機会を作り、地域に関わってもらい、高齢者とも交流を持ってもらえれば、今より地域のことに興味を持ってもらえるのではないかな。
- ・若い世代の意見を頭ごなしに否定せず、耳を傾けることが地域を盛り上げるきっかけになり得るのではないかな。
- ・地域住民同士が顔を会わせられる機会が増えるとよい。
- ・あらゆる機会に、地域住民へ地域まちづくり推進委員会の活動への参加を呼びかけて行くことが必要である。
- ・地域まちづくり推進委員会の活動や役割の必要性を地域住民が理解することが大切だと感じる。
- ・自治会への加入者を増やし、自治会を土台としてまちづくり活動を行う。
- ・自治会で若い世代を育てる。

問15 あなたは、地域まちづくり推進委員会の活動に携わっている以外の方(シニア世代、現役世代、子ども達など)が、まちづくりの活動に関わってもらうためには、何が必要と考えますか。(自由記述)

＜主な意見を掲載＞

- ・活動内容の広報に力を入れたほうがよい。地域の人に認識してもらうには、子ども達の興味を引くことが一番だと感じる。目立つ広報紙、チラシの配布が効果的ではないかな。
- ・行政機関等との連携を深め、住民が多く参加できる行事・活動を展開していく。
- ・ボランティアで積極的にまちづくりに参加する人は残念ながら多くない。昨今は損得で考える風潮があるので、まちづくりに参加するメリットを行政には考えてほしい。
- ・子どもが参加したいと思うイベントなら、保護者である現役世代も参加すると思う。
- ・世代間の意見交換を積極的に行い、地域を担うリーダーの育成をする。
- ・現役世代については、勤務先の理解、協力が必要である。
- ・若い世代の意見を反映した事業の構築が必要。意見を集約する機会やノウハウを知りたい。
- ・自由に参加できるようにする。無理をしないことが長続きすることに繋がるのではないかな。
- ・学校行事との連携を増やす。
- ・自治会、学校(子供会)等を通しての行事等の連絡・宣伝活動を行ってはどうか。
- ・楽しい行事(まつり、スポーツ大会、体験教室等)に参加しやすい場所で開催する。

2 地域活動の全般について

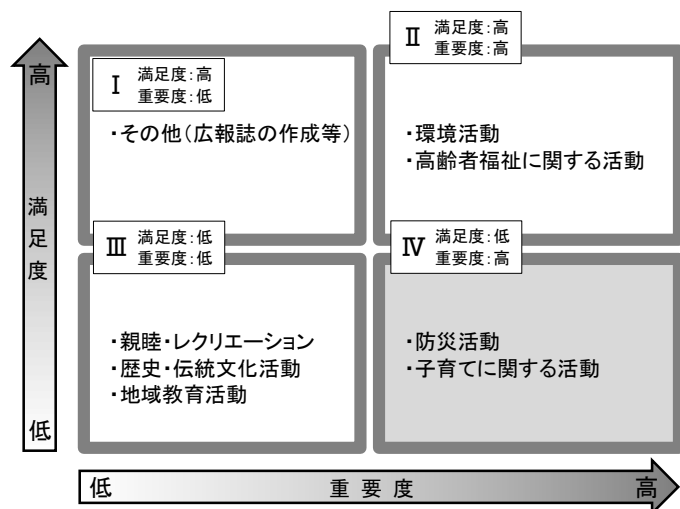
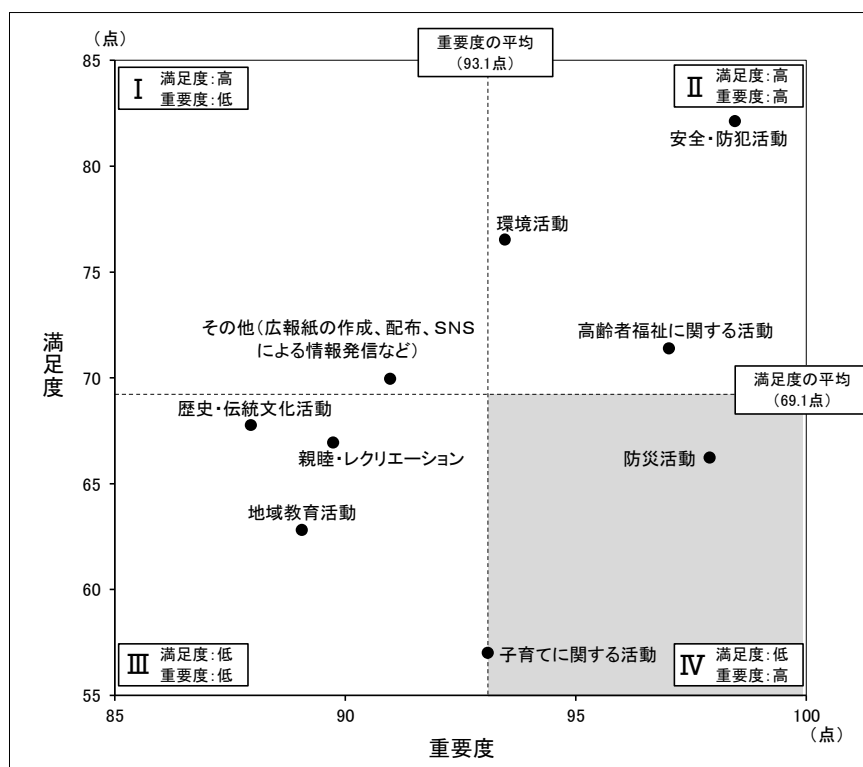
2-1 地域まちづくり推進委員会、地域の各種団体が行う活動・事業についての重要度、満足度 ～CS分析～

◇「防災活動」「子育てに関する活動」について、活動の重要度は高いが、満足していないと感じる割合が高い

※CS分析法の説明はP43参照

問16 あなたがお住まいの地域では、地域まちづくり推進委員会や地域の各種団体が、次のような活動や事業が行われていると思いますが、あなたが考える活動等のあなたが考える活動等の重要度、満足度をそれぞれの項目で当てはまるところに○をつけてください。

<図表2-1 地域まちづくり推進委員会、地域の各種団体が行う活動・事業の重要度、満足度>



	重要度 平均点	満足度 平均点
安全・防犯活動	98.4	82.1
防災活動	97.9	66.2
子育てに関する活動	93.1	57.0
高齢者福祉に関する活動	97.0	71.4
地域教育活動	89.1	62.8
環境活動	93.5	76.5
歴史・伝統文化活動	88.0	67.8
親睦・レクリエーション	89.7	66.9
その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)	91.0	70.0
全体	93.1	69.1

・活動・事業のこれまでの取組で満足度の高い分野は「II 環境活動、高齢者福祉に関する活動」「I その他(広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など)」となった。

→ 今後の取組の優先度の高い分野(IV)は「防災活動」「子育てに関する活動」となった。

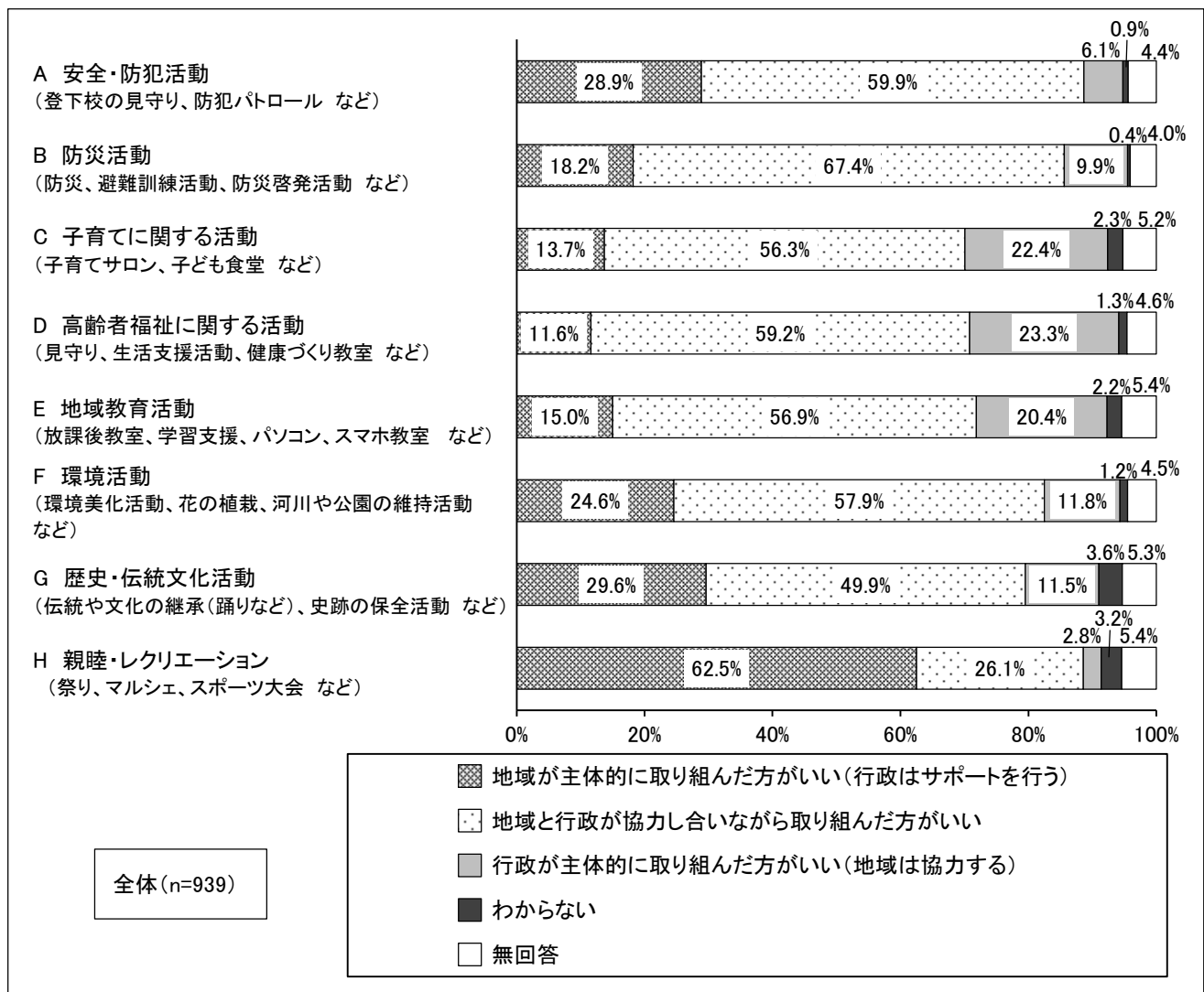
2-2 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方

◇ほとんどの地域活動は「地域と行政が協力」と答えた人の割合が50%を超えた

◇「H 親睦・レクリエーション」の項目については、「地域が主体的」と答えた人の割合が60%を超えた

問17 身近な地域課題について、地域で対応すべきか、地域と行政が協力して対応すべきか、行政が対応すべきか、次の活動について、あなたはどのように対応すべきと考えますか。それぞれ当てはまるところに○をつけてください。

＜図表2-2 身近な地域課題に対応する「地域」と「行政」のあり方＞



※ ■ 地域が主体的に取り組んだ方がいい(行政はサポートを行う)は、「地域が主体的」
 □ 地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいいは、「地域と行政が協力」
 ■ 行政が主体的に取り組んだ方がいい(地域は協力する)は、「行政が主体的」
 } と記す

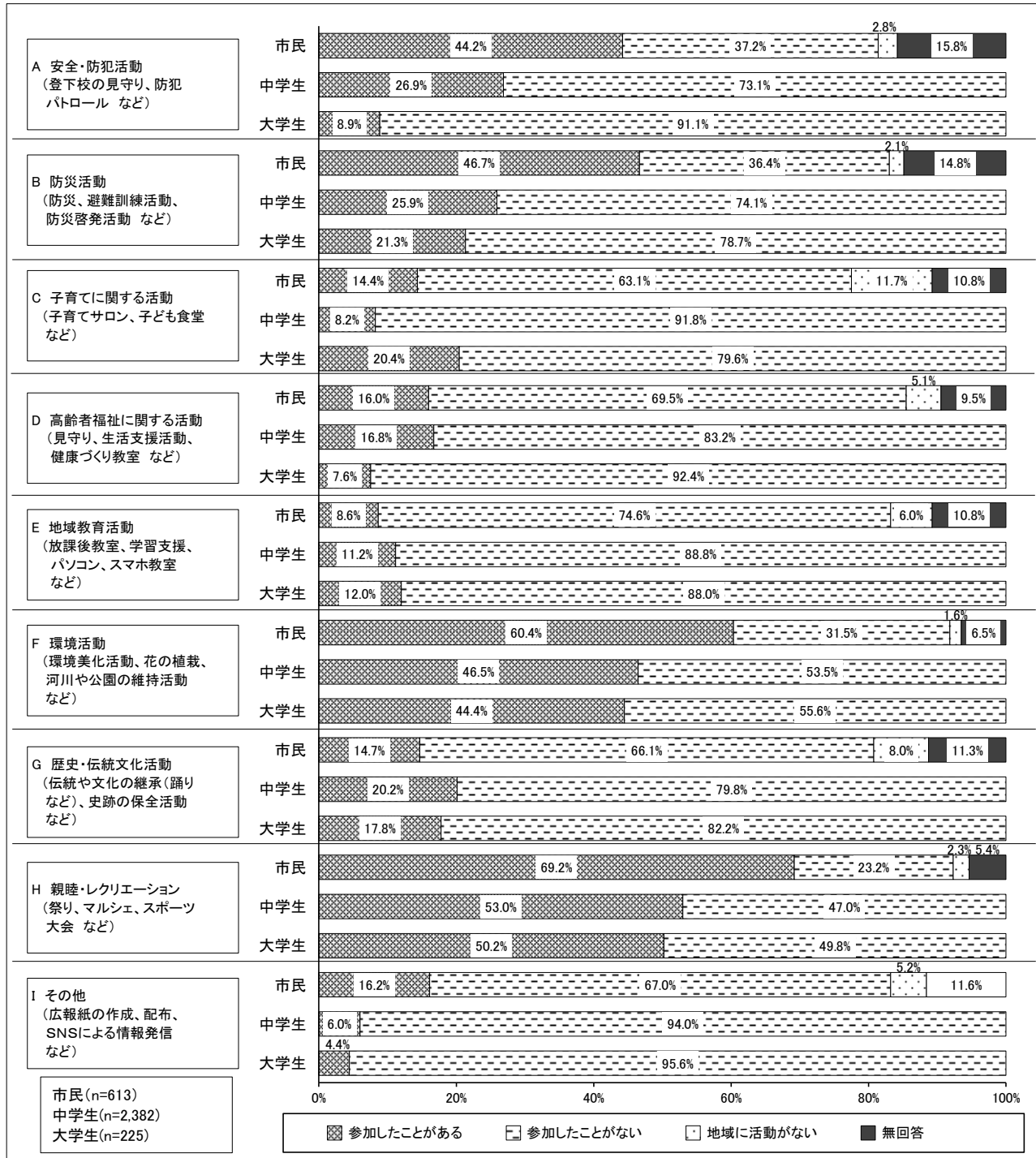
- ・ほとんどの地域活動においては、「地域と行政が協力」と答えた人の割合が50%以上となった。
- ・「地域が主体的に対応」と答えた人の割合が高い項目は、「H 親睦・レクリエーション」(62.5%)のみとなった。
- ・「行政が主体的」と答えた人の割合が20%を超えた項目は、「C 子育てに関する活動」「D 高齢者福祉に関する活動」「E 地域教育活動」となった。

Ⅶ クロス集計・分析

1 地域活動への「参加」と「不参加」＜市民 P38、中学生 P61、大学生 P68 のクロス＞

◇「参加」と答えた人の割合は、ほとんどの項目で「市民」が「中学生」・「大学生」より高い

＜図表1 地域活動への「参加」と「不参加」＞

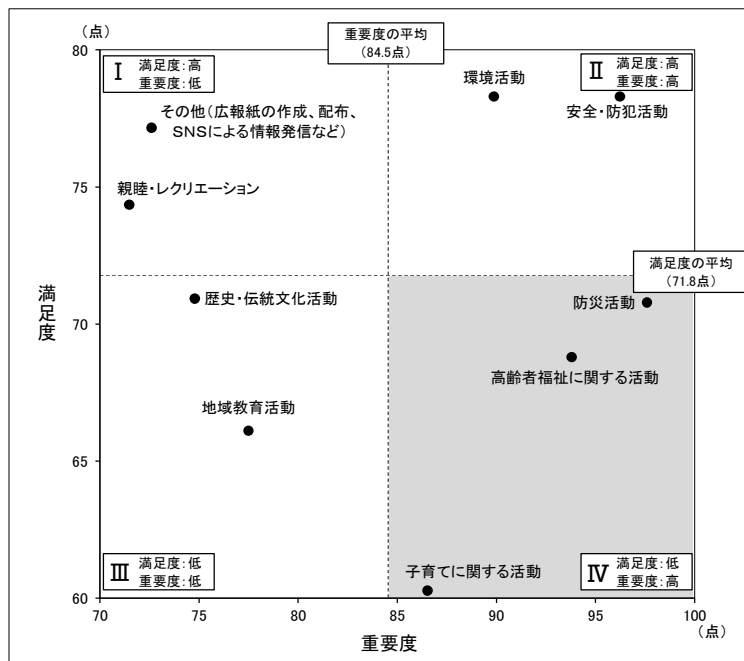


- ・「参加」と答えた人の割合は、ほとんどの項目の活動で「市民」が「中学生」・「大学生」を上回った。
- ・「中学生」と「大学生」を比較すると、中学生において「参加」と答えた人の割合は、「C 子育てに関する活動」「E 地域教育活動」以外の項目で「大学生」を上回った。
- ・「市民」「中学生」「大学生」が共通して「参加」と答えた人の割合が最も高い項目は、「H 親睦・レクリエーション」(50%以上)で、次いで「F 環境活動」となった。
- ・「市民」「中学生」「大学生」が共通して「参加」と答えた人の割合が20%を下回った項目は、「C 子育てに関する活動」「D 高齢者福祉に関する活動」「G 歴史・伝統文化活動」「I その他」となった。

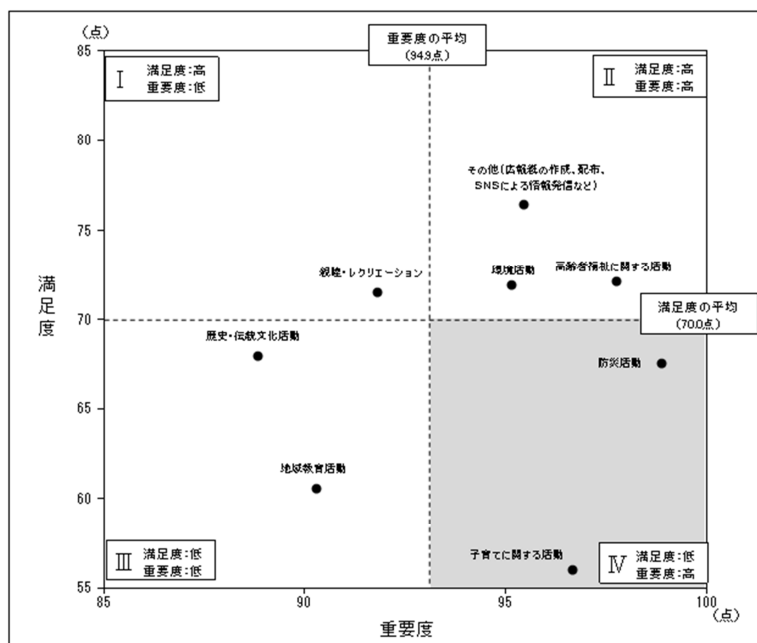
2 地域活動の重要度、満足度の比較 <市民 P44、地域協議会 P84、地域まちづくり推進委員会 P98>

◇「防災活動」と「子育てに関する活動」においては、市民・地域協議会・地域まちづくり推進委員会に共通して、活動の重要度は高いが、満足していないと感じる割合が高い

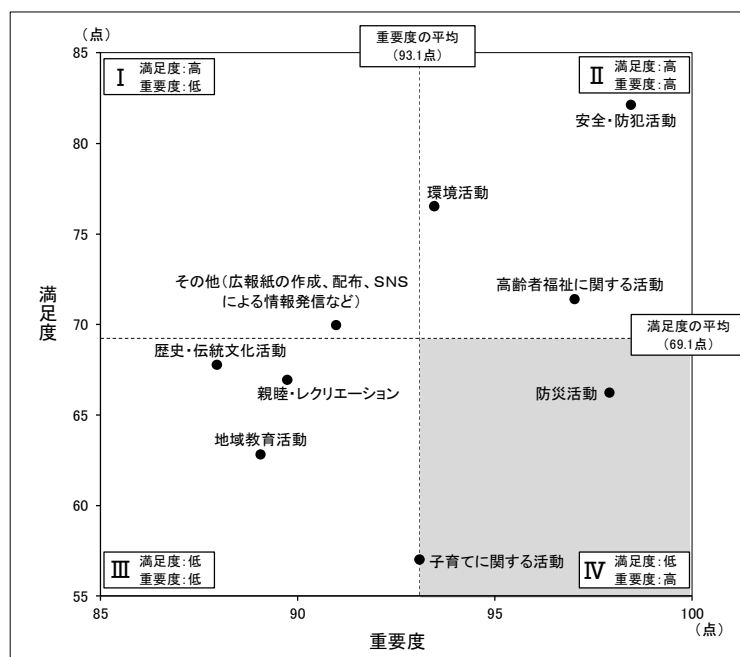
<図表2-1 地域活動の重要度、満足度の比較> (市民 再掲:P44)



<図表2-2 地域活動の重要度、満足度の比較> (地域協議会 再掲:P84)



＜図表2－3 地域活動の重要度、満足度の比較＞（地域まちづくり推進委員会 再掲：P98）

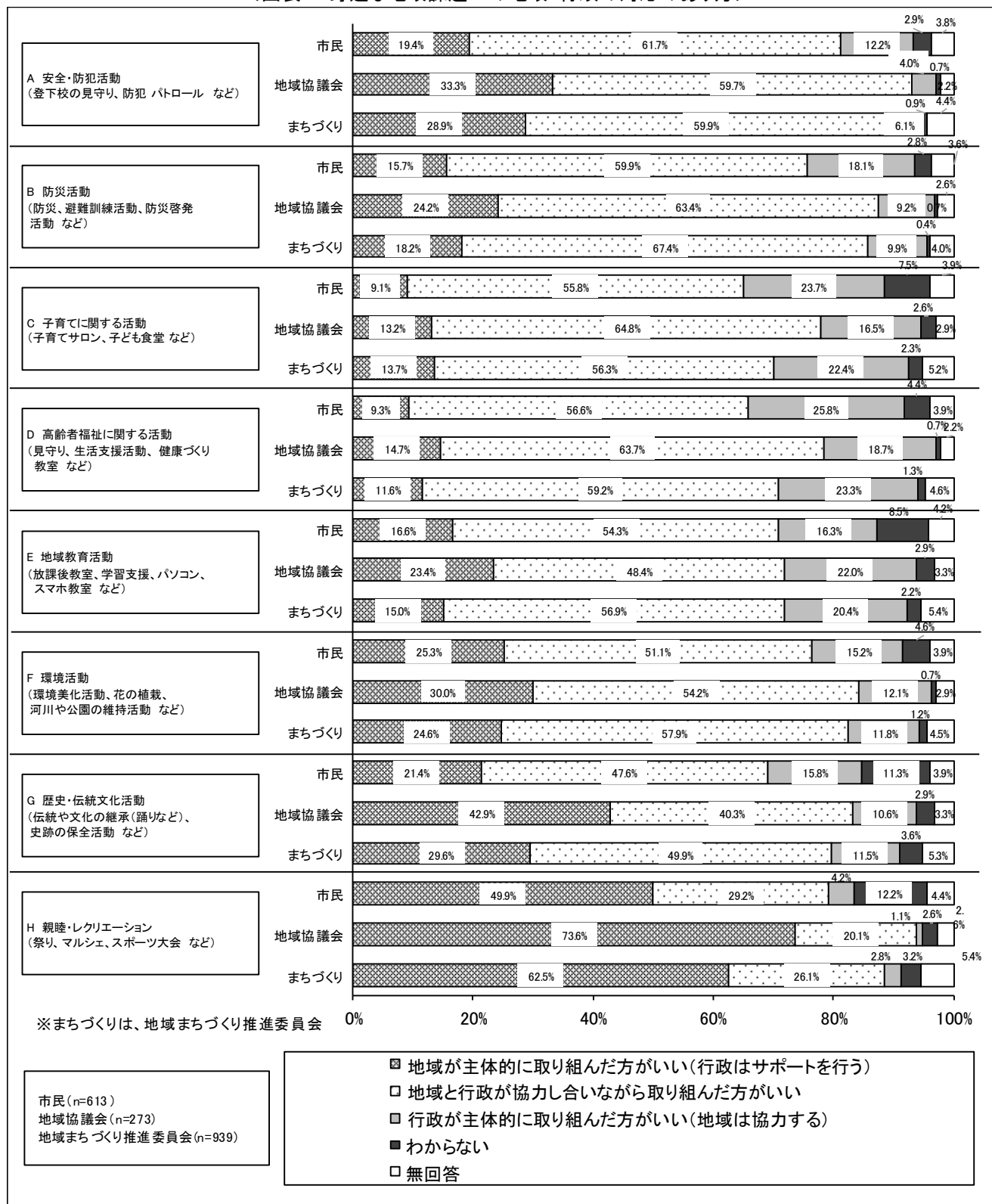


- ・「市民」「地域協議会」「地域まちづくり推進委員会」が共通して満足度の高い分野は「環境活動」と「その他（広報紙の作成、配布、SNSによる情報発信など）」となった。
- ・「市民」「地域協議会」「地域まちづくり推進委員会」に共通して、「防災活動」と「子育てに関する活動」は、活動の重要度は高いが、満足していないと感じる割合が高い。

3 身近な地域課題への地域・行政の対応のあり方

<市民 P47、地域協議会 P85、地域まちづくり推進委員会 P99>

<図表3 身近な地域課題への地域・行政の対応のあり方>



- ・「市民」「地域協議会」「地域まちづくり推進委員会」において、「地域が主体的」と答えた人の割合を比較すると、全体的に「地域協議会」の割合が高い。
- ・「市民」「地域協議会」「地域まちづくり推進委員会」において、「行政が主体的」と答えた人の割合が15%を上回った項目は、「C 子育てに関する活動」「D 高齢者福祉に関する活動」「E 地域教育活動」となった。

VIII 全体考察

(1) 地域まちづくりの仕組み(地域自治区制度、地域協議会、地域まちづくり推進委員会、地域魅力発信プラン)について

●「地域まちづくりの仕組み」全般に関する認知度

市民意識調査では、各項目とも認知度は低く、特に地域自治区制度の認知度は20%を下回るなど、制度導入から17年が経過しているが、これまで行ってきた地域まちづくりの取組が広く市民に認知されているとはいえない。

人口減少や高齢化、地域課題の多様化・複雑化など、社会環境が大きく変容する中、各地域自治区において「住民主体のまちづくり」を推進してきたが、まちづくりの活動を今後とも持続可能なものとしていくためには、制度の周知や多様な主体の参画に取り組む必要がある。

●地域協議会や地域まちづくり推進委員会が発信する情報の入手方法

市民意識調査では、「自治会の回覧板から情報を得ている」との回答が全体の約40%を占めた一方で、「見たことがない」と答えた人の割合も同様に高い結果となった。また、年代別にみると、「見たことがない」と答えた人の割合は、年代が下がるほど高くなっており、自治会の加入率(=回覧板が回ってくる世帯)と相関があると考えられる。

紙媒体だけではなく、ウェブ媒体(SNSやホームページ等)を活用した情報発信など、多様な手段を活用し、地域情報の発信に力を入れることで、認知度の向上に繋がっていく可能性がある。

(2) 地域コミュニティや地域活動について

●居住地域への愛着

市民意識調査において「愛着を感じる」と答えた人の割合は、全体で70%を上回った。これは中学生、大学生(大学生においては本市への愛着)の意識調査においても同様の傾向を示しており、若い世代から大人まで幅広い世代が地域(本市)に愛着を持ち、生活していることがわかる。

●望ましい地域(近所)との人間関係

市民意識調査では、男女別・年齢別ともに「いざという時だけでも、助け合える関係」と答えた人の割合が最も高くなった。「あいさつができる程度の顔見知りの関係」「地域の困りごとの解決」と答えた人の割合も高く、隣近所との良好な関係を望みつつ、地域と一定の関わりを持ちたいと望む人が多い結果となった。一方で、「あまり関わりたくない」という意見は、若い世代になるほど割合は高い。20代以下においては全体の約10%を占めており、今後とも、地域コミュニティの重要性について周知に努める必要がある。

●地域コミュニティの課題・現状認識

市民意識調査では、いずれの世代においても「若い世代が地域コミュニティに関わりを持ちにくい」と答えた人の割合が60%前後と高い。一方で、「自治会への加入状況」「地域団体等への加入状況」について、50代以下、特に20代以下の加入状況が低いことが分かる。地域団体等においては、人材の固定化・高齢化が課題となっており、若い世代など多様な主体が参加しやすい組織としてい

くことが重要である。

●自治会への加入状況

市民意識調査では、若い世代になるほど加入率は低い状況となっている。自治会に加入していない理由について、「自治会に加入しなくても生活に支障がない」「仕事等で忙しく活動できない」と答えた人の割合が高くなっているが、若い世代においては「自治会に入るきっかけがなかった」「自治会があることを知らなかった」と答えた人の割合が高いが、一方で、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、自治会活動への勧誘等、十分な地域活動ができなかったことが数値として現れた可能性もある。

●地域活動への参加状況

市民意識調査では、「参加したことがある」および「参加したことがない」と答えた人の割合は同程度となった。参加に至った動機として、30～50代、60代以上は「自治会や各種地域団体からの依頼」と答えた人の割合が高かった一方で、20代以下においては「家族や友人の勧め・誘い」が最も高い。

普段から親しい家族や友人など、距離の近い関係からの誘いを受け、地域活動へとゆるやかに参加していくような流れをつくることが、若い世代への参画には有効と考えられる。

●地域活動に参加しない理由

市民意識調査では、「仕事や家事等で忙しい」と答えた人の割合が最も高くなったが、「活動を知らなかった」「参加するきっかけがない」と答えた人の割合も同様に高い。「参加したいと思わない」と答えた人の割合も一定数ある。今回の調査の結果、地域活動そのものへ関与したくないと感じている人よりも、地域や近所と一定の関わりを持ちたい人の割合が高いことから、地域活動等への参加率を向上させる可能性が感じられた。地域活動を企画・運営する場合は、周知方法の改善や参加の動機付けの工夫等に努める必要がある。

(3) 地域活動の分野別の満足度と重要度

●各調査におけるCS分析結果について（※CS分析法の説明はP43参照）

地域まちづくり推進委員会、自治会、各種地域団体が実施する活動、事業について、「満足度」と「重要度」を点数化して分析した結果、「市民」「地域協議会」「地域まちづくり推進委員会」すべての意識調査に共通して、「防災活動」「子育てに関する活動」は、活動の重要度は高いが、満足度は低い結果となった。

(4) 地域活動に関する課題（地域協議会意識調査、地域まちづくり推進委員会意識調査）

●地域自治区制度について

地域協議会および地域まちづくり推進委員会を対象とした意識調査結果においては、地域自治区制度に一定の効果を感じている人の割合が高い。

●地域まちづくりに関する課題

地域まちづくりの課題は、「活動する人材の高齢化・固定化」の割合がいずれにおいても最も高い。

次いで、「活動する人材の不足」「地域住民の当事者意識の不足」などが続いている。特に、地域活動における高齢化・固定化、人材不足が大きな割合を占めており、現役世代など多世代の地域活動への参画が求められる。また同時に、住民の当事者意識の醸成も課題となっており、意識啓発の取組が必要である。

（５）地域活動の活性化の方策

本市は、行政の附属機関である地域協議会と地域まちづくりの実践組織である地域まちづくり推進委員会の取組により、「住民主体のまちづくり」を推進してきた。

しかしながら、少子高齢化や地域課題の複雑化、住民ニーズの多様化など、地域を取り巻く環境が変容する中、地域活動の担い手となる人材の固定化・高齢化や個々の団体等の組織力の低下が課題となっており、今後、持続可能な地域まちづくりの継続が難しくなることが予想される。

各意識調査においてクロス集計を行った結果、地域活動のほとんどの分野で、「地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいい」と答えた人の割合が高い結果となったが、「安全・防犯活動」「環境活動」「歴史・伝統文化活動」「親睦・レクリエーション活動」については、「地域が主体的に取り組んだほうがいい」と答えた人の割合が、「行政が主体的に取り組んだ方がいい」と答えた人の割合を上回っていた。一方で「子育てに関する活動」「高齢者福祉に関する活動については、「行政が主体的に取り組んだ方がいい」と答えた人の割合が、「地域が主体的に取り組んだほうがいい」と答えた人の割合を上回っており、地域と行政の役割分担の整理や取組の重点化が必要と考えられる。

IX 調査票

地域まちづくりに関する市民意識調査のお願い

日頃から、宮崎市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、平成18年1月の合併を契機に市民の声を市政に反映させる地域自治区制度を導入し、地域のまちづくりを推進しています。

現在、22の地域自治区における地域協議会や27の地域まちづくり推進委員会（※）を中心として、地域各種団体等の皆様の取組により、住民主体のまちづくりは着実に進展してまいりました。

一方で、地域自治区制度の導入から17年が経過し、人口減少や高齢化、地域課題の複雑化など社会環境が大きく変容しており、今後も様々な変化が予想されます。

そこで、これまでのまちづくりの取組を点検したうえで、持続可能な地域まちづくりを推進し、さらに良いものとしていくために、市民の皆様のご意見等を参考にしたいと考えています。

ご回答いただいた内容は、上記以外の目的には使用いたしません。また、無記名でご回答いただくため、回答者個人が特定されることもありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところとは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年3月

宮崎市長 清山 知憲

※地域まちづくり推進委員会の名称は、「地区振興会」「まちづくり委員会」「地域づくり協議会」「地域づくり推進委員会」「まちづくり協議会」など、各地域で異なります。

【回答方法に関するお願い】

以下のいずれかの方法にて、回答をお願いします。

① 紙による回答をする場合

アンケートの記入がお済みになりましたら、返信用封筒にて郵送をお願いします。

令和5年3月29日（水）までに、郵便ポストに投函をお願いします。（切手不要）

② スマートフォン等で回答をする場合

下のQRコードをカメラ機能で読み取り、アンケートに入力をお願いします。

令和5年3月29日（水）までに、入力をお願いします。

【URL】 <https://logoform.jp/form/HxnK/215658>

【QRコード】



<お問い合わせ先>

宮崎市地域振興部地域コミュニティ課

107 電話 0985-21-1714

1 地域のまちづくりの仕組み「地域自治区制度」について

問1 あなたは、平成18年1月から宮崎市が導入している「地域自治区制度」（地域住民の声を市政に反映させる仕組み）をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問2 あなたは、どちらの地域自治区にお住まいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|--------|-------|-------|--------|----------|-------|
| 1 中央東 | 2 中央西 | 3 小戸 | 4 大宮 | 5 東大宮 | 6 大淀 |
| 7 大塚 | 8 櫛 | 9 大塚台 | 10 生目台 | 11 小松台 | 12 赤江 |
| 13 本郷 | 14 木花 | 15 青島 | 16 住吉 | 17 生目 | 18 北 |
| 19 佐土原 | 20 田野 | 21 高岡 | 22 清武 | 23 分からない | |

→ 地域自治区名と住所一覧はP10（最終ページ）に添付してあります。

2 地域協議会について

問3 各地域自治区には、地域住民の意見を市政に反映させるための協議組織である「地域協議会」が設置されています。あなたは、地域協議会をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1 役割まで知っている | 2 役割などは知らないが聞いたことがある |
| 3 聞いたことがない | |

問4 各地域自治区では、地域協議会が主体となって、地域の将来像を明確にするため、「地域魅力発信プラン」（地域まちづくりの計画）を作成しています。
あなたは、お住まいの地域の「地域魅力発信プラン」をご存知ですか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問5 地域協議会では、会議の内容や決定事項などを住民の方にお知らせしていますが、ご覧になったことがありますか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 地域協議会だより | 2 地域まちづくり推進委員会の広報紙 |
| 3 自治会の回覧板 | 4 地域団体等のSNSやホームページ |
| 5 見たことがない | |

3 地域まちづくり推進委員会について

問6 各地域自治区には、地域協議会と連携してまちづくり活動に取り組む「地域まちづくり推進委員会（※）」が組織されています。あなたは、地域まちづくり推進委員会をご存知ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※地域によっては、地区振興会、まちづくり委員会、地域づくり協議会、地域づくり推進委員会、まちづくり協議会などの名称で組織されています。

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 活動内容まで知っている | 2 活動内容は知らないが聞いたことがある |
| 3 聞いたことがない | |

問7 あなたは、地域まちづくり推進委員会が行う行事などに参加したことがありますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

※地域まちづくり推進委員会が実施する事業等

防災訓練や環境美化（花の植栽など）、祭りや文化芸能などのイベント、高齢者や子育て世代の居場所づくり、スポーツ大会、健康教室など

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 運営する側として参加したことがある | 2 地域住民として参加したことがある |
| 3 参加したことがない | 4 その他（ ） |

問8 あなたは、地域まちづくり推進委員会が発行する広報紙やチラシなどをご覧になったことがありますか。ご覧になったことがある番号全てに○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------|-----------|
| 1 広報紙 | 2 イベントなどのチラシ | 3 自治会の回覧板 |
| 4 ホームページ | 5 SNS | 6 見たことがない |
| 7 その他（ ） | | |

4 お住まいの地域コミュニティや活動について

<住んでいる地域の状況について>

問9 あなたは、お住まいの地域に愛着を感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|----------|---------|-----------|----------|
| 1 とても感じる | 2 やや感じる | 3 あまり感じない | 4 全く感じない |
|----------|---------|-----------|----------|

問 14 あなたは、地域で活動する地域団体等に参加していますか。当てはまる番号全てに○をつけてください。（自治会を除く。）

- | | | |
|-------------------|----------------|-----------|
| 1 地域協議会 | 2 地域まちづくり推進委員会 | 3 自治公民館組織 |
| 4 子ども会 | 5 老人クラブ | 6 PTA |
| 7 趣味サークル、スポーツ文化団体 | 8 ボランティアグループ | |
| 9 加入していない | 10 その他（ | ） |

問 15 あなたは、自治会や地域まちづくり推進委員会などの各種地域団体等が実施する地域活動に参加したことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。
※地域活動・・・自治会活動、地域まちづくり推進委員会の活動、地域の清掃や地域での防災訓練、運動会やスポーツ大会、子ども会活動、PTA 活動、祭りなど

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 参加したことがある →問 16 へ | 2 参加したことがない →問 18 へ |
|---------------------|---------------------|

問 16 問 15 で「1 参加したことがある」に○をつけた方におうかがいします。
あなたが、地域活動に参加したきっかけや動機は何ですか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|---------------|-------------|
| 1 自主的に参加 | 2 家族や友人の勧め・誘い | 3 子どもや家族のため |
| 4 自治会や各種地域団体からの依頼 | 5 職場からの依頼 | |
| 6 その他（ | | ） |

問 17 問 15 で「1 参加したことがある」に○をつけた方におうかがいします。
あなたの地域活動への参加頻度について、別表 1 のそれぞれの項目で当てはまる番号に○をつけてください。

別表 1	問 17				
	何度も参加	数回程度参加	一度だけ参加	参加したことがない	地域に活動がない
（記入例）安全・防犯活動	1	2	3	4	5
安全・防犯活動 〔・登下校の見守り ・防犯パトロール など〕	1	2	3	4	5
防災活動 〔・防災、避難訓練活動 ・防災啓発活動 など〕	1	2	3	4	5

別表1	問17				
	何度も参加	数回程度参加	一度だけ参加	参加したことがない	地域に活動がない
子育てに関する活動 〔・子育てサロン、子ども食堂 など〕	1	2	3	4	5
高齢者福祉に関する活動 〔・見守り、生活支援活動 ・健康づくり教室 など〕	1	2	3	4	5
地域教育活動 〔・放課後教室、学習支援 ・パソコン、スマホ教室 など〕	1	2	3	4	5
環境活動 〔・環境美化活動、花の植栽 ・河川や公園の維持活動 など〕	1	2	3	4	5
歴史・伝統文化活動 〔・伝統や文化の継承（踊りなど） ・史跡の保全活動 など〕	1	2	3	4	5
親睦・レクリエーション 〔・祭り、マルシェ ・スポーツ大会 など〕	1	2	3	4	5
その他 〔・広報紙の作成、配布 ・SNSによる情報発信 など〕	1	2	3	4	5

問18 問15で「2 参加したことがない」に○をつけた方におうかがいします。

あなたが、地域活動に参加しない（できない）理由は何ですか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

- | | | |
|--------------------------|---------------|--------------|
| 1 活動を知らなかった | 2 参加したいと思わない | 3 仕事や家事等で忙しい |
| 4 活動に参加しなくても生活に支障がない | 5 いずれ転居する | |
| 6 自分や家族のプライベートの時間を大切にしたい | 7 参加するきっかけがない | |
| 8 自治会、各種地域団体に加入していない | | |
| 9 その他（ | | ） |

問 19 あなたの住まいの地域の自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体が行う別表2の活動・事業について、あなたが考える活動等の重要度、満足度をそれぞれの項目で当てはまる番号に○をつけてください。

別表2	問19-1 重要度				問19-2 満足度			
	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	満足・十分である	やや満足である	やや不満である	不満・不十分である
(記入例) 安全・防犯活動	1	②	3	4	1	2	③	4
安全・防犯活動 〔・登下校の見守り ・防犯パトロール など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
防災活動 〔・防災、避難訓練活動 ・防災啓発活動 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
子育てに関する活動 〔・子育てサロン、子ども食堂 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
高齢者福祉に関する活動 〔・見守り、生活支援活動 ・健康づくり教室 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
地域教育活動 〔・放課後教室、学習支援 ・パソコン、スマホ教室 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
環境活動 〔・環境美化活動、花の植栽 ・河川や公園の維持活動 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
歴史・伝統文化活動 〔・伝統や文化の継承（踊りなど） ・史跡の保全活動 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
親睦・レクリエーション 〔・祭り、マルシェ ・スポーツ大会 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4
その他 〔・広報紙の作成、配布 ・SNSによる情報発信 など〕	1	2	3	4	1	2	3	4

<地域活動の活性化の方策について>

問 20 身近な地域課題について、地域で対応すべきか、地域と行政が協力して対応すべきか、行政が対応すべきか、別表3の活動について、あなたはどのよう対応すべきと考えますか。それぞれ当てはまる番号に○をつけてください。

別表3	地域が主体的に取り組んだ方がいい (行政はサポートを行う)	地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいい	行政が主体的に取り組んだ方がいい (地域は協力する)	わからない
(記入例) ○○活動	①	2	3	4
安全・防犯活動	1	2	3	4
防災活動	1	2	3	4
子育てに関する活動	1	2	3	4
高齢者福祉に関する活動	1	2	3	4
地域教育活動	1	2	3	4
環境活動	1	2	3	4
歴史・伝統文化活動	1	2	3	4
親睦・レクリエーション	1	2	3	4

問 21 あなたは、自治会、地域まちづくり推進委員会、各種地域団体の活動に携わっている以外の方が、まちづくりの活動に関わってもらうためには、何が必要と考えますか。(自由記述)

問 22 あなたは、地域の活性化にあたりどのような取組が必要と考えますか。ご意見がございましたら、ご自由に記入ください。

5 あなた自身について

問 23 あなたの年代について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | | | |
|----------|----------|--------|--------|--------|
| 1 19 歳以下 | 2 20 代 | 3 30 代 | 4 40 代 | 5 50 代 |
| 6 60 代 | 7 70 代以上 | | | |

問 24 あなたの性別について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|------|------|----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 答えたくない |
|------|------|----------|

問 25 あなたの今住んでいる地域（家）の居住年数について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|------------|-------------|----------|
| 1 5 年以内 | 2 6 年～10 年 | 3 11 年～14 年 | 4 15 年以上 |
|---------|------------|-------------|----------|

問 26 あなたの家族構成について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | | | |
|------|------|------------|------------|-------|
| 1 単身 | 2 夫婦 | 3 親子（2 世代） | 4 親子（3 世代） | 5 その他 |
|------|------|------------|------------|-------|

問 27 あなたの世帯の同居家族について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | |
|-------------------------|
| 1 18 歳以下の同居家族あり →問 28 へ |
| 2 18 歳以下の同居家族なし →問 29 へ |

問 28 問 27 で「1 18 歳以下の同居家族あり」に○をつけた方におうかがいします。
同居家族について、当てはまる番号全てに○をつけてください。

- | | | | | |
|--------|------------|-------|-------|-------|
| 1 未就園児 | 2 保育園・幼稚園児 | 3 小学生 | 4 中学生 | 5 高校生 |
| 6 その他（ | | | | ） |

問 29 あなたの職業について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------|------------|
| 1 自営業・会社経営 | 2 会社員 | 3 公務員・団体職員 |
| 4 パート・アルバイト員 | 5 学生 | 6 専業主婦（夫） |
| 7 無職（年金生活者含む） | 8 その他（ | ） |
| 9 答えたくない | | |

問 30 あなたの職場や学校等への通勤・通学時間について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|---------------|---|-------------|---|-------------|
| 1 | 0 分（在宅学習・勤務等） | 2 | 15 分未満 | 3 | 15 分～30 分未満 |
| 4 | 30 分～45 分未満 | 5 | 45 分～60 分未満 | 6 | 60 分以上 |

問 31 あなたが通勤や通学、買い物等の日常生活で、主に利用する移動手段について、当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

- | | | | |
|---|--------------|---|--------------|
| 1 | 自家用車（ご自身で運転） | 2 | 自家用車（家族等が運転） |
| 3 | バイク・原付 | 4 | 自転車 |
| 5 | バス | 6 | タクシー |
| 7 | 電車 | 8 | 徒歩 |
| 9 | その他（ | | ） |

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

地域自治区の区域一覧

地域自治区		区域
1	中央東	橘通東 橘通西 松山 川原町 旭 宮田町 別府町 広島 老松 瀬頭 錦本町 錦町 江平東 江平町 江平中町 江平東町 高千穂通 丸島町 江平西 権現町 北権現町 柳丸町 青葉町 下原町 大和町 堀川町 吾妻町 瀬頭町 宮崎駅東2～3丁目
2	中央西	清水 大橋 和知川原 西池町 原町 花殿町 中津瀬町 丸山 船塚 霧島 祇園
3	小戸	大工 鶴島 松橋 末広 元宮町 高松町 西高松町 南高松町 北高松町 千草町 中央通 上野町
4	大宮	池内町 南方町 平和が丘東町 平和が丘西町 平和が丘北町 下北方町 花ヶ島町 南花ヶ島町 神宮西 矢の先町 神宮 神宮町 神宮東
5	東大宮	大島町 波島 東大宮 村角町 桜町
6	大淀	大淀 東大淀 太田 中村東 中村西 南町 淀川 谷川 谷川町 天満 天満町 京塚 京塚町 大坪東 大坪西 大坪町 花山手東 花山手西 福島町 福島町1～3丁目 古城町 北川内町 源藤町 薫る坂
7	大塚	大塚町 江南
8	檉	山崎町 阿波岐原町 新別府町 昭栄町 新栄町 稗原町 吉村町 浮城町 新 城町 曾師町 宮脇町 浄土江町 昭和町 永楽町 潮見町 大王町 出来島町 前原町 中西町 高洲町 一の宮町 日ノ出町 田代町 小戸町 港 港東 宮崎駅東1丁目
9	大塚台	大塚台東 大塚台西
10	生目台	生目台東 生目台西
11	小松台	小松台北町 小松台東 小松台西 小松台南町 桜ヶ丘町
12	赤江	大字恒久 恒久 恒久南 城ヶ崎 宮の元町 大字田吉の一部 大字赤江の一部 月見ヶ丘 大字本郷北方の一部 大字本郷南方の一部
13	本郷	大字田吉の一部 大字赤江の一部 大字本郷北方の一部 大字本郷南方の一部 希望ヶ丘 本郷 大字郡司分 東宮 まなび野
14	木花	大字熊野 大字加江田 大字鏡洲 学園木花台西 学園木花台北 学園木花台南 学園木花台桜
15	青島	青島 青島西 大字折生迫 大字内海
16	住吉	大字芳土 大字新名爪 大字島之内 大字広原 大字塩路
17	生目	大字浮田 大字生目 大字長嶺 大字細江 大字富吉 大字有田 大字柏原 大字跡江 大字小松
18	北	大字上北方 大字瓜生野 大字大瀬町 大字糸原 大字金崎 大字吉野 大字堤内
19	佐土原	佐土原町下田島 佐土原町下那珂 佐土原町上田島 佐土原町東上那珂 佐土原町西上那珂 佐土原町下富田 佐土原町伊倉 佐土原町石崎 佐土原町松小路
20	田野	田野町 田野町あけぼの 田野町南原
21	高岡	高岡町飯田 高岡町内山 高岡町浦之名 高岡町小山田 高岡町上倉永 高岡町紙屋 高岡町五町 高岡町下倉永 高岡町高浜 高岡町花見 高岡町飯田
22	清武	清武町加納 清武町池田台 清武町池田台北 清武町加納 清武町あさひ 清武町船引 清武町正手 清武町今泉 清武町木原 清武町新町 清武町西新町 清武町岡

地域のまちづくりのための中学生アンケート調査のお願い

中学生のみなさん、こんにちは。

さて、このたび、宮崎市では、みなさんが住んでいる地域をよりよくしていくために、どんなことを地域の皆さんと行っていくかを検討することになりました。

このアンケートは、宮崎市立中学2年生の皆さんにご意見をお聞きし、参考にするために行うものです。

これからの宮崎市の地域まちづくりについて、次の世代を担う皆さんと一緒に考えていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

令和5年2月

宮崎市長 清山 知憲

【回答にあたってのお願い】

※回答には、番号に○をつけて選ぶものと、意見を入力してもらうものがあります。

※アンケート結果を公表する場合がありますが、個人が特定されることはありませんので、自由に意見を入力してください。

今回の調査は、インターネットによる調査となります。
タブレット等のカメラ機能で、下の QR コードを読み取り、
アンケートフォームに入力をお願いします。



＜お問い合わせ先＞

宮崎市地域振興部

地域コミュニティ課

電話 0985-21-1714

1 あなたが住んでいる地域についてお聞きします。

問1 あなたは、あなたが今住んでいる地域は、好きですか。当てはまる項目を1つ選択してください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

- 理由

問2 あなたは、将来、大人になって、住んでいる地域で暮らしたいと思いますか。当てはまる項目を1つ選択してください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

- 理由

2 あなたが住んでいる地域の活動についてお聞きします。

問3 地域には、同じ地域に住んでいる人たちが、生活する中で、お互いに助けあったり、
支えあったり、交流したりして、よりよい地域をつくるため、たくさんの団体や組織
があることを知っていますか。あなたが知っている団体等について当てはまる項目を
1つ選んでください。

- 5 その他 ()

次のページへお進みください。

問4 あなたが、これまで参加（ボランティアでの参加も含む）したことのある地域の活動（住んでいる地域で、自治会やPTAなどの方が実施している活動）について、それぞれの項目で当てはまる項目を選択してください。

項 目	参加したことがある	参加したことがない
安全・防犯活動 (安全・防犯活動の例：地域での交通安全教室など)		
防災活動 (防災活動の例：地域での避難訓練、防災かまどベンチの作成や活用など)		
子育てに関する活動 子育てに関する活動の例：子ども食堂、子育てしている保護者の集まりなど		
高齢者福祉に関する活動 高齢者福祉に関する活動の例：地域の敬老会や高齢者サロンの手伝いなど		
地域教育活動 地域教育活動の例：地域の大人や大学生、高校生が教える勉強会など		
環境活動 環境活動の例：地域での清掃活動や花植え活動、リサイクル活動、自然体験学習など		
歴史・伝統文化活動 歴史・伝統文化活動の例：地域の伝統芸能の舞いや楽器演奏の披露など		
親睦・レクリエーション 親睦・レクリエーションの例：地域の祭りや文化祭、運動会（学校の行事を除く）など		
その他（ ）		

問5 問4のような地域活動について、参加ではなく、活動を運営する側としてボランティア（お手伝い）として、活動にかかわった経験はありますか。当てはまる項目を1つ選択してください。

1 ある 2 ない

次のページへお進みください。

問6 問5で「1ある」と回答された方は、そのきっかけはどのようなものですか。当てはまる項目を1つ選択してください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 自ら進んで | 2 友達からの誘い（すすめ） |
| 3 学校や先生からのお願い（すすめ） | 4 先輩からの誘い（すすめ） |
| 5 家族からの誘い（すすめ） | 6 地域の方からの誘い（すすめ） |
| 7 その他（ ） | |

問7 あなたは、どんな地域活動をやってみたいと思いますか。ご自由に記入してください。

--

問8 あなたは、住んでいる地域の人口が増えたり、賑やか^{にぎ}になったり、安心して生活ができるなど、まちがよくなるためのアイデアがあれば、ご自由に書いてください。

--

3 最後にあなたご自身についてお伺いします。

問9 あなたが所属する中学校名について、当てはまる項目を1つ選択してください。

- | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|------|
| 1 宮崎東 | 2 宮崎 | 3 宮崎西 | 4 大淀 | 5 大宮 | 6 檜 | 7 赤江 | 8 木花 | 9 青島 |
| 10 宮崎北 | 11 住吉 | 12 生目 | 13 本郷 | 14 大塚 | 15 東大宮 | 16 生目南 | 17 赤江東 | |
| 18 生目台 | 19 田野 | 20 佐土原 | 21 広瀬 | 22 久峰 | 23 高岡 | 24 清武 | 25 加納 | |

問10 あなたの性別について、当てはまる項目を1つ選択してください。

- | | | |
|------|------|----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 答えたくない |
|------|------|----------|

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

地域まちづくりに関する大学生意識調査のお願い

日頃から、宮崎市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、平成 18 年 1 月から市民の声を市政に反映させる地域自治区制度のもと、住民の皆様が主体となった地域のまちづくりを推進しています。

これから、地域のまちづくりをさらに進展させるため、若い世代である学生の皆様のご意見等を参考にしたいと考えております。

ご回答いただいた内容は、上記以外の目的には使用いたしません。また、無記名でご回答いただくため、回答者個人が特定されることもありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和 5 年 2 月

宮崎市長 清山 知憲

【回答にあたってのお願い】

※下記のQRコードをカメラ機能で読み取り、アンケートに入力をお願いします。

令和 5 年 2 月 17 日（金）までに、入力をお願いします。

※アンケートの集計結果は、公表させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。



<お問い合わせ先>

宮崎市 地域振興部 地域コミュニティ課

電話 0985-21-1714

E-mail O1suisin@city.miyazaki.miyazaki.jp

1 居住地や居住年数についてお伺いします。

問1 現在、あなたが住んでいるところは、どちらになりますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 宮崎市	2 宮崎市以外 ()
-------	-------------

問2 問1で「1宮崎市」と回答された方は、宮崎市に住んで何年になりますか。
年数をご記入ください。

() 年 ※令和5年3月末現在

2 宮崎市への愛着について伺います。

問3 あなたは、宮崎市に対してどの程度愛着を感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 とても好き 2 やや好き 3 あまり好きではない 4 全く好きではない

問4 あなたが思う、宮崎市の好きなところ、嫌いなところを自由に記入してください。

--

3 地域の活動について伺います。

問5 現在、住んでいる地域に自治会があることは知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 知っている 2 知らない 3 わからない

問6 あなたが思う自治会のイメージを自由に記入してください。

--

問7 あなたが、これまで参加（ボランティアでの参加も含む）したことのある地域活動について、それぞれの項目で当てはまる番号1つに○をつけてください。

項 目	参加したことがある	参加したことがない
【記入例】〇〇活動	○	
安全・防犯活動 ・登下校の見守り ・防犯パトロール など		
防災活動 ・地域の防災活動（防災・避難訓練など） ・防災教室 など		
子育てに関する活動 ・子育てサロン、子ども（地域）食堂 ・子ども会の行事など		
高齢者福祉に関する活動 ・高齢者の見守り、サロン ・健康づくり教室（体操、フレイル予防） など		
地域教育活動 ・パソコン、プログラミング教室 ・学習活動の支援（寺子屋）		
環境活動 ・清掃、花植え活動 ・リサイクル活動（廃品回収など） など		
歴史・伝統文化活動 ・伝統や文化の継承（踊りなど） ・史跡の保全活動 など		
親睦・レクレーション ・文化祭（学校の文化祭を除く） ・運動会、お祭り など		
その他 ・広報誌の作成や配布 ・SNSによる情報発信		

問8 問7のような地域活動について、参加ではなく、活動を運営する側としてボランティア（お手伝い）の経験は、ありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 ある	2 ない
------	------

問9 問8で「1ある」と回答された方は、そのきっかけはどのようなものですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 自ら進んで
- 2 友人からの誘い（すすめ）
- 3 学校や大学（先生）からの依頼（すすめ）
- 4 先輩からの誘い（すすめ）
- 5 家族からの誘い（すすめ）
- 6 地域の方からの誘い（すすめ）
- 7 その他（ ）

問10 あなたは、どんな地域活動であれば、参加したり、携わったりしたいと思いますか。ご自由に記入ください。

問11 あなたは、地域を活性化するためには、どのような取組が必要と考えますか。ご意見がございましたら、ご自由に記入ください。

4 最後にあなたご自身の状況についてお伺いします。

問12 あなたが所属する大学、学年、学部・専攻分野について、ご記入ください。

（ ）大学 （ ）年生 （ ）学部
（ ）分野

問13 あなたの性別について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 男性 2 女性 3 答えたくない

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

地域まちづくりに関する市民意識調査のお願い【地域まちづくり推進委員会】

日頃から、宮崎市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、平成 18 年 1 月の合併を契機に市民の声を市政に反映させる地域自治区制度を導入し、地域のまちづくりを推進しています。

現在、22 の地域自治区で、27 の地域まちづくり推進委員会（※）を中心として、地域各種団体等の皆様の取組により、住民主体のまちづくりは着実に進展してまいりました。

一方で、地域自治区制度の導入から 17 年が経過し、人口減少や高齢化、地域課題の複雑化など社会環境が大きく変容しており、今後も様々な変化が予想されます。

そこで、これまでのまちづくりの取組を点検したうえで、持続可能な地域まちづくりを推進し、さらに良いものとしていくために、地域で活動されている地域まちづくり推進委員会の皆様のご意見等を参考にしたいと考えています。

ご回答いただいた内容は、上記以外の目的には使用いたしません。また、無記名でご回答いただくため、回答者個人が特定されることもありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところとは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和 5 年 2 月

宮崎市長 清山 知憲

※地域まちづくり推進委員会の名称は、「地区振興会」「まちづくり委員会」「地域づくり協議会」「地域づくり推進委員会」「まちづくり協議会」など、各地域で異なります。

【回答方法に関するお願い】

以下のいずれかの方法にて、回答をお願いします。

① 紙による回答をする場合

アンケートの記入がお済みになりましたら、封筒に入れて地域自治区事務所（総合支所、地域センター、地域事務所）にご持参いただきますようお願いいたします。

令和 5 年 3 月 17 日（金）までに、ご提出をお願いします。

② スマートフォン等で回答をする場合

右下の QR コードをカメラ機能で読み取り、アンケートへの回答をお願いします。

令和 5 年 3 月 17 日（金）までに、ご入力をお願いします。



<お問い合わせ先>

宮崎市地域振興部地域コミュニティ課

電話 0985-21-1714

1 地域まちづくり推進委員会の活動等についてお伺いします。

問1 あなたが所属する地域まちづくり推進委員会は、どちらになりますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|--------|
| 1 中央東 | 2 中央西 | 3 小 戸 | 4 大 宮 | 5 東大宮 |
| 6 大 淀 | 7 大 塚 | 8 櫛 | 9 大塚台 | 10 生目台 |
| 11 小松台 | 12 赤 江 | 13 本 郷 | 14 木 花 | 15 青 島 |
| 16 住 吉 | 17 生 目 | 18 北 | 19 佐土原小 | 20 那珂小 |
| 21 広瀬小 | 22 広瀬北小 | 23 広瀬西小 | 24 田 野 | 25 高 岡 |
| 26 清 武 | 27 加 納 | | | |

問2 あなたは、地域まちづくり推進委員会に何年、所属していますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| 1 1年から3年 | 2 4年から6年 | 3 7年から9年 | 4 10年以上 |
|----------|----------|----------|---------|

問3 あなたが所属する部会等は、どのような分野になりますか。当てはまる番号全てに○をつけてください。

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| 1 会長・役員等 | 2 防災・防犯 | 3 地域福祉 |
| 4 環境 | 5 健康・スポーツ | 6 伝統・歴史文化 |
| 7 地域教育 | 8 総務（事務局含む） | 9 その他（ ） |

問4 あなたは、宮崎市の地域自治区制度（地域まちづくり推進委員会や地域協議会による住民主体のまちづくり）をどのようにお考えですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 よい取組であると思う | 2 よい取組とは思わない | 3 分からない |
|--------------|--------------|---------|

理由

問5 あなたは、地域自治区制度導入から17年が経過した地域の状況について、どのように感じていますか。下記のア～オのそれぞれの項目について、当てはまるものに1つつ〇をつけてください。（※単位自治会の活動を除きます。）

	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	全く感じない
【記入例】	1	2	3	4
ア 地域活動が盛んになった	1	2	3	4
イ 住民間の交流が促された	1	2	3	4
ウ 団体間の連携が図られた	1	2	3	4
エ 地域への愛着が高まった	1	2	3	4
オ 地域課題に目が向くようになった	1	2	3	4

問6 あなたは、地域まちづくり推進委員会の活動範囲は、どのような範囲がいいと思いますか。当てはまる番号1つに〇をつけてください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 現在の地域自治区の範囲がいい | 2 中学校区程度の範囲がいい |
| 3 小学校区程度の範囲がいい | 4 その他（ ） |

問7 あなたは、地域まちづくり推進委員会以外の地域団体等に所属していますか。所属している場合、当てはまる番号全てに〇をつけてください。

- | | | | |
|----------------------------|----------------|--------------------|---------|
| 1 自治会 | 2 自治公民館 | 3 婦人会 | 4 老人クラブ |
| 5 子ども会 | 6 青少年育成協議会 | 7 PTA | 8 体育会 |
| 9 社会福祉協議会 | 10 民生委員児童委員協議会 | | 11 消防団 |
| 12 商工会 | 13 振興会 | 14 趣味サークル、スポーツ文化団体 | |
| 15 ボランティアグループ | 16 その他（ ） | | |
| 17 地域まちづくり推進委員会以外には所属していない | | | |



問8 問7の団体のうち、あなたが積極的に関わっている団体を最大2つ選び空欄に数字を記入してください。

なお、積極的に関わっている団体が、地域まちづくり推進委員会の場合は、「99」と記入してください。

--	--

記入例

99

14

次のページ（問9）にお進みください。

問9 あなたは地域まちづくり推進委員会の活動について、どの程度やりがいを感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由について、あなたの考えを記入してください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 やりがいをとても感じる | 2 やりがいをやや感じる |
| 3 やりがいをあまり感じない | 4 やりがいを全く感じない |

理由

問10 あなたが地域まちづくり推進委員会に加入したきっかけを教えてください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1 自主的に参加（チラシなどをみて） | 2 家族のすすめ |
| 3 友人のすすめ | 4 子どもや家族のため |
| 5 自治会や地域団体からの依頼 | 6 職場からの依頼 |
| 7 公立公民館の活動（自主グループ含む）を通じて | |
| 8 その他（ ） | |

問11 あなたは、地域の人や友人などに地域まちづくり推進委員会の活動をすすめたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由について、あなたの考え記入してください。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 すすめたい | 2 どちらかといえばすすめたい |
| 3 どちらかといえばすすめたくない | 4 すすめたくない |

理由

問12 地域自治区の特色を生かしたまちづくりを展開するため、その財源として、地域コミュニティ活動交付金が、地域自治区ごとに均等に配分される「均等割（3割）」と人口に応じて配分される「人口割（7割）」を基準に、地域まちづくり推進委員会に交付されていますが、あなたはその金額について、どのように感じますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、その理由や配分基準について、あなたの考えを記入してください。

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1 適当である | 2 金額が多い | 3 金額が少ない | 4 分からない |
|---------|---------|----------|---------|

理由

問13 あなたが、地域まちづくり推進委員会の活動を行ううえで課題と感じていることはどのようなことですか。当てはまる番号に○（3つまで）をつけてください。

- | | | | |
|----|------------------|----|--------------|
| 1 | 地域住民の当事者意識の不足 | 2 | 活動する人材の不足 |
| 3 | 活動する人材の高齢化・固定化 | 4 | リーダーとなる人材の不足 |
| 5 | 事務局を担う人材の不足 | 6 | 若い世代の意見の反映 |
| 7 | 女性の参画の不足 | 8 | 専門家のアドバイス |
| 9 | 活動資金の不足 | 10 | スキルやノウハウの不足 |
| 11 | 他の地域団体との役割分担の明確化 | 12 | 学校との連携 |
| 13 | NPOや企業等との連携 | 14 | デジタル技術の活用不足 |
| 15 | 行政との役割分担の明確化 | 16 | 行政職員の人的支援 |
| 17 | 情報発信力不足 | 18 | 特にない |
| 19 | その他（ ） | | |

問14 問13について、選択した課題を解決するには、どのような対応を行うべきと思いますか。ご意見があればご記入ください。(自由記述)

問15 あなたは、地域まちづくり推進委員会の活動に携わっている以外の方（シニア世代、現役世代、子ども達など）が、まちづくりの活動に関わってもらうためには、何が必要と考えますか。（自由記述）

次のページ（問16）にお進みください。

2 地域活動全般についてお伺いします。

問16 あなたがお住まいの地域では、地域まちづくり推進委員会や地域の各種団体が、別表1のような活動や事業が行われていると思いますが、あなたが考える活動等の重要度、満足度をそれぞれの項目で当てはまるところに○をつけてください。

別表1	問16-1 重要度				問16-2 満足度			
	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない	満足・十分である	やや満足である	やや不満である	不満・不十分である
(例) 安全・防犯活動		○					○	
安全・防犯活動 ・登下校の見守り ・防犯パトロール など								
防災活動 ・防災、避難訓練活動 ・防災啓発活動 など								
子育てに関する活動 ・子育てサロン、子ども食堂 など								
高齢者福祉に関する活動 ・見守り、生活支援活動 ・健康づくり教室 など								
地域教育活動 ・放課後教室、学習支援 ・パソコン、スマホ教室 など								
環境活動 ・環境美化活動、花の植栽 ・河川や公園の維持活動 など								
歴史・伝統文化活動 ・伝統や文化の継承（踊りなど） ・史跡の保全活動 など								
親睦・レクリエーション ・祭り、マルシェ ・スポーツ大会 など								
その他 ・広報紙の作成、配布 ・SNSによる情報発信 など								

問１７ 身近な地域課題について、地域で対応すべきか、地域と行政が協力して対応すべきか、行政が対応すべきか、別表２の活動について、あなたはどのよう対応すべきと考えますか。それぞれ当てはまるところに○をつけてください。

別表２	地域が主体的に取り組んだ方がいい (行政はサポートを行う)	地域と行政が協力し合いながら取り組んだ方がいい	行政が主体的に取り組んだ方がいい (地域は協力する)	わからない
(例) ○○活動	○			
地域安全・防犯活動				
地域防災活動				
子育てに関する活動				
高齢者福祉に関する活動				
地域教育活動				
環境活動				
歴史・伝統文化活動				
親睦・レクリエーション				

問１８ あなたは、地域のあるべき姿（どのようなまちにしたいか等）について、ご意見があればご記入ください。（自由記述）

次のページ（問１９）にお進みください。

3 最後にあなたご自身の状況についてお伺いします。

問19 あなたの年代について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | | |
|---------|---------|-------|-------|-------|
| 1 19歳以下 | 2 20代 | 3 30代 | 4 40代 | 5 50代 |
| 6 60代 | 7 70代以上 | | | |

問20 あなたの性別について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|------|------|----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 答えたくない |
|------|------|----------|

問21 あなたの職業について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------|------------|
| 1 自営業・会社経営 | 2 会社員 | 3 公務員・団体職員 |
| 4 パート・アルバイト員 | 5 学生 | 6 専業主婦（夫） |
| 7 無職（年金生活者含む） | 8 その他（ | ） |
| 9 答えたくない | | |

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。